学生の健康白書
1984

国立大学保健管理センター所長会議

序

この学生の健康白書（1984）は，昭和59年度に行われた学生の健康状態に関する全国的実態調査の調査結果をとりまとめた報告書です。

大学における保健管理を適正に推進するためには，学生の健康状態，疾病異常などの実態を的確に把握し，保健管理上の問題点を明らかにすることが基本となることはいうまでもありません。この白書は，そのために必要な基礎的資料とするべく作成されたものです。

本白書は，学生の健康状態に関する全国的調査としてはわが国ではじめてのものです。これまで，学生の健康状態については，個々の大学では毎年度調査されていますが，全国的な調査は，１～２のアンケート調査のほかには，ほとんど行われていなかったのが実状です。国立大学のほとんどに保健管理センターが設置されてきた昭和56年11月に開催の第９回国立大学保健管理センター所長会議において，この問題がとりあげられ，まず国立大学の学生を対象に全国的な実態調査を行うことが決定され，各地区の代表からなる「学生の健康白書作成に関する委員会」を設け，実施に移すことになったのが，本白書作成のはじまりです。

本白書では，昭和59年度１年間における保健管理からみた学生の健康状態について調査することにしましたが，はじめての試みであることから，調査対象を国立大学昼間の学部学生にしぼり，調査項目も定期健康診断における各検診項目の検診結果，傷病罹患状況および傷病による休・退学・死亡者の実態に関するものなどに限定しました。学生の健康状態に関しては，今回のこのような調査のほかに，種々の不定愁訴をはじめ，通常の検診では把握できないいわゆる半健康状態あるいは健康とくに将来のいわゆる成人病と密接な関係がある食生活や運動などを中心とした日常生活の実態について調査し，問題点を明らかにする必要がありますが，これは次回以後の調査または特別調査に委ねることにしました。

なお，本白書は，はじめてのことでもあり，若干の問題点がありますが，この調査は今後定期的に行うことになっていますので，多くの方々のご批判，ご教示をいただき，よりよい白書にしてゆきたいと考えております。さらにわが国の全学生を対象とした健康白書へと発展することを念願する次第です。

終わりに，この健康白書作成のための調査，集計の方法について，ご懇切なる

ご指導をいただいた北海道大学歯学部予防歯科学教室谷　宏教授ならびに岡山大学医学部公衆衛生学教室緒方正名教授に深く感謝いたします。また，本計画達成のため，終始多大のご援助を賜った文部省学生課ならびにこの調査の実務を担当してくださった保健管理センターの関係者の方々に対して厚く御礼申し上げます。

この健康白書が，調査のための調査に終わることなく，全国の大学において，学生の保健管理の充実，向上のため大いに活用されることを心から願っています。

昭和62年８月

国立大学保健管理センター所長会議
学生の健康白書作成に関する委員会

委員長	山吹隆寛	岡山大学保健管理センター 教授
委員	高橋香織	(前)北海道大学保健管理センター 教授
	松山恒明	宮城教育大学保健管理センター 教授
	中島潤子	茨城大学保健管理センター 教授
	長谷川吉康	(前)東京大学保健センター 教授
	岡庭　武	一橋大学保健管理センター 教授
	榎本浩昌	静岡大学保健管理センター 教授
	戸田安士	名古屋大学総合保健体育科学センター 教授
	北村李軒	(前)京都大学保健管理センター 教授
	白石純三	大阪大学健康体育部 教授
	川崎晃一	九州大学健康科学センター 教授
	小路敏彦	長崎大学保健管理センター 教授

目　　次

序

調査の概要

Ⅰ定期健康診断からみた健康状態—身体領域に関する調査の結果

1．定期健康診断の受検率……（ 7 ）
2．胸部Ｘ線検査……（ 7 ）
3．血圧検査……（ 11 ）
4．尿検査……（ 15 ）
　尿検査（Ａ）尿たん白・潜血……（ 16 ）
　尿検査（Ｂ）尿糖……（ 22 ）
5．心電図検査……（ 26 ）
6．血液検査（赤血球系）……（ 27 ）
7．肝機能検査……（ 28 ）
8．血液脂質の検査……（ 31 ）
9．肥満およびやせの頻度……（ 32 ）
10．内科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科検診……（ 33 ）
11．身長および体重……（ 35 ）
表Ⅰ－１　定期健康診断の受検率（性・入学年度別）……（ 37 ）
表Ⅰ－２　各大学の定期健康診断受検率の分布（性・入学年度別）……（ 38 ）
表Ⅰ－３　胸部Ｘ線（間接）検査における異常者の頻度（性・入学年度別）……（ 40 ）
表Ⅰ－４　胸部Ｘ線（間接）検査異常者の精密検査で判明した肺結核の状況（性・入学年度別）……（ 41 ）
表Ⅰ－５　胸部Ｘ線（間接）検査異常者の精密検査で判明した結核以外の疾病異常と罹患者数（性・入学年度別）……（ 42 ）
表Ⅰ－６　血圧の平均値および標準偏差（性・年齢別）……（ 43 ）
表Ⅰ－７－１　一次検診における最大血圧値の分布（性・年齢・測定機種別）……（ 44 ）
表Ⅰ－７－３　一次検診における最小血圧値の分布（性・年齢・測定機種別）……（ 46 ）

表Ⅰ－8　一次検診における正常血圧・境界域高血圧・高血圧・低血圧者の頻度（性・年齢別）……（48）
表Ⅰ－9　測定機種別にみた正常血圧・境界域高血圧・高血圧・低血圧者の頻度……（49）
表Ⅰ－10－1　一次検診における正常血圧・境界域高血圧・高血圧・低血圧者の頻度……（50）
表Ⅰ－10－2　一次検診における境界域高血圧および高血圧者の二次検診の結果……（50）
表Ⅰ－10－3　二次検診における高血圧者の指導区分……（50）
図Ⅰ－1　高血圧学生の頻度……（50）
表Ⅰ－11－1　一次検尿における尿たん白のみ陽性者の頻度（性・年齢別）……（51）
表Ⅰ－11－2　一次検尿における尿潜血のみ陽性者の頻度（性・年齢別）……（52）
表Ⅰ－11－3　一次検尿における尿たん白・潜血両者陽性者の頻度（性・年齢別）……（53）
表Ⅰ－12　採尿条件（随時・早朝尿）別にみた尿たん白，潜血および両者陽性者の頻度……（54）
表Ⅰ－13　試験紙の種類別にみた尿たん白および潜血陽性者の頻度……（55）
表Ⅰ－14　試験紙の判定法（肉眼・尿分析器比色）別にみた尿たん白および潜血陽性者の頻度……（56）
表Ⅰ－15－1　尿たん白のみ陽性者の二次検尿の結果（性・年齢別）……（57）
表Ⅰ－15－2　尿潜血のみ陽性者の二次検尿の結果（性・年齢別）……（58）
表Ⅰ－15－3　尿たん白・潜血両者陽性者の二次検尿の結果（性・年齢別）……（59）
表Ⅰ－16　採尿条件（早朝・随時尿）別にみた尿たん白，潜血および両者陽性者の二次検尿の結果……（60）
表Ⅰ－17－1　尿たん白のみ陽性者の精密検査の結果（性・年齢別）……（61）
表Ⅰ－17－2　尿潜血のみ陽性者の精密検査の結果（性・年齢別）……（62）
表Ⅰ－17－3　尿たん白・潜血両者陽性者の精密検査の結果（性・年齢別）……（63）
表Ⅰ－18－1　尿たん白のみ陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的集計……（64）
表Ⅰ－18－2　尿潜血のみ陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的集計……（65）
表Ⅰ－18－3　尿たん白・潜血両者陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的集計……（66）
表Ⅰ－18－4　尿たん白，潜血および両者陽性者をあわせた一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的集計……（67）
表Ⅰ－19　一次検尿における尿糖陽性者の頻度（性・年齢別）……（68）
表Ⅰ－20　採尿条件（随時・食後・早朝尿）別にみた尿糖陽性者の頻度……（68）
表Ⅰ－21　試験紙の種類別にみた尿糖陽性者の頻度……（69）
表Ⅰ－22　試験紙の判定法（肉眼・尿分析器比色）別にみた尿糖陽性者の頻度……（69）
表Ⅰ－23　尿糖陽性者の二次検尿の結果（性・年齢別）……（70）
表Ⅰ－24　採尿条件（食後・随時・早朝尿）別にみた尿糖陽性者の二次検尿の結果……（70）
表Ⅰ－25　尿糖陽性者の一次検尿から精密検査（ＧＴＴ）までの縦断的集計……（71）
表Ⅰ－26　尿糖陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査（ＧＴＴ）までの縦断的集計（1）……（72）
表Ⅰ－27　尿糖陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査（ＧＴＴ）までの縦断的集計（2）……（73）
表Ⅰ－28　ミネソタコード（1982）によってみた心電図の有所見者（大学別）……（74）
表Ⅰ－29　ミネソタコードのコード別にみた心電図の有所見者（大学別）……（75）
表Ⅰ－30　血色素量の分布（性・年齢別）……（76）
表Ⅰ－31　赤血球数の分布（性・年齢別）……（78）
表Ⅰ－32　ヘマトクリット値の分布（性・年齢別）……（80）
表Ⅰ－33　血色素量の大学別平均値・標準偏差等……（82）
表Ⅰ－34　赤血球数の大学別平均値・標準偏差等……（82）
表Ⅰ－35　ヘマトクリット値の大学別平均値・標準偏差等……（83）
図Ⅰ－2　血色素量等の年齢による変動……（84）
表Ⅰ－36　HBs抗原陽性者の頻度（性・年齢・測定法別）……（85）
表Ⅰ－37　HBs抗原陽性者におけるHBe抗原・抗体保有者の頻度（性・年齢別）……（86）
表Ⅰ－38－1　血清トランスアミナーゼ異常者の頻度（HBs抗原陰性者）……（87）
表Ⅰ－38－2　血清トランスアミナーゼ異常者の頻度（HBs抗原陽性者）……（87）
表Ⅰ－39　大学別血清トランスアミナーゼ異常者の頻度……（88）
表Ⅰ－40　HBs抗原陽性者の精密検査結果……（89）
表Ⅰ－41　HBs抗原陰性・血清トランスアミナーゼ異常者の精密検査結果……（89）
図Ⅰ－3　Ｓ－ＧＰＴ異常率の年齢による変動……（89）
表Ⅰ－42　血清総コレステロール値の分布（性・年齢別）……（90）
表Ⅰ－43　血清ＨＤＬ－コレステロール値の分布（性・年齢別）……（92）
表Ⅰ－44　血清トリグリセライド値の分布（性・年齢別）……（93）
表Ⅰ－45　血清総コレステロール値の大学別平均値・標準偏差等……（95）
表Ⅰ－46　血清ＨＤＬ－コレステロール値の大学別平均値・標準偏差等……（95）
表Ⅰ－47　血清トリグリセライド値の大学別平均値・標準偏差等……（96）

表Ⅰ－48　血清トリグリセライド値の大学別平均値・標準偏差等
(測定値を対数変換して計算したもの)……(96)
図Ⅰ－4　血清総コレステロール値等の年齢による変動……(97)
表Ⅰ－49　肥満およびやせの頻度（性・年齢別）……(98)
表Ⅰ－50　内科検診における理学的異常所見を有する者の頻度……(99)
表Ⅰ－51　眼科検診における疾病異常者の頻度……(100)
表Ⅰ－52　耳鼻咽喉科検診における疾病異常者の頻度……(100)
表Ⅰ－53　う蝕罹患状態（性・年齢別）……(101)
表Ⅰ－54　う蝕罹患状態の比較（3大学，20歳）……(102)
表Ⅰ－55　歯周疾患の罹患状態（2大学）……(103)
表Ⅰ－56　身長・体重の平均値および標準偏差（性・年齢別）……(104)
表Ⅰ－57　身長の分布（性・年齢別）……(105)
表Ⅰ－58　体重の分布（性・年齢別）……(107)

Ⅱ 定期健康診断からみた健康状態―精神・心理領域に関する調査の結果

精神健康調査……(111)
表Ⅱ－1　保健管理センター規模別精神健康調査実施状況……(121)
表Ⅱ－2　対象学年の選択別精神健康調査実施大学数（調査方法別）……(121)
表Ⅱ－3　保健管理センター規模および調査形態別精神健康調査実施大学数……(122)
表Ⅱ－4　精神衛生スタッフの内容および調査形態別精神健康調査実施大学数……(122)
表Ⅱ－5　記入法の種類およびそれを選択した大学数……(123)
表Ⅱ－6　ＵＰＩの代表項目〈8〉〈25〉〈49〉〈56〉の反応率(%)……(124)
表Ⅱ－7－1　記入法の要留意率（ＵＰＩが主たる判定資料の場合）……(125)
表Ⅱ－7－2　記入法の要留意率（ＣＭＩが主たる判定資料の場合）……(125)
表Ⅱ－7－3　記入法の要留意率（独自の記入法およびＳＤＳが主たる判定資料の場合）……(126)
表Ⅱ－8－1　面接法の要再面接率および判定基準（記入法から抽出した要留意者に面接するｄグループの場合）……(127)
表Ⅱ－8－2　面接法の要再面接率および判定基準（記入法から抽出した要留意者と面接希望者に面接するｅグループの場合）……(128)
表Ⅱ－8－3　面接法の要再面接率および判定基準
(全員面接を行うｆグループの場合)……(129)
表Ⅱ－9　面接希望学生の面接率，要再面接率……(130)
表Ⅱ－10－1　全員面接を行うｆグループの診断結果（ＩＣＤ－9に準拠）……(131)
表Ⅱ－10－2　記入法で面接者を抽出するｄ・ｅグループの診断結果
（ＩＣＤ－9に準拠，発見率1.0%以上の場合）……(132)
表Ⅱ－10－3　記入法で面接者を抽出するｄ・ｅグループの診断結果
（ＩＣＤ－9に準拠，発見率1.0%以下の場合）……(133)
表Ⅱ－11　診断結果の内訳（ＩＣＤ－9に準拠）……(134)
図Ⅱ－1　記入法：記入の時期および回収法と受検率……(135)

Ⅲ 傷病罹患状況に関する調査の結果

1．保健管理センター受診状況からみた傷病別罹患状況……(139)
2．傷病による要管理者……(140)
3．過去1年間における傷病罹患状況……(141)
表Ⅲ－1　保健管理センター受診者数（傷病大分類・性・入学年度別）……(143)
表Ⅲ－2　傷病による要管理者数（傷病大分類・性・入学年度別）……(145)
表Ⅲ－3　アンケート調査からみた過去1年間における傷病罹患者数
(傷病大分類・性・受診機関別)……(147)

Ⅳ 傷病による休学・退学・死亡者に関する調査の結果

1．休学者……(151)
2．退学者……(151)
3．死亡者……(152)
表Ⅳ－1　休学者数（性・入学年度別）……(153)
表Ⅳ－2　傷病による休学者数（傷病大分類・性・入学年度別）……(154)
表Ⅳ－3　退学者数（性・入学年度別）……(156)
表Ⅳ－4　傷病による退学者数（傷病大分類・性・入学年度別）……(157)
表Ⅳ－5－1　死亡者数（死因(基本分類)・性・年齢別）……(158)
表Ⅳ－5－2　死亡者数（死因(Ｅ分類)・性・年齢別）……(159)

Ⅴ 特別調査の結果

傷病による休・退学・死亡者についての特別調査……(163)
表Ⅴ－1　休・退学・死亡学生特別調査対象学生の構成……(172)
表Ⅴ－2　心身の障害による休学者（性・入学年度別）……(172)
表Ⅴ－3　心身の障害による退学者（性・入学年度別）……(173)
表Ⅴ－4　休・退学者の精神衛生的視点からみた分類……(173)

表Ⅴ－5　休・退学における男女学生の比較……(174)
表Ⅴ－6　精神衛生的視点からみた入学年度別休・退学者の率
(対象学生1,000人対)……(174)
表Ⅴ－7　精神衛生的視点からみた文理系別休・退学者の率
(対象学生1,000人対)……(175)
表Ⅴ－8　保健管理センターが関与した休・退学者の実数と率……(175)
表Ⅴ－9　精神衛生的視点からみた分類Ａに該当した学生の願出理由内訳……(176)
表Ⅴ－10　休・退学者精神障害の疾病分類（ＩＣＤ－９に準拠）……(177)
表Ⅴ－11　死亡数・死亡率(学生10万対)(死因・性・入学年度別)……(178)
表Ⅴ－12　死亡数・死亡率(学生10万対)(死因別)……(178)
表Ⅴ－13　死亡数（死因・入学年度別）……(179)
表Ⅴ－14　死因別死亡率(学生10万対)の推移（昭和54年度～59年度）……(179)
図Ⅴ－1　死因別死亡率の推移……(180)
図Ⅴ－2　性・死因別死亡率(学生10万対)の推移……(180)

編集後記

調査の概要

1．調査の目的

この調査は，最近の学生の健康状態，傷病罹患状況等の実態を的確に把握すると同時に，学生の保健管理上の問題点を明らかにし，大学における保健管理を適正に推進するために必要な基礎資料を得ることを目的とするものである。

2．調査の対象

この調査の対象は，国立大学（昭和58年度現在保健管理センター設置校）の昼間の学部学生とした。各調査項目における対象は，それぞれ学年単位（全学生，新入生またはある学年の全員など）とし，特定のグループや希望者についての調査は除いた。

3．調査の項目

次の項目について調査を実施した。

1）定期健康診断からみた健康状態―身体領域に関する調査
　定期健康診断における受検率および胸部Ｘ線検査，血圧検査，尿検査，心電図検査，血液検査(赤血球系)，肝機能検査，血液脂質の検査，肥満およびやせの頻度，内科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科検診，身長・体重測定などの結果

2）定期健康診断からみた健康状態―精神・心理領域に関する調査
　精神健康調査

3）傷病罹患状況に関する調査
　保健管理センター受診状況からみた学生の傷病別罹患状況，傷病による要管理者，過去１年間における傷病罹患状況

4）傷病による休学・退学・死亡者に関する調査
　傷病による休・退学者および死亡者の実態

5）特別調査
　傷病による休・退学・死亡者の特別調査

4．調査の時期

昭和59年度（昭和59年４月１日～昭和60年３月31日）１年間

5．調査の方法

上記の各調査項目の調査方法については，後述のそれぞれの調査結果の概要のところで記載した。調査は原則として性別および年齢別（18歳から19，20，21，22，23，24，25歳以上）に実施した。ただし，定期健康診断の受検率および胸部Ｘ線検査に関する調査，精神健康調査，傷病罹患状況に関する調査，傷病による休学・退学者の調査については，その性格上，あるいは調査の便宜上性別ならびに入学年度別に行った。この入学年度別調査は４年制学部と６年制学部・学科に分けて行った。

なお，年齢別調査における対象者および受検者の年齢は，すべて昭和59年４月１日現在の満年齢とした。

6．調査結果の集計

各大学における調査の集計は，各項目それぞれ所定の集計用紙によった（各項目の集計用紙の様式については，紙面の都合で記載を省略）。

各大学より提出された集計結果を委員会で検討の上，各調査項目について集計した。

7．調査参加大学

本調査の参加大学は，昭和58年度現在保健管理センター設置大学81校中80校（次頁掲載）であった。各項目の調査，集計結果の提出大学数は，後述のそれぞれの調査結果の概要のところで記載した。

調査参加大学

北海道大学	お茶の水女子大学	兵庫教育大学
室蘭工業大学	電気通信大学	神戸大学
小樽商科大学	一橋大学	神戸商船大学
帯広畜産大学	横浜国立大学	奈良教育大学
北見工業大学	新潟大学	奈良女子大学
弘前大学	長岡技術科学大学	和歌山大学
岩手大学	上越教育大学	鳥取大学
東北大学	富山大学	島根大学
宮城教育大学	富山医科薬科大学	岡山大学
秋田大学	金沢大学	広島大学
山形大学	福井大学	山口大学
茨城大学	山梨大学	徳島大学
図書館情報大学	信州大学	香川大学
筑波大学	岐阜大学	愛媛大学
宇都宮大学	静岡大学	高知大学
群馬大学	名古屋大学	福岡教育大学
埼玉大学	愛知教育大学	九州大学
千葉大学	名古屋工業大学	九州芸術工科大学
東京大学	豊橋技術科学大学	九州工業大学
東京医科歯科大学	三重大学	佐賀大学
東京外国語大学	滋賀大学	長崎大学
東京学芸大学	京都大学	熊本大学
東京農工大学	京都教育大学	大分大学
東京芸術大学	京都工芸繊維大学	宮崎大学
東京工業大学	大阪大学	鹿児島大学
東京商船大学	大阪外国語大学	琉球大学
東京水産大学	大阪教育大学	（以上80大学）

I 定期健康診断からみた健康状態
身体領域に関する調査の結果

〔1〕定期健康診断の受検率

学生の定期健康診断（以下定期健診と略記）の受検率は，４年制学部学生と６年制学部・学科（以下６年制学部と略記）の学生に分け，それぞれ性別，入学年度別に調査した。定期健診の対象者数は在籍者数とし，休学者や国内・国外留学者および外国からの留学者は除いた。
なお，本調査の受検者は定期健診の検診項目の１項目以上を受検した者とした。

この調査には78校（うち１校は６年制学部）から調査結果がよせられたが，集計は各入学年度の受検率が記載されている大学について行った。４年制学部では77校中73校，６年制学部では30校中27校の集計結果を表Ⅰ−1−1〜2に示した。定期健診の受検率は，全学生の集計でみると，４年制学部では男子対象者232,215名中71.8%，女子対象者73,433名中77.3%，男女合計で対象者305,648名中73.1%であった。６年制学部では，男子対象者20,360名中61.4%，女子対象者2,965名中64.4%，男女合計で対象者23,325名中61.7%であった。

入学年度別にみると，４年制学部における受検率は，男女とも，昭和59年度入学者（90%以上）で最も高く，次いで昭和56年度入学者（80%以上）が高く，昭和57年度と昭和58年度入学者では60%前後，昭和55年度以前入学者では50%前後と，最も低率であった。すなわち，定期健診の受検率は，新入生と４年生（卒業予定学年）で高く，２〜３年生および留年生では低いという傾向にあった。性別には男子より女子の受検率がやや高率であった。６年制学部の集計でも以上の４年制学部の場合と同様であった。

定期健診の受検率を各大学の受検率の分布でみた集計を表Ⅰ−２−１〜２に示した。男女とも，新入生および４年生で受検率の高い大学が多く，これに対し，２〜３年生および留年生では受検率50%以下の大学が1/3前後存在し，著しく低率の大学も少なくない。６年制学部でも同様であった。

ちなみに，文部省学生課の昭和40年の調査によると，当時の国立大学の定期健診受検率は，69校の集計で，受検率91%以上の大学が49%，受検率81〜90%の大学が37%で，受検率60%以下の大学は１校もなかったとされている（文部省学生課：大学における保健管理に関する実態調査の調査結果の概説，第３回全国大学保健管理研究集会報告書Ｐ.19〜32．1965)。これからみると，学生の定期健診受検率が，この20年間にかなり低下してきていることは明らかである。

〔山吹隆寛〕

〔2〕胸部Ｘ線検査

胸部Ｘ線(間接）検査においては，間接撮影で異常所見を認め，精密検査（以下精検と略記）で判明した疾病異常者の頻度を，肺結核と結核以外の疾患に分けて調査した。また，肺結核に

ついては発見状況（新たに発見された者か，既知の者か），活動性の有無，事後措置について，結核以外の疾病異常に関しては診断名，発見状況，事後措置などについて調査した。

本調査は，協力が得られた77校（うち1校は6年制学部）のうち，記載不備の2校（うち1校は4年制と6年制の学部を持つ大学）を除いた75校，4年制学部では74校，6年制学部・学科（以下6年制学部と略記）では29校について集計した。

胸部X線検査の対象については，全学年を対象にしている大学が55校（73.3%），一部の学年を対象とする大学が20校（26.7%）であった。後者のうち最も多いのは1年生と4年生を対象とする9校であった。実施時期については，56校（74.7%）が4月から6月の間であるが，3月にはじめる大学（3校）や春季と秋季に実施する大学（2校），1年間にわたって行う大学（3校）もある。間接撮影の実施機関については，保健管理センターが行う大学が46校(61.3%)で，他の機関の協力のもとに保健管理センターが行っている大学5校を加えると，51校(68.0%)で保健管理センターが実施している。19校（25.3%）は外部の検査機関によるもので，結核予防会（5校），県検診機関（4校），検診業者（4校）などが多い。精検の実施機関については，保健管理センターが単独，ないし他の機関に協力を求めて行う大学が33校（44.0%），大学附属病院や総合病院へ依頼する大学が18校（24.0%），そのほか結核予防会（3校）や保健所（3校）へ依頼する大学もある。なお，未記入大学が13校（17.3%）あったが，この大多数は医療機関をとくに指定しない大学と推定される。

1．胸部X線（間接）検査における異常者の頻度

上記の4年制学部74校，6年制学部29校について集計した胸部X線間接撮影の対象者数，受検者数，受検率および異常者（間接撮影で異常所見を認め，精検で肺結核および結核以外の疾患と診断された者）の頻度（間接撮影でとりあげた異常所見の頻度ではない）を表Ⅰ－3に示した。4年制学部74校では，対象者281,044名（男女計）中受検者201,506名で，受検率は71.7%，6年制学部29校では，対象者23,261名中受検者14,083名で，受検率は60.5%であった。肺結核と結核以外の疾患と診断された者をあわせた頻度は，4年制学部で314名，0.16%，6年制学部で17名，0.12%であった。

1） 肺結核

肺結核と診断された者の頻度は，4年制学部で151名，0.07%，6年制学部で11名，0.08%であった。性別には男女間でとくに差がなく，入学年度別にみると，4年制学部では男女とも昭和59年度入学者から昭和55年度以前入学者へと，わずかながら高率になる傾向がうかがわれた。しかし，6年制学部では肺結核と診断された件数が少なく，一定の傾向はみられなかった。また，肺結核と診断された者のうち，4年制学部では151名中61名，40.4%，6年制学部では11名中4名，36.4%が今回新しく発見された者であった。

肺結核と診断された者の件数について，大学を個別的に見ると，4年制学部では74校中38校，51.4%が，6年制学部では29校中9校，31.0%が，1件以上を発見した大学であった。そのうち，最も高率であったのは，4年制学部では1.1%，6年制学部では0.7%であった。しかし，前者はすべて石灰化ないし硬化巣（日本結核病学会分類のV_1に相当）であり，後者は実数としてはわずか2名であるが，受検者数が少ないことにより高値を示したと考えられるものであった。

2） 結核以外の疾病異常

結核以外の疾患と診断された者の頻度は，4年制学部で163名，0.08%，6年制学部で6名，0.04%であった。入学年度別にみると，4年制学部では昭和59年度入学者から昭和55年度以前入学者までわずかながら上昇する傾向がみられた。結核以外の疾病異常と診断された者のうち，4年制学部では163名中106名，65.0%が，6年制学部では6名中4名，66.7%が新しく発見された者であった。

これらの点について大学を個別的に見ると，4年制学部では74校中37校，50.0%が，6年制学部では29校中6校，20.7%が，1件以上を報告している大学であった。そのうち，4年制学部，6年制学部を通じて最も高率であったのは1.3%（2校）で，その内容をみると，脊柱側弯症，あるいは心肥大が多数を占めており，また1%前後の高率を報告した5校は上記の疾病異常のほか，気管支喘息，肋骨異常などが多く，担当医師の関心による影響がうかがわれた。

2．精密検査で判明した疾病異常の個別的検討

精検で判明した疾病異常の個別的調査の協力が得られた大学は，前記75校のうち73校であった。

1） 肺結核

胸部X線（間接）検査の異常者の精検で判明した疾病異常のうち，4年制学部と6年制学部をあわせた肺結核の男子119名，女子43名，計162名について，発見の状況（新たに発見か，既知の者か），病巣の活動性の有無および事後措置に関する集計結果を表Ⅰ－4に示した。まず，発見の状況については，新たに発見された者が，新入生の昭和59年度入学者で最も高率（59.1%）であることは当然としても，各年度にわたってこれが25.0%～47.4%にみられ，全年度に平均すると40.1%であった。病巣の活動性の有無については，活動性と判断された者は21.6%，非活動性は72.2%であった。それらに対する事後措置は要治療31.5%，要観察48.8%，放置可19.7%で，男女別にみると，要治療はほぼ同率であるが，放置可は男子より女子で高率であった。

しかし，この放置可に相当するケースは，前項でも述べたように，初感染巣の石灰化と推定

される場合を含めて報告した少数の大学と，これを含めていない多数の大学があるので，一定の基準によって判断されたものではない。したがって，ほぼ信頼できるのは要治療および要観察をあわせた130名で，受検者総数215,589名に対して0.06%であり，これが継続的な管理を必要とする肺結核の頻度ということができよう。「厚生の指標：国民衛生の動向，昭和61年」（厚生統計協会）によれば，昭和59年10月調査の結核の受療率は，15～19歳と20～24歳ではそれぞれ0.005%，0.01%であり，昭和60年度の児童・生徒の疾病異常罹患率は，高等学校の男子0.01%，女子0.02%，あわせて0.01%であるのと比較すると，今回の調査の要治療（0.024%）に限ってみても，国立大学生の肺結核罹患率は高いと考えられる。

2） 結核以外の疾病異常

結核以外の疾病異常として記載された者は，75校の集計で男子125名，女子44名，合計169名であったが，詳細不明の2校を除く73校では，男子111名，女子43名，合計154名であった。その内訳は，呼吸器系83名，循環器系35名および骨格系36名であり，胸部X線検査が呼吸器系疾患だけでなく，循環器，骨格系異常の発見にも利用されていることがわかる。しかし，循環器系疾患および骨格系異常については，これを記載した大学と記載しなかった大学があるものと推定されるので，これらの集計は表示せず，その結果だけを以下に列記する。

循環器系疾患は，大動脈弁閉鎖不全症（3名），心房中隔欠損症（1名），心室中隔欠損症（4名），動脈管開存術後（1名），肺動脈狭窄症（1名），肺動静脈瘻（1名），原発性肺高血圧症（1名），右胸心（3名），心肥大（特発性心筋症1名を含む19名）および肺動脈陰影拡大（2名）である。これら36名のうち，新たに発見された者は19名，52.8%であり，保健管理の対象となる要治療および要観察者は，それぞれ，4名，11.1%，11名，30.6%，あわせて15名，41.7%であった。

骨格系異常は，肋骨異常（5名），鎖骨異常（3名），漏斗胸（1名）および脊柱側弯症（26名）である。これら35名のうち，新たに発見された者は20名，57.1%であり，保健管理の対象になる要治療および要観察者は，それぞれ，4名，11.4%，14名，40.0%であり，あわせて18名，51.4%であった。

呼吸器系疾患でも，記載の基準が不統一と推定されるものは，気管支喘息（12名，1校），胸膜肥厚・癒着（6名），石灰化陰影（3名）の21名である。前記呼吸器系の83名からこの21名を除いた62名が結核以外の疾病異常の中でほぼ同一の基準で記載されたものと考えることができる。これらの疾患名と罹患者数を表Ⅰ－5に示した。主な疾病についてみると，自然気胸が最も多く，62名中14名，22.6%を占め，全受検者の0.006%の頻度である。同様に，サルコイドーシスは7名，11.3%，頻度は0.003%，気管支拡張症および胸腔内腫瘍（肺および縦隔腫瘍）がそれぞれ6名，9.7%，頻度0.003%，肺炎（異型肺炎，マイコプラズマ肺炎等），肺嚢胞症（肺胞性嚢胞症および気管支性嚢胞症），胸膜炎，肺野異常陰影がそれぞれ5名，8.1%，頻度0.002%である。この表で，肺クリプトコッカス症は肺真菌疾患に，中葉症候群は無

気肺の項に分類したが，いずれも1名である。これら62名中，新たに発見された者は37名，59.7%であり，保健管理の対象になる要治療および要観察者は，それぞれ15名，24.2%，33名，53.2%であり，あわせて48名，77.4%であった。

以上，胸部X線検査では，受検者の0.15%に疾病異常が発見され，そのうち新たに発見された者は52.9%を占める。また，発見された疾病異常のうち保健管理の対象となる者は65.6%であり，受検者の0.10%に相当するということができる。しかし，これらの数値は一次検診から参加した異常者の頻度であって，すでに疾病が判明して治療ないし保健管理の対象とされている者の一部がここには含まれていないことに注意しなければならない。

〔戸田安士〕

〔3〕血圧検査

血圧検査に関しては，定期健康診断（一次検診）において測定した血圧値の分布，および正常血圧，高血圧，低血圧者の頻度ならびに一次検診高血圧者の二次検診の結果，二次検診高血圧者の事後措置（指導区分）について調査した。

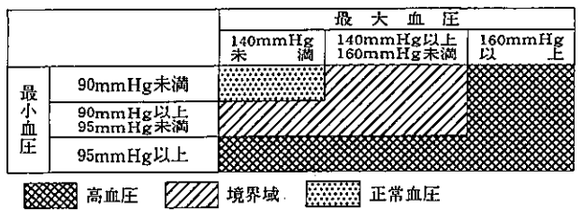
血圧の測定は坐位で，右上腕で行った。できるだけ静かな，適温（20～25℃）の部屋で，運動直後の測定は避け，上腕を緊縛する衣服は脱がせるなど，日本循環器管理研究協議会が勧告している血圧測定の条件・方法に従って実施した。

一次検診での血圧計は水銀血圧計，自動血圧計または両者を併用し，Tycos型は使用しなかった。本調査に協力が得られた68校のうち，水銀血圧計のみを使用した大学は22校，自動血圧計のみは25校，両者を併用した大学は21校であった。自動血圧計の機種は日本コーリン32校，ウエダ製作所6校，パラマ5校，オムロン2校，その他3校であった。2種以上を使用した大学が3校あった。なお，二次検診では原則として水銀血圧計を使用することとした。

血圧測定は，医師，保健婦，看護婦が行い，自動血圧計使用の場合は事務職員も一部測定にあたった。

高血圧の判定はWHOの基準によった。すなわち，下図に示すように最大血圧140mmHg未

高血圧判定基準



資料 厚生省「46年成人病基礎調査」

満および最小血圧90mmHg未満を正常血圧，最大血圧160mmHg以上，最小血圧95mmHg以上のいずれか一方または両方を満たす場合を高血圧，それ以外を境界域高血圧とした。なお，本調査では140 and/or 90mmHg以上を高血圧域と称した。低血圧は最大血圧90mmHg未満とし，低血圧域という表現を用いた。

本調査には68校から調査結果がよせられた。そのうち二次検診と指導区分の調査結果の記載があったのは49校であった。68校についてみた血圧一次検診の対象学年は，全学年を対象にしている大学が33校（48.5%），一部の学年を対象とする大学が35校（51.5%）であった。後者のうち多いのは新入生と4年生の17校，新入生のみの10校であった。一次検診の実施時期については，4月から6月の間に実施する大学が56校（82.4%）と大多数であったが，秋に実施する大学（4校），春から秋にかけて，あるいは1年間にわたって実施する大学（8校）もあった。

1．一次検診における血圧値

68校について集計した一次検診の対象者は男子159,477名，女子51,636名，男女合計211,113名で，受検率は男子68.5%，女子76.5%，男女あわせて70.5%であった（表Ⅰ－8参照）。

1） 血圧の平均値

68校中血圧値の分布の記載が不備であった2校を除く66校について集計した性・年齢別の血圧平均値と標準偏差を表Ⅰ－6に示した。男，女いずれも最大・最小血圧とも年齢とともに徐々に上昇する傾向がみられた。

2） 血圧値の分布

上記66校における一次検診時の最大・最小血圧値について，性・年齢別，測定機種別ならびに血圧区分別に集計した結果を表Ⅰ－7－1～4に示した。それぞれの表上段に示すように，最大血圧が140～159mmHgの男子は10,517名（9.8%），女子は514名（1.3%），160mmHg以上は男子1,029名（1.0%），女子24名（0.1%）であった。また，最小血圧が90～94mmHgの男子は2,239名（2.1%），女子276名（0.7%），95mmHg以上は男子1,064名（1.0%），女子91名（0.2%）であった。

測定機種別に集計して，高血圧域に入る者の頻度を比較したが，著しい差はなく，男子の最大血圧140mmHg以上および最小血圧90mmHg以上の頻度（%）は水銀血圧計で10.2%および3.5%，自動血圧計では9.0%と2.4%であり，女子ではそれぞれ1.4%と0.8%および1.2%と1.0%であった。

また，血圧低値を示す頻度を測定機種別にみると，最大血圧が99mmHg以下の男子は水銀血圧計で1.8%，自動血圧計で1.5%であり，女子はそれぞれ16.1%，14.1%と両機種間で著しい

差はなかった。しかしながら，最小血圧が49mmHg以下を示した男子は水銀血圧計で0.8%，自動血圧計で6.5%，女子ではそれぞれ1.9%，3.0%と，自動血圧計がより低い値を示す傾向が認められた。

3） 正常血圧・高血圧・低血圧者の頻度

一次検診における正常血圧・高血圧・低血圧者それぞれの頻度について，68校の集計結果を性・年齢別に表Ⅰ－8に示した。これは，水銀・自動血圧計と両者併用の三者をあわせて集計したものである。

a） 性・年齢別にみた高血圧・低血圧者の頻度

140and/or 90mmHg以上の高血圧域を示した者は一次検診時男子で12.0%，女子では2.0%と男子が明らかに多かった。一方，低血圧域の頻度は男子0.3%，女子2.7%であり，女子が明らかに多かった。

年齢別には，高血圧域の頻度は男子で18歳より25歳以上へと年齢とともに徐々に増加する傾向があったが，女子ではその傾向があまり明らかでなかった。一方，低血圧域の頻度は男子では年齢とともに減少する傾向にあり，女子では一定の傾向がみられなかった。

b） 測定機種別にみた高血圧・低血圧者の頻度

測定方法が機種別に大きく三つに分類できるので，血圧分類別の頻度を測定機種別に集計して，その差を比較した（表Ⅰ－9）。140 and/or 90mmHg以上の高血圧域を示した者の頻度は，水銀血圧計（男子11.4%，女子1.8%）と自動血圧計（男子10.4%，女子2.0%）の間でほとんど変わらず，両者併用でやや高値（男子14.2%，女子2.2%）を示した。三者間の差は測定機種の差ではなく，測定条件などによるものと推定される。低血圧域を示した男女学生の頻度は，水銀血圧計0.6%，自動血圧計1.0%，両者併用1.2%で，後二者が多かった。自動血圧計は水銀血圧計より値をより低く表示する傾向があると思われる。

c） 大学別にみた高血圧・低血圧者の頻度

血圧分類別の頻度（%）を68大学別に検討した。境界域高血圧ならびに高血圧の頻度はいずれの大学においても男子が明らかに多かった。大学間で比較すると境界域高血圧，高血圧のいずれも頻度にかなりのばらつきが認められた。また，低血圧の頻度は女子に多く，高血圧と同様に大学間でかなりのばらつきが認められた。同じ測定機種で行われた大学間でもその頻度に著しいちがいが認められ，測定機種のちがいより，大学間の測定条件のちがいの著しいことがうかがわれた。これまでの経験ならびに報告から，若年者の血圧値の動揺性が大きいことは周知のことである。血圧高値を示した者にその場で再測定するとか，測定前に深呼吸をさせて気分をおちつかせるなど簡単な指示・操作を行うか否かで，血圧値は大きく変動し，高血圧域の頻度も変わることが当然予想される。

d） 地域別にみた高血圧者の頻度

地域間に差があるか否かを検討するため，北海道・東北地方と新潟を含めた北部の11大学

（N群）と九州・四国・瀬戸内地方の南西部16大学（S群）を抽出して，両群間で140 and/or 90mmHg以上を示した者の頻度を比較した。N群の受検者16,778名中境界域高血圧者は10.6%，高血圧者は1.5%（両者あわせて12.1%）であった。一方，S群では受検者31,761名中境界域高血圧者8.3%，高血圧者2.0%（両者あわせて10.3%）であり，N群でやや多い傾向にあるものの推計学的に有意な差はなかった。さらに血圧計の機種別にN，S両群間で比較したが明らかな差はなかった。

2．一次検診ならびに二次検診時の血圧値および高血圧者の指導区分

前述のように，一次検診と二次検診の結果および高血圧者の指導区分の記載が完全に整備されている大学は68校中49校であった。そこで，この49校について一次検診から二次検診および指導区分までの結果をまとめて集計した。

49校の一次検診における使用血圧計は，水銀血圧計16校，自動血圧計22校，両者併用11校であった。二次検診は，一次検診で境界域高血圧または高血圧と判定された者を対象に，日を変えて血圧の再検査を施行した。二次検診の血圧測定は原則として水銀血圧計で行った。

また，二次検診で160 and/or 95mmHg以上の高血圧を示した者は，医療機関でさらに検査を行い，その後の指導を行った。その指導区分は要精密検査ないし要治療，要観察ならびに放置可の3段階とした。

1） 一次検診における正常血圧・境界域高血圧・高血圧・低血圧者の頻度

上記49校の一次検診の対象者は男子93,925名，女子27,717名，合計121,642名で，その受検率は，男子72.4%，女子82.1%であった。

この49校について集計した一次検診における正常血圧・境界域高血圧・高血圧・低血圧者の頻度を表Ⅰ－10－1に示した。この血圧分類別頻度は，前項で述べた68校の集計結果（表Ⅰ－8，Ⅰ－9）とほとんど差がなく，140 and/or 90mmHg以上の高血圧域を示した者は，男子で11.2%，女子で1.6%であった。低血圧域を示した者は男子で0.2%，女子で2.1%であった。また，測定機種別に集計した結果も，前述68校の集計結果（表Ⅰ－9）と同じ傾向を示した。

2） 二次検診の結果

49校の一次検診で境界域高血圧ならびに高血圧と判定された者に対して実施された二次検診の集計結果を表Ⅰ－10－2に示した。この二次検診の受検率は男子66.6%，女子74.5%であった。一次検診において境界域高血圧であった男子の76.1%，女子の85.2%が二次検診で正常血圧となり，二次検診で高血圧と判定された者は，男子で96名，2.3%，女子で6名，2.8%であった。同様に，高血圧と判定された男子の55.8%，女子の77.6%は二次検診で正常血圧となり，高血圧にとどまった者は男子で130名，15.4%，女子で6名，12.2%にすぎなかった。

なお，一次検診において境界域高血圧および高血圧と判定された者を，それぞれ一次検診の測定機種別に分けて，二次検診（水銀血圧計で測定）の結果を比較検討したが，水銀血圧計，自動血圧計，両者併用の三者間に特別の差はみられなかった。

3） 二次検診における高血圧者の指導区分

上述のように，二次検診で160 and/or 95mmHg以上の高血圧を示した者は男子226名，女子12名であった。これらの者に対する指導区分の集計結果を表Ⅰ－10－3に示した。要精密検査ないし要治療者ならびに要観察者はいずれも男子に多く，一方放置可は女子に多かった。

4） 大学生における高血圧者の頻度

上記49校の約12万人の大学生を対象とした今回の集計では，二次検診まで行ってなお140 and /or 90mmHg以上の高血圧を示した者は男子で3.00%，女子では0.26%であった。

また，高血圧者で最終的に要精密検査ないし要治療と判定された者は男子で全体のおよそ0.080%，女子では0.006%，要観察者は男子で0.340%，女子で0.037%と推定された。すなわち，高血圧として少なくとも観察が必要な大学生は，男子で0.420%（およそ240人に1人），女子では0.043%（およそ2,300人に1人）の頻度で存在すると推定された。

上記の成績をまとめて図Ⅰ－1に示した。

〔川崎晃一〕

〔4〕尿検査

尿検査については，定期健康診断時の検尿（一次検尿）におけるたん白，潜血，糖の陽性者の頻度，およびこれらの陽性者の二次検尿（再検尿）と精密検査の結果について調査，集計した。この調査では，被検尿の採尿条件〔随時尿か早朝起床時尿（以下早朝尿と略記）か食後尿か〕，および検査方法（試験紙の種類），判定（比色）法などの条件を一定にすることが原則であるが，今回は，できるだけ多くの大学の協力を得るため，各大学の事情を考慮し，以下のような条件で検尿を行うこととした。

(1)採尿条件：一次検尿では随時尿または早朝尿とする。二次検尿では，たん白，潜血は早朝尿，糖は米飯飽食後1～2時間尿とする。

(2)試験紙の種類：特に指定しないが，できるだけ多くの大学で使用頻度の高いものを用いる。

(3)判定：尿たん白および潜血は(+)以上を陽性とし，その程度を(+)，(++)，(+++)以上の3段階に区分する。尿糖は(±)以上を陽性とし，その程度を(±)，(+)，(++)，(+++)以上の4段階に区分する。

(4)検査担当者：原則として臨床検査技師とし，不在の場合は，検査手技についてあらかじめ十分訓練した者に実施させる。

(5)その他：検査は使用試験紙に指定されているとおりに実施し，とくに判定は尿に浸してから指定された時間に行うよう注意する。女子学生では月経中を避ける。

この尿検査については，74校より調査結果が提出された。これらの大学における採尿条件，試験紙の種類，検査担当者などは以下のとおりであった。

(1)採尿条件：随時尿64校，早朝尿８校，食後尿２校。

(2)試験紙の種類：ヘマコンビスティックス等（ヘマコンビスティックス，ウリスティックス，マルティスティックスその他を含む）48校(肉眼比色38校，尿分析器使用10校)，ユリフレット９校(尿分析器使用)，ウロペーパー６校(肉眼比色)，ＢＭテスト５校(肉眼比色)，ＺＤ-401専用テープ２校(尿分析器使用)，ラピグノスト１校(尿分析器使用)，試験紙２種類使用（ヘマコンビスティックスとＢＭテストおよびウロペーパーとユリフレット）２校，テステープ（尿糖）１校（肉眼比色)，詳細不明１校。

(3)検査担当者：臨床検査技師20校(うち尿分析器使用２校，以下同じ)，保健婦・看護婦33校(9校)，医師・看護婦２校(1校)，医師２校，保健関係専攻学生２校(2校)，薬剤師1校，事務官３校(3校)，アルバイト学生１校(1校)，検査センター等に依頼10校(4校)。

また，74校における尿検査の対象学年は，全学年が44校(59.5%)，一部の学年が30校（40.5%）であった。後者のうち多いのは新入生と４年生の13校，新入生のみの７校であった。尿検査の実施時期については，４月から６月に実施する大学が57校（77.0%）と大多数であったが，春から秋に実施する大学(９校)，９～11月に実施する大学（３校）や１年間にわたって実施する大学（３校）もあった。尿検査の実施機関については，保健管理センターで実施する大学64校(86.5%)，学外検査センター等へ依頼する大学10校（13.5%）であった。

以下，尿検査に関する集計結果を，尿検査(Ａ）尿たん白および潜血と尿検査(Ｂ）尿糖に分けて述べる。

〔山吹隆寛〕

尿検査(Ａ）　尿たん白および潜血

尿たん白および潜血に関する調査では，一次検尿でたん白のみの陽性者（以下，たん白陽性者という)，潜血のみの陽性者（以下，潜血陽性者という）およびたん白，潜血が同時に陽性の者（以下，両者陽性者という）の３群に分けて調査，集計した。

この調査に協力が得られたのは74校であった。そのうち，記載不備６校を除いた68校で二次検尿までの結果が整備されていた。しかし，この中で，潜血の結果がない大学が12校あり，上記３群の結果が二次検尿まで整備されている大学は結局56校となった。以下，一次検尿に関する集計はこの56校について行った。

上記56校の一次検尿における検体は，随時尿が52校，早朝尿が４校であった。この随時尿の52校で使用された試験紙は，ヘマコンビスティックス等が33校(うち，尿分析器使用３校)，ユリフレット６校(尿分析器使用)，ウロペーパー６校，ＢＭテスト３校，ＺＤ-401専用テープ１校(尿分析器使用)，ラピグノスト１校(尿分析器使用)，ヘマコンビスティックスとＢＭテスト２種使用１校，詳細不明１校であった。早朝尿４校の使用試験紙は，ヘマコンビスティックス等２校，ＺＤ-401専用テープ１校，ウロペーパーとユリフレット２種使用１校であった。

１．一次検尿における尿たん白，潜血および両者陽性者の頻度

上記56校について集計した一次検尿におけるたん白，潜血および両者陽性者の頻度を性・年齢別に，表Ｉ－11－１～３に示した。総数でみると，対象者は男子162,708名，女子51,514名，男女合計214,222名で，受検率は男子68.5%，女子76.5%，男女合計で70.5%であった。たん白陽性者の頻度は，男子3.8%，女子5.0%，男女合計では4.1%であった。潜血陽性者の頻度は，男子1.3%，女子2.3%，男女合計では1.6%であった。両者陽性者の頻度は，男子0.3%，女子0.4%，男女合計では0.3%であった。

１）　性・年齢別にみたたん白，潜血および両者陽性者の頻度

本集計は，採尿条件(随時・早朝尿)，試験紙の種類，尿分析器の使用の有無は考慮せずに集計したものではあるが，この集計で，たん白，潜血および両者陽性者の頻度を性・年齢別にみると以下のような傾向がみられた。

たん白陽性者の頻度は，性別には，24歳を除き，18歳から25歳まで各年齢において，女子が男子より高率であった。また，年齢別にみると，男子では18歳の5.1%から25歳以上の2.2%まで，年齢の増加とともに陽性率が低下する傾向があり，女子でも23歳を除いて，18歳の6.5%から24歳の2.8%まで加齢とともに漸減する傾向があった。

潜血陽性者の頻度は，性別には，各年齢を通じて女子が男子より高率であった。女子は月経中の採尿を避けるよう十分に注意することになっているので，月経の影響はないものと考えられる。年齢別にみると，25歳以上で男女ともに陽性頻度が高いが，これを除けばとくに一定の傾向はなく，男子は0.8～1.4%，女子は1.4～2.4%の範囲にあった。

両者陽性者の頻度は，性別には，女子が男子よりやや高率の傾向にあった。年齢別には，24歳，25歳以上を除き，男子は0.2～0.3%，女子は0.2～0.5%の範囲にあり，とくに一定の傾向はなかった。

なお，この集計は，上記のように，検尿条件が異る大学の成績を集計したものであるが，個々の大学ごとに，あるいは検尿の諸条件が同じ大学で集計したたん白，潜血および両者陽性者の頻度についてみても，性・年齢別の傾向は，上述の場合とほとんど変わりはなかった。

〔本調査におけるたん白陽性者の総数は，たん白のみの陽性者数に，たん白・潜血両者の陽性者数を加算したものとなる。尿潜血陽性者総数についても同様である。〕

2） 採尿条件（随時・早朝尿）別にみたたん白，潜血および両者陽性者の頻度

一次検尿におけるたん白，潜血および両者陽性者の頻度について，採尿条件（随時・早朝尿）別に比較検討した。上記56校のうち，随時尿で検尿の52校と早朝尿で検尿の４校それぞれの集計結果を，表Ⅰ－12に対比して示した。

母集団に大きな違いがあるものの，たん白陽性者の頻度は，男女とも早朝尿（男子1.5%，女子1.9%）に比し随時尿（男子3.9%，女子5.3%）で高率であった。これに対し，潜血陽性者および両者陽性者の頻度は，随時尿と早朝尿の間で差がより小であった。

3） 試験紙の種類別にみたたん白，潜血および両者陽性者の頻度

各大学の使用試験紙の種類がまちまちであるため，一次検尿のたん白および潜血陽性者の頻度を試験紙の種類別に検討した。随時尿の52校中試験紙２種類使用校と種類不明の各１校を除く50校で試験紙の種類別に集計した結果を表Ⅰ－13に示した。

たん白陽性者の頻度は，男子ではウロペーパー(1.9%)，女子ではＺＤ-401専用テープ（0.9%）使用大学で最も低く，男女ともラピグノスト使用大学（男子11.4%，女子14.1%）で最も高率であった。このラピグノスト使用大学が抜きんでて高率であるが，１校なので，試験紙のためか，手技による影響かは明らかでない。

潜血陽性者の頻度は，男女とも，ラピグノスト使用大学（男子0.4%，女子1.1%）で最も低く，ユリフレット使用大学（男子1.8%，女子2.9%）で最も高率であった。

なお，たん白および潜血陽性者の頻度は，このように，試験紙の種類によってまちまちであるが，同一試験紙使用大学の間にも，その頻度にかなりの違いがあった。

4） 試験紙の判定法（肉眼・尿分析器比色）別にみたたん白および潜血陽性者の頻度

前項で述べた試験紙別の陽性頻度の差は，試験紙の種類別だけでなく，肉眼による比色か，尿分析器による比色かにもよる可能性が考えられる。上記の50校においては，肉眼による比色が37校，尿分析器による比色が10校，一次と二次の検尿で試験紙が異なるもの３校であった。

そこで，一次検尿の随時尿に対してヘマコンビスティックス等を使用した33校について，肉眼比色の大学（30校）と尿分析器比色の大学（３校）の陽性頻度を比較してみた。その集計結果を表Ⅰ－14に示した。たん白陽性者の頻度は，肉眼比色では4.5%であるのに対し尿分析器比色では2.7%，潜血陽性者の頻度は前者で1.8%，後者では1.2%であり，たん白陽性者および潜血陽性者の頻度は尿分析器に比し肉眼で高率であった。次に，陽性頻度の算出のさいには除外した(±)の頻度を肉眼比色と尿分析器比色で比較すると，たん白陽性者において，前者が7.1%，後者が14.5%であり，尿分析器による比色が高率であった。そこで，(±)以上を陽性として頻度を比較すると，肉眼比色が11.6%，尿分析器比色が17.2%であり，(+)以上を陽性とした場合とは，両者の関係が逆転し，肉眼比色に比し尿分析器比色が高率となる。潜血陽性者では，(±)は肉眼比色で2.1%，尿分析器比色で1.6%であり，いずれも(+)以上より大である点はたん白陽性者と同様であるが，(±)と(+)以上を加算すれば，前者3.9%，後者2.8%となり，両者の関係は変わらない。このように，たん白および潜血の検尿いずれでも，(+)以上の頻度より(±)の頻度が大であることから(±)の扱いが問題であり，ことに，たん白において肉眼比色に比し尿分析器比色では(+)以上をより少なく，(±)をより多く検出するので，その扱いは一層重要なものとなる。

２．尿たん白，潜血および両者陽性者の二次検尿の結果

前述したように，たん白，潜血および両者陽性者の３群の結果が二次検尿まで記載されている大学は56校であったが，そのうち，二次検尿の陽性者について精密検査の結果が記載されている大学は50校であった。この50校について集計した一次検尿におけるたん白，潜血および両者陽性者の二次検尿の結果を表Ⅰ－15－１～３に示した。

たん白陽性者では，男子の対象者4,066名中3,320名，81.7%が受検し，受検者の77.0%が陰性，13.6%が(±)となり，(+)以上の陽性者は315名，9.5%であった。女子では対象者1,795名中1,514名，84.3%が受検し，受検者の76.7%が陰性化し，13.9%が(±)となり，(+)以上の陽性者は143名，9.4%であった。すなわち，一次検尿のたん白陽性者は，再検尿によって90%程度が(−)あるいは(±)となり，再度陽性者は10%弱になる。この陽性者の頻度を年齢別にみると，18歳から20歳まで8.0～9.0%で推移し，以後，24歳を除き高率となった。一方，一次，二次ともに陽性の者を検討する立場から，精密検査のある前記50校について，二次検尿陽性者数の一次検尿受検者数に対する頻度（二次検尿の受検率は考慮しない）をみると，18歳の0.43%を除き，多くは0.2～0.3%台で，全体として0.34%であった。

潜血陽性者では男子の対象者1,320名中1,089名，82.5%が受検し，受検者の52.8%が陰性，15.2%が(±)となり，(+)以上の陽性者は349名，32.0%であった。女子では対象者785名中580名，73.9%が受検し，受検者の72.6%が陰性となり，10.0%が(±)となったので，(+)以上の陽性者は101名，17.4%であった。結局，男女あわせると，一次検尿の潜血陽性者は再検尿によって，およそ70%程度が(−)あるいは(±)となり，再度の陽性者は30%弱となる。また，一次検尿とは逆に，二次検尿では女子の陽性者の頻度が男子のそれより低率であった。年齢別にみると，陽性者が少数となる23歳以上を除けば，男女とも年齢とともに低下の傾向がうかがわれた。

両者陽性者については，男子では受検者288名中229名，79.5%が受検し，受検者の43.2%が両者(−)ないし(±)となり，たん白，潜血いずれか，または両者(+)以上となった者は130名，56.8%であった。女子では対象者144名中120名，83.3%が受検し，受検者の68.3%が両者(−)ないし(±)となり，たん白，潜血いずれか，または両者(+)以上は38名，31.7%であった。男女あわせる

と，一次検尿の両者陽性者は再検尿によって，およそ半数が，両者とも(−)ないし(±)となり，残る半数が，たん白，潜血のいずれか，または両者とも(+)以上を示すということになる。また，二次検尿における両者陽性者は男子が女子に比し高率であった。

なお，本調査では，二次検尿は早朝尿で実施することが指定されていた。しかし，実際には，50校のうち指定通りであったのは28校で，随時尿を当てた大学が22校あった。そこで，早朝尿の28校と随時尿の22校について，二次検尿の結果を対比検討した。その集計結果を表Ⅰ−16に示した。たん白陽性者の二次検尿における再度陽性者の頻度は，男女とも早朝尿（7.6%）に比し随時尿（12.5%）が高率であった。潜血陽性者の二次検尿では，再度陽性者の頻度は，早朝尿と随時尿とで男女ともほとんど差がなかった。両者陽性者の二次検尿では，再度陽性（たん白，潜血のいずれか，または両者(+)以上）者の頻度は，男子では随時尿が，女子では早朝尿が高率であった。以上の結果は，前述の一次検尿における随時尿と早朝尿の比較結果とほぼ同様であった。

3．尿たん白，潜血および両者陽性者の精密検査の結果

前述のように，たん白，潜血および両者陽性者の3群の結果が，一次検尿から二次検尿，精密検査（以下精検と略記）まで記載されている大学は50校であった。このうち，二次検尿の陽性者と精検の対象者数が一致している大学が15校，不一致の大学が23校，全部または一部の項目について一次検尿の陽性者を精検の対象者とした大学が12校であった。この50校の精検の集計の結果を表Ⅰ−17−1〜3に示した。精検の対象者数が二次検尿陽性者数より多いのは，前述した一次検尿の陽性者を精検の対象者としたり，(±)以上を精検の対象者に含めた大学があることによる。

たん白陽性者の精検の結果をみると，受検者の69.4%は異常なしとされ，これに体位性たん白尿の6.5%を加えると，75.9%が疾病異常はないことになる。疾病として最も多いのは慢性腎炎（6.4%）で，急性腎炎(0.2%)，ネフローゼ症候群（0.8%），その他の腎炎（0.7%）および腎炎の疑い（3.0%）を加えると，11.0%が腎炎の範疇に入る。

潜血陽性者については，受検者の37.5%が異常なしとされ，最も多い疾病は慢性腎炎（12.7%）で，腎炎の疑い（7.6%）を加えると20.3%が腎炎となる。そのほか，特発性腎出血（9.6%）が他に抜きんでて多く，これを含めて尿路感染症(1.6%)，尿路結石(2.4%)，遊走腎(2.9%）などを泌尿器科領域の疾患とすれば16.5%となる。しかしながら，潜血のみ持続陽性の無症候性血尿の組織学的検討が指摘するように，IgA 腎症等が一定の率で含まれるとすれば，むしろこれを腎炎のグループに入れる扱いの方が妥当かもしれない。そのように扱えば約30%が腎炎となる。

両者陽性者については，受検者の27.1%が異常なしとされ，最も多い疾患は慢性腎炎の28.2%で，これに急性腎炎(2.2%)，腎不全(0.6%)，その他の腎炎(8.3%)，腎炎の疑い(6.1%)を

含めると，実に45.4%が腎炎のグループに入る。そのほかは，特発性腎出血（1.7%）のほか，泌尿器科領域の尿路感染症(1.1%)，尿路結石(2.2%)，遊走腎（2.2%）等があわせて5.5%存在する。

4．一次検尿から精密検査までの縦断的集計

今まで，たん白陽性，潜血陽性，両者陽性の3群について，検査の各段階の結果について述べてきたが，最後にこの全過程を縦断的に俯瞰することにした。

そのためには，今回の調査において，指定通りの採尿法および検尿法を実施し，かつ，一次，二次および精検の諸検査の結果が相互に矛盾がなく記載されている大学を選ぶ必要がある。しかも，前述した試験紙による成績への影響も考えられるので，できる限り条件を同一にする必要がある。そこで，一次検尿が随時尿，二次検尿が指定の早朝尿で，試験紙にヘマコンビスティックス等(ただし，肉眼比色と尿分析器比色を含む）を使用した大学のうち，一次・二次検尿，精検結果の記載が整っている大学15校について集計し，その結果を表Ⅰ−18−1〜4に示した。

表Ⅰ−18−1によると，たん白陽性者では，一次検尿において，対象者数61,628名のうち42,271名，68.6%が受検し，陽性者は2,129名，5.0%であった。これを対象者として二次検尿したところ，1,751名，82.2%が受検し，陽性者は140名，8.0%であった。さらに，これを対象にした精密検査では，127名，90.7%の受検者のうち，疾患のあるものは59名，46.5%で，その大多数（56名，44.1%）を腎炎が占め，その他の疾患は少数（3名，2.4%）であった。この疾患のあるもの，経過観察（3名，2.4%）および詳細不明（10名，7.9%）を除いた「異常なし」の者は55名，43.3%であった。

そこで，一次検尿，二次検尿および精密検査を統一的にみるために，それぞれの検査において対象者数の全員が受検したと仮定した場合の一次検尿の対象者数に対する頻度を算出すると（以下，これを通算の推定比率，略して推定比率という），二次検尿の陽性者は0.40%である。集団検尿の chance proteinuria の頻度は加齢によって増加し，また検診の諸条件で異なるが，おしなべて学校検尿では0.05〜0.13%，職場健診では0.2〜0.5%と考えるのが一般的（安東らによる）だとすれば，今回の調査の成績は首肯できよう。また，精密検査による有疾者総数は0.19%，その中の腎炎は0.18%，最終的に異常なしとされた者は0.17%である。

潜血陽性者（表Ⅰ−18−2）では，一次検尿陽性者は627名，1.5%で，二次検尿での陽性者は146名，29.2%（推定比率は0.44%）であった。さらに，精密検査の段階では，有疾者総数は76名，59.8%（推定比率は0.26%），その中の腎炎は42名，33.1%（推定比率は0.14%），異常なしは11名，8.7%（推定比率は0.04%）であった。

両者陽性者（表Ⅰ−18−3）については，一次検尿陽性者は150名，0.4%で，二次検尿での陽性者は77名，60.6%（推定比率は0.24%）であった。精密検査では，有疾者総数は46名，78.0%(推定比率は0.19%)，その中の腎炎は37名，62.7%(推定比率は0.15%)，異常なしは4

名，6.8%（推定比率は0.02%）であった。

さて，この3群を合せて考えてみると(表Ⅰ－18－4)，一次検尿陽性者総数は2,906名，6.9%で，二次検尿の陽性者総数は363名，15.3%（推定比率は1.06%）であった。精密検査では，有疾者総数は181名，57.8%(推定比率は0.61%)，その中の腎炎は135名，43.1%（推定比率は0.46%)，異常なしは70名，22.4%（推定比率は0.24%）であった。

これらの頻度を用いて，今回調査の協力が得られた74校の大多数にあたる71校の対象者総数270,059名について，これらの大学が同じ条件で検尿し，どの検査の段階でも未受検者がなかったと仮定して，有疾者総数およびその中に含まれる腎炎の学生数を試算すると，それぞれ，1,647名，1,242名となる。

なお，これらの数値は，健康診断によって新たに発見された学生のもので，すでに疾病が判明して治療ないし継続的な保健管理の対象となっている学生は含まれないことを付言しなければならない。〔本項の集計は静岡大学榎本浩昌教授の電算処理によるものである〕

〔戸田安士〕

尿検査(B)　尿糖

尿糖に関する調査には，全部で73校の協力が得られた。集計は記載不備の8校を除く65校について行った。

この65校における一次検尿の採尿条件は，随時尿56校，早朝起床時尿（以下早朝尿と略記）7校，食後尿2校であった。また使用された試験紙は，ヘマコンビスティックス等41校（うち尿分析器使用8校)，ユリフレット8校(尿分析器使用)，ウロペーパー6校，BMテスト6校，ZD-401用テープ2校(尿分析器使用)，ラピグノスト1校(尿分析器使用)，テス・テープ1校であった。なお，今回の調査では，これらの試験紙で(±)以上を陽性とした。

1．一次検尿における尿糖陽性者の頻度

上記65校について集計した一次検尿における尿糖陽性者の頻度を，性・年齢別に，表Ⅰ－19に示した。総数でみると，対象者は男子196,934名，女子59,731名，男女合計256,665名で，受検率は男子70.4%，女子77.2%，男女合計で72.0%であった。尿糖陽性者の頻度は，男子0.8%，女子0.6%，男女合計では0.8%であった。

1）　性・年齢別にみた尿糖陽性者の頻度

表Ⅰ－19に示した集計結果は，各大学の検尿条件を考慮せずに集計したものではあるが，この集計でみると，尿糖陽性者の頻度は，性別には，大体各年齢とも男子が女子より高率であった。年齢別には，とくに一定の傾向はなく，男子は0.7～0.9%，女子は0.4～0.7%の範囲にあった。尿糖陽性者の頻度は，大学間でまちまちであり，同一条件で検尿の大学間でもかなりの違いが認められた。しかし，性・年齢別にみた上記の傾向には，大学別にみても，同一条件で検尿の大学の集計でみても，とくに変わりはなかった。

2）　採尿条件（随時・食後・早朝尿）別にみた尿糖陽性者の頻度

一次検尿における尿糖陽性者の頻度について採尿条件別に比較検討した。試験紙にヘマコンビスティックス等を使用し，かつ肉眼比色で検尿の大学33校を選び，被検尿が随時尿の29校と食後尿および早朝尿の各2校について，それぞれ集計した尿糖陽性者の頻度を表Ⅰ－20に示した。尿糖陽性者の頻度は，食後尿の大学で0.6%，随時尿の大学で0.5%，早朝尿の大学では0.04%で，食後尿で高く，早朝尿（食前尿）で低いという当然の結果であった。

3）　試験紙の種類別にみた尿糖陽性者の頻度

今回の調査では，前述のように，種々の試験紙が使用されているので，随時尿で検尿の大学56校について，試験紙の種類別に尿糖陽性者の頻度を検討した。その集計結果は表Ⅰ－21に示すとおりで，尿糖陽性者の頻度は，男女ともユリフレット使用の大学(男子2.3%，女子1.0%)で最も高く，男子ではZD-401用テープ使用の大学(1,840名中陽性者なし)，女子ではBMテストとテス・テープ使用の大学（0.3%）で最も低率であった。なお，56校中35校を占めるヘマコンビスティックス等使用の大学における陽性頻度は，男子0.7%，女子0.6%であった。

4）　試験紙の判定法（肉眼・尿分析器比色）別にみた尿糖陽性者の頻度

尿糖陽性頻度は，試験紙の種類によるだけではなく，同一試験紙でも肉眼比色と尿分析器による比色とで異なる可能性もある。前項の56校では，表Ⅰ－21の下段(注)に示したように，15校で尿分析器が使用されていた。そこで，随時尿でヘマコンビスティックス等使用の35校について，肉眼比色の29校と尿分析器比色の6校の尿糖陽性者の頻度を比較検討した。その集計結果は表Ⅰ－22に示したとおりで，尿糖陽性者の頻度は，尿分析器使用の大学（1.6%）が，肉眼比色による大学（0.5%）に比し，明らかに高率であった。この場合，(+)以上の頻度には両者であまり差がなかったが，(±)の頻度は，前者（1.3%）が後者（0.2%）の6倍強の高率であった。前項で述べた尿分析器によるユリフレット使用の大学でも(±)の頻度がとくに高率である(表Ⅰ－21)。このように，尿分析器による比色では(±)の頻度が著明に高く，かつ(+)以上の頻度より高いことが注目された。この尿分析器で検出された多数の(±)の陽性者が糖負荷試験でどうなるかが問題である。この点について，一次，二次検尿の採尿条件と試験紙の種類が同じ大学のうち，判定法が肉眼比色と尿分析器比色の各5校について，糖負荷試験の結果を対比してみたところ，肉眼比色の大学の集計では耐糖能異常者の頻度が25.9%であったのに対し，尿分

析器比色の大学では5.0%にすぎなかった。この問題については今後の検討が必要である。

2．尿糖陽性者の二次検尿の結果

前記65校のうち，一次検尿の尿糖陽性者に対し，二次検尿を行わないで，ブドウ糖負荷試験（以下GTTと略記）を実施する大学が9校（以下A群という），二次検尿を実施する大学が56校（以下B群という）であった。B群56校のうち，二次検尿の結果の記載がない大学が2校，記載不備の大学が4校あった。一方，A群9校のうち，今回の調査のためとくに二次検尿を実施し，その結果をよせられた大学が4校あった（GTTは一次検尿陽性者に実施）。そこで，一次検尿の尿糖陽性者に対する二次検尿の結果は，上記の計54校について集計し，その結果を表Ⅰ－23に示した。

男子では，二次検尿の対象者1,012名中706名，69.8%が受検し，受検者の82.3%が陰性となり，(±)以上の陽性者は125名，17.7%であった。女子では対象者252名中191名，75.8%が受検し，受検者の89.5%が陰性化し，(±)以上の陽性者は20名，10.5%であった。これによると，一次検尿の尿糖陽性者は，再検尿によって男子で80%強，女子で90%弱，男女合計で84%が陰性化し，再度陽性者は男子で18%，女子で10%前後，男女合計で約16%になる。なお，二次検尿における再度陽性者の頻度は，性別には，上記のように男子が高率であったが，年齢別にはとくに一定の傾向はみられなかった。

なお，参考までに，この二次検尿の結果を集計した上記54校における一次検尿の集計結果を示す。

	対象者数	受検者数	尿糖陽性者数	(%)
男	163,213	115,690	1,012	(0.9)
女	47,661	37,141	252	(0.7)

次に，一次検尿の尿糖陽性者に対する二次検尿は米飯飽食後1～2時間尿で実施するよう指定されていたが，上記54校の二次検尿では，飽食ないし普通食の食後尿で検尿の大学は29校で，その他は随時尿19校，早朝尿6校であった。そこで，この採尿条件別に二次検尿の尿糖陽性者の頻度を集計し，比較検討した。その結果は表Ⅰ－24に示したとおりで，尿糖陽性率は，食後尿の大学で最も高く19.3%，随時尿の大学で12.3%であったが，早朝尿の大学では3.3%と著しく低率であった。

3．尿糖陽性者の精密検査（ブドウ糖負荷試験）の結果

一次または二次検尿における尿糖陽性者に対しては75gブドウ糖経口負荷試験を施行し，その結果について調査，集計した。GTTの方法や結果の判定は日本糖尿病学会が勧告（1982）している方式によった。なお，境界型はIGT（Impaired glucose tolerance, WHO）とそれ以外に分けて調査した。

前項で述べたA群（一次検尿→GTT）9校のうち，一次検尿とGTTの結果の記載があったのは7校であった。また，B群（一次検尿→二次検尿→GTT）56校のうち，一次および二次検尿の結果とGTTの結果が記載されていた大学は32校であった。そこで，A群では7校の一次検尿の結果とその陽性者に対するGTTの結果を，B群では32校の一次検尿から二次検尿およびGTTまでの結果を縦断的に集計した。両群の集計結果をそれぞれ表Ⅰ－25，表Ⅰ－26に示した。

A群では，一次検尿の尿糖陽性者139名のうち102名（73.4%）がGTTを受検し，その結果は，正常型と判定された者85.3%，境界型（IGTとIGT以外の合計，以下同じ）13.7%，糖尿病型1.0%であった。

B群では，一次検尿の尿糖陽性者825名のうち554名（67.2%）が二次検尿を受検し，尿糖再度陽性者は83名，15.0%であった。この83名のうち54名（65.1%）がGTTを受検し，その結果は，正常型と判定された者81.5%，境界型14.8%，糖尿病型3.7%であった。

AおよびB群のGTTの結果についてみると，糖尿病型はごく少数で，今回女子には1名もなかった。性・年齢別の検討は，対象者，受検者数が少ないので省略した。また，A群とB群の間で，正常型，境界型，糖尿病型の頻度に大きな差はなかった。なお，A群とB群両者のGTTで糖尿病型と判定された3名は，すべてインスリン非依存型糖尿病であった。

次に，A群では，7校とも一次検尿は随時尿，ヘマコンビスティックス等の肉眼比色による検査で，検尿条件は同一であった。一方，B群の32校では，一次および二次検尿における採尿条件や試験紙の種類などはまちまちであった。

そこで，この32校のうち，一次検尿が随時尿，二次検尿が食後尿と，採尿条件が本調査の指定どおりの大学15校を選び（試験紙とその比色法は大学数の関係で同一のものにしぼれなかった），一次検尿から二次検尿，GTTまで，上記B群の場合と同様に集計した。その結果は表Ⅰ－27に示したとおりで，一次検尿における尿糖陽性者596名のうち375名（62.9%）が二次検尿を受検し，尿糖再度陽性者は69名，18.4%であった。この69名のうち47名（68.1%）がGTTを受検し，その結果は，正常型83.0%，境界型14.9%，糖尿病型2.1%であった。

以上の集計結果によって，学生における耐糖能異常者（境界型および糖尿病型）の頻度を推計してみると次のようになる。すなわち，一次検尿の陽性者にGTTを実施するA群でみると，一次検尿の対象者に対する耐糖能異常者の頻度は，男子0.068%，女子0.064%で，男女とも約1,500名に1名の割合となる。一方，二次検尿陽性者にGTTを行うB群（表Ⅰ－27の15校の集計）でみると，一次検尿の対象者に対する耐糖能異常者の頻度は，男子0.042%，女子0.017%で，男子では約2,400名に1名，女子では約6,000名に1名の割合となる。なお，糖尿病ないし耐糖能異常がすでに判明している学生の多くはこのなかには含まれていないことを付言する。

〔山吹隆寛〕

〔5〕心電図検査

定期健康診断で心電図検査を実施し，その調査結果が提出された大学は15校であった。しかし，ほぼ完全にミネソタコードを用いて作成されたと判断される大学は5校に過ぎなかった。したがって，この集計は，これらの5校について行った。この5校の大学名を仮にA，B，C，D，Eとし，成績は大学別に表示した。

この5校における心電図検査の対象学年は，1校を除き，1年生が主体であった。検査の実施時期は，4月から6月の間が4校，6月から12月の間が1校であった。心電図の記録は標準12誘導で行い，ミネソタコード（1982）により判定された。各大学の対象者数，受検者数，受検率は，表Ⅰ－28に示したとおりである。

ミネソタコードのいずれか1つ以上を満足した者を有所見者とし，その受検者に対する割合を有所見率とし，大学別の有所見者数と有所見率を表Ⅰ－28に示した。さらに，所見内容を明らかにするために，ミネソタコードのコード別にみた有所見者数と有所見率を表Ⅰ－29に示した。これらの結果から以下のようなことが明らかとなった。すなわち，

(1)大学間で有所見率，所見内容が異なる。

(2)いずれの大学でも男子の有所見率が女子に比し明らかに高い。

(3)所見のうちで最も高い頻度を示したのは，男子では3のコード(「高いR」)，女子では8のコード（不整脈）である。

上記第1の点は，対象の相違による差であることをまず考えねばならないが，所見内容によって大学間で著明な差があること，とくに，コード9（雑）でそれが著しいことは，心電図判読者の視点の相違あるいは胸部電極の位置の相違による結果である可能性も考慮しなければならない。なぜなら，9のコードの多いC，E大学で，その9コードの多くが，9－4－1，9－4－2でQRSの移行帯に関する項目だからである。しかし，3のコード，とくに3－3（SV1＋RV5 or 6＞35，または15＜RI＜20）という定量的コードでもかなりの差が認められたのは，対象の真の差である可能性が大きい。もっとも今回のデータでは，身長，体重，胸囲等の体型の指標が得られないので，高電位の対象による差の原因は明らかではない。

第2の男女差については，各大学とも，例外なく認められるが，その原因は，主として，3のコード（高いR波）の差，とくに左室高電位の差によるものである。この左室高電位の男女差は，すでに一般に知られている事実で，今回の各大学のデータの妥当性を示すものといえよう。

第3の点については，男子において3のコード，とくに左室高電位が高頻度（平均34.5%）にみられたことは，心電図による左室肥大の診断基準に警告を発するものといえよう。およそ，一般集団の中で，34.5%も異常となるような診断基準が妥当とはとても考えられないからである。今回のデータからは，これらの心電図上の左室肥大が，真の肥大・拡大を示すかどうかは

不明であるが，7年前に九州大学1年生2,056名について検討された結果では，心電図上左室肥大と診断された者の全例が，心エコー図を含む精査の結果，正常であった[1]。すなわち，これはアメリカ人のためにつくられたミネソタコードを，そのまま日本人に適用してきた従来の心電図学の誤りを示すものといえる。女子で不整脈が最高であったことは，またこのコードでは男女差がなかったことと考えあわせて，興味深い点であるが，コードの内容は多くが8－9である。恐らく，単発性の上室性期外収縮か心室性期外収縮と思われるので，臨床的にはほとんど問題はなさそうである。しかし，これの処遇については治療の必要性の可否などなお今後検討されなければならない点がある。

最後に，頻度は少ないが，7のコード（主として不完全右脚ブロック）や，4・5のコード（ST，T異常）の存在は，心房中隔欠損症や心筋炎，心筋症を発見する上に重要なものであり，これらのコードから最終的に器質的な心疾患がどの程度発見されたかについての検討が次に必要であろう。

心電図検査が定期健康診断の一項目として実施されている大学はまだ少ない。今回の調査では，80校中15校のみでミネソタコードに基づく分析の結果が報告された。しかしながら，データの不備などのため残念ながら5校の成績しかまとめることができなかった。

〔藤野武彦，川崎晃一〕

参考文献

1) 藤野武彦，他：正常若年群の心電図に関する研究（第1報）－とくに左室肥大との関連－，健康科学，2：7，1980.

〔6〕血液検査(赤血球系)

この調査の項目は血色素量，赤血球数およびヘマトクリット値の3項目で，いずれも性別，年齢別に調査した。資料提供大学は14校であったが，女子のみを対象としたり，1～2項目だけを測定した大学があるため，各項目の集計大学数はそれぞれ表に示した。各大学で使用された機器の種類は，トーア血球計数器8校（CC-110，HB110併用・1校，CC-120・2校，CC-150・1校，CC-720・3校，E4000・1校)，コールターカウンター2校(S・1校，SP-3・1校)，ラバエース，ヘムメーター併用1校，分光光度計1校(パーキンエルマーラムダ)，不明2校であった。

各大学の検査成績をみると，平均値にかなりのバラツキがみられた。例えば，血色素量12g/dℓ以下の女子は，A大学で約30%であるのに対して，B大学では約3%と低かった。このよう

な大学差は，赤血球数およびヘマトクリット値にも認められ，どの項目の場合も，平均値の高い大学では，性別，年齢別にみても，すべて高値を示す傾向があり，平均値の低い大学では，すべて低値を示した。これは，大学差が単なる偶然の測定誤差によるものではないことを示唆している。

そのため性差および年齢差の検討は，大学別に行った。性差は全項目に認められ，いずれも男子が高値であったが，年齢による一定の変動は認められなかった(図Ⅰ－２)。

血色素量，赤血球数およびヘマトクリット値についてそれぞれ各大学の成績を単純に集計した結果は表Ⅰ－30～表Ⅰ－32に示したとおりである。しかし，上述したような大学差が認められるため，大学ごとに，性別に全年齢層を集計し，平均値，標準偏差，ひずみ度，とがり度などを算出して，表Ⅰ－33～表Ⅰ－35に示した。なお，標準偏差その他２次および４次の積率に関係する値は，Sheppard の修正が加えてある。また，表Ⅰ－33～表Ⅰ－35下段の「＊」印は，例数の多い大学の影響を強く受けることを避けるため，各大学の例数が同数だとして，平均値および標準偏差を求めたものである。

以上の結果を要約してみると，下記の点があげられる。

(1)各項目ともほぼ正規分布をしているが，そのうち，血色素量およびヘマトクリット値の分布はやや左方に延び，赤血球数ではその傾向が認められない。これは，鉄欠乏性貧血では赤血球数はあまり減少しないことと関係しているのであろう。

(2)血色素量の正常値の下限を，男子14g/dℓ，女子12g/dℓとすれば，男子の約５％，女子の約11％が正常値以下，すなわち貧血群である（ただし，女子の分布のひずみ度が男子のそれに比べてとくに大きいことはない)。

〔榎本浩昌〕

〔７〕肝機能検査

この調査では，学生の HBs 抗原，HBe 抗原・抗体の陽性者の頻度および血清トランスアミナーゼ異常者の頻度等について調査した。

１．HBs 抗原，HBe 抗原・抗体の陽性者の頻度

HBs 抗原等に関する調査の資料提供大学は，HBs 抗原15校，HBe 抗原・抗体12校であった。各項目とも性別・年齢別に集計した。これらの大学における HBs 抗原の測定法は，RPHA 法11校，ELISA 法２校，RIA 法１校，SRID 法１校であった。HBe 抗原・抗体はすべて RIA 法で測定されていた。

まず，各項目それぞれの性別・年齢別の陽性者の頻度について大学間の差異（HBs 抗原については測定法別に）を検討したが，いずれも有意差は認められなかった。上記15校で測定法別に集計した HBs 抗原陽性者の頻度，および12校で集計した HBe 抗原・抗体保有者の頻度を，それぞれ性・年齢別に，表Ⅰ－36と表Ⅰ－37に示した。

若干の考察を交えて，結果を要約すれば，下記の点があげられる。

(1)測定法別に集計した HBs 抗原陽性者の頻度は，RIA 法3.1％，ELISA 法1.8％，RPHA 法1.5％，SRID 法0.5％であった。

(2) HBs 抗原について，性差および年齢差の有無を，RPHA 法11校の集計でみると，総数および18歳男子における陽性者の頻度が，女子に比べて有意に高値を示したが，陽性者の頻度について男女とも年齢による有意差は認められなかった。

(3) HBs 抗原陽性者における HBe 抗原陽性者の頻度は約40％で，逆に HBe 抗体陽性者の頻度は45～50％と若干高率であり，抗原では男子が，抗体では女子が若干多い傾向にあった。しかし，例数が少ないため年齢別の特徴は認められなかった(表Ⅰ－37)。

２．血清トランスアミナーゼ異常者の頻度

血清トランスアミナーゼ（S-GOT，S-GPT）に関する調査の資料提供大学は，S-GOT 7校，S-GPT 12校で，ほかに HBs 抗原陽性者だけを対象として S-GOT，S-GPT を測定した大学が１校（大学No.20）あった。学生を HBs 抗原陽性と陰性の２群に分け，それぞれ性・年齢別に S-GOT と S-GPT 異常者の頻度を調査した。なお，異常者数は各大学独自の正常値を用いて判定した成績をそのまま使用した（S-GOT，S-GPT の正常値は大学間で差があり，S-GOT では，40U以下５校，39U以下１校，35U以下１校，不明１校であり，S-GPT の場合は，40U以下４校，35U以下３校，33U以下１校，30U以下３校，29U以下１校，不明１校であった)。測定法については，UV 法10校，R-F 法３校であったが，UV 法が Karmen 原法，国際法，日本臨床化学会法などのいずれであるかは確認できていない。

S-GOT，S-GPT 異常者の頻度についても，このような測定法による差とは別に，大学間の差異があった。例えば，HBs 抗原陰性男子において，S-GOT 異常者の頻度は1.0～13.0％，S-GPT のそれは0.6～13.2％という大きなバラツキを示した(表Ⅰ－39)。なお，各大学の異常者の頻度と正常上限値との間に逆相関関係は認められなかったが，UV 法を用いている大学では R-F 法を用いている大学に比べて，異常者の頻度が高い傾向にあった。

そこで，比較的例数の多い HBs 抗原陰性群（１年齢50名以上，３年齢以上の検索例）におけるS-GOT・GPT異常者の頻度について，性差および年齢差の検討を大学別に行ったが，S-GOT，S-GPT とも男子の異常者の頻度は女子のそれに比べて高値を示した。なお，加齢による一定の変動傾向は認められなかった(図Ⅰ－３)。

各大学の S-GOT および S-GPT の異常者の頻度を単純に集計した結果は，表Ⅰ－38に示し

たとおりである。しかし，上述したような大学差が認められるため，大学ごとに，性別に全年齢層を合計して異常者の頻度を算出した結果を表Ⅰ－39に示した。なお，本調査では対象者数の記入に不備の大学が２～３あったので，表Ⅰ－38では対象者数と受検率の算出は行なわなかった。また，前述の大学№20はこの集計から除外した。

結果を要約すれば，下記の点があげられる。

(1) S-GOT・GPT 異常者の頻度は，HBs 抗原陰性群，陽性群とも，男子が女子に比べて高率であり，問題点はあるが，全大学の集計（表Ⅰ－38）でみると，その異常者の頻度は，HBs 抗原陰性群で，男子：S-GOT 4.8%，S-GPT 3.8%，女子：S-GOT 0.5%，S-GPT 0.7%，HBs 抗原陽性群で，男子：S-GOT 11.7%，S-GPT 9.2%，女子：S-GOT 0%，S-GPT2.9%であった。ただし，HBs 抗原陽性群女子では，対象者数および異常者数が少ないため，信頼度90%の信頼限界は，S-GOT 13.3～０%，S-GPT 13.2～0.15%である。

(2) HBs 抗原陰性群について，S-GOT および S-GPT を同時に測定した７校（男子は６校）のS-GOT・GPT の異常者の頻度の大小を比較したが，一定の傾向は認められなかった（表Ⅰ－39)。ただし，S-GPT 異常頻度＞S-GOT 異常頻度の大学がやや多く，２校でその差は有意（大学№19は男女とも，大学№９は男子のみ）であった。

(3)各大学とも，HBs 抗原陰性者でも血清トランスアミナーゼ異常者の頻度が意外に高率であった(表Ⅰ－39)。

３．HBs 抗原陽性者および血清トランスアミナーゼ異常者の精密検査の結果

HBs 抗原陽性者および HBs 抗原陰性の血清トランスアミナーゼ異常者の精密検査の結果を表Ⅰ－40と表Ⅰ－41に示した。

この精密検査の結果を要約すると，以下の点が注目される。

(1) HBs 抗原陽性者では無症候性キャリアが多く，かつ発病者では男子が多い傾向がある。

(2) HBs 抗原陰性の血清トランスアミナーゼ異常者の男子では，筋肉性や脂肪肝による血清トランスアミナーゼ高値例が多い。

ただし，今回の集計での肝疾患の診断法について，肝生検や診断のための精密検査が必ずしも統一されていなかったので若干の問題が残された。

なお，昭和59年度における学生の肝炎の症例についての調査は，報告された例数が少なかったので今回は集計を省略した。

〔榎本浩昌〕

〔８〕血液脂質の検査

本調査の項目は，血清総コレステロール値，HDL-コレステロール値およびトリグリセライド値の３項目で，いずれも性別，年齢別に調査した。資料提供大学は，総コレステロール，HDL-コレステロール各４校，トリグリセライド３校であった。総コレステロールおよびトリグリセライドの測定はすべて酵素法であった。なお，酵素法にも，キットによってとくに発色系に違いのあるものがあるが，詳細は確認していない。HDL-コレステロールは，ヘパリン-Ca 沈殿法が２校，デキストラン硫酸-Mg 沈殿法が２校であった。

これまで，脂質の生化学的検査では，各大学の平均値にかなりのバラツキがみられる場合のあることが指摘されてきたが，今回の調査結果でも同様であった。例えば，血清総コレステロール値220mg/dℓ以上の男子が，Ａ大学では約11%であるのに対して，Ｂ大学では約0.6%に過ぎなかった。このような大学差は，HDL-コレステロール値およびトリグリセライド値にも認められ，どの項目の場合も，平均値の高い大学では，性別，年齢別にみても，すべて高値を示す傾向があり，平均値の低い大学では，すべて低値を示した。これは，大学差が単なる偶然の測定誤差によるものではないことを示唆している。

そのため，性差および年齢差の検討は，大学別に行った。性差では，総コレステロールおよび HDL-コレステロールは女子が高値，トリグリセライドは男子が高かった。年齢による変動では，総コレステロールとトリグリセライドに，加齢とともにわずかに増加する傾向が認められたが，例数が少ないため，結論は差し控える(図Ⅰ－４)。

血清総コレステロール値，HDL-コレステロール値およびトリグリセライド値についてそれぞれ各大学の成績を単純に集計した結果は表Ⅰ－42～表Ⅰ－44に示したとおりである。しかし，上述したような大学差が認められるため，大学ごとに，性別に全年齢層を集計し，平均値，標準偏差，ひずみ度，とがり度などを算出して，表Ⅰ－45～表Ⅰ－48に示した。なお，標準偏差その他２次および４次の積率に関係する値は，Sheppard の修正が加えてある（表Ⅰ－48を除く)。また，表Ⅰ－45～表Ⅰ－48下段の「＊」印は，例数の多い大学の影響を強く受けることを避けるため，各大学の例数が同数だとして，平均値および標準偏差を求めたものである。

以上の結果を要約すると，下記の点があげられる。

(1)HDL-コレステロール，総コレステロールいずれも男子に比べ女子が高値を示した。逆に，トリグリセライドは明らかに男子が高値であった。総コレステロールの正常上限を220mg/dℓとすれば，男子の約７%，女子の約14%が異常範囲の値を示した。

(2)各検査項目とも右方に延びる分布をしているが，総コレステロールおよび HDL-コレステロールがほぼ正規分布に近いのに対して，トリグリセライドはひずみ度が著しい。そのため，トリグリセライドに関しては，測定値を対数変換し，正規分布に近付けたうえで，平均値，標準偏差等を計算した結果を，表Ⅰ－48に示した。

(3)空腹時採血校（大学No.9）のトリグリセライド等の平均値および標準偏差が，随時採血校のそれに比べて，より小さいとはいえなかった。

〔榎本浩昌〕

〔9〕肥満およびやせの頻度

肥満およびやせの判定法には，標準体重や体格指数あるいは体脂肪（皮下脂肪厚）による方法があるが，確定的な判定法はない。そのため，肥満・やせの評価の目的によって，それぞれ適当な方法と基準が用いられているのが現状である。本調査では，学生集団におけるスクリーニング段階での肥満とやせの頻度を知ることが目的であり，多数の大学で同一の判定法と基準によりスクリーニングをする必要があることなどを考慮して，今回は実際的かつ簡便な標準体重法を用いることにした。

標準体重法にも種々の身長別基準体重表や便法的な方式があるが，今回の調査では厚生省栄養課監修「肥満指導の手びき」(昭和46年）に示されている身長別体重基準値に基づく肥満とやせの判定基準体重表を用いることにした。これは，多数の集団を対象に，肥満とやせをスクリーニングするための基準として作成されたものであり，使用上も簡便であることを考慮したものである。なお，この方法における肥満要注意域の数値は，身長別体重基準値の＋20%，肥満危険域の数値は＋30%に当たり，るいそう危険域の数値は－10%に相当している。

本調査には，56校から調査結果がよせられた。56校におけるこの調査の対象学年は，全学年36校(64.3%)，一部の学年20校(35.7%)で，後者で多いのは1年生のみの7校であった。56校について集計した結果を表Ⅰ－49に示した。対象者は，男子139,322名，女子43,759名，男女合計183,081名で，身長・体重測定の受検率は，男子69.9%，女子76.0%，男女合計で71.3%であった。

肥満要注意域，危険域，るいそう危険域の頻度は総数でみると，男子97,390名中それぞれ6.4%，3.9%，4.6%，女子33,237名中それぞれ3.4%，1.2%，8.3%であった。肥満要注意域および危険域の者の頻度は男子が女子に比し明らかに高く，これに反し，るいそう危険域の頻度は男子より女子に高い。年齢別には，肥満要注意域の頻度が男子22歳以降増加の傾向にあるほか，肥満およびやせの頻度は，男女とも18～25歳の間で一定の傾向はなかった。

〔山吹隆寛〕

〔10〕内科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科検診

内科検診

内科検診では，貧血，黄疸，浮腫，甲状腺腫，心雑音，不整脈，肝腫，脊柱形態異常，胸郭形態異常，四肢機能障害の各項目のうち受検者全員について必ず診察（チェック）している項目の検診結果を提出してもらい，各項目ごとに異常頻度を集計した。

本調査には，53校から調査結果がよせられたが，受検者全員について必ず診察したか否かの記載が不明確な大学，対象者が希望者ないし特定の者であった大学，および診察医が内科以外の医師であった大学などがあった。今回は受検者全員について診察していることが明らかな大学で，対象者が学年単位であり，かつ内科医が診察している大学27校について集計した。ただし，受検者全員について診察した項目が大学によって異なるので，項目ごとに集計した（そのため各項目ごとに集計大学数が異なる)。この集計結果は表Ⅰ－50に示したとおりで，各項目の異常頻度は全体的に低率である。しかし，男女差をみると貧血，甲状腺腫の2項目では女子に多く，疾病異常頻度の特徴はあらわれている。(今回は，各項目で認められた異常者の精密検査結果についての調査は省略した)

〔山吹隆寛〕

眼科検診

眼科検診では，斜視，結膜炎，霰粒腫，麦粒腫，涙のう炎，角膜異常について検診結果を調査，集計した。この調査には20校から調査結果がよせられたが，集計は，上記の全項目について受検者全員を診察したことが明らかな13校について行った。その結果は表Ⅰ－51に示した。

各疾病異常とも頻度が全体的に低率であった（例えば，斜視では通常2～3%存在することが知られている)。しかし，結膜炎の占める頻度が高いのは通常の疾病別の異常頻度と同じである。また，年齢的に若いためか涙のう炎の頻度が低い。

〔山吹隆寛〕

耳鼻咽喉科検診

耳鼻咽喉科検診では，慢性中耳炎，中耳カタル，外耳道炎，慢性副鼻腔炎，慢性鼻炎，鼻中隔弯曲症，鼻アレルギー，咽頭炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大について調査，集計した。この調査は23校から調査結果がよせられたが，集計は，上記の全項目について受検者全員を診察したことが明らかな8校について行った。その結果は表Ⅰ－52に示したとおりである。

小学生の耳鼻科検診の結果と比較して，中耳カタル，外耳道炎が特に低率であるのは当然であるが，全体にどの疾病項目も異常頻度が低率であった。しかし，これらの疾病異常の中では鼻アレルギーが1.7％と高率で，最近の耳鼻科領域の疾病頻度の特徴と同様の傾向がある。

〔山吹隆寛〕

歯科検診

1） う蝕について

歯科検診の結果が報告された大学11校のうち，分析可能な9校について，う蝕罹患状態を性・年齢別に集計した結果を表Ⅰ－53に示した。表でみるとおり，う蝕罹患者率はきわめて高い値を示したが，18歳（93.3％）より年齢が増すにつれて（22歳，97.5％）さらに高い値を示す傾向にあった。一方，昭和56年度の歯科疾患実態調査の結果をみると，18～22歳の年齢層では，う歯を持つ者の率は97.6％以上であり，それに比べると本結果はいずれの年齢層も低い値を示していた。今回の調査では，一人平均う歯数の比較はできないが，以上の結果から調査対象とした大学生のう歯数は，全国平均と比べれば少ないことが十分に考えられた。

次に処置完了者率についてみると(表Ⅰ－53)，総数でみても，約半数の47.4％の者がう蝕の処置を完了している。年齢別にみると，18歳で55.9％（男女合計）と最も高く，以後徐々に減少し，22歳では37.7％と低い値を示した。本調査結果は，全国平均の20～30％に比べると，いずれの年齢層においても，その率はきわめて高い。18歳以降の，処置完了者率の減少傾向について考えてみると，入学後新たにう蝕を発生させたか，あるいはう蝕を再発させており，それにもかかわらず歯科を受診し，処置を完了する者が少ないことを意味しているものと思われた。

次に，う蝕罹患者率および処置完了者率を，性別にわけて比較した(表Ⅰ－53)。男女ともう蝕罹患者率は極めて高い。男子と女子を比較すると，その差はほとんどないが，いずれの年齢層においても多少女子の方が高い値を示した。また，処置完了者率についてみても，いずれの年齢層も女子の方が高い値を示し，これらは，いずれも全国平均と同様な傾向であった。その理由としては，う蝕に罹患する者は女子の方が多いが，女子は男子に比べて未処置う歯を放置しない傾向が強いためと思われる。また，年齢が増すにしたがい，処置完了者率が減少する傾向は男女とも同様であった。加齢に伴う，う蝕罹患者率の増加，とくに処置完了者率の減少について考えると，一般に受験後入学までに，歯の処置を完了する者が多い。しかし，大学生活が始まると，自宅から離れたりするので，高校時代に比べ，さらに口腔管理が行き届かなくなる結果と思われる。

次に，地域・大学間での差を見るために，北海道大学(北)，名古屋大学(中央)，長崎大学(南)の3大学の20歳の学生について，う蝕罹患者率および処置完了者率を性別で比較し，その結果を表Ⅰ－54に示した．また，その3大学と20歳の学生を検診している8大学の性別の平均

値とも比較した。まず，北海道大学では，う蝕罹患者率が高く，処置完了者率が低い。名古屋大学では，う蝕罹患者率が低く，処置完了者率が高い。長崎大学では，う蝕罹患者率も処置完了者率も高くなっている。これを，8大学の平均と比較してみると，北海道大学と長崎大学では，う蝕罹患者率が高くなっており，名古屋大学では低い値を示していた。処置完了者率については，北海道大学は平均に比べ極めて低いが，他の2校は平均に近い値を示していた。以上の結果から，口腔の歯科保健状態は顕著ではないが，地域・大学間で差があるように思われた。これについては，DMF Index で見ることができればさらに明らかになると思われる。

2） 歯周疾患について

歯周疾患については，7大学が検診しているが，大学によって検出率の差が大きく，その差は，それぞれの大学の，担当した歯科医師の検出基準の違いによるものと思われるので，全体での集計および分析は行わなかった。しかしながら，北海道大学および東京大学については，検出率がほぼ同様な値を示していたので，この2校について年齢別に見た罹患傾向を表Ⅰ－55に示した。この結果からは，歯肉炎，歯周炎を持つ者の率についての，年齢に伴なう変化は明らかではなかった。

今回の調査および結果では，大学生の歯周疾患の罹患状態を正確に把握することはできなかった。今後，詳細な調査検討が必要である。

〔高橋香織・山口昌子〕

〔11〕身長および体重

身長および体重の調査は，定期健康診断時の測定値によった。測定単位は身長cm，体重kgとし，小数点以下1位まで測定した。身長，体重とも，男，女それぞれ18歳から25歳まで，1歳ごとの年齢別に調査し，26歳以上は除外した。また，身長については，男子では150.0cmより190.0cmまで，女子では140.0cmより180.0cmまで，1cm区分で，体重については，男子では45.0kgより90.0kgまで，女子では35.0kgより75.0kgまで，1kgの区分でそれぞれの分布を調査した（身長，体重の下限値以下および上限値以上の者については，個々の測定値を記入)。

本調査には，男子で70校，女子で72校の協力が得られた。総数（各年齢群の合計）でみると，70校で集計した男子の身長測定の対象者は，193,199名，受検者は137,108名(受検率71.0％)，体重測定の対象者は196,491名，受検者は139,696名（受検率71.1％）であった。また，72校で集計した女子の身長測定の対象者は59,686名，受検者は46,433名(受検率77.8％)，体重測定の対象者は61,062名，受検者は47,149名（受検率77.2％）であった（男女とも，身長測定と体重測定の対象者数および受検者数が異なるのは，身長と体重の測定実施対象学年が異なる大学が

各１校あったためである)。

男子および女子における身長と体重の平均値および標準偏差を表Ｉ－56に，また身長および体重の分布をそれぞれ表Ｉ－57と58に示した。

〔山吹隆寛〕

表Ｉ－１－１　定期健康診断の受検率　性・入学年度別　４年制学部

〔73校集計〕

入学年度	総数			男			女		
	対象者数	受検者数	受検率	対象者数	受検者数	受検率	対象者数	受検者数	受検率
総数	305,648	223,564	73.1	232,215	166,801	71.8	73,433	56,763	77.3
昭和59年度	73,532	68,015	92.5	54,465	50,149	92.1	19,067	17,866	93.7
58年度	73,132	45,532	62.3	54,329	33,532	61.7	18,803	12,000	63.8
57年度	70,424	41,614	59.1	53,118	30,542	57.5	17,306	11,072	64.0
56年度	70,103	58,371	83.3	52,981	43,085	81.3	17,122	15,286	89.3
55年度以前	18,457	10,032	54.4	17,322	9,493	54.8	1,135	539	47.5

表Ｉ－１－２　定期健康診断の受検率　性・入学年度別　６年制学部

〔27校集計〕

入学年度	総数			男			女		
	対象者数	受検者数	受検率	対象者数	受検者数	受検率	対象者数	受検者数	受検率
総数	23,325	14,400	61.7	20,360	12,492	61.4	2,965	1,908	64.4
昭和59年度	3,892	3,543	91.0	3,281	2,958	90.2	611	585	95.7
58年度	3,827	1,840	48.1	3,233	1,526	47.2	594	314	52.9
57年度	3,774	2,106	55.8	3,287	1,828	55.6	487	278	57.1
56年度	3,780	2,166	57.3	3,272	1,878	57.4	508	288	56.7
55年度	3,754	1,955	52.1	3,357	1,773	52.8	397	182	45.8
54年度	3,600	2,486	69.1	3,258	2,237	68.7	342	249	72.8
53年度以前	698	304	43.6	672	292	43.5	26	12	46.2

(注) １．対象者数：昼間の学部の在籍学生数（休学者，外国からの留学者等を除いた人数）
　　２．受検者数：検診項目の１項目以上を受検した学生の人数

表Ⅰ－2－1　各大学の定期健康診断受検率の分布　性・入学年度別　4年制学部

〔男71校，女73校集計〕

入学年度		大学総数 実数(%)	定期健康診断受検率 0～9 %	10～19 %	20～29 %	30～39 %	40～49 %	50～59 %	60～69 %	70～79 %	80～89 %	90～99 %	100 %
全学生	男	71(100.0)	-	-	-	2 (2.8)	7 (9.9)	9 (12.7)	13 (18.3)	10 (14.1)	14 (19.7)	15 (21.1)	1 (1.4)
	女	73(100.0)	-	-	-	1 (1.4)	6 (8.2)	7 (9.6)	9 (12.3)	9 (12.3)	14 (19.2)	25 (34.2)	2 (2.7)
昭和59年度	男	71(100.0)	-	-	1 (1.4)	-	1 (1.4)	-	1 (1.4)	5 (7.0)	14 (19.7)	37 (52.1)	12 (16.9)
	女	73(100.0)	-	-	1 (1.4)	-	-	1 (1.4)	3 (4.1)	-	9 (12.3)	32 (43.8)	27 (37.0)
58年度	男	71(100.0)	1 (1.4)	4 (5.6)	9 (12.7)	6 (8.5)	5 (7.0)	9 (12.7)	3 (4.2)	5 (7.0)	13 (18.3)	14 (19.7)	2 (2.8)
	女	73(100.0)	2 (2.7)	6 (8.2)	5 (6.8)	7 (9.6)	1 (1.4)	4 (5.5)	7 (9.6)	6 (8.2)	9 (12.3)	19 (26.0)	7 (9.6)
57年度	男	71(100.0)	2 (2.8)	7 (9.9)	7 (9.9)	6 (8.5)	4 (5.6)	5 (7.0)	10 (14.1)	8 (11.3)	12 (16.9)	9 (12.7)	1 (1.4)
	女	73(100.0)	5 (6.8)	6 (8.2)	2 (2.7)	1 (1.4)	8 (11.0)	3 (4.1)	8 (11.0)	2 (2.7)	15 (20.5)	18 (24.7)	5 (6.8)
56年度	男	71(100.0)	-	-	-	-	-	7 (9.9)	7 (9.9)	11 (15.5)	26 (36.6)	18 (25.4)	2 (2.8)
	女	72(100.0)	-	-	-	1 (1.4)	1 (1.4)	1 (1.4)	3 (4.2)	3 (4.2)	17 (23.6)	38 (52.8)	8 (11.1)
55年度以前	男	68(100.0)	1 (1.5)	3 (4.4)	5 (7.4)	6 (8.8)	13 (19.1)	9 (13.2)	18 (26.5)	6 (8.8)	4 (5.9)	1 (1.5)	2 (2.9)
	女	61(100.0)	6 (9.8)	3 (4.9)	7 (11.5)	7 (11.5)	8 (13.1)	13 (21.3)	9 (14.8)	5 (8.2)	-	-	3 (4.9)

(注) 数字は大学数，(　) は%

表Ⅰ－2－2　各大学の定期健康診断受検率の分布　性・入学年度別　6年制学部

〔27校集計〕

入学年度		大学総数 実数(%)	定期健康診断受検率 0～9 %	10～19 %	20～29 %	30～39 %	40～49 %	50～59 %	60～69 %	70～79 %	80～89 %	90～99 %	100 %
全学生	男	27(100.0)	-	-	-	5 (18.5)	1 (3.7)	7 (25.9)	6 (22.2)	3 (11.1)	3 (11.1)	2 (7.4)	-
	女	27(100.0)	-	1 (3.7)	-	4 (14.8)	1 (3.7)	3 (11.1)	7 (25.9)	6 (22.2)	2 (7.4)	3 (11.1)	-
昭和59年度	男	27(100.0)	-	-	-	-	-	1 (3.7)	2 (7.4)	1 (3.7)	5 (18.5)	11 (40.7)	7 (25.9)
	女	27(100.0)	-	-	-	-	-	-	2 (7.4)	-	2 (7.4)	6 (22.2)	17 (63.0)
58年度	男	27(100.0)	1 (3.7)	5 (18.5)	2 (7.4)	1 (3.7)	4 (14.8)	5 (18.5)	3 (11.1)	2 (7.4)	1 (3.7)	2 (7.4)	1 (3.7)
	女	27(100.0)	1 (3.7)	4 (14.8)	4 (14.8)	-	3 (11.1)	3 (11.1)	3 (11.1)	-	3 (11.1)	1 (3.7)	5 (18.5)
57年度	男	27(100.0)	1 (3.7)	2 (7.4)	-	4 (14.8)	3 (11.1)	4 (14.8)	6 (22.2)	-	4 (14.8)	3 (11.1)	-
	女	26(100.0)	1 (3.8)	1 (3.8)	1 (3.8)	1 (3.8)	3 (11.5)	5 (19.2)	1 (3.8)	3 (11.5)	2 (7.7)	3 (11.5)	5 (19.2)
56年度	男	27(100.0)	1 (3.7)	-	3 (11.1)	4 (14.8)	2 (7.4)	2 (7.4)	4 (14.8)	8 (29.6)	1 (3.7)	2 (7.4)	-
	女	26(100.0)	3 (11.5)	-	1 (3.8)	4 (15.4)	2 (7.7)	1 (3.8)	4 (15.4)	4 (15.4)	3 (11.5)	2 (7.7)	2 (7.7)
55年度	男	27(100.0)	1 (3.7)	3 (11.1)	3 (11.1)	1 (3.7)	3 (11.1)	3 (11.1)	8 (29.6)	1 (3.7)	1 (3.7)	3 (11.1)	-
	女	26(100.0)	6 (23.1)	-	2 (7.7)	4 (15.4)	2 (7.7)	-	4 (15.4)	-	4 (15.4)	1 (3.8)	3 (11.5)
54年度	男	27(100.0)	2 (7.4)	2 (7.4)	2 (7.4)	1 (3.7)	-	2 (7.4)	-	4 (14.8)	9 (33.3)	5 (18.5)	-
	女	26(100.0)	1 (3.8)	1 (3.8)	1 (3.8)	-	2 (7.7)	1 (3.8)	3 (11.5)	1 (3.8)	8 (30.8)	3 (11.5)	5 (19.2)
53年度以前	男	27(100.0)	6 (22.2)	1 (3.7)	3 (11.1)	1 (3.7)	2 (7.4)	2 (7.4)	5 (18.5)	4 (14.8)	2 (7.4)	1 (3.7)	-
	女	16(100.0)	7 (43.8)	-	-	-	-	-	1 (6.3)	-	-	-	8 (50.0)

(注) 数字は大学数，(　) は%

表Ⅰ－3　胸部Ｘ線（間接）検査における異常者の頻度　性・入学年度別

間接撮影で異常所見を認め，精密検査で肺結核および結核以外の疾患と診断された者の頻度

4年制学部　〔74校集計〕

入学年度		対象者数	間接撮影受検者数	受検率	総数		肺結核				結核以外の疾病異常			
							総数		新たに発見	既知	総数		新たに発見	既知
					実数	%	実数	%	実数	実数	実数	%	実数	実数
総数		281,044	201,506	71.7	314	0.16	151	0.07	61	90	163	0.08	106	57
男		213,288	150,070	70.4	230	0.15	110	0.07	42	68	120	0.08	86	34
女		67,756	51,436	75.9	84	0.16	41	0.08	19	22	43	0.08	20	23
昭和59年度	男	54,018	49,108	90.9	61	0.12	27	0.05	14	13	34	0.07	28	6
	女	19,350	17,815	92.1	25	0.14	14	0.08	10	4	11	0.06	5	6
58年度	男	44,365	25,375	57.2	34	0.13	17	0.07	5	12	17	0.07	12	5
	女	15,018	9,103	60.6	13	0.14	7	0.08	3	4	6	0.07	4	2
57年度	男	46,777	24,306	52.0	36	0.15	15	0.06	6	9	21	0.09	16	5
	女	15,481	9,487	61.3	13	0.14	4	0.04	3	1	9	0.09	4	5
56年度	男	51,312	41,791	81.4	78	0.19	41	0.10	11	30	37	0.09	24	13
	女	16,829	14,535	86.4	30	0.21	14	0.10	3	11	16	0.11	7	9
55年度以前	男	16,816	9,490	56.4	21	0.22	10	0.11	6	4	11	0.12	6	5
	女	1,078	496	46.0	3	0.60	2	0.40	-	2	1	0.20	-	1

6年制学部　〔29校集計〕

入学年度		対象者数	間接撮影受検者数	受検率	総数		肺結核				結核以外の疾病異常			
							総数		新たに発見	既知	総数		新たに発見	既知
					実数	%	実数	%	実数	実数	実数	%	実数	実数
総数		23,261	14,083	60.5	17	0.12	11	0.08	4	7	6	0.04	4	2
男		20,312	12,318	60.6	14	0.11	9	0.07	3	6	5	0.04	4	1
女		2,949	1,765	59.9	3	0.17	2	0.11	1	1	1	0.06	-	1
昭和59年度	男	3,224	2,868	89.0	4	0.14	3	0.10	2	1	1	0.03	1	-
	女	614	565	92.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
58年度	男	2,829	1,315	46.5	1	0.08	1	0.08	1	-	-	-	-	-
	女	508	231	45.5	1	0.43	1	0.43	1	-	-	-	-	-
57年度	男	3,422	1,881	55.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	532	283	53.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
56年度	男	3,377	1,897	56.2	3	0.16	1	0.05	-	1	2	0.11	1	1
	女	518	263	50.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
55年度	男	3,355	1,745	52.0	3	0.17	1	0.06	-	1	2	0.11	2	-
	女	386	160	41.5	1	0.63	1	0.63	-	1	-	-	-	-
54年度	男	3,393	2,317	68.3	3	0.13	3	0.13	-	3	-	-	-	-
	女	361	250	69.3	1	0.40	-	-	-	-	1	0.40	-	1
53年度以前	男	712	295	41.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	30	13	43.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) %は，すべて受検者に対する割合

表Ⅰ－4　胸部Ｘ線（間接）検査異常者の精密検査で判明した肺結核の状況　性・入学年度別

〔73校集計〕

入学年度		発見の状況				動性			事後措置		
		総数	新たに発見	既知	不明	非活動性	活動性	総数	要治療	要観察	放置可
総数		162 (100.0)	65 (40.1)	97 (59.9)	10 (6.2)	117 (72.2)	35 (21.6)	162 (100.0)	51 (31.5)	79 (48.8)	32 (19.8)
男		119 (100.0)	45 (37.8)	74 (62.2)	7 (5.9)	84 (70.6)	28 (23.5)	119 (100.0)	38 (31.9)	67 (56.3)	14 (11.8)
女		43 (100.0)	20 (46.5)	23 (53.5)	3 (7.0)	33 (76.7)	7 (16.3)	43 (100.0)	13 (30.2)	12 (27.9)	18 (41.9)
昭和59年度	男	30	16	14	2	20	8	30	10	16	4
	女	14	10	4	1	9	4	14	5	2	7
58年度	男	18	6	12	2	13	3	18	2	14	2
	女	8	4	4	1	7	-	8	3	2	3
57年度	男	15	6	9	1	10	4	15	6	9	-
	女	4	3	1	-	3	1	4	1	2	1
56年度	男	42	11	31	2	33	7	42	14	22	6
	女	14	3	11	1	11	2	14	4	6	4
55年度	男	10	5	5	-	5	5	10	5	4	1
	女	3	-	3	-	3	-	3	-	-	3
54年度	男	4	1	3	-	3	1	4	1	2	1
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 本集計は，4年制学部と6年制学部をあわせて集計したものである。（ ）は%

表Ⅰ－5　胸部X線（間接）検査異常者の精密検査で判明した結核以外の疾病異常と罹患者数　性・入学年度別

〔73校集計〕

	総数			入学年度											
				昭和59年度		58年度		57年度		56年度		55年度		54年度	
	総数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総数	62(2)	51(1)	11(1)	15(1)	3(1)	7	3	8	3	15	1	5	-	1	1
気管支拡張症	6	4	2	2	-	-	-	-	1	1	1	-	-	1	-
肺炎	5	4	1	3	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
肺真菌性疾患	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
腫瘍 肺腫瘍	5	4	1	1	1	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-
腫瘍 縦隔腫瘍	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
肺気腫	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
無気肺	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
肺嚢胞症	5(1)	4(1)	1	(1)*	1	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-
サルコイドーシス	7	4	3	-	-	1	2	-	-	-	2	-	-	-	1
胸膜炎	5	4	1	1	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-
自然気胸	14(1)	14	(1)	6	(1)**	1	-	2	-	4	-	1	-	-	-
横隔膜ヘルニヤ	2	1	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
肺野異常陰影	5	5	-	1	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-
詳細不明	4	4	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-

(注)（1）本集計は，4年制学部と6年制学部をあわせて集計した。
（2）本集計では，気管支喘息，胸膜肥厚・癒着，石灰陰影等，一部の大学しか記載していないと思われるものを除外した。
（3）循環器系疾患および骨格系の異常は本集計より除外した。(本文参照)
（4）＊印の（　）は，気管支拡張症に記載された1例が合併していた肺嚢胞症を示す。
＊＊印の（　）は，肺嚢胞症に記載された1例が合併したことのある自然気胸（既往）を示す。

表Ⅰ－6　血圧の平均値および標準偏差　性・年齢別

〔66校集計〕

男

	総数	18歳	19	20	21	22	23	24	25以上
対象者数	155,833	24,355	35,490	31,131	32,712	17,576	7,259	3,221	4,089
受検者数	106,854	21,690	25,149	17,377	22,919	12,021	4,167	1,630	1,901
最大血圧平均値	125.4	124.3	125.0	125.1	126.4	126.5	126.4	126.5	127.0
標準偏差	12.98	12.95	12.95	12.90	13.02	12.95	12.84	12.78	12.77
最小血圧平均値	70.5	69.4	69.9	70.4	70.8	71.4	72.6	72.8	75.6
標準偏差	11.60	11.68	11.60	11.43	11.50	11.67	11.32	11.25	11.15

女

	総数	18歳	19	20	21	22	23	24	25以上
対象者数	50,656	11,836	12,555	11,004	10,953	3,033	682	240	353
受検者数	38,800	10,940	8,905	7,055	8,831	2,408	389	123	149
最大血圧平均値	112.6	112.1	111.9	112.1	113.6	113.8	114.6	116.9	114.9
標準偏差	12.18	12.47	12.07	11.78	12.24	12.00	11.16	11.69	11.80
最小血圧平均値	67.8	67.3	67.3	67.7	68.4	69.0	68.9	70.4	70.4
標準偏差	9.77	9.96	9.67	9.47	9.82	9.63	10.03	9.61	9.69

(注) 本集計は，水銀・自動血圧計，両者併用の3者をあわせて集計したものである。

表Ⅰ－7－1　一次検診における最大血圧値の分布　性・年齢・測定機種別　男

〔66校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	89mmHg 以下		90 ～ 99		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180 以上	
					実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		155,833	106,854	68.6	105	0.1	1,648	1.5	9,689	9.1	24,631	23.1	33,016	30.9	26,219	24.5	8,056	7.5	2,461	2.3	779	0.7	196	0.2	54	0.1
水銀		42,634	30,355	71.2	29	0.1	516	1.7	3,392	11.2	8,210	27.0	9,469	31.2	5,668	18.7	2,060	6.8	667	2.2	260	0.9	60	0.2	24	0.1
自動		53,081	36,923	69.6	38	0.1	526	1.4	3,024	8.2	7,906	21.4	11,721	31.7	10,345	28.0	2,482	6.7	675	1.8	157	0.4	42	0.1	7	0.0
両者併用		60,118	39,576	65.8	38	0.1	606	1.5	3,273	8.3	8,515	21.5	11,826	29.9	10,206	25.8	3,514	8.9	1,119	2.8	362	0.9	94	0.2	23	0.1
歳 18	総数	24,355	21,690	89.1	28	0.1	413	1.9	2,244	10.3	5,507	25.4	6,536	30.1	4,897	22.6	1,451	6.7	445	2.1	134	0.6	27	0.1	8	0.0
	水銀	7,078	6,191	87.5	3	0.0	126	2.0	817	13.2	1,801	29.1	1,847	29.8	1,023	16.5	359	5.8	141	2.3	60	1.0	8	0.1	6	0.1
	自動	9,243	8,325	90.1	13	0.2	149	1.8	750	9.0	1,971	23.7	2,569	30.9	2,165	26.0	535	6.4	138	1.7	27	0.3	7	0.1	1	0.0
	両者併用	8,034	7,174	89.3	12	0.2	138	1.9	677	9.4	1,735	24.2	2,120	29.6	1,709	23.8	557	7.8	166	2.3	47	0.7	12	0.2	1	0.0
19	総数	35,490	25,149	70.9	27	0.1	416	1.7	2,493	9.9	5,884	23.4	7,764	30.9	6,017	23.9	1,801	7.2	526	2.1	172	0.7	37	0.1	12	0.1
	水銀	10,305	7,384	71.7	6	0.1	126	1.7	923	12.5	2,087	28.3	2,297	31.1	1,294	17.5	449	6.1	137	1.9	50	0.7	11	0.1	4	0.1
	自動	12,378	9,144	73.9	12	0.1	139	1.5	800	8.7	1,887	20.6	2,918	31.9	2,535	27.7	633	6.9	165	1.8	46	0.5	9	0.1	-	-
	両者併用	12,807	8,621	67.3	9	0.1	151	1.8	770	8.9	1,910	22.2	2,549	29.6	2,188	25.4	719	8.3	224	2.6	76	0.9	17	0.2	8	0.1
20	総数	31,131	17,377	55.8	20	0.1	268	1.5	1,656	9.5	4,085	23.5	5,379	31.0	4,230	24.3	1,190	6.8	392	2.3	118	0.7	32	0.2	7	0.0
	水銀	8,704	5,200	59.7	7	0.1	88	1.7	621	11.9	1,454	28.0	1,625	31.3	953	18.3	289	5.6	107	2.1	41	0.8	11	0.2	4	0.1
	自動	10,710	5,970	55.7	7	0.1	85	1.4	511	8.6	1,324	22.2	1,920	32.2	1,634	27.4	369	6.2	93	1.6	21	0.4	5	0.1	1	0.0
	両者併用	11,717	6,207	53.0	6	0.1	95	1.5	524	8.4	1,307	21.1	1,834	29.5	1,643	26.5	532	8.6	192	3.1	56	0.9	16	0.3	2	0.0
21	総数	32,712	22,919	70.1	17	0.1	311	1.4	1,779	7.8	4,936	21.5	7,170	31.3	5,992	26.1	1,849	8.1	586	2.6	202	0.9	58	0.3	19	0.1
	水銀	8,839	6,349	71.8	7	0.1	102	1.6	574	9.0	1,599	25.2	2,012	31.7	1,314	20.7	500	7.9	162	2.6	57	0.9	15	0.2	7	0.1
	自動	10,676	7,303	68.4	3	0.0	93	1.3	524	7.2	1,460	20.0	2,361	32.3	2,169	29.7	505	6.9	133	1.8	40	0.5	12	0.2	3	0.0
	両者併用	13,197	9,267	70.2	7	0.1	116	1.3	681	7.3	1,877	20.3	2,797	30.2	2,509	27.1	844	9.1	291	3.1	105	1.1	31	0.3	9	0.1
22	総数	17,576	12,021	68.4	10	0.1	157	1.3	952	7.9	2,546	21.2	3,731	31.0	3,116	25.9	1,080	9.0	311	2.6	89	0.7	24	0.2	5	0.0
	水銀	4,477	3,132	70.0	4	0.1	51	1.6	284	9.1	782	25.0	1,022	32.7	624	19.9	260	8.3	62	2.0	31	1.0	9	0.3	3	0.1
	自動	5,822	3,956	67.9	2	0.1	36	0.9	282	7.1	795	20.1	1,210	30.6	1,207	30.5	308	7.8	95	2.4	15	0.4	6	0.2	-	-
	両者併用	7,277	4,933	67.8	4	0.1	70	1.4	386	7.8	969	19.6	1,499	30.4	1,285	26.0	512	10.4	154	3.1	43	0.9	9	0.2	2	0.0
23	総数	7,259	4,167	57.4	2	0.1	42	1.0	325	7.8	903	21.7	1,344	32.3	1,029	24.7	359	8.6	121	2.9	32	0.8	8	0.2	2	0.1
	水銀	1,660	1,124	67.7	1	0.1	10	0.9	98	8.7	260	23.1	375	33.4	231	20.6	109	9.7	27	2.4	10	0.9	3	0.3	-	-
	自動	2,230	1,262	56.6	1	0.1	14	1.1	91	7.2	260	20.6	425	33.7	357	28.3	75	5.9	33	2.6	4	0.3	1	0.1	1	0.1
	両者併用	3,369	1,781	52.9	-	-	18	1.0	136	7.6	383	21.5	544	30.5	441	24.8	175	9.8	61	3.4	18	1.0	4	0.2	1	0.1
24	総数	3,221	1,630	50.6	1	0.1	17	1.0	131	8.0	348	21.4	491	30.2	442	27.1	149	9.1	35	2.1	12	0.7	3	0.2	1	0.1
	水銀	750	439	58.5	1	0.2	3	0.7	44	10.0	94	21.4	124	28.2	116	26.4	37	8.4	15	3.4	4	0.9	1	0.2	-	-
	自動	883	441	49.9	-	-	3	0.7	37	8.4	90	20.4	145	32.9	126	28.6	31	7.0	6	1.4	1	0.2	1	0.2	1	0.2
	両者併用	1,588	750	47.2	-	-	11	1.5	50	6.7	164	21.9	222	29.6	200	26.7	81	10.8	14	1.9	7	0.9	1	0.1	-	-
25 以上	総数	4,089	1,901	46.5	-	-	24	1.3	109	5.7	422	22.2	601	31.6	496	26.1	177	9.3	45	2.4	20	1.1	7	0.4	-	-
	水銀	821	536	65.3	-	-	10	1.9	31	5.8	133	24.8	167	31.2	113	21.1	57	10.6	16	3.0	7	1.3	2	0.4	-	-
	自動	1,139	522	45.8	-	-	7	1.3	29	5.6	119	22.8	173	33.1	152	29.1	26	5.0	12	2.3	3	0.6	1	0.2	-	-
	両者併用	2,129	843	39.6	-	-	7	0.8	49	5.8	170	20.2	261	31.0	231	27.4	94	11.2	17	2.0	10	1.2	4	0.5	-	-

(注) 水銀：水銀血圧計使用大学 (21校), 自動：自動血圧計使用大学 (24校), 両者併用大学 (21校)

表Ⅰ－7－2　一次検診における最大血圧値の分布　性・年齢・測定機種別　女

〔66校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	89mmHg 以下		90 ～ 99		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180 以上	
					実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		50,656	38,800	76.6	617	1.6	4,916	12.7	11,496	29.6	11,804	30.4	6,908	17.8	2,521	6.5	417	1.1	97	0.3	20	0.1	3	0.0	1	0.0
水銀		17,691	13,603	76.9	161	1.2	2,029	14.9	4,545	33.4	4,134	30.4	1,945	14.3	602	4.4	141	1.0	33	0.2	11	0.1	1	0.0	1	0.0
自動		15,506	11,810	76.2	262	2.2	1,401	11.9	3,309	28.0	3,573	30.3	2,295	19.4	832	7.0	115	1.0	19	0.2	4	0.0	-	-	-	-
両者併用		17,459	13,387	76.7	194	1.4	1,486	11.1	3,642	27.2	4,097	30.6	2,668	19.9	1,087	8.1	161	1.2	45	0.3	5	0.0	2	0.0	-	-
歳 18	総数	11,836	10,940	92.4	228	2.1	1,494	13.6	3,231	29.5	3,277	30.0	1,853	16.9	696	6.4	118	1.1	32	0.3	7	0.1	3	0.0	1	0.0
	水銀	4,006	3,644	91.0	63	1.7	631	17.3	1,214	33.3	1,042	28.6	456	12.5	165	4.5	59	1.6	9	0.2	3	0.1	1	0.0	1	0.0
	自動	4,106	3,748	91.3	104	2.8	448	12.0	1,041	27.8	1,155	30.8	709	18.9	252	6.7	31	0.8	6	0.2	2	0.1	-	-	-	-
	両者併用	3,724	3,548	95.3	61	1.7	415	11.7	976	27.5	1,080	30.4	688	19.4	279	7.9	28	0.8	17	0.5	2	0.1	2	0.1	-	-
19	総数	12,555	8,905	70.9	161	1.8	1,215	13.6	2,699	30.3	2,726	30.6	1,475	16.6	515	5.8	94	1.1	14	0.2	6	0.1	-	-	-	-
	水銀	4,642	3,340	72.0	37	1.1	521	15.6	1,168	35.0	1,037	31.0	427	12.8	119	3.6	22	0.7	4	0.1	5	0.1	-	-	-	-
	自動	3,644	2,578	70.7	62	2.4	347	13.5	707	27.4	781	30.3	466	18.1	181	7.0	29	1.1	5	0.2	-	-	-	-	-	-
	両者併用	4,269	2,987	70.0	62	2.1	347	11.6	824	27.6	908	30.4	582	19.5	215	7.2	43	1.4	5	0.2	1	0.0	-	-	-	-
20	総数	11,004	7,055	64.1	90	1.3	930	13.2	2,201	31.2	2,121	30.1	1,230	17.4	412	5.8	60	0.9	7	0.1	4	0.1	-	-	-	-
	水銀	4,023	2,494	62.0	25	1.0	388	15.6	874	35.0	743	29.8	350	14.0	99	4.0	12	0.5	3	0.1	-	-	-	-	-	-
	自動	3,248	2,053	63.2	36	1.8	259	12.6	590	28.7	620	30.2	401	19.5	130	6.3	15	0.7	-	-	2	0.1	-	-	-	-
	両者併用	3,733	2,508	67.2	29	1.2	283	11.3	737	29.4	758	30.2	479	19.1	183	7.3	33	1.3	4	0.2	2	0.1	-	-	-	-
21	総数	10,953	8,831	80.6	108	1.2	977	11.1	2,520	28.5	2,692	30.5	1,722	19.5	666	7.5	110	1.2	33	0.4	3	0.0	-	-	-	-
	水銀	3,747	3,107	82.9	26	0.8	378	12.2	992	31.9	971	31.3	524	16.9	163	5.2	39	1.3	11	0.4	3	0.1	-	-	-	-
	自動	3,229	2,502	77.5	47	1.9	246	9.8	732	29.3	725	29.0	516	20.6	202	8.1	29	1.2	5	0.2	-	-	-	-	-	-
	両者併用	3,977	3,222	81.0	35	1.1	353	11.0	796	24.7	996	30.9	682	21.2	301	9.3	42	1.3	17	0.5	-	-	-	-	-	-
22	総数	3,033	2,408	79.4	27	1.1	250	10.4	671	27.9	768	31.9	478	19.9	176	7.3	29	1.2	9	0.4	-	-	-	-	-	-
	水銀	981	841	85.7	9	1.1	102	12.1	242	28.8	279	33.2	153	18.2	44	5.2	8	1.0	4	0.5	-	-	-	-	-	-
	自動	974	750	77.0	11	1.5	76	10.1	196	26.1	237	31.6	161	21.5	57	7.6	9	1.2	3	0.4	-	-	-	-	-	-
	両者併用	1,078	817	75.8	7	0.9	72	8.8	233	28.5	252	30.8	164	20.1	75	9.2	12	1.5	2	0.2	-	-	-	-	-	-
23	総数	682	389	57.0	1	0.3	31	8.0	108	27.8	130	33.4	85	21.9	31	8.0	2	0.5	1	0.3	-	-	-	-	-	-
	水銀	171	107	62.6	-	-	8	7.5	33	30.8	36	33.6	21	19.6	7	6.5	1	0.9	1	0.9	-	-	-	-	-	-
	自動	179	117	65.4	1	0.9	16	13.7	33	28.2	38	32.5	23	19.7	5	4.3	1	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-
	両者併用	332	165	49.7	-	-	7	4.2	42	25.5	56	33.9	41	24.8	19	11.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	総数	240	123	51.3	-	-	8	6.5	24	19.5	49	39.8	25	20.3	14	11.4	2	1.6	1	0.8	-	-	-	-	-	-
	水銀	54	29	53.7	-	-	-	-	8	27.6	13	44.8	5	17.2	2	6.9	-	-	1	3.4	-	-	-	-	-	-
	自動	55	32	58.2	-	-	6	18.8	5	15.6	11	34.4	6	18.8	3	9.4	1	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	両者併用	131	62	47.3	-	-	2	3.2	11	17.7	25	40.3	14	22.6	9	14.5	1	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-
25 以上	総数	353	149	42.2	2	1.3	11	7.4	42	28.2	41	27.5	40	26.8	11	7.4	2	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	水銀	67	41	61.2	1	2.4	1	2.4	14	34.1	13	31.7	9	22.0	3	7.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	自動	71	30	42.3	1	3.3	3	10.0	5	16.7	6	20.0	13	43.3	2	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	両者併用	215	78	36.3	-	-	7	9.0	23	29.5	22	28.2	18	23.1	6	7.7	2	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 水銀：水銀血圧計使用大学 (21校), 自動：自動血圧計使用大学 (24校), 両者併用大学 (21校)

表Ⅰ－7－3　一次検診における最小血圧値の分布　性・年齢・測定機種別　男

〔66校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	39mmHg 以下		40 ～ 49		50 ～ 59		60 ～ 69		70 ～ 79		80 ～ 89		90 ～ 94		95 ～ 99		100 以上	
					実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		155,833	106,854	68.6	729	0.7	3,505	3.3	13,565	12.7	32,181	30.1	35,893	33.6	17,678	16.5	2,239	2.1	609	0.6	455	0.4
水銀		42,634	30,355	71.2	11	0.0	234	0.8	2,133	7.0	9,113	30.0	11,845	39.0	5,959	19.6	810	2.7	124	0.4	126	0.4
自動		53,081	36,923	69.6	423	1.1	1,985	5.4	6,549	17.7	11,502	31.2	10,629	28.8	4,925	13.3	558	1.5	226	0.6	126	0.3
両者併用		60,118	39,576	65.8	295	0.7	1,286	3.2	4,883	12.3	11,566	29.2	13,419	33.9	6,794	17.2	871	2.2	259	0.7	203	0.5
18歳	総数	24,355	21,690	89.1	183	0.8	916	4.2	3,067	14.1	6,828	31.5	7,012	32.3	3,134	14.4	400	1.8	86	0.4	64	0.3
	水銀	7,078	6,191	87.5	1	0.0	64	1.0	497	8.0	1,962	31.7	2,338	37.8	1,110	17.9	179	3.0	16	0.3	24	0.4
	自動	9,243	8,325	90.1	123	1.5	583	7.0	1,645	19.8	2,761	33.2	2,170	26.1	880	10.6	103	1.2	41	0.5	19	0.2
	両者併用	8,034	7,174	89.3	59	0.8	269	3.7	925	12.9	2,105	29.3	2,504	34.9	1,144	15.9	118	1.6	29	0.4	21	0.3
19	総数	35,490	25,149	70.9	178	0.7	929	3.7	3,398	13.5	7,808	31.0	8,187	32.6	3,967	15.8	475	1.9	122	0.5	85	0.4
	水銀	10,305	7,384	71.7	5	0.1	53	0.7	538	7.3	2,318	31.4	2,821	38.0	1,418	19.2	169	2.3	32	0.4	30	0.4
	自動	12,378	9,144	73.9	101	1.1	543	5.9	1,766	19.3	2,868	31.4	2,544	27.8	1,136	12.4	128	1.4	40	0.4	18	0.2
	両者併用	12,807	8,621	67.3	72	0.8	333	3.9	1,094	12.7	2,622	30.4	2,822	32.7	1,413	16.4	178	2.1	50	0.6	37	0.4
20	総数	31,131	17,377	55.8	120	0.7	516	3.0	2,281	13.1	5,256	30.2	5,941	34.2	2,822	16.2	297	1.7	77	0.4	67	0.3
	水銀	8,704	5,200	59.7	2	0.0	37	0.7	382	7.3	1,532	29.5	2,120	40.8	987	19.0	105	2.0	17	0.3	18	0.3
	自動	10,710	5,970	55.7	61	1.0	296	5.0	1,100	18.4	1,882	31.5	1,714	28.7	774	13.0	90	1.5	31	0.5	22	0.4
	両者併用	11,717	6,207	53.0	57	0.9	183	2.9	799	12.9	1,842	29.7	2,107	33.9	1,061	17.1	102	1.6	29	0.5	27	0.4
21	総数	32,712	22,919	70.1	148	0.6	680	3.0	2,753	12.0	6,852	29.9	7,825	34.1	3,923	17.1	482	2.1	162	0.7	94	0.4
	水銀	8,839	6,349	71.8	2	0.0	49	0.8	430	6.8	1,864	29.4	2,494	39.3	1,286	20.3	178	2.8	31	0.5	15	0.2
	自動	10,676	7,303	68.4	82	1.1	345	4.7	1,149	15.7	2,249	30.8	2,242	30.7	1,050	14.4	104	1.4	58	0.8	24	0.3
	両者併用	13,197	9,267	70.2	64	0.7	286	3.1	1,174	12.7	2,739	29.6	3,089	33.3	1,587	17.1	200	2.2	73	0.8	55	0.6
22	総数	17,576	12,021	68.4	74	0.6	319	2.7	1,400	11.6	3,489	29.0	4,079	33.9	2,175	18.1	320	2.7	94	0.8	71	0.6
	水銀	4,477	3,132	70.0	1	0.0	24	0.8	180	5.7	918	29.3	1,233	39.4	646	20.6	99	3.2	12	0.4	19	0.6
	自動	5,822	3,956	67.9	41	1.0	147	3.7	614	15.5	1,145	28.9	1,222	30.9	650	16.4	85	2.1	30	0.8	22	0.6
	両者併用	7,277	4,933	67.8	32	0.6	148	3.0	606	12.3	1,426	28.9	1,624	32.9	879	17.8	136	2.8	52	1.1	30	0.6
23	総数	7,259	4,167	57.4	17	0.4	93	2.2	392	9.4	1,123	26.9	1,529	36.7	823	19.8	124	3.0	32	0.8	34	0.8
	水銀	1,660	1,124	67.7	-	-	4	0.4	62	5.5	284	25.3	473	42.1	240	21.4	40	3.6	10	0.9	11	1.0
	自動	2,230	1,262	56.6	11	0.9	44	3.5	159	12.6	355	28.1	412	32.6	239	18.9	22	1.7	12	1.0	8	0.6
	両者併用	3,369	1,781	52.9	6	0.3	45	2.5	171	9.6	484	27.2	644	36.2	344	19.3	62	3.5	10	0.6	15	0.8
24	総数	3,221	1,630	50.6	4	0.2	33	2.0	161	9.9	424	26.0	594	36.4	343	21.0	46	2.8	15	0.9	10	0.6
	水銀	750	439	58.5	-	-	2	0.5	29	6.6	115	26.2	166	37.8	113	25.7	12	2.7	1	0.2	1	0.2
	自動	883	441	49.9	3	0.7	16	3.6	65	14.7	115	26.1	140	31.7	79	17.9	12	2.7	6	1.4	5	1.1
	両者併用	1,588	750	47.2	1	0.1	15	2.0	67	8.9	194	25.9	288	38.4	151	20.1	22	2.9	8	1.1	4	0.5
25以上	総数	4,089	1,901	46.5	5	0.3	19	1.0	113	5.9	401	21.1	726	38.2	491	25.8	95	5.0	21	1.1	30	1.6
	水銀	821	536	65.3	-	-	1	0.1	15	2.8	120	22.4	200	37.3	159	29.7	28	5.2	5	0.9	8	1.5
	自動	1,139	522	45.8	1	0.2	11	2.1	51	9.8	127	24.3	185	35.4	117	22.4	14	2.7	8	1.5	8	1.5
	両者併用	2,129	843	39.6	4	0.5	7	0.8	47	5.6	154	18.3	341	40.5	215	25.5	53	6.3	8	0.9	14	1.7

(注) 水銀：水銀血圧計使用大学 (21校), 自動：自動血圧計使用大学 (24校), 両者併用大学 (21校)

表Ⅰ－7－4　一次検診における最小血圧値の分布　性・年齢・測定機種別　女

〔66校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	39mmHg 以下		40 ～ 49		50 ～ 59		60 ～ 69		70 ～ 79		80 ～ 89		90 ～ 94		95 ～ 99		100 以上	
					実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		50,656	38,800	76.6	70	0.2	886	2.3	6,815	17.6	15,698	40.5	11,509	29.7	3,455	8.9	276	0.7	60	0.2	31	0.1
水銀		17,691	13,603	76.9	5	0.0	247	1.8	2,606	19.2	5,820	42.8	3,824	28.1	997	7.3	83	0.6	10	0.1	11	0.1
自動		15,506	11,810	76.2	33	0.3	318	2.7	2,101	17.8	4,637	39.3	3,492	29.6	1,115	9.4	80	0.7	27	0.2	7	0.1
両者併用		17,459	13,387	76.7	32	0.2	321	2.4	2,108	15.7	5,241	39.1	4,193	31.3	1,343	10.0	113	0.8	23	0.2	13	0.0
18歳	総数	11,836	10,940	92.4	24	0.2	290	2.7	2,103	19.2	4,391	40.1	3,072	28.1	962	8.8	76	0.7	13	0.1	9	0.1
	水銀	4,006	3,644	91.0	1	0.0	87	2.4	805	22.1	1,506	41.3	938	25.7	280	7.7	23	0.6	1	0.0	3	0.1
	自動	4,106	3,748	91.3	15	0.4	124	3.3	773	20.6	1,455	38.8	1,027	27.4	321	8.6	23	0.6	8	0.2	2	0.1
	両者併用	3,724	3,548	95.3	8	0.2	79	2.2	525	14.8	1,430	40.3	1,107	31.2	361	10.2	30	0.8	4	0.1	4	0.1
19	総数	12,555	8,905	70.9	22	0.2	222	2.5	1,648	18.5	3,684	41.4	2,569	28.8	685	7.7	64	0.7	6	0.1	5	0.1
	水銀	4,642	3,340	72.0	1	0.0	68	2.0	664	19.9	1,457	43.6	927	27.8	200	6.0	21	0.6	1	0.0	1	0.0
	自動	3,644	2,578	70.7	9	0.3	75	2.9	469	18.2	1,050	40.7	732	28.4	220	8.5	20	0.8	2	0.1	1	0.0
	両者併用	4,269	2,987	70.0	12	0.4	79	2.6	515	17.2	1,177	39.4	910	30.5	265	8.9	23	0.8	3	0.1	3	0.1
20	総数	11,004	7,055	64.1	6	0.1	134	1.9	1,266	17.9	2,891	41.0	2,108	29.9	600	8.5	33	0.5	15	0.2	2	0.0
	水銀	4,023	2,494	62.0	1	0.0	30	1.2	488	19.6	1,104	44.3	689	27.6	175	7.0	6	0.2	-	-	1	0.0
	自動	3,248	2,053	63.2	3	0.1	42	2.0	366	17.8	808	39.4	643	31.3	177	8.6	8	0.4	6	0.3	-	-
	両者併用	3,733	2,508	67.2	2	0.1	62	2.5	412	16.4	979	39.0	776	30.9	248	9.9	19	0.8	9	0.4	1	0.0
21	総数	10,953	8,831	80.6	14	0.2	193	2.2	1,375	15.6	3,496	39.6	2,773	31.4	877	9.9	74	0.8	20	0.2	9	0.1
	水銀	3,747	3,107	82.9	1	0.0	52	1.7	502	16.2	1,335	43.0	943	30.4	245	7.9	21	0.7	4	0.1	4	0.1
	自動	3,229	2,502	77.5	5	0.2	58	2.3	365	14.6	940	37.6	817	32.7	282	11.3	22	0.9	10	0.4	3	0.1
	両者併用	3,977	3,222	81.0	8	0.2	83	2.6	508	15.8	1,221	37.9	1,013	31.4	350	10.9	31	1.0	6	0.2	2	0.1
22	総数	3,033	2,408	79.4	3	0.1	42	1.7	327	13.6	978	40.6	774	32.1	256	10.6	20	0.8	4	0.2	4	0.2
	水銀	981	841	85.7	1	0.1	10	1.2	121	14.4	352	41.9	269	32.0	77	9.2	7	0.8	2	0.2	2	0.2
	自動	974	750	77.0	-	-	15	2.0	92	12.3	310	41.3	227	30.3	97	12.9	7	0.9	1	0.1	1	0.1
	両者併用	1,078	817	75.8	2	0.2	17	2.1	114	14.0	316	38.7	278	34.0	82	10.0	6	0.7	1	0.1	1	0.1
23	総数	682	389	57.0	1	0.3	3	0.8	62	15.9	158	40.6	121	31.1	35	9.0	5	1.3	2	0.5	2	0.5
	水銀	171	107	62.6	-	-	-	-	15	14.0	40	37.4	31	29.0	15	14.0	4	3.7	2	1.9	-	-
	自動	179	117	65.4	1	0.9	3	2.6	26	22.2	54	46.2	27	23.1	6	5.1	-	-	-	-	-	-
	両者併用	332	165	49.7	-	-	-	-	21	12.7	64	38.8	63	38.2	14	8.5	1	0.6	-	-	2	1.2
24	総数	240	123	51.3	-	-	1	0.8	13	10.6	51	41.5	37	30.1	19	15.4	2	1.6	-	-	-	-
	水銀	54	29	53.7	-	-	-	-	5	17.2	14	48.3	7	24.1	2	6.9	1	3.4	-	-	-	-
	自動	55	32	58.2	-	-	1	3.1	4	12.5	10	31.3	13	40.6	4	12.5	-	-	-	-	-	-
	両者併用	131	62	47.3	-	-	-	-	4	6.5	27	43.5	17	27.4	13	21.0	1	1.6	-	-	-	-
25以上	総数	353	149	42.2	-	-	1	0.7	21	14.1	49	32.9	55	36.9	21	14.1	2	1.3	-	-	-	-
	水銀	67	41	61.2	-	-	-	-	6	14.6	12	29.3	20	48.8	3	7.3	-	-	-	-	-	-
	自動	71	30	42.3	-	-	-	-	6	20.0	10	33.3	6	20.0	8	26.7	-	-	-	-	-	-
	両者併用	215	78	36.3	-	-	1	1.3	9	11.5	27	34.6	29	37.2	10	12.8	2	2.6	-	-	-	-

(注) 水銀：水銀血圧計使用大学 (21校), 自動：自動血圧計使用大学 (24校), 両者併用大学 (21校)

表Ⅰ－8　一次検診における正常血圧・境界域高血圧・高血圧・低血圧者の頻度

性・年齢別　〔68校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	正常血圧		境界域高血圧		高　血　圧		低血圧域	
					実　数	%	実　数	%	実　数	%	実　数	%
総数		211,113	148,794	70.5	133,467	89.7	11,865	8.0	2,075	1.4	1,387	0.9
男		159,477	109,313	68.5	95,819	87.6	11,207	10.3	1,949	1.8	338	0.3
女		51,636	39,481	76.5	37,648	95.3	658	1.7	126	0.3	1,049	2.7
歳 18	男	24,947	22,215	89.0	19,774	89.0	2,052	9.2	306	1.4	83	0.4
	女	12,040	11,128	92.4	10,511	94.5	187	1.7	35	0.3	395	3.5
19	男	36,305	25,737	70.9	22,764	88.4	2,499	9.7	383	1.5	91	0.4
	女	12,808	9,023	70.4	8,607	95.4	142	1.6	20	0.2	254	2.8
20	男	31,963	17,831	55.8	15,838	88.8	1,655	9.3	284	1.6	54	0.3
	女	11,254	7,196	63.9	6,941	96.5	87	1.2	22	0.3	146	2.0
21	男	33,526	23,462	70.0	20,302	86.5	2,606	11.1	492	2.1	62	0.3
	女	11,162	9,010	80.7	8,602	95.5	175	1.9	38	0.4	195	2.2
22	男	17,972	12,263	68.2	10,517	85.8	1,436	11.7	276	2.2	34	0.3
	女	3,086	2,455	79.6	2,346	95.6	48	2.0	9	0.4	52	2.2
23	男	7,402	4,242	57.3	3,618	85.3	513	12.1	101	2.4	10	0.2
	女	688	395	57.4	380	96.2	10	2.5	2	0.5	3	0.8
24	男	3,258	1,652	50.7	1,417	85.8	193	11.7	40	2.4	2	0.1
	女	244	125	51.2	119	95.2	5	4.0	-	-	1	0.8
25 以上	男	4,104	1,911	46.6	1,589	83.2	253	13.2	67	3.5	2	0.1
	女	354	149	42.1	142	95.3	4	2.7	-	-	3	2.0

(注) 本集計は，水銀・自動血圧計，両者併用の3者を合わせて集計したものである。

表Ⅰ－9　測定機種別にみた正常血圧・境界域高血圧・高血圧・低血圧者の頻度　性別

〔68校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	正常血圧		境界域高血圧		高　血　圧		低血圧域	
					実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総　数		211,113	148,794	70.5	133,467	89.7	11,865	8.0	2,075	1.4	1,387	0.9
男		159,477	109,313	68.5	95,819	87.6	11,207	10.3	1,949	1.8	338	0.3
女		51,636	39,481	76.5	37,648	95.3	658	1.7	126	0.3	1,049	2.7
水銀血圧計 (22校)	男	42,889	30,609	71.4	27,068	88.5	2,981	9.7	503	1.6	57	0.2
	女	17,719	13,631	76.9	13,189	96.7	214	1.6	27	0.2	201	1.5
自動血圧計 (25校)	男	56,470	39,128	69.3	34,953	89.3	3,455	8.8	608	1.6	112	0.3
	女	16,458	12,463	75.7	11,824	94.9	189	1.5	58	0.5	392	3.1
両者併用 (21校)	男	60,118	39,576	65.8	33,798	85.4	4,771	12.1	838	2.1	169	0.4
	女	17,459	13,387	76.7	12,635	94.4	255	1.9	41	0.3	456	3.4

表Ⅰ－10－1　一次検診における正常血圧・境界域高血圧・高血圧・低血圧者の頻度　性別

〔二次検診実施大学49校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	正常血圧		境界域高血圧		高血圧		低血圧域	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男	93,925	67,983	72.4	60,191	88.6	6,551	9.6	1,088	1.6	153	0.2
女	27,717	22,755	82.1	21,909	96.3	299	1.3	58	0.3	489	2.1

表Ⅰ－10－2　一次検診における境界域高血圧および高血圧者の二次検診の結果　性別

〔49校集計〕

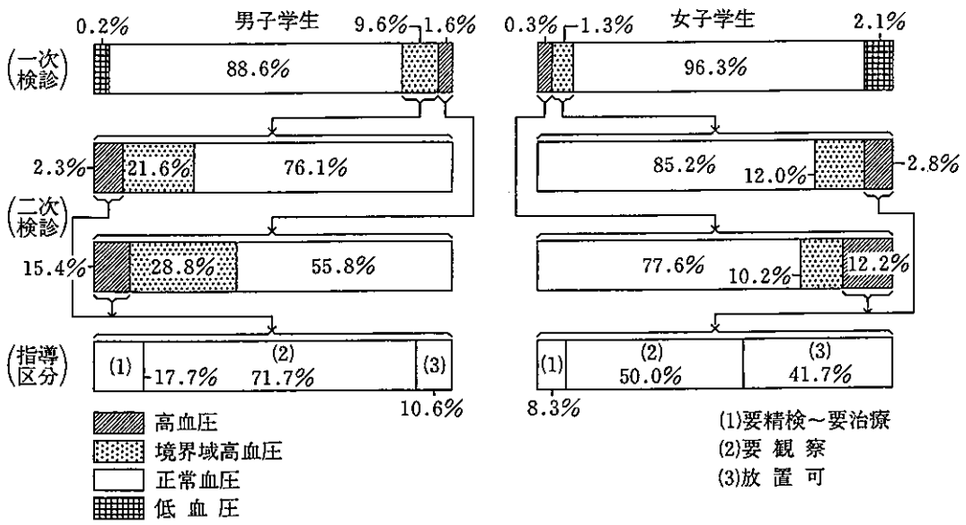
			二次検診対象者数	受検者数	受検率	二次検診					
						正常血圧		境界域高血圧		高血圧	
						実数	%	実数	%	実数	%
一次検診	境界域高血圧	男	6,551	4,246	64.8	3,231	76.1	919	21.6	96	2.3
		女	299	217	72.6	185	85.2	26	12.0	6	2.8
	高血圧	男	1,088	844	77.6	471	55.8	243	28.8	130	15.4
		女	58	49	84.5	38	77.6	5	10.2	6	12.2

表Ⅰ－10－3　二次検診における高血圧者の指導区分　性別

〔49校集計〕

	二次検診高血圧者数	要精検ないし要治療		要観察		放置可	
		実数	%	実数	%	実数	%
男	226	40	17.7	162	71.7	24	10.6
女	12	1	8.3	6	50.0	5	41.7

図Ⅰ－1　高血圧学生の頻度



表Ⅰ－11－1　一次検尿における尿たん白のみ陽性者の頻度　性・年齢別

〔56校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
					±	総数		+	++	+++以上
					実数	実数	%	実数	実数	実数
総数		214,222	150,931	70.5	12,474	6,260	4.1	5,114	927	219
男		162,708	111,521	68.5	8,919	4,274	3.8	3,510	612	152
女		51,514	39,410	76.5	3,555	1,986	5.0	1,604	315	67
18歳	男	23,101	21,061	91.2	1,778	1,069	5.1	833	183	53
	女	11,194	10,431	93.2	1,084	676	6.5	532	125	19
19	男	35,509	25,349	71.4	2,369	1,126	4.4	915	175	36
	女	12,716	9,152	72.0	850	486	5.3	390	80	16
20	男	34,361	19,188	55.8	1,389	695	3.6	588	87	20
	女	11,469	7,283	63.5	596	339	4.7	285	45	9
21	男	34,753	23,871	68.7	1,776	738	3.1	624	94	20
	女	11,414	9,210	80.7	785	372	4.0	308	49	15
22	男	18,745	13,113	70.0	976	393	3.0	334	44	15
	女	3,317	2,576	77.7	196	80	3.1	65	9	6
23	男	8,154	4,769	58.5	361	142	3.0	122	14	6
	女	744	456	61.3	24	23	5.0	17	6	-
24	男	3,450	1,888	54.7	139	60	3.2	51	8	1
	女	266	145	54.5	10	4	2.8	4	-	-
25以上	男	4,635	2,282	49.2	131	51	2.2	43	7	1
	女	394	157	39.8	10	6	3.8	3	1	2

(注) 本集計は，尿たん白および潜血の検査を実施し，かつ二次検尿の結果がある大学について，採尿条件（随時・早朝尿），試験紙の種類，尿分析器の使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－11－2　一次検尿における尿潜血のみ陽性者の頻度　性・年齢別

〔56校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
					±	総数		＋	++	+++以上
					実数	実数	%	実数	実数	実数
総数		214,222	150,931	70.5	2,390	2,342	1.6	1,450	549	343
男		162,708	111,521	68.5	1,709	1,425	1.3	862	352	211
女		51,514	39,410	76.5	681	917	2.3	588	197	132
18歳	男	23,101	21,061	91.2	350	290	1.4	156	86	48
	女	11,194	10,431	93.2	168	247	2.4	161	49	37
19	男	35,509	25,349	71.4	421	324	1.3	192	82	50
	女	12,716	9,152	72.0	156	194	2.1	120	47	27
20	男	34,361	19,188	55.8	219	190	1.0	108	54	28
	女	11,469	7,283	63.5	103	174	2.4	117	38	19
21	男	34,753	23,871	68.7	355	323	1.4	198	74	51
	女	11,414	9,210	80.7	168	223	2.4	145	45	33
22	男	18,745	13,113	70.0	208	186	1.4	131	36	19
	女	3,317	2,576	77.7	59	63	2.4	35	13	15
23	男	8,154	4,769	58.5	73	58	1.2	39	10	9
	女	744	456	61.3	16	7	1.5	6	1	-
24	男	3,450	1,888	54.7	32	15	0.8	10	4	1
	女	266	145	54.5	4	2	1.4	1	-	1
25以上	男	4,635	2,282	49.2	51	39	1.7	28	6	5
	女	394	157	39.8	7	7	4.5	3	4	-

(注) 本集計は，尿たん白および潜血の検査を実施し，かつ二次検尿の結果がある大学について，採尿条件（随時・早朝尿），試験紙の種類，尿分析器の使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－11－3　一次検尿における尿たん白・潜血両者陽性者の頻度　性・年齢別

〔56校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	陽性者					
					総数		たん白・潜血両者（＋）	たん白（＋）潜血(++)以上	たん白(++)以上潜血(＋)	たん白・潜血両者(++)以上
					実数	%	実数	実数	実数	実数
総数		214,222	150,931	70.5	467	0.3	191	139	46	91
男		162,708	111,521	68.5	309	0.3	110	97	36	66
女		51,514	39,410	76.5	158	0.4	81	42	10	25
18歳	男	23,101	21,061	91.2	58	0.3	17	21	8	12
	女	11,194	10,431	93.2	49	0.5	18	16	4	11
19	男	35,509	25,349	71.4	85	0.3	32	29	9	15
	女	12,716	9,152	72.0	40	0.4	26	7	3	4
20	男	34,361	19,188	55.8	46	0.2	18	14	3	11
	女	11,469	7,283	63.5	28	0.4	19	8	-	1
21	男	34,753	23,871	68.7	55	0.2	18	18	9	10
	女	11,414	9,210	80.7	29	0.3	14	6	3	6
22	男	18,745	13,113	70.0	44	0.3	16	11	6	11
	女	3,317	2,576	77.7	7	0.3	4	1	-	2
23	男	8,154	4,769	58.5	16	0.3	6	3	1	6
	女	744	456	61.3	1	0.2	-	1	-	-
24	男	3,450	1,888	54.7	2	0.1	1	-	-	1
	女	266	145	54.5	1	0.7	-	1	-	-
25以上	男	4,635	2,282	49.2	3	0.1	2	1	-	-
	女	394	157	39.8	3	1.9	-	2	-	1

(注) 本集計は，尿たん白および潜血の検査を実施し，かつ二次検尿の結果がある大学について，採尿条件（随時・早朝尿），試験紙の種類，尿分析器の使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－12　採尿条件（随時・早朝尿）別にみた尿たん白，潜血および両者陽性者の頻度　性別

〔尿たん白のみ陽性者の頻度〕　〔56校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
					±	総数		＋	＋＋	＋＋＋以上
					実数	実数	%	実数	実数	実数
随時尿（52校）	総数	204,161	144,012	70.5	12,149	6,147	4.3	5,003	925	219
	男	155,995	107,229	68.7	8,747	4,210	3.9	3,447	611	152
	女	48,166	36,783	76.4	3,402	1,937	5.3	1,556	314	67
早朝尿（4校）	総数	10,061	6,919	68.8	325	113	1.6	111	2	-
	男	6,713	4,292	63.9	172	64	1.5	63	1	-
	女	3,348	2,627	78.5	153	49	1.9	48	1	-

〔尿潜血のみ陽性者の頻度〕

随時尿（52校）	総数	204,161	144,012	70.5	2,377	2,209	1.5	1,324	546	339
	男	155,995	107,229	68.7	1,707	1,396	1.3	839	350	207
	女	48,166	36,783	76.4	670	813	2.2	485	196	132
早朝尿（4校）	総数	10,061	6,919	68.8	13	133	1.9	126	3	4
	男	6,713	4,292	63.9	2	29	0.7	23	2	4
	女	3,348	2,627	78.5	11	104	4.0	103	1	-

〔両者陽性者の頻度〕

		対象者数	受検者数	受検率	陽性者					
					総数		たん白・潜血両者（＋）	たん白（＋）潜血（＋＋）以上	たん白（＋＋）以上潜血（＋）	たん白・潜血両者（＋＋）以上
					実数	%	実数	実数	実数	実数
随時尿（52校）	総数	204,161	144,012	70.5	452	0.3	177	138	46	91
	男	155,995	107,229	68.7	301	0.3	103	96	36	66
	女	48,166	36,783	76.4	151	0.4	74	42	10	25
早朝尿（4校）	総数	10,061	6,919	68.8	15	0.2	14	1	-	-
	男	6,713	4,292	63.9	8	0.2	7	1	-	-
	女	3,348	2,627	78.5	7	0.3	7	-	-	-

（注）本集計は，試験紙の種類，尿分析器使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－13　試験紙の種類別にみた尿たん白および潜血陽性者の頻度　性別

〔尿たん白のみ陽性者の頻度〕　〔随時尿で検尿の大学50校の集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者		陽性者				
					±		総数		＋	＋＋	＋＋＋以上
					実数	%	実数	%	実数	実数	実数
ヘマコンビスティックス等（33校）	男	107,233	69,463	64.8	5,301	7.6	2,902	4.2	2,339	447	116
	女	34,517	25,382	73.5	2,082	8.2	1,197	4.7	933	207	57
ユリフレット（6校）	男	12,097	8,949	74.0	1,121	12.5	302	3.4	254	38	10
	女	3,629	2,728	75.2	375	13.7	142	5.2	119	23	-
ウロペーパー（6校）	男	18,021	15,136	84.0	1,322	8.7	281	1.9	235	40	6
	女	3,444	3,191	92.7	470	14.7	152	4.8	119	27	6
BMテスト（3校）	男	2,258	2,051	90.8	38	1.9	49	2.4	49	-	-
	女	1,075	1,035	96.3	15	1.4	33	3.2	33	-	-
ZD-401用テープ（1校）	男	2,018	1,840	91.2	3	0.2	50	2.7	18	19	13
	女	232	211	90.9	-	-	2	0.9	1	1	-
ラピグノスト（1校）	男	3,839	3,005	78.3	479	15.9	342	11.4	309	31	2
	女	1,720	1,495	86.9	192	12.8	211	14.1	183	26	2

〔尿潜血のみ陽性者の頻度〕

ヘマコンビスティックス等（33校）	男	107,233	69,463	64.8	1,365	2.0	978	1.4	613	253	112
	女	34,517	25,382	73.5	572	2.3	650	2.6	401	153	96
ユリフレット（6校）	男	12,097	8,949	74.0	262	2.9	165	1.8	92	41	32
	女	3,629	2,728	75.2	57	2.1	78	2.9	35	17	26
ウロペーパー（6校）	男	18,021	15,136	84.0	38	0.3	168	1.1	79	43	46
	女	3,444	3,191	92.7	13	0.4	33	1.0	13	11	9
BMテスト（3校）	男	2,258	2,051	90.8	11	0.5	21	1.0	18	2	1
	女	1,075	1,035	96.3	1	0.1	20	1.9	19	1	-
ZD-401用テープ（1校）	男	2,018	1,840	91.2	5	0.3	13	0.7	8	-	5
	女	232	211	90.9	1	0.5	3	1.4	-	3	-
ラピグノスト（1校）	男	3,839	3,005	78.3	16	0.5	11	0.4	8	3	-
	女	1,720	1,495	86.9	11	0.7	17	1.1	5	11	1

（注）本集計は，尿分析器使用の有無は考慮せずに集計したものである。（尿分析器使用大学：ヘマコンビスティックス等使用33校中３校，ユリフレット６校，ＺＤ－401用テープおよびラピグノスト各１校）

表Ⅰ－14　試験紙の判定法(肉眼・尿分析器比色)別にみた尿たん白および潜血陽性者の頻度　性別

〔尿たん白のみ陽性者の頻度〕〔随時尿・ヘマコンビスティックス等で検尿の大学33校の集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者 ± 実数	疑陽性者 ± %	陽性者 総数 実数	陽性者 総数 %	陽性者 ＋ 実数	陽性者 ＋＋ 実数	陽性者 ＋＋＋以上 実数
肉眼比色 (30校)	総数	130,868	85,882	65.6	6,084	7.1	3,854	4.5	3,060	625	169
	男	99,838	63,605	63.7	4,561	7.2	2,752	4.3	2,211	429	112
	女	31,030	22,277	71.8	1,523	6.8	1,102	4.9	849	196	57
尿分析器比色 (3校)	総数	10,882	8,963	82.4	1,299	14.5	245	2.7	212	29	4
	男	7,395	5,858	79.2	740	12.6	150	2.6	128	18	4
	女	3,487	3,105	89.0	559	18.0	95	3.1	84	11	-
〔尿潜血のみ陽性者の頻度〕											
肉眼比色 (30校)	総数	130,868	85,882	65.6	1,798	2.1	1,516	1.8	955	373	188
	男	99,838	63,605	63.7	1,289	2.0	929	1.5	585	239	105
	女	31,030	22,277	71.8	509	2.3	587	2.6	370	134	83
尿分析器比色 (3校)	総数	10,882	8,963	82.4	139	1.6	112	1.2	59	33	20
	男	7,395	5,858	79.2	76	1.3	49	0.8	28	14	7
	女	3,487	3,105	89.0	63	2.0	63	2.0	31	19	13

表Ⅰ－15－1　尿たん白のみ陽性者の二次検尿の結果　性・年齢別

〔50校集計〕

		二次検尿対象者数	受検者数	受検率	陰性者 － 実数	疑陽性者 ± 実数	陽性者 総数 実数	陽性者 総数 %	陽性者 ＋ 実数	陽性者 ＋＋ 実数	陽性者 ＋＋＋以上 実数
総数		5,861	4,834	82.5	3,716	660	458	9.5	334	85	39
男		4,066	3,320	81.7	2,555	450	315	9.5	234	51	30
女		1,795	1,514	84.3	1,161	210	143	9.4	100	34	9
18歳	男	1,010	841	83.3	662	99	80	9.5	51	14	15
	女	601	509	84.7	399	68	42	8.3	28	9	5
19	男	1,068	859	80.4	683	106	70	8.1	55	12	3
	女	436	365	83.7	281	54	30	8.2	23	7	-
20	男	656	525	80.0	394	85	46	8.8	39	7	-
	女	311	267	85.9	210	32	25	9.4	20	5	-
21	男	711	596	83.8	451	81	64	10.7	44	12	8
	女	341	290	85.0	213	43	34	11.7	23	10	1
22	男	379	330	87.1	249	48	33	10.0	27	5	1
	女	74	64	86.5	44	12	8	12.5	5	2	1
23	男	137	111	81.0	76	20	15	13.5	12	-	3
	女	22	13	59.1	9	1	3	23.1	1	1	1
24	男	56	35	62.5	25	7	3	8.6	2	1	-
	女	4	2	50.0	2	-	-	-	-	-	-
25以上	男	49	23	46.9	15	4	4	17.4	4	-	-
	女	6	4	66.7	3	-	1	25.0	-	-	1

(注) 本集計は，精密検査の結果がある大学について，採尿条件（早朝・随時尿），試験紙の種類，尿分析器の使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－15－2　尿潜血のみ陽性者の二次検尿の結果　性・年齢別

〔50校集計〕

		二次検尿対象者数	受検者数	受検率	陰性者	疑陽性者	陽性者				
					－	±	総数		＋	＋＋	＋＋＋以上
					実数	実数	実数	%	実数	実数	実数
総数		2,105	1,669	79.3	996	223	450	27.0	203	117	130
男		1,320	1,089	82.5	575	165	349	32.0	154	85	110
女		785	580	73.9	421	58	101	17.4	49	32	20
18歳	男	268	233	86.9	122	33	78	33.5	41	18	19
	女	209	155	74.2	107	18	30	19.4	15	8	7
19	男	292	234	80.1	121	29	84	35.9	37	22	25
	女	155	109	70.3	85	5	19	17.4	9	5	5
20	男	177	139	78.5	77	19	43	30.9	12	12	19
	女	155	115	74.2	84	11	20	17.4	9	8	3
21	男	295	253	85.8	131	46	76	30.0	33	15	28
	女	201	158	78.6	115	20	23	14.6	12	6	5
22	男	179	152	84.9	86	22	44	28.9	19	14	11
	女	50	34	68.0	26	3	5	14.7	2	3	－
23	男	56	40	71.4	17	8	15	37.5	7	3	5
	女	6	3	50.0	2	－	1	33.3	1	－	－
24	男	15	11	73.3	7	1	3	27.3	2	1	－
	女	2	2	100.0	1	－	1	50.0	－	1	－
25以上	男	38	27	71.1	14	7	6	22.2	3	－	3
	女	7	4	57.1	1	1	2	50.0	1	1	－

(注) 本集計は，精密検査の結果がある大学について，採尿条件（早朝・随時尿），試験紙の種類，尿分析器の使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－15－3　尿たん白・潜血両者陽性者の二次検尿の結果　性・年齢別

〔50校集計〕

		二次検尿対象者数	受検者数	受検率	陰性者	陽性者				
					たん白・潜血両者(－)～(±)	総数		たん白(－)～(±)潜血(＋)以上	たん白(＋)以上潜血(－)～(±)	たん白・潜血両者(＋)以上
					実数	実数	%	実数	実数	実数
総数		432	349	80.8	181	168	48.1	50	24	94
男		288	229	79.5	99	130	56.8	39	14	77
女		144	120	83.3	82	38	31.7	11	10	17
18歳	男	55	48	87.3	14	34	70.8	11	3	20
	女	43	38	88.4	21	17	44.7	6	2	9
19	男	81	62	76.5	32	30	48.4	9	3	18
	女	35	27	77.1	23	4	14.8	1	－	3
20	男	45	34	75.6	14	20	58.8	5	3	12
	女	27	24	88.9	20	4	16.7	－	2	2
21	男	48	41	85.4	18	23	56.1	7	4	12
	女	28	25	89.3	12	13	52.0	4	6	3
22	男	39	28	71.8	13	15	53.6	6	1	8
	女	7	4	57.1	4	－	－	－	－	－
23	男	15	11	73.3	4	7	63.6	1	－	6
	女	－	－	－	－	－	－	－	－	－
24	男	2	2	100.0	1	1	50.0	－	－	1
	女	1	－	－	－	－	－	－	－	－
25以上	男	3	3	100.0	3	－	－	－	－	－
	女	3	2	66.7	2	－	－	－	－	－

(注) 本集計は，精密検査の結果がある大学について，採尿条件（早朝・随時尿），試験紙の種類，尿分析器の使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－16　採尿条件(早朝・随時尿)別にみた尿たん白，潜血および両者陽性者の二次検尿の結果　性別

〔尿たん白のみ陽性者の二次検尿結果〕　〔二次検尿が早朝尿28校，随時尿22校の集計〕

二次検尿採尿条件		二次検尿対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
					±	総数		＋	＋＋	＋＋以上
					実数	実数	%	実数	実数	実数
早朝尿(28校)	総数	3,580	3,022	84.4	440	231	7.6	171	44	16
	男	2,385	1,986	83.3	292	149	7.5	112	23	14
	女	1,195	1,036	86.7	148	82	7.9	59	21	2
随時尿(22校)	総数	2,281	1,812	79.4	220	227	12.5	163	41	23
	男	1,681	1,334	79.4	158	166	12.4	122	28	16
	女	600	478	79.7	62	61	12.8	41	13	7

〔尿潜血のみ陽性者の二次検尿結果〕

二次検尿採尿条件		二次検尿対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
					±	総数		＋	＋＋	＋＋以上
					実数	実数	%	実数	実数	実数
早朝尿(28校)	総数	1,361	1,074	78.9	151	292	27.2	123	82	87
	男	836	680	81.3	106	225	33.1	93	59	73
	女	525	394	75.0	45	67	17.0	30	23	14
随時尿(22校)	総数	744	595	80.0	72	158	26.6	80	35	43
	男	484	409	84.5	59	124	30.3	61	26	37
	女	260	186	71.5	13	34	18.3	19	9	6

〔両者陽性者の二次検尿結果〕

二次検尿採尿条件		二次検尿対象者数	受検者数	受検率	陰性者	陽性者				
					たん白・潜血両者(−)〜(±)	総数		たん白(−)〜(±)潜血(＋)以上	たん白(＋)以上潜血(−)〜(±)	たん白・潜血両者(＋)以上
					実数	実数	%	実数	実数	実数
早朝尿(28校)	総数	290	239	82.4	125	114	47.7	32	16	66
	男	185	152	82.2	70	82	53.9	24	9	49
	女	105	87	82.9	55	32	36.8	8	7	17
随時尿(22校)	総数	142	110	77.5	56	54	49.1	18	8	28
	男	103	77	74.8	29	48	62.3	15	5	28
	女	39	33	84.6	27	6	18.2	3	3	-

(注) 本集計は，試験紙の種類，尿分析器使用の有無は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－17－1　尿たん白のみ陽性者の精密検査の結果　性・年齢別

〔50校集計〕

	精対象者検数	精受検者検数	受検率	異常者総数		急性腎炎		慢性腎炎		ネフローゼ症候群		腎不全		その他の腎炎(腎症)		腎炎の疑い		体位性たん白尿		遊走腎		尿路感染症		その他		詳細不明		経過観察		異常なし	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	1,228	1,047	85.3	320	30.6	2	0.2	67	6.4	8	0.8	-	-	7	0.7	31	3.0	68	6.5	7	0.7	8	0.8	29	2.8	61	5.8	32	3.1	727	69.4
男	857	734	85.6	223	30.4	1	0.1	48	6.5	7	1.0	-	-	5	0.7	24	3.3	44	6.0	3	0.4	-	-	20	2.7	51	6.9	20	2.7	511	69.6
女	371	313	84.4	97	31.0	1	0.3	19	6.1	1	0.3	-	-	2	0.6	7	2.2	24	7.7	4	1.3	8	2.6	9	2.9	10	3.2	12	3.8	216	69.0
18歳 男	197	170	86.3	65	33.2	1	0.6	10	5.9	1	0.6	-	-	1	0.6	5	2.9	17	10.0	-	-	-	-	5	2.9	21	12.4	4	2.4	105	61.8
18歳 女	129	104	80.6	23	22.1	-	-	2	1.9	-	1.0	-	-	-	-	3	2.9	9	8.7	2	1.9	-	-	3	2.9	3	2.9	2	1.9	81	77.9
19歳 男	204	166	81.4	51	30.7	-	-	8	4.8	-	-	-	-	2	1.2	1	0.6	13	7.8	1	0.6	-	-	2	1.2	21	12.7	3	1.8	115	69.3
19歳 女	83	73	88.0	19	26.0	-	-	3	4.1	-	-	-	-	-	-	1	1.4	3	4.1	-	-	1	1.4	3	4.1	4	5.5	4	5.5	54	74.0
20歳 男	134	115	85.8	38	33.0	-	-	9	7.8	2	1.7	-	-	1	0.9	6	5.2	7	6.1	-	-	-	-	7	6.1	4	3.5	2	1.7	77	67.0
20歳 女	56	48	85.7	25	52.1	-	-	9	18.8	-	-	-	-	1	2.1	1	2.1	4	8.3	1	2.1	5	10.4	1	2.1	1	2.1	2	4.2	23	47.9
21歳 男	152	138	90.8	38	27.5	-	-	16	11.6	2	1.4	-	-	-	-	7	5.1	3	2.2	2	1.4	-	-	3	2.2	1	0.7	4	2.9	100	72.5
21歳 女	67	60	89.6	24	40.0	1	1.7	5	8.3	-	-	-	-	1	1.7	2	3.3	6	10.0	1	1.7	2	3.3	2	3.3	2	3.3	2	3.3	36	60.0
22歳 男	86	80	93.0	17	21.3	-	-	3	3.8	-	-	-	-	1	1.3	4	5.0	1	1.3	-	-	-	-	3	3.8	2	2.5	3	3.8	63	78.7
22歳 女	22	17	77.3	3	17.6	-	-	1	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5.9	14	82.4
23歳 男	41	33	80.5	10	30.3	-	-	2	6.1	1	3.0	-	-	-	-	1	3.0	2	6.1	-	-	-	-	-	-	2	6.1	2	6.1	23	69.7
23歳 女	9	6	66.7	2	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	16.7	4	66.7
24歳 男	21	16	76.2	2	12.5	-	-	-	-	1	6.3	-	-	-	-	-	-	1	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	87.5
24歳 女	2	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	100.0
25以上 男	22	16	72.7	2	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	12.5	14	87.5
25以上 女	3	3	100.0	1	33.3	-	-	1	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	66.7

(注) 二次検尿の陽性者と精密検査の対象者の数が一致している大学が15校、不一致の大学が23校，全部または一部の項目について，一次検尿の陽性者を精密検査の対象者とした大学が12校である。従って二次検尿の陽性者に比し、精密検査の対象者数が多い。

表Ⅰ－17－2　尿潜血のみ陽性者の精密検査の結果　性・年齢別

〔50校集計〕

		精対象者検数	精受検者検数	受検率	異常者総数		慢性腎炎		腎炎の疑い		特発性腎出血		尿路感染症		尿路結石		腎・尿路腫瘍		遊走腎		その他		詳細不明		経過観察		異常なし	
					実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		713	552	77.4	345	62.5	70	12.7	42	7.6	53	9.6	9	1.6	13	2.4	-	-	16	2.9	45	8.2	69	12.5	28	5.1	207	37.5
男		492	406	82.5	271	66.7	56	13.8	38	9.4	46	11.3	3	0.7	9	2.2	-	-	12	3.0	35	8.6	55	13.5	17	4.2	135	33.3
女		221	146	66.1	74	50.7	14	9.6	4	2.7	7	4.8	6	4.1	4	2.7	-	-	4	2.7	10	6.8	14	9.6	11	7.5	72	49.3
18歳	男	102	86	84.3	61	70.9	12	14.0	8	9.3	8	9.3	-	-	1	1.2	-	-	3	3.5	7	8.1	20	23.3	2	2.3	25	29.1
	女	60	44	73.3	23	52.3	4	9.1	1	2.3	1	2.3	2	4.5	1	2.3	-	-	-	-	2	4.5	9	20.5	3	6.8	21	47.7
19	男	127	104	81.9	68	65.4	13	12.5	11	10.6	10	9.6	1	1.0	1	1.0	-	-	4	3.8	6	5.8	18	17.3	4	3.8	36	34.6
	女	46	29	63.0	16	55.2	5	17.2	1	3.4	1	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	4	13.8	3	10.3	2	6.9	13	44.8
20	男	58	45	77.6	29	64.4	5	11.1	3	6.7	6	13.3	-	-	1	2.2	-	-	1	2.2	5	11.1	6	13.3	2	4.4	16	35.6
	女	44	26	59.1	12	46.2	1	3.8	1	3.8	2	7.7	2	7.7	1	3.8	-	-	1	3.8	1	3.8	-	-	3	11.5	14	53.8
21	男	105	88	83.8	58	65.9	18	20.5	8	9.1	9	10.2	-	-	3	3.4	-	-	1	1.1	6	6.8	7	8.0	6	6.8	30	34.1
	女	51	35	68.6	15	42.9	4	11.4	-	-	2	5.7	2	5.7	1	2.9	-	-	1	2.9	2	5.7	1	2.9	2	5.7	20	57.1
22	男	57	48	84.2	38	79.2	5	10.4	4	8.3	9	18.8	1	2.1	2	4.2	-	-	2	4.2	8	16.7	4	8.3	3	6.3	10	20.8
	女	12	7	58.3	4	57.1	-	-	1	14.3	1	14.3	-	-	1	14.3	-	-	1	14.3	-	-	-	-	-	-	3	42.9
23	男	26	22	84.6	10	45.5	1	4.5	2	9.1	2	9.1	1	4.5	-	-	-	-	1	4.5	3	13.6	-	-	-	-	12	54.5
	女	4	2	50.0	1	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0	-	-	-	-	-	-	1	50.0
24	男	5	4	80.0	2	50.0	-	-	1	25.0	1	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	50.0
	女	2	2	100.0	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0	-	-	1	50.0	-	-
25以上	男	12	9	75.0	5	55.6	2	22.2	1	11.1	1	11.1	-	-	1	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	44.4
	女	2	1	50.0	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	100.0	-	-	-	-

(注) 二次検尿の陽性者と精密検査の対象者の数が一致している大学が15校、不一致の大学が23校、全部または一部の項目について、一次検尿の陽性者を精密検査の対象者とした大学が12校である。従って二次検尿の陽性者に比し、精密検査の対象者数が多い。

表Ⅰ－17－3　尿たん白・潜血両者陽性者の精密検査の結果　性・年齢別

〔50校集計〕

		精対象者検数	精受検者検数	受検率	異常者総数		急性腎炎		慢性腎炎		ネフローゼ症候群		腎不全		その他の腎炎(腎症)		腎炎の疑い		特発性腎出血		尿路感染症		尿路結石		腎・尿路腫瘍		遊走腎		その他		詳細不明		経過観察		異常なし	
					実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		295	181	61.4	132	72.9	4	2.2	51	28.2	-	-	1	0.6	15	8.3	11	6.1	3	1.7	2	1.1	4	2.2	-	-	4	2.2	12	6.6	10	5.5	15	8.3	49	27.1
男		194	131	67.5	102	77.9	3	2.3	41	31.3	-	-	1	0.8	14	10.7	8	6.1	2	1.5	-	-	3	2.3	-	-	3	2.3	10	7.6	9	6.9	8	6.1	29	22.1
女		101	50	49.5	30	60.0	1	2.0	10	20.0	-	-	-	-	1	2.0	3	6.0	1	2.0	2	4.0	1	2.0	-	-	1	2.0	2	4.0	1	2.0	7	14.0	20	40.0
18歳	男	43	31	72.1	24	77.4	2	6.5	7	22.6	-	-	-	-	2	6.5	4	12.9	-	-	-	-	1	3.2	-	-	1	3.2	2	6.5	3	9.7	2	6.5	7	22.6
	女	28	18	64.3	14	77.8	1	5.6	3	16.7	-	-	-	-	1	5.6	3	16.7	1	5.6	1	5.6	-	-	-	-	-	-	2	11.1	1	5.6	1	5.6	4	22.2
19	男	51	36	70.6	26	72.2	1	2.8	11	30.6	-	-	-	-	4	11.1	1	2.8	-	-	-	-	1	2.8	-	-	-	-	2	5.6	2	5.6	4	11.1	10	27.8
	女	18	9	50.0	4	44.4	-	-	4	44.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	55.6
20	男	28	14	50.0	12	85.7	-	-	6	42.9	-	-	1	7.1	1	7.1	-	-	1	7.1	-	-	1	7.1	-	-	-	-	1	7.1	-	-	1	7.1	2	14.3
	女	19	9	47.4	3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	33.3	6	66.7
21	男	33	22	66.7	21	95.5	-	-	9	40.9	-	-	-	-	4	18.2	-	-	1	4.5	-	-	-	-	-	-	2	9.1	3	13.6	2	9.1	-	-	1	4.5
	女	30	11	36.7	6	54.5	-	-	3	27.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9.1	-	-	-	-	2	18.2	5	45.5
22	男	25	17	68.0	10	58.8	-	-	4	23.5	-	-	-	-	1	5.9	2	11.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5.9	2	11.8	-	-	7	41.2
	女	4	3	75.0	3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33.3	1	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33.3	-	-
23	男	12	9	75.0	8	88.9	-	-	3	33.3	-	-	-	-	2	22.2	1	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11.1	-	-	1	11.1	1	11.1
	女	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	男	1	1	100.0	1	100.0	-	-	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	男	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	100.0
	女	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 二次検尿の陽性者と精密検査の対象者の数が一致している大学が15校，不一致の大学が23校，全部または一部の項目について，一次検尿の陽性者を精密検査の対象者とした大学が12校である。従って二次検尿の陽性者に比し，精密検査の対象者数が多い。

表Ⅰ－18－1　尿たん白のみ陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的集計

〔一次検尿〕　　性別　〔15校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
				±	総数		＋	＋＋	＋＋＋以上
				実数	実数	%	実数	実数	実数
総数	61,628	42,271	68.6	4,791	2,129	5.0	1,732	344	53
男	47,269	31,441	66.5	3,507	1,408	4.5	1,150	223	35
女	14,359	10,830	75.4	1,284	721	6.7	582	121	18

↓

〔二次検尿〕

	対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
				±	総数		＋	＋＋	＋＋＋以上
				実数	実数	%	実数	実数	実数
総数	2,129	1,751	82.2	226	140	8.0	99	27	14
男	1,408	1,136	80.7	132	89	7.8	63	14	12
女	721	615	85.3	94	51	8.3	36	13	2

↓

〔精密検査〕

	対象者数	受検者数	受検率	疾患						経過観察		詳細不明		異常なし*	
				総数		腎炎		その他の疾患							
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	140	127	90.7	59	46.5	56	44.1	3	2.4	3	2.4	10	7.9	55	43.3
男	89	82	92.1	38	46.3	36	43.9	2	2.4	1	1.2	10	12.2	33	40.2
女	51	45	88.2	21	46.7	20	44.4	1	2.2	2	4.4	-	-	22	48.9

(注) 一次検尿が随時尿，二次検尿が早朝尿で，ヘマコンビスティックス等を使用した大学15校を集計した。　＊体位性たん白尿を含む。

表Ⅰ－18－2　尿潜血のみ陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的集計

〔一次検尿〕　　性別　〔15校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
				±	総数		＋	＋＋	＋＋＋以上
				実数	実数	%	実数	実数	実数
総数	61,628	42,271	68.6	666	627	1.5	390	152	85
男	47,269	31,441	66.5	458	418	1.3	247	106	65
女	14,359	10,830	75.4	208	209	1.9	143	46	20

↓

〔二次検尿〕

	対象者数	受検者数	受検率	疑陽性者	陽性者				
				±	総数		＋	＋＋	＋＋＋以上
				実数	実数	%	実数	実数	実数
総数	627	500	79.7	87	146	29.2	64	49	33
男	418	329	78.7	60	109	33.1	46	35	28
女	209	171	81.8	27	37	21.6	18	14	5

↓

〔精密検査〕

	対象者数	受検者数	受検率	疾患						経過観察		詳細不明		異常なし	
				総数		腎炎		その他の疾患							
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	146	127	87.0	76	59.8	42	33.1	34	26.8	6	4.7	34	26.8	11	8.7
男	109	93	85.3	57	61.3	37	39.8	20	21.5	3	3.2	26	28.0	7	7.5
女	37	34	91.9	19	55.9	5	14.7	14	41.2	3	8.8	8	23.5	4	11.8

(注) 一次検尿が随時尿，二次検尿が早朝尿で，ヘマコンビスティックス等を使用した大学15校を集計した。

表Ⅰ－18－3　尿たん白・潜血両者陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的集計

〔一次検尿〕　　性別　〔15校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	陽性者 総数 実数	陽性者 総数 %	たん白・潜血両者(+) 実数	たん白(+)潜血(#)以上 実数	たん白(#)以上潜血(+) 実数	たん白・潜血両者(#)以上 実数
総数	61,628	42,271	68.6	150	0.4	56	46	21	27
男	47,269	31,441	66.5	103	0.3	32	35	16	20
女	14,359	10,830	75.4	47	0.4	24	11	5	7

↓

〔二次検尿〕

	対象者数	受検者数	受検率	陰性者 たん白・潜血両者(−)〜(±) 実数	陽性者 総数 実数	陽性者 総数 %	たん白(−)〜(±)潜血(+)以上 実数	たん白(+)以上潜血(−)〜(±) 実数	たん白・潜血両者(+)以上 実数
総数	150	127	84.7	50	77	60.6	20	10	47
男	103	83	80.6	28	55	66.3	14	6	35
女	47	44	93.6	22	22	50.0	6	4	12

↓

〔精密検査〕

	対象者数	受検者数	受検率	疾患 総数 実数	疾患 総数 %	疾患 腎炎 実数	疾患 腎炎 %	疾患 その他の疾患 実数	疾患 その他の疾患 %	経過観察 実数	経過観察 %	詳細不明 実数	詳細不明 %	異常なし 実数	異常なし %
総数	77	59	76.6	46	78.0	37	62.7	9	15.3	4	6.8	5	8.5	4	6.8
男	55	44	80.0	35	79.5	28	63.6	7	15.9	1	2.3	5	11.4	3	6.8
女	22	15	68.2	11	73.3	9	60.0	2	13.3	3	20.0	-	-	1	6.7

(注) 一次検尿が随時尿，二次検尿が早朝尿で，ヘマコンビスティックス等を使用した大学15校を集計した。

表Ⅰ－18－4　尿たん白・潜血および両者陽性者をあわせた一次検尿から二次検尿・精密検査までの縦断的集計

〔一次検尿〕　　性別　〔15校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	陽性者数 実数	陽性者数 %
総数	61,628	42,271	68.6	2,906	6.9
男	47,269	31,441	66.5	1,929	6.1
女	14,359	10,830	75.4	977	9.0

↓

〔二次検尿〕

	対象者数	受検者数	受検率	陽性者数 実数	陽性者数 %
総数	2,906	2,378	81.8	363	15.3
男	1,929	1,548	80.2	253	16.3
女	977	830	85.0	110	13.3

↓

〔精密検査〕

	対象者数	受検者数	受検率	疾患 総数 実数	疾患 総数 %	疾患 腎炎 実数	疾患 腎炎 %	疾患 その他の疾患 実数	疾患 その他の疾患 %	経過観察 実数	経過観察 %	詳細不明 実数	詳細不明 %	異常なし 実数	異常なし %
総数	363	313	86.2	181	57.8	135	43.1	46	14.7	13	4.2	49	15.7	70	22.4
男	253	219	86.6	130	59.4	101	46.1	29	13.2	5	2.3	41	18.7	43	19.6
女	110	94	85.5	51	54.3	34	36.2	17	18.1	8	8.5	8	8.5	27	28.7

(注) 一次検尿が随時尿，二次検尿が早朝尿で，ヘマコンビスティックス等を使用した大学15校を集計した。

表Ⅰ－19　一次検尿における尿糖陽性者の頻度　性・年齢別

〔65校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	陽性者 総数 実数	総数 %	± 実数	＋ 実数	++ 実数	+++以上 実数
総数		256,665	184,812	72.0	1,427	0.8	731	504	123	69
男		196,934	138,711	70.4	1,145	0.8	561	416	106	62
女		59,731	46,101	77.2	282	0.6	170	88	17	7
18歳	男	27,891	25,384	91.0	216	0.9	113	75	20	8
	女	13,407	12,442	92.8	84	0.7	49	24	7	4
19	男	43,714	31,712	72.5	297	0.9	153	94	30	20
	女	14,879	10,816	72.7	67	0.6	36	26	4	1
20	男	42,308	25,220	59.6	222	0.9	102	86	23	11
	女	13,263	8,713	65.7	44	0.5	26	15	3	-
21	男	42,002	29,828	71.0	204	0.7	103	71	17	13
	女	12,979	10,485	80.8	64	0.6	44	18	2	-
22	男	22,489	16,077	71.5	107	0.7	48	50	7	2
	女	3,598	2,794	77.7	14	0.5	12	1	-	1
23	男	9,304	5,661	60.8	47	0.8	17	20	5	5
	女	834	496	59.5	2	0.4	1	-	-	1
24	男	3,980	2,222	55.8	18	0.8	8	8	1	1
	女	314	167	53.2	2	1.2	1	1	-	-
25以上	男	5,246	2,607	49.7	34	1.3	17	12	3	2
	女	457	188	41.1	5	2.7	1	3	1	-

(注) 本集計は，採尿条件（随時・食後・早朝尿），試験紙の種類，尿分析器使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－20　採尿条件(随時・食後・早朝尿)別にみた尿糖陽性者の頻度　性別

〔試験紙ヘマコンビスティックス等で肉眼比色による検尿の大学33校の集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	陽性者 総数 実数	総数 %	± 実数	＋ 実数	++ 実数	+++以上 実数
随時尿(29校)	総数	131,601	95,449	72.5	455	0.5	229	174	35	17
	男	102,376	72,963	71.3	368	0.5	180	144	30	14
	女	29,225	22,486	76.9	87	0.4	49	30	5	3
食後尿(2校)	総数	14,570	8,283	56.8	49	0.6	7	24	12	6
	男	11,999	6,607	55.1	37	0.6	5	21	7	4
	女	2,571	1,676	65.2	12	0.7	2	3	5	2
早朝尿(2校)	総数	2,423	2,247	92.7	1	0.0	1	-	-	-
	男	1,805	1,658	91.9	1	0.1	1	-	-	-
	女	618	589	95.3	-	-	-	-	-	-

表Ⅰ－21　試験紙の種類別にみた尿糖陽性者の頻度　性別

〔随時尿で検尿の大学56校の集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	陽性者 総数 実数	総数 %	± 実数	± %	＋以上 実数	＋以上 %
ヘマコンビスティックス等(35校)	男	119,640	84,953	71.0	578	0.7	339	0.4	239	0.3
	女	36,199	28,109	77.7	165	0.6	113	0.4	52	0.2
ユリフレット(7校)	男	12,371	9,213	74.5	211	2.3	132	1.4	79	0.9
	女	3,971	3,062	77.1	30	1.0	21	0.7	9	0.3
ウロペーパー(6校)	男	14,728	12,281	83.4	134	1.1	31	0.3	103	0.8
	女	4,168	3,468	83.2	31	0.9	15	0.4	16	0.5
BMテスト(5校)	男	17,257	10,012	58.0	91	0.9	39	0.4	52	0.5
	女	5,888	4,087	69.4	13	0.3	7	0.2	6	0.1
ZD－401用テープ(1校)	男	2,018	1,840	91.2	-	-	-	-	-	-
	女	232	211	90.9	1	0.5	-	-	1	0.5
ラピグノスト(1校)	男	3,839	3,005	78.3	21	0.7	9	0.3	12	0.4
	女	1,720	1,495	86.9	7	0.5	4	0.3	3	0.2
テス・テープ(1校)	男	6,168	4,536	73.5	43	0.9	2	0.0	41	0.9
	女	1,008	770	76.4	2	0.3	-	-	2	0.3

(注) 本集計は，尿分析器使用の有無は考慮せずに集計したものである（尿分析器使用大学：ヘマコンビスティックス等使用35校中6校，ユリフレット7校，ZD－401用テープおよびラピグノスト各1校）

表Ⅰ－22　試験紙の判定法(肉眼・尿分析器比色)別にみた尿糖陽性者の頻度　性別

〔随時尿・ヘマコンビスティックス等で検尿の大学35校の集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	陽性者 総数 実数	総数 %	± 実数	± %	＋以上 実数	＋以上 %
肉眼比色(29校)	総数	131,601	95,449	72.5	455	0.5	229	0.2	226	0.2
	男	102,376	72,963	71.3	368	0.5	180	0.2	188	0.3
	女	29,225	22,486	76.9	87	0.4	49	0.2	38	0.2
尿分析器比色(6校)	総数	24,238	17,613	72.7	288	1.6	223	1.3	65	0.4
	男	17,264	11,990	69.5	210	1.8	159	1.3	51	0.4
	女	6,974	5,623	80.6	78	1.4	64	1.1	14	0.2

表Ⅰ－23　尿糖陽性者の二次検尿の結果　性・年齢別

〔54校集計〕

		二次検尿対象者数	受検者数	受検率	陰性者		陽性者					
					－		総数		±	＋	＋＋	＋＋＋以上
					実数	%	実数	%	実数	実数	実数	実数
総数		1,264	897	71.0	752	83.8	145	16.2	61	54	14	16
男		1,012	706	69.8	581	82.3	125	17.7	52	48	11	14
女		252	191	75.8	171	89.5	20	10.5	9	6	3	2
18歳	男	190	132	69.5	110	83.3	22	16.7	10	9	1	2
	女	73	58	79.5	55	94.8	3	5.2	2	-	-	1
19	男	265	193	72.8	160	82.9	33	17.1	17	10	4	2
	女	60	46	76.7	39	84.8	7	15.2	1	3	3	-
20	男	195	136	69.7	110	80.9	26	19.1	12	11	1	2
	女	40	34	85.0	27	79.4	7	20.6	4	2	-	1
21	男	179	121	67.6	101	83.5	20	16.5	6	7	4	3
	女	58	43	74.1	41	95.3	2	4.7	1	1	-	-
22	男	100	71	71.0	62	87.3	9	12.7	2	5	1	1
	女	12	7	58.3	6	85.7	1	14.3	1	-	-	-
23	男	38	24	63.2	16	66.7	8	33.3	3	3	-	2
	女	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	男	15	9	60.0	8	88.9	1	11.1	-	1	-	-
	女	2	1	50.0	1	100.0	-	-	-	-	-	-
25以上	男	30	20	66.7	14	70.0	6	30.0	2	2	-	2
	女	5	2	40.0	2	100.0	-	-	-	-	-	-

(注) 本集計は，二次検尿の採尿条件(食後・随時・早朝尿)，試験紙の種類，尿分析器使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－24　採尿条件(食後・随時・早朝尿)別にみた尿糖陽性者の二次検尿の結果　性別

〔54校集計〕

二次検尿採尿条件		二次検尿対象者数	受検者数	受検率	陽性者					
					総数		±	＋	＋＋	＋＋＋以上
					実数	%	実数	実数	実数	実数
食後尿(29校)	総数	861	575	66.8	111	19.3	46	41	12	12
	男	679	440	64.8	94	21.4	38	37	9	10
	女	182	135	74.2	17	12.6	8	4	3	2
随時尿(19校)	総数	325	261	80.3	32	12.3	13	13	2	4
	男	267	214	80.1	29	13.6	12	11	2	4
	女	58	47	81.0	3	6.4	1	2	-	-
早朝尿(6校)	総数	78	61	78.2	2	3.3	2	-	-	-
	男	66	52	78.8	2	3.8	2	-	-	-
	女	12	9	75.0	-	-	-	-	-	-

(注) 本集計は，試験紙の種類，尿分析器使用の有無等は考慮せずに集計したものである。

表Ⅰ－25　尿糖陽性者の一次検尿から精密検査(GTT)までの縦断的集計　性別

〔一次検尿〕　〔7校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	陽性者					
				総数		±	＋	＋＋	＋＋＋以上
				実数	%	実数	実数	実数	実数
総数	44,304	29,930	67.6	139	0.5	63	59	11	6
男	34,303	22,506	65.6	118	0.5	52	50	10	6
女	10,001	7,424	74.2	21	0.3	11	9	1	-

↓

〔精密検査(GTT)〕

	GTT対象者数	受検者数	受検率	正常型		境界型				糖尿病型	
						IGT以外		IGT			
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	139	102	73.4	87	85.3	11	10.8	3	2.9	1	1.0
男	118	88	74.6	76	86.4	9	10.2	2	2.3	1	1.1
女	21	14	66.7	11	78.6	2	14.3	1	7.1	-	-

(注) 1．一次検尿は，7校とも随時尿，ヘマコンビスティックス等(肉眼比色)で検査
2．GTT：75gブドウ糖経口負荷試験
3．IGT：Impaired glucose tolerance (WHO)

表Ⅰ－26　尿糖陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査(GTT)までの縦断的集計(1)　性別

〔一次検尿〕　〔32校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	陽性者 総数 実数	陽性者 総数 %	陽性者 ± 実数	陽性者 ＋ 実数	陽性者 ＋＋ 実数	陽性者 ＋＋＋以上 実数
総数	117,417	85,431	72.8	825	1.0	455	255	71	44
男	92,412	65,956	71.4	685	1.0	358	222	64	41
女	25,005	19,475	77.9	140	0.7	97	33	7	3

↓

〔二次検尿〕

	二次検尿対象者数	受検者数	受検率	陰性者 － 実数	陰性者 － %	陽性者 総数 実数	陽性者 総数 %	陽性者 ± 実数	陽性者 ＋ 実数	陽性者 ＋＋ 実数	陽性者 ＋＋＋以上 実数
総数	825	554	67.2	471	85.0	83	15.0	35	34	6	8
男	685	449	65.5	375	83.5	74	16.5	32	32	3	7
女	140	105	75.0	96	91.4	9	8.6	3	2	3	1

↓

〔精密検査(GTT)〕

	GTT対象者数	受検者数	受検率	正常型 実数	正常型 %	境界型 IGT以外 実数	境界型 IGT以外 %	境界型 IGT 実数	境界型 IGT %	糖尿病型 実数	糖尿病型 %
総数	83	54	65.1	44	81.5	6	11.1	2	3.7	2	3.7
男	74	49	66.2	40	81.6	5	10.2	2	4.1	2	4.1
女	9	5	55.6	4	80.0	1	20.0	-	-	-	-

(注) 1．一次，二次検尿の集計は，採尿条件(食後・随時・早朝尿)，試験紙の種類，尿分析器使用の有無等は考慮せずに集計したものである。
2．GTT：75 g ブドウ糖経口負荷試験
3．IGT：Impaired glucose tolerance　(WHO)

表Ⅰ－27　尿糖陽性者の一次検尿から二次検尿・精密検査(GTT)までの縦断的集計(2)　性別

〔一次検尿〕　〔一次検尿：随時尿，二次検尿：食後尿で実施の大学15校の集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	陽性者 総数 実数	陽性者 総数 %	陽性者 ± 実数	陽性者 ＋ 実数	陽性者 ＋＋ 実数	陽性者 ＋＋＋以上 実数
総数	67,803	51,848	76.5	596	1.1	350	166	53	27
男	52,763	39,828	75.5	483	1.2	266	143	48	26
女	15,040	12,020	79.9	113	0.9	84	23	5	1

↓

〔二次検尿〕

	二次検尿対象者数	受検者数	受検率	陰性者 － 実数	陰性者 － %	陽性者 総数 実数	陽性者 総数 %	陽性者 ± 実数	陽性者 ＋ 実数	陽性者 ＋＋ 実数	陽性者 ＋＋＋以上 実数
総数	596	375	62.9	306	81.6	69	18.4	30	27	6	6
男	483	290	60.0	229	79.0	61	21.0	27	26	3	5
女	113	85	75.2	77	90.6	8	9.4	3	1	3	1

↓

〔精密検査(GTT)〕

	GTT対象者数	受検者数	受検率	正常型 実数	正常型 %	境界型 IGT以外 実数	境界型 IGT以外 %	境界型 IGT 実数	境界型 IGT %	糖尿病型 実数	糖尿病型 %
総数	69	47	68.1	39	83.0	5	10.6	2	4.3	1	2.1
男	61	42	68.9	35	83.3	4	9.5	2	4.8	1	2.4
女	8	5	62.5	4	80.0	1	20.0	0	-	0	-

(注) 1．本集計15校の検尿試験紙の種類：ヘマコンビスティックス等10校(うち尿分析器使用3校)，ユリフレット2校(尿分析器使用)，ウロペーパー2校，テス・テープ1校
2．GTT：75 g ブドウ糖経口負荷試験
3．IGT：Impaired glucose tolerance　(WHO)

表Ⅰ－28　ミネソタコードによってみた心電図の有所見者　実数・割合，性・大学別

〔5校集計〕

大学	対象者数	受検者数	受検率	有所見者数	有所見率
男					
総数	7,022	6,591	93.9	3,471	52.7
A（関東地区）	2,803	2,803	100.0	1,128	40.2
B（関西地区）	135	135	100.0	44	32.6
C（中国地区）	1,293	1,221	94.4	875	71.7
D（九州地区）	1,954	1,793	91.8	900	50.2
E（九州地区）	837	639	76.3	524	82.0
女					
総数	1,636	1,579	96.5	421	26.7
A（関東地区）	258	258	100.0	39	15.1
B（関西地区）	167	167	100.0	33	19.8
C（中国地区）	575	563	97.9	159	28.2
D（九州地区）	350	336	96.0	47	14.0
E（九州地区）	286	255	89.2	143	56.1

（注）A～Eは個々の大学を示す。

表Ⅰ－29　ミネソタコードのコード別にみた心電図の有所見者　実数・割合，性・大学別

〔5校集計〕

大学	受検者数	コード1		コード2		コード3		コード4		コード5		コード6		コード7		コード8		コード9	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男																			
総数	6,591	63	1.0	749	11.4	2,276	34.5	9	0.1	87	1.3	82	1.2	283	4.3	1,236	18.8	1,428	21.7
A	2,803	-	-	343	12.2	611	21.8	2	0.1	21	0.7	53	1.9	73	2.6	68	2.4	166	5.9
B	135	-	-	-	-	25	18.5	-	-	3	2.2	4	3.0	8	5.9	14	10.4	4	3.0
C	1,221	10	0.8	128	10.5	548	44.9	3	0.2	16	1.3	11	0.9	46	3.8	236	19.3	726	59.5
D	1,793	-	-	222	12.4	900	50.2	-	-	29	1.6	5	0.3	116	6.5	788	43.9	4	0.2
E	639	53	8.3	56	8.7	192	30.0	4	0.6	18	2.8	9	1.4	40	6.3	130	20.3	528	82.6
女																			
総数	1,579	11	0.7	75	4.7	63	4.0	12	0.8	33	2.1	14	0.9	30	1.9	296	18.7	117	7.4
A	258	-	-	18	7.0	4	1.6	-	-	4	1.6	2	0.8	2	0.8	3	1.2	9	3.5
B	167	-	-	2	1.2	5	3.0	1	0.6	3	1.8	2	1.2	5	3.0	20	12.0	-	-
C	563	1	0.2	20	3.6	35	6.2	4	0.7	11	2.0	5	0.9	6	1.1	84	14.9	18	3.2
D	336	-	-	28	8.3	6	1.8	-	-	6	1.8	1	0.3	7	2.1	132	39.3	-	-
E	255	10	3.9	7	2.7	13	5.1	7	2.7	9	3.5	4	1.6	10	3.9	57	22.4	90	35.3

（注）A～Eは個々の大学を示す。　%は受検者数に対する割合

表Ⅰ－30－1　血色素量の分布　性・年齢別　男

〔10校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	9.9g/dℓ以下		10.0～10.4		10.5～10.9		11.0～11.4		11.5～11.9		12.0～12.4		12.5～12.9		13.0～13.4		13.5～13.9	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	7,641	5,432	71.1	4	0.1	3	0.1	5	0.1	6	0.1	7	0.1	12	0.2	26	0.5	69	1.3	147	2.7
18歳	1,426	1,157	81.1	2	0.2	2	0.2	1	0.1	1	0.1	2	0.2	1	0.1	4	0.3	21	1.8	37	3.2
19	1,792	1,255	70.0	1	0.1	-	-	2	0.2	1	0.1	2	0.2	5	0.4	8	0.6	12	1.0	39	3.1
20	1,683	1,036	61.6	-	-	-	-	1	0.1	-	-	2	0.2	1	0.1	3	0.3	18	1.7	29	2.8
21	1,599	1,181	73.9	1	0.1	1	0.1	1	0.1	3	0.3	1	0.1	3	0.3	6	0.5	13	1.1	24	2.0
22	752	552	73.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.4	4	0.7	4	0.7	11	2.0
23	241	164	68.0	-	-	-	-	-	-	1	0.6	-	-	-	-	1	0.6	-	-	6	3.7
24	61	36	59.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	87	51	58.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2.0	1	2.0

	14.0～14.4		14.5～14.9		15.0～15.4		15.5～15.9		16.0～16.4		16.5～16.9		17.0～17.4		17.5～17.9		18.0以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	408	7.5	783	14.4	1,063	19.6	1,178	21.7	896	16.5	490	9.0	220	4.1	79	1.5	36	0.7	15.54	1.00
18歳	98	8.5	200	17.3	241	20.8	269	23.2	164	14.2	80	6.9	23	2.0	8	0.7	3	0.3	15.38	0.97
19	99	7.9	180	14.3	232	18.5	281	22.4	208	16.6	110	8.8	53	4.2	10	0.8	12	1.0	15.53	1.03
20	71	6.9	140	13.5	205	19.8	200	19.3	181	17.5	106	10.2	53	5.1	20	1.9	6	0.6	15.61	1.00
21	82	6.9	150	12.7	213	18.0	266	22.5	200	16.9	115	9.7	65	5.5	27	2.3	10	0.8	15.64	1.04
22	39	7.1	76	13.8	123	22.3	119	21.6	97	17.6	51	9.2	14	2.5	10	1.8	2	0.4	15.57	0.91
23	16	9.8	20	12.2	31	18.9	28	17.1	29	17.7	19	11.6	9	5.5	2	1.2	2	1.2	15.61	1.04
24	2	5.6	8	22.2	5	13.9	9	25.0	5	13.9	5	13.9	-	-	1	2.8	1	2.8	15.71	0.91
25以上	1	2.0	9	17.6	13	25.5	6	11.8	12	23.5	4	7.8	3	5.9	1	2.0	-	-	15.65	0.90

表Ⅰ－30－2　血色素量の分布　性・年齢別　女

〔14校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	8.9g/dℓ以下		9.0～9.4		9.5～9.9		10.0～10.4		10.5～10.9		11.0～11.4		11.5～11.9		12.0～12.4		12.5～12.9	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	5,297	4,281	80.8	9	0.2	12	0.3	19	0.4	48	1.1	65	1.5	127	3.0	206	4.8	483	11.3	694	16.2
18歳	1,496	1,156	77.3	2	0.2	1	0.1	4	0.3	12	1.0	20	1.7	33	2.9	46	4.0	130	11.2	224	19.4
19	1,411	1,169	82.8	3	0.3	6	0.5	5	0.4	14	1.2	15	1.3	25	2.1	57	4.9	104	8.9	166	14.2
20	1,159	901	77.7	1	0.1	4	0.4	6	0.7	15	1.7	13	1.4	38	4.2	52	5.8	111	12.3	136	15.1
21	941	827	87.9	1	0.1	-	-	2	0.2	6	0.7	11	1.3	25	3.0	34	4.1	122	14.8	138	16.7
22	230	190	82.6	1	0.5	1	0.5	2	1.1	1	0.5	5	2.6	6	3.2	14	7.4	13	6.8	26	13.7
23	32	24	75.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	12.5	1	4.2	1	4.2
24	10	1	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	18	13	72.2	1	7.7	-	-	-	-	-	-	1	7.7	-	-	-	-	2	15.4	3	23.1

	13.0～13.4		13.5～13.9		14.0～14.4		14.5～14.9		15.0～15.4		15.5～15.9		16.0～16.4		16.5～16.9		17.0以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	851	19.9	774	18.1	496	11.6	271	6.3	123	2.9	56	1.3	27	0.6	16	0.4	4	0.1	13.24	1.15
18歳	249	21.5	241	20.8	126	10.9	51	4.4	16	1.4	-	-	-	-	1	0.1	-	-	13.14	0.98
19	205	17.5	188	16.1	159	13.6	102	8.7	63	5.4	31	2.7	12	1.0	11	0.9	3	0.3	13.45	1.29
20	171	19.0	146	16.2	98	10.9	53	5.9	26	2.9	15	1.7	13	1.4	2	0.2	1	0.1	13.18	1.24
21	178	21.5	156	18.9	87	10.5	44	5.3	12	1.5	7	0.8	2	0.2	2	0.2	-	-	13.17	1.01
22	40	21.1	39	20.5	23	12.1	13	6.8	5	2.6	1	0.5	-	-	-	-	-	-	13.17	1.17
23	6	25.0	3	12.5	3	12.5	4	16.7	1	4.2	2	8.3	-	-	-	-	-	-	13.73	1.14
24	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13.25	…
25以上	1	7.7	1	7.7	-	-	4	30.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12.92	1.96

表Ⅰ－31－1　赤血球数の分布　性・年齢別　男

〔8校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	349×10⁴/mm³以下		350～359		360～369		370～379		380～389		390～399		400～409		410～419		420～429		430～439		440～449		450～459		460～469	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	6,099	4,470	73.3	1	0.0	-	-	-	-	-	-	1	0.0	5	0.1	8	0.2	22	0.5	26	0.6	45	1.0	100	2.2	141	3.2	244	5.5
18歳	1,426	1,156	81.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.1	-	-	3	0.3	3	0.3	6	0.5	10	0.9	23	2.0	23	2.0	72	6.2
19	1,499	1,078	71.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.4	1	0.1	5	0.5	6	0.6	11	1.0	25	2.3	49	4.5	65	6.0
20	1,009	610	60.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.3	2	0.3	3	0.5	10	1.6	18	3.0	25	4.1	34	5.6
21	1,228	935	76.1	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.2	5	0.5	8	0.9	7	0.7	17	1.8	25	2.7	42	4.5
22	625	478	76.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.2	-	-	4	0.8	2	0.4	6	1.3	12	2.5	11	2.3	19	4.0
23	182	134	73.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.7	1	0.7	4	3.0	4	3.0	8	6.0
24	50	31	62.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3.2	-	-	-	-	1	3.2	2	6.5	2	6.5
25以上	80	48	60.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4.2	-	-	-	-	-	-	2	4.2	2	4.2

	470～479		480～489		490～499		500～509		510～519		520～529		530～539		540～549		550～559		560～569		570～579		580～589		590～599		600 以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	327	7.3	407	9.1	514	11.5	508	11.4	536	12.0	464	10.4	385	8.6	298	6.7	174	3.9	103	2.3	73	1.6	44	1.0	22	0.5	22	0.5	507.5	34.5
18歳	85	7.4	96	8.3	127	11.0	146	12.6	147	12.7	115	9.9	109	9.4	81	7.0	44	3.8	19	1.6	21	1.8	11	1.0	6	0.5	8	0.7	508.8	33.6
19	76	7.1	102	9.5	120	11.1	119	11.0	127	11.8	118	10.9	76	7.1	70	6.5	34	3.2	32	3.0	12	1.1	13	1.2	8	0.7	5	0.5	506.1	35.1
20	47	7.7	59	9.7	76	12.5	60	9.8	71	11.6	46	7.5	40	6.6	47	7.7	36	5.9	17	2.8	8	1.3	6	1.0	2	0.3	1	0.2	505.8	35.0
21	70	7.5	84	9.0	124	13.3	100	10.7	114	12.2	97	10.4	81	8.7	49	5.2	42	4.5	23	2.5	23	2.5	10	1.1	6	0.6	5	0.5	508.7	35.4
22	35	7.3	49	10.3	43	9.0	58	12.1	53	11.1	63	13.2	53	11.1	41	8.6	11	2.3	8	1.7	5	1.0	3	0.6	-	-	1	0.2	507.5	32.0
23	10	7.5	8	6.0	15	11.2	18	13.4	15	11.2	14	10.4	18	13.4	7	5.2	5	3.7	3	2.2	2	1.5	1	0.7	-	-	-	-	507.8	31.6
24	1	3.2	6	19.4	3	9.7	4	12.9	1	3.2	3	9.7	3	9.7	1	3.2	1	3.2	1	3.2	-	-	-	-	-	-	1	3.2	502.0	38.5
25以上	3	6.3	3	6.3	6	12.5	3	6.3	8	16.7	8	16.7	5	10.4	2	4.2	1	2.1	-	-	2	4.2	-	-	-	-	1	2.1	510.9	42.7

表Ⅰ－31－2　赤血球数の分布　性・年齢別　女

〔12校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	299×10⁴/mm³以下		300～309		310～319		320～329		330～339		340～349		350～359		360～369		370～379		380～389		390～399		400～409		410～419	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	4,653	3,725	80.1	1	0.0	-	-	1	0.0	6	0.2	9	0.2	20	0.5	42	1.1	70	1.9	109	2.9	137	3.7	207	5.6	272	7.3	341	9.2
18歳	1,496	1,156	77.3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.2	7	0.6	6	0.5	19	1.6	40	3.5	37	3.2	59	5.1	82	7.1	129	11.2
19	1,403	1,165	83.0	-	-	-	-	1	0.1	3	0.3	2	0.2	7	0.6	17	1.5	14	1.2	25	2.1	35	3.0	50	4.3	77	6.6	97	8.3
20	796	589	74.0	-	-	-	-	-	-	1	0.2	2	0.3	1	0.2	6	1.0	18	3.1	21	3.6	33	5.6	50	8.5	42	7.1	46	7.8
21	750	654	87.2	1	0.2	-	-	-	-	2	0.3	3	0.5	5	0.8	10	1.5	14	2.1	18	2.8	27	4.1	40	6.1	61	9.3	54	8.3
22	167	134	80.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1.5	5	3.7	4	3.0	4	3.0	7	5.2	8	6.0	13	9.7
23	18	14	77.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-
24	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	17	13	76.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7.7	-	-	-	-	1	7.7	1	7.7	2	15.4	2	15.4

	420～429		430～439		440～449		450～459		460～469		470～479		480～489		490～499		500～509		510～519		520～529		530～539		540～549		550 以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	388	10.4	398	10.7	406	10.9	323	8.7	284	7.6	192	5.2	140	3.8	138	3.7	81	2.2	56	1.5	39	1.0	30	0.8	16	0.4	19	0.5	437.8	39.8
18歳	129	11.2	137	11.9	161	13.9	105	9.1	90	7.8	66	5.7	33	2.9	29	2.5	10	0.9	8	0.7	2	0.2	3	0.3	1	0.1	1	0.1	434.1	33.2
19	117	10.0	98	8.4	111	9.5	96	8.2	96	8.2	69	5.9	59	5.1	54	4.6	45	3.9	36	3.1	14	1.2	18	1.5	10	0.9	14	1.2	445.8	43.7
20	46	7.8	64	10.9	40	6.8	44	7.5	51	8.7	18	3.1	22	3.7	34	5.8	16	2.7	7	1.2	14	2.4	6	1.0	3	0.5	4	0.7	437.3	43.6
21	72	11.0	85	13.0	76	11.6	58	8.9	37	5.7	30	4.6	21	3.2	13	2.0	9	1.4	5	0.8	8	1.2	3	0.5	2	0.3	-	-	431.5	38.1
22	22	16.4	12	9.0	14	10.4	17	12.7	7	5.2	7	5.2	4	3.0	6	4.5	1	0.7	-	-	1	0.7	-	-	-	-	-	-	433.1	34.1
23	2	14.3	2	14.3	3	21.4	2	14.3	1	7.1	2	14.3	1	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	445.7	26.4
24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	-	-	-	-	1	7.7	1	7.7	2	15.4	-	-	-	-	2	15.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	430.4	41.3

表Ⅰ－32－1　ヘマトクリット値の分布　性・年齢別　男

〔8校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	34.9%以下		35.0~35.9		36.0~36.9		37.0~37.9		38.0~38.9		39.0~39.9		40.0~40.9		41.0~41.9		42.0~42.9		43.0~43.9		44.0~44.9		45.0~45.9	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	6,099	4,474	73.4	7	0.2	5	0.1	3	0.1	5	0.1	16	0.4	34	0.8	56	1.3	91	2.0	184	4.1	309	6.9	448	10.0	562	12.6
18歳	1,426	1,157	81.1	3	0.3	3	0.3	-	-	3	0.3	3	0.3	11	1.0	14	1.2	29	2.5	55	4.8	97	8.4	146	12.6	163	14.1
19	1,499	1,081	72.1	3	0.3	-	-	-	-	1	0.1	4	0.4	9	0.8	12	1.1	23	2.1	41	3.8	76	7.0	101	9.3	124	11.5
20	1,009	610	60.5	-	-	-	-	2	0.3	-	-	2	0.3	5	0.8	8	1.3	13	2.1	31	5.1	37	6.1	35	5.7	59	9.7
21	1,228	935	76.1	1	0.1	1	0.1	-	-	-	-	6	0.6	7	0.7	16	1.7	18	1.9	34	3.6	57	6.1	79	8.4	119	12.7
22	625	478	76.5	-	-	-	-	1	0.2	1	0.2	-	-	2	0.4	3	0.6	4	0.8	16	3.3	25	5.2	58	12.1	74	15.5
23	182	134	73.6	-	-	1	0.7	-	-	-	-	1	0.7	-	-	1	0.7	4	3.0	6	4.5	9	6.7	18	13.4	13	9.7
24	50	31	62.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	12.9	3	9.7	7	22.6
25以上	80	48	60.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4.2	-	-	1	2.1	4	8.3	8	16.7	3	6.3

	46.0~46.9		47.0~47.9		48.0~48.9		49.0~49.9		50.0~50.9		51.0~51.9		52.0~52.9		53.0~53.9		54.0~54.9		55.0~55.9		56.0~56.9		57.0~57.9		58.0以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	644	14.4	669	15.0	527	11.8	368	8.2	263	5.9	132	3.0	88	2.0	40	0.9	16	0.4	5	0.1	2	0.0	-	-	-	-	46.73	2.91
18歳	169	14.6	177	15.3	125	10.8	85	7.3	39	3.4	16	1.4	13	1.1	4	0.3	2	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	46.19	2.76
19	179	16.6	153	14.2	124	11.5	99	9.2	60	5.6	39	3.6	18	1.7	9	0.8	5	0.5	1	0.1	-	-	-	-	-	-	46.78	2.88
20	68	11.1	86	14.1	86	14.1	69	11.3	50	8.2	34	5.6	17	2.8	7	1.1	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	47.23	3.02
21	125	13.4	151	16.1	113	12.1	72	7.7	66	7.1	28	3.0	23	2.5	12	1.3	3	0.3	3	0.3	1	0.1	-	-	-	-	46.90	3.04
22	70	14.6	73	15.3	53	11.1	35	7.3	35	7.3	12	2.5	7	1.5	4	0.8	3	0.6	1	0.2	1	0.2	-	-	-	-	46.91	2.68
23	22	16.4	14	10.4	17	12.7	4	3.0	11	8.2	2	1.5	7	5.2	4	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46.79	3.18
24	2	6.5	5	16.1	5	16.1	1	3.2	1	3.2	-	-	2	6.5	-	-	1	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	47.05	2.72
25以上	10	20.8	9	18.8	4	8.3	3	6.3	1	2.1	1	2.1	1	2.1	-	-	1	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	46.54	2.69

表Ⅰ－32－2　ヘマトクリット値の分布　性・年齢別　女

〔11校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	29.9%以下		30.0~30.9		31.0~31.9		32.0~32.9		33.0~33.9		34.0~34.9		35.0~35.9		36.0~36.9		37.0~37.9		38.0~38.9		39.0~39.9		40.0~40.9	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	3,812	3,002	78.8	6	0.2	7	0.2	16	0.5	22	0.7	31	1.0	44	1.5	88	2.9	165	5.5	210	7.0	276	9.2	381	12.7	373	12.4
18歳	1,314	994	75.6	1	0.1	1	0.1	6	0.6	11	1.1	15	1.5	12	1.2	29	2.9	51	5.1	70	7.0	101	10.2	128	12.9	131	13.2
19	1,182	967	81.8	3	0.3	5	0.5	5	0.5	4	0.4	11	1.1	16	1.7	33	3.4	56	5.8	66	6.8	79	8.2	113	11.7	118	12.2
20	582	405	69.6	-	-	-	-	3	0.7	4	1.0	3	0.7	7	1.7	12	3.0	15	3.7	31	7.7	26	6.4	54	13.3	47	11.6
21	564	493	87.4	1	0.2	-	-	1	0.2	2	0.4	1	0.2	9	1.8	11	2.2	32	6.5	32	6.5	58	11.8	71	14.4	57	11.6
22	135	119	88.1	-	-	1	0.8	1	0.8	1	0.8	1	0.8	-	-	2	1.7	8	6.7	9	7.6	9	7.6	13	10.9	19	16.0
23	14	12	85.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8.3	1	8.3	1	8.3	2	16.7	1	8.3	1	8.3
24	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	16	12	75.0	1	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	16.7	1	8.3	1	8.3	1	8.3	-	-

	41.0~41.9		42.0~42.9		43.0~43.9		44.0~44.9		45.0~45.9		46.0~46.9		47.0~47.9		48.0~48.9		49.0~49.9		50.0~50.9		51.0~51.9		52.0~52.9		53.0以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	401	13.4	369	12.3	258	8.6	166	5.5	89	3.0	58	1.9	21	0.7	8	0.3	6	0.2	4	0.1	1	0.0	-	-	2	0.1	40.53	3.14
18歳	138	13.9	114	11.5	89	9.0	43	4.3	28	2.8	13	1.3	9	0.9	2	0.2	1	0.1	1	0.1	-	-	-	-	-	-	40.39	3.04
19	120	12.4	127	13.1	91	9.4	55	5.7	30	3.1	16	1.7	9	0.9	4	0.4	2	0.2	2	0.2	1	0.1	-	-	1	0.1	40.58	3.28
20	52	12.8	49	12.1	38	9.4	34	8.4	11	2.7	15	3.7	1	0.2	1	0.2	1	0.2	1	0.2	-	-	-	-	-	-	40.84	3.16
21	73	14.8	59	12.0	29	5.9	30	6.1	14	2.8	10	2.0	1	0.2	-	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	1	0.2	40.49	2.89
22	14	11.8	16	13.4	10	8.4	3	2.5	6	5.0	3	2.5	1	0.8	1	0.8	1	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	40.72	3.25
23	2	16.7	1	8.3	1	8.3	-	-	-	-	1	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40.17	3.00
24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	2	16.7	3	25.0	-	-	1	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38.91	5.30

表Ⅰ－33－1　血色素量の大学別平均値・標準偏差等　男

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値－2×標準偏差
1	767	15.67	15.70	−0.650	8.545	1.079	13.52
2	204	15.90	15.93	−0.520	4.288	0.921	14.05
3	195	16.36	16.37	−0.607	4.330	1.026	14.31
4	76	15.73	15.89	−1.621	8.635	1.286	13.15
6	126	15.85	15.91	−3.149	25.377	1.069	13.71
8	601	15.57	15.60	−0.583	4.272	1.115	13.34
9	487	14.91	14.91	−0.720	5.358	0.892	13.12
11	819	15.52	15.56	−0.399	3.893	0.781	13.96
13	1694	15.54	15.57	−0.836	6.579	0.962	13.61
14	463	15.43	15.43	−0.416	4.165	0.855	13.72
		15.65*				1.068*	13.51*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－33－2　血色素量の大学別平均値・標準偏差等　女

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値－2×標準偏差
1	360	13.03	13.15	−0.559	4.732	1.077	10.87
2	52	13.69	13.71	+0.103	3.451	1.017	11.66
3	196	13.72	13.75	−0.869	7.596	0.983	11.75
4	123	13.38	13.34	−0.880	6.335	1.141	11.10
5	486	14.26	14.31	−0.553	4.248	1.225	11.81
6	75	13.72	13.80	−1.263	6.527	1.051	11.62
7	450	13.36	13.43	−1.260	6.494	1.111	11.14
8	316	13.33	13.44	−0.268	4.948	1.208	10.91
9	299	12.79	12.87	−1.396	7.495	0.926	10.94
10	723	12.49	12.49	−0.246	3.999	0.930	10.63
11	263	13.41	13.52	−1.010	5.318	0.911	11.59
12	66	13.18	13.19	−0.559	3.266	1.052	11.08
13	815	13.22	13.31	−0.778	5.059	0.951	11.32
14	57	13.00	12.98	−0.298	5.205	0.931	11.13
		13.33*				1.125*	11.08*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－34－1　赤血球数の大学別平均値・標準偏差等　男

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値－2×標準偏差
2	204	523.5	523.7	+0.015	3.054	34.306	454.9
4	80	526.9	533.1	−2.201	12.228	49.657	427.6
6	126	523.9	522.5	+0.094	2.950	33.585	456.7
8	601	495.9	495.0	+0.150	3.304	35.145	425.6
9	487	506.5	507.7	+0.215	4.153	34.781	437.0
11	819	508.3	508.9	−0.067	3.281	31.749	444.8
13	1690	504.3	504.0	+0.089	3.384	33.112	438.0
14	463	519.5	519.9	−0.237	3.596	30.693	458.1
		513.6*				37.342*	438.9*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－34－2　赤血球数の大学別平均値・標準偏差等　女

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値－2×標準偏差
2	52	454.2	455.0	+0.066	3.146	29.397	395.4
4	123	452.9	455.4	−1.437	8.312	46.708	359.5
5	486	481.7	481.5	+0.060	2.586	35.956	409.8
6	75	452.3	449.5	+0.200	2.490	27.915	396.5
7	450	441.1	440.7	+0.161	2.964	34.273	372.5
8	316	443.4	441.1	+0.525	3.632	35.181	373.0
9	299	435.2	435.7	+0.026	2.915	27.962	379.3
10	723	400.2	399.7	+0.492	4.416	30.926	338.4
11	263	441.0	440.5	+0.220	2.841	26.082	388.8
12	66	413.9	415.0	−0.218	2.840	31.352	351.2
13	815	437.9	436.5	+0.232	3.711	29.150	379.6
14	57	440.4	442.3	+0.375	4.009	24.970	390.5
		441.2*				37.579*	366.0*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－35－1　ヘマトクリット値の大学別平均値・標準偏差等　男

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値－2×標準偏差
2	204	46.89	47.10	−0.329	2.825	2.619	41.65
4	80	45.09	45.71	−2.495	14.973	3.805	37.48
6	126	45.37	45.46	−1.055	8.971	2.723	39.92
8	601	47.54	47.74	−0.398	3.569	3.056	41.43
9	487	44.78	44.73	−0.321	4.303	2.897	38.98
11	819	47.21	47.23	−0.286	4.057	2.487	42.23
13	1694	47.16	47.13	−0.151	4.014	2.794	41.57
14	463	45.89	45.93	−0.255	4.396	2.478	40.93
		46.24*				3.059*	40.12*

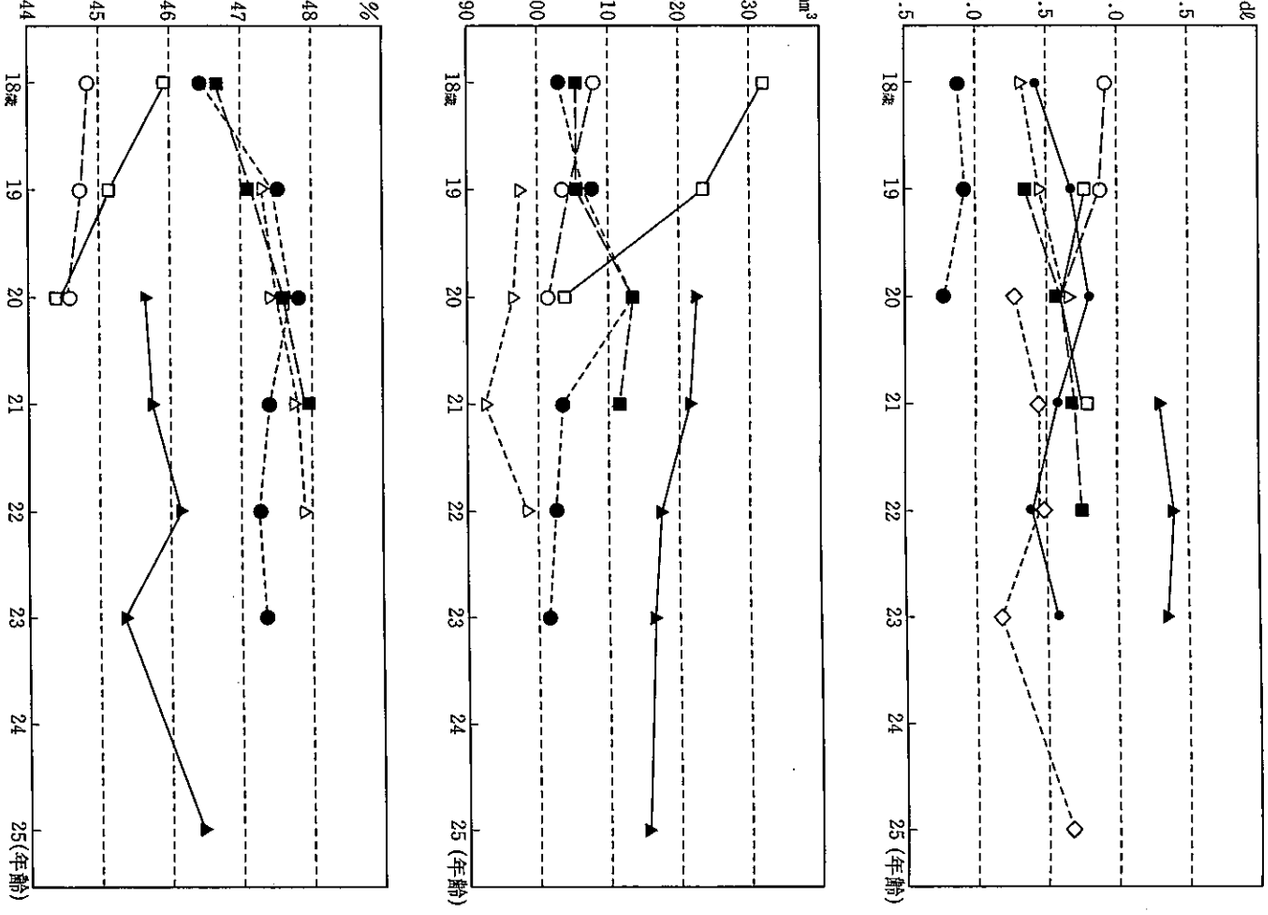
(注)＊本文参照

表Ⅰ－35－2　ヘマトクリット値の大学別平均値・標準偏差等　女

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値－2×標準偏差
2	52	41.25	41.40	+0.195	3.182	2.614	36.02
4	123	39.00	39.08	−0.292	3.432	2.969	33.06
5	486	40.57	40.65	−0.135	3.324	3.185	34.20
6	75	39.30	39.69	−0.577	3.491	2.638	34.02
7	450	41.06	41.17	−0.385	4.107	3.111	34.84
8	316	41.45	41.65	−0.132	4.668	2.939	35.57
9	299	37.97	38.13	−0.860	5.149	2.687	32.60
11	263	41.11	41.06	−0.199	3.735	2.520	36.07
12	66	36.09	36.31	−0.111	2.215	2.548	31.00
13	815	41.42	41.50	+0.020	3.936	2.666	36.09
14	57	38.54	38.39	−0.046	3.967	2.899	32.74
		39.80*				3.269*	33.26*

(注)＊本文参照

図Ⅰ－2　血色素量等の年齢による変動　男



(注) 1．1年齢20名以上，3年齢以上のデータがある大学について，大学ごとにその平均値をプロットした。
2．女子については紙数の関係で省略した。

表Ⅰ－36　HBs抗原陽性者の頻度　性・年齢・測定法別

〔15校集計〕

		RPHA法 (11校)					ELISA法 (2校)					RIA法 (1校)					SRID法 (1校)				
		対象者数	受検者数	受検率	HBs抗原陽性者 実数	HBs抗原陽性者 %	対象者数	受検者数	受検率	HBs抗原陽性者 実数	HBs抗原陽性者 %	対象者数	受検者数	受検率	HBs抗原陽性者 実数	HBs抗原陽性者 %	対象者数	受検者数	受検率	HBs抗原陽性者 実数	HBs抗原陽性者 %
総数		11,441	7,105	62.1	105	1.5	1,648	1,167	70.8	21	1.8	259	256	98.8	8	3.1	3,307	2,644	80.0	14	0.5
男		7,669	4,586	59.8	82	1.8	668	498	74.6	11	2.2	207	204	98.6	6	2.9	2,402	1,816	75.6	9	0.5
女		3,772	2,519	66.8	23	0.9	980	669	68.3	10	1.5	52	52	100.0	2	3.8	905	828	91.5	5	0.6
18歳	男	1,819	1,531	84.2	26	1.7	367	283	77.1	9	3.2	106	104	98.1	5	4.8	781	706	90.4	4	0.6
	女	1,588	1,514	95.3	12	0.8	707	457	64.6	7	1.5	34	34	100.0	2	5.9	406	401	98.8	-	-
19	男	1,630	1,024	62.8	20	2.0	239	179	74.9	2	1.1	74	74	100.0	-	-	612	461	75.3	4	0.9
	女	610	293	48.0	4	1.4	231	180	77.9	2	1.1	16	16	100.0	-	-	77	68	88.3	1	1.5
20	男	955	287	30.1	4	1.4	42	29	69.0	-	-	19	19	100.0	-	-	725	472	65.1	1	0.2
	女	524	162	30.9	3	1.9	31	28	90.3	1	3.6	1	1	100.0	-	-	366	314	85.8	4	1.3
21	男	1,053	549	52.1	11	2.0	6	1	16.7	-	-	6	5	83.3	1	20.0	240	147	61.3	-	-
	女	703	358	50.9	2	0.6	6	3	50.0	-	-	1	1	100.0	-	-	47	39	83.0	-	-
22	男	726	361	49.7	4	1.1	6	5	83.3	-	-	-	-	-	-	-	28	17	60.7	-	-
	女	174	101	58.0	1	1.0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	5	83.3	-	-
23	男	567	307	54.1	3	1.0	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	11	91.7	-	-
	女	87	40	46.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0	-	-
24	男	380	222	58.4	5	2.3	1	-	-	-	-	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	女	41	23	56.1	1	4.3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
25以上	男	539	305	56.6	9	3.0	2	1	50.0	-	-	1	1	100.0	-	-	4	2	50.0	-	-
	女	45	28	62.2	-	-	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

表Ⅰ－37　HBs抗原陽性者におけるHBe抗原・抗体保有者の頻度　性・年齢別

〔12校集計〕

		HBs抗原陽性者数	受検者数	受検率	HBe抗原（＋）HBe抗体（－）		HBe抗原（－）HBe抗体（－）		HBe抗原（－）HBe抗体（＋）	
					実数	%	実数	%	実数	%
総数		125	108	86.4	44	40.7	10	9.3	54	50.0
男		88	72	81.8	31	43.1	8	11.1	33	45.8
女		37	36	97.3	13	36.1	2	5.6	21	58.3
18歳	男	37	26	70.3	12	46.2	2	7.7	12	46.2
	女	19	18	94.7	6	33.3	2	11.1	10	55.6
19	男	24	22	91.7	7	31.8	3	13.6	12	54.5
	女	7	7	100.0	3	42.9	-	-	4	57.1
20	男	5	4	80.0	2	50.0	-	-	2	50.0
	女	8	8	100.0	4	50.0	-	-	4	50.0
21	男	8	7	87.5	5	71.4	1	14.3	1	14.3
	女	2	2	100.0	-	-	-	-	2	100.0
22	男	2	1	50.0	1	100.0	-	-	-	-
	女	1	1	100.0	-	-	-	-	1	100.0
23	男	3	3	100.0	3	100.0	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	男	3	3	100.0	1	33.3	1	33.3	1	33.3
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	男	6	6	100.0	-	-	1	16.7	5	83.3
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表Ⅰ－38－1　血清トランスアミナーゼ異常者の頻度　HBs抗原陰性者　性・年齢別

S-GOT　〔男6校，女7校集計〕　S-GPT　〔男11校，女12校集計〕

		受検者数	S－GOT異常者 総数 実数	S－GOT異常者 総数 %	A	B	C	D*	受検者数	S－GPT異常者 総数 実数	S－GPT異常者 総数 %	A	B	C	D*
総数		5,097	153	3.0	97	36	16	4	10,016	269	2.7	168	65	36	-
男		2,984	143	4.8	88	35	16	4	6,458	244	3.8	147	62	35	-
女		2,113	10	0.5	9	1	-	-	3,558	25	0.7	21	3	1	-
18歳	男	1,400	70	5.0	39	22	7	2	2,443	97	4.0	59	23	15	-
	女	1,398	5	0.4	4	1	-	-	2,014	13	0.6	10	2	1	-
19	男	852	43	5.0	30	6	5	2	1,561	63	4.0	38	19	6	-
	女	363	1	0.3	1	-	-	-	482	4	0.8	4	-	-	-
20	男	185	15	8.1	7	5	3	-	746	19	2.5	12	2	5	-
	女	141	2	1.4	2	-	-	-	482	2	0.4	2	-	-	-
21	男	324	8	2.5	7	1	-	-	668	25	3.7	12	10	3	-
	女	187	2	1.1	2	-	-	-	397	5	1.3	4	1	-	-
22	男	131	2	1.5	2	-	-	-	358	19	5.3	11	5	3	-
	女	14	-	-	-	-	-	-	104	1	1.0	1	-	-	-
23	男	39	1	2.6	1	-	-	-	280	7	2.5	5	2	-	-
	女	2	-	-	-	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-
24	男	21	1	4.8	-	-	1	-	172	2	1.2	1	-	1	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-
25以上	男	32	3	9.4	2	1	-	-	230	12	5.2	9	1	2	-
	女	8	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-

(注)　＊A：≦60U，B：60＜～≦100U，C：100＜～≦200U，D：200U＜

表Ⅰ－38－2　血清トランスアミナーゼ異常者の頻度　HBs抗原陽性者　性・年齢別

S-GOT　〔男6校，女7校集計〕　S-GPT　〔男11校，女12校集計〕

		受検者数	S－GOT異常者 総数 実数	S－GOT異常者 総数 %	A	B	C	D*	受検者数	S－GPT異常者 総数 実数	S－GPT異常者 総数 %	A	B	C	D*
総数		81	7	8.6	3	1	3	-	132	10	7.6	8	-	1	1
男		60	7	11.7	3	1	3	-	98	9	9.2	7	-	1	1
女		21	-	-	-	-	-	-	34	1	2.9	1	-	-	-
18歳	男	29	4	13.8	2	-	2	-	43	4	9.3	4	-	-	-
	女	15	-	-	-	-	-	-	19	1	5.3	1	-	-	-
19	男	17	2	11.8	-	1	1	-	25	2	8.0	1	-	1	-
	女	3	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
20	男	2	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
	女	3	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
21	男	8	-	-	-	-	-	-	11	1	9.1	-	-	-	1
	女	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
22	男	1	-	-	-	-	-	-	3	1	33.3	1	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
23	男	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	男	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
25以上	男	3	1	33.3	1	-	-	-	8	1	12.5	1	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注)　＊A：≦60U，B：60＜～≦100U，C：100＜～≦200U，D：200U＜

表Ⅰ－39　大学別血清トランスアミナーゼ異常者の頻度　性別

	HBs抗原陰性者 S-GOT 男 受検者数	異常者 実数	異常者 %	女 受検者数	異常者 実数	異常者 %	S-GPT 男 受検者数	異常者 実数	異常者 %	女 受検者数	異常者 実数	異常者 %
大学 1							1,807	18	1.0	823	1	0.1
2	198	18	9.1	50	-	-	198	14	7.1	50	-	-
3							194	9	4.6	194	1	0.5
4	78	1	1.3	123	2	1.6	78	2	2.6	123	2	1.6
6	1,251	75	6.0	564	3	0.5	1,251	62	5.0	564	3	0.5
7				443	-	-				443	-	-
8							488	17	3.5	216	3	1.4
9	477	5	1.0	296	-	-	477	31	6.5	296	4	1.4
14	54	7	13.0	251	4	1.6	53	7	13.2	251	3	1.2
16							654	4	0.6	164	1	0.6
18							332	8	2.4	47	-	-
19	926	37	4.0	386	1	0.3	926	72	7.8	386	7	1.8
HBs抗原陽性者												
大学 1							9	-	-	5	-	-
2	6	2	33.3	2	-	-	6	2	33.3	2	-	-
3										2	-	-
4	2	-	-				2	-	-			
6	26	4	15.4	3	-	-	26	2	7.7	3	-	-
7				7	-	-				7	-	-
8							11	-	-	3	-	-
9	10	-	-	3	-	-	10	2	20.0	3	1	33.3
14	2	-	-	4	-	-	2	1	50.0	4	-	-
16							14	-	-	2	-	-
18							4	-	-	1	-	-
19	14	1	7.1	2	-	-	14	2	14.3	2	-	-
20	4	1	25.0	5	-	-	4	1	25.0	5	-	-

表Ⅰ－40　HBs抗原陽性者の精密検査結果　性別

〔15校集計〕

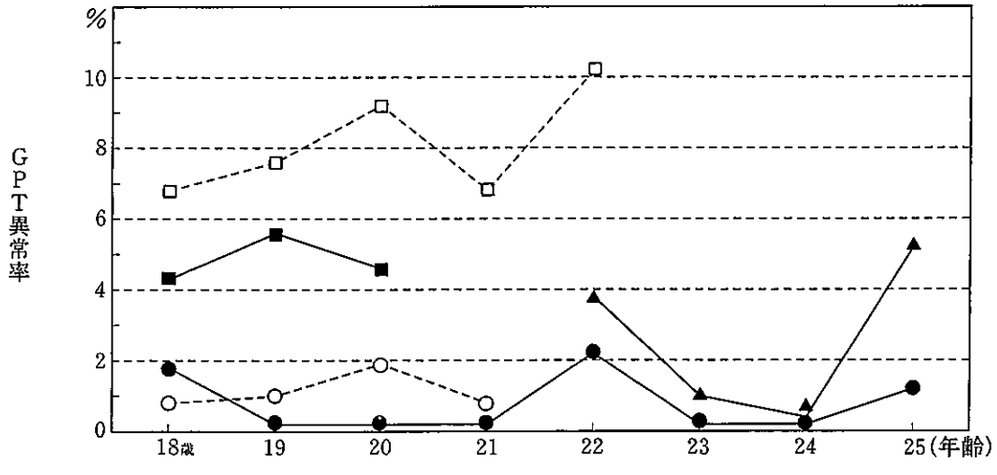
	総数 実数	総数 %	無症候性キャリア 実数	無症候性キャリア %	慢性肝炎 実数	慢性肝炎 %
総数	128	100.0	116	90.6	12	9.4
男	94	100.0	83	88.3	11	11.7
女	34	100.0	33	97.1	1	2.9

表Ⅰ－41　HBs抗原陰性・血清トランスアミナーゼ異常者の精密検査結果　性別

〔男11校，女12校集計〕

	総数 実数	総数 %	男 実数	男 %	女 実数	女 %
総数	222	100.0	200	100.0	22	100.0
異常なし	45	20.3	33	16.5	12	54.6
筋肉性の血清トランスアミナーゼ異常	56	25.2	54	27.0	2	9.1
脂肪肝または過栄養肝	44	19.8	42	21.0	2	9.1
薬剤性肝障害	1	0.5	1	0.5	-	-
非特異性肝炎	8	3.6	8	4.0	-	-
肝炎（急・慢性不詳）	7	3.2	6	3.0	1	4.5
持続性肝炎	1	0.5	1	0.5	-	-
慢性肝炎	16	7.2	13	6.5	3	13.6
詳細不明の血清トランスアミナーゼ異常	44	19.8	42	21.0	2	9.1

図Ⅰ－3　S－GPT異常率の年齢による変動　男



(注)　1年齢50名以上，3年齢以上のデータがある大学について，大学ごとにその異常率をプロットした。
S－GOTおよび女子については省略した。

表Ⅰ－42－1　血清総コレステロール値の分布　性・年齢別　男

〔4校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	99mg/dℓ以下		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180～189	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	2,130	1,850	86.9	-	-	5	0.3	16	0.9	45	2.4	100	5.4	135	7.3	199	10.8	221	11.9	242	13.1	262	14.2
18歳	640	623	97.3	-	-	1	0.2	3	0.5	7	1.1	20	3.2	23	3.7	56	9.0	59	9.5	95	15.2	113	18.1
19	351	337	96.0	-	-	1	0.3	2	0.6	2	0.6	6	1.8	11	3.3	26	7.7	34	10.1	43	12.8	53	15.7
20	581	469	80.7	-	-	1	0.2	8	1.7	20	4.3	34	7.2	55	11.7	70	14.9	64	13.6	55	11.7	53	11.3
21	363	288	79.3	-	-	2	0.7	3	1.0	13	4.5	34	11.8	36	12.5	32	11.1	45	15.6	39	13.5	29	10.1
22	97	64	66.0	-	-	-	-	-	-	2	3.1	4	6.3	6	9.4	8	12.5	11	17.2	7	10.9	7	10.9
23	33	20	60.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	15.0	1	5.0	2	10.0	-	-
24	18	12	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8.3	-	-	2	16.7	3	25.0	-	-	1	8.3
25以上	47	37	78.7	-	-	-	-	-	-	1	2.7	1	2.7	4	10.8	2	5.4	4	10.8	1	2.7	6	16.2

	190～199		200～209		210～219		220～229		230～239		240～249		250～259		260～269		270～279		280以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	215	11.6	169	9.1	94	5.1	71	3.8	32	1.7	21	1.1	15	0.8	4	0.2	-	-	4	0.2	178.7	28.7
18歳	76	12.2	76	12.2	33	5.3	33	5.3	10	1.6	9	1.4	6	1.0	1	0.2	-	-	2	0.3	184.8	26.7
19	55	16.3	38	11.3	27	8.0	17	5.0	12	3.6	5	1.5	2	0.6	1	0.3	-	-	2	0.6	188.5	27.4
20	42	9.0	24	5.1	23	4.9	10	2.1	3	0.6	5	1.1	2	0.4	-	-	-	-	-	-	169.9	27.7
21	25	8.7	11	3.8	6	2.1	4	1.4	4	1.4	1	0.3	3	1.0	1	0.3	-	-	-	-	167.0	28.0
22	8	12.5	6	9.4	2	3.1	2	3.1	1	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	174.1	25.5
23	3	15.0	7	35.0	2	10.0	1	5.0	1	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	194.5	22.7
24	2	16.7	2	16.7	-	-	1	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	179.2	25.2
25以上	4	10.8	5	13.5	1	2.7	3	8.1	1	2.7	1	2.7	2	5.4	1	2.7	-	-	-	-	190.4	34.9

表Ⅰ－42－2　血清総コレステロール値の分布　性・年齢別　女

〔4校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	99mg/dℓ以下		100～109		110～119		120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180～189	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	1,004	952	94.8	-	-	2	0.2	5	0.5	16	1.7	32	3.4	50	5.3	85	8.9	82	8.6	108	11.3	111	11.7
18歳	398	396	99.5	-	-	1	0.3	-	-	2	0.5	2	0.5	3	0.8	11	2.8	17	4.3	43	10.9	60	15.2
19	79	78	98.7	-	-	-	-	-	-	1	1.3	-	-	-	-	3	3.8	4	5.1	8	10.3	7	9.0
20	286	244	85.3	-	-	-	-	2	0.8	3	1.2	12	4.9	30	12.3	43	17.6	35	14.3	29	11.9	21	8.6
21	214	214	100.0	-	-	-	-	3	1.4	10	4.7	17	7.9	17	7.9	24	11.2	25	11.7	27	12.6	21	9.8
22	13	8	61.5	-	-	1	12.5	-	-	-	-	1	12.5	-	-	2	25.0	1	12.5	-	-	-	-
23	2	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0	-	-	1	50.0	-	-
24	3	2	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0
25以上	9	8	88.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12.5	-	-	-	-	1	12.5

	190～199		200～209		210～219		220～229		230～239		240～249		250～259		260～269		270～279		280以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	121	12.7	116	12.2	84	8.8	56	5.9	36	3.8	29	3.0	9	0.9	3	0.3	3	0.3	4	0.4	188.2	30.8
18歳	73	18.4	63	15.9	48	12.1	31	7.8	15	3.8	18	4.5	4	1.0	1	0.3	1	0.3	3	0.8	199.5	25.1
19	9	11.5	13	16.7	11	14.1	12	15.4	6	7.7	3	3.8	1	1.3	-	-	-	-	-	-	203.0	25.0
20	24	9.8	17	7.0	11	4.5	4	1.6	7	2.9	2	0.8	2	0.8	1	0.4	1	0.4	-	-	174.6	28.6
21	15	7.0	22	10.3	10	4.7	7	3.3	5	2.3	6	2.8	2	0.9	1	0.5	1	0.5	1	0.5	177.4	33.5
22	-	-	1	12.5	1	12.5	-	-	1	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	171.3	40.8
23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	165.0	9.6
24	-	-	-	-	1	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	200.0	14.7
25以上	-	-	-	-	2	25.0	2	25.0	2	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	211.3	25.8

表Ⅰ－43－1　血清ＨＤＬ－コレステロール値の分布　性・年齢別　男

〔4校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	34.9mg/dℓ 以下		35.0～39.9		40.0～44.9		45.0～49.9		50.0～54.9		55.0～59.9		60.0～64.9		65.0～69.9		70.0 以上		平均値	標準偏差
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	2,025	1,750	86.4	16	0.9	77	4.4	170	9.7	269	15.4	309	17.7	304	17.4	210	12.0	204	11.7	191	10.9	56.46	10.99
18歳	593	576	97.1	5	0.9	20	3.5	51	8.9	77	13.4	108	18.8	99	17.2	75	13.0	74	12.8	67	11.6	57.23	10.91
19	313	300	95.8	1	0.3	10	3.3	26	8.7	40	13.3	49	16.3	61	20.3	40	13.3	32	10.7	41	13.7	57.86	11.06
20	572	460	80.4	3	0.7	21	4.6	44	9.6	80	17.4	80	17.4	69	15.0	60	13.0	63	13.7	40	8.7	56.04	10.48
21	357	282	79.0	5	1.8	20	7.1	38	13.5	50	17.7	52	18.4	48	17.0	25	8.9	20	7.1	24	8.5	53.74	10.84
22	96	64	66.7	1	1.6	3	4.7	9	14.1	10	15.6	7	10.9	14	21.9	4	6.3	8	12.5	8	12.5	56.32	12.29
23	33	20	60.6	-	-	1	5.0	2	10.0	3	15.0	6	30.0	5	25.0	1	5.0	-	-	2	10.0	55.15	11.95
24	16	11	68.6	1	9.1	1	9.1	-	-	3	27.3	1	9.1	1	9.1	1	9.1	2	18.2	1	9.1	53.86	12.03
25以上	45	37	82.2	-	-	1	2.7	-	-	6	16.2	6	16.2	7	18.9	4	10.8	5	13.5	8	21.6	60.96	11.34

表Ⅰ－43－2　血清ＨＤＬ－コレステロール値の分布　性・年齢別　女

〔4校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	39.9mg/dℓ以下		40.0～44.9		45.0～49.9		50.0～54.9		55.0～59.9		60.0～64.9		65.0～69.9		70.0～74.9		75.0～79.9		80.0 以上		平均値	標準偏差
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	987	936	94.8	20	2.1	46	4.9	74	7.9	137	14.6	138	14.7	166	17.7	130	13.9	108	11.5	49	5.2	68	7.3	61.88	11.63
18歳	390	388	99.5	7	1.8	15	3.9	29	7.5	50	12.9	63	16.2	68	17.5	52	13.4	50	12.9	22	5.7	32	8.2	62.72	11.54
19	71	70	98.6	1	1.4	2	2.9	7	10.0	11	15.7	7	10.0	10	14.3	13	18.6	9	12.9	4	5.7	6	8.6	63.56	12.58
20	286	244	85.3	1	0.4	6	2.5	12	4.9	25	10.2	32	13.1	55	22.5	46	18.9	31	12.7	15	6.1	21	8.6	64.56	10.32
21	214	214	100.0	10	4.7	22	10.3	24	11.2	47	22.0	33	15.4	28	13.1	17	7.9	18	8.4	6	2.8	9	4.2	57.14	11.55
22	13	8	61.5	-	-	-	-	2	25.0	-	-	3	37.5	3	37.5	-	-	-	-	-	-	-	-	56.88	5.65
23	2	2	100.0	-	-	-	-	-	-	1	50.0	-	-	-	-	1	50.0	-	-	-	-	-	-	60.00	7.36
24	3	2	66.7	-	-	-	-	-	-	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52.50	・・・
25以上	8	8	100.0	1	12.5	1	12.5	-	-	1	12.5	-	-	2	25.0	1	12.5	-	-	2	25.0	-	-	56.69	14.37

表Ⅰ－44－1　血清トリグリセライド値の分布　性・年齢別　男

〔3校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	49mg/dℓ 以下		50 ～ 59		60 ～ 69		70 ～ 79		80 ～ 89		90 ～ 99		100～109		110～119	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	1,230	986	80.2	112	11.4	134	13.6	129	13.1	123	12.5	118	12.0	58	5.9	64	6.5	59	6.0
18歳	106	104	98.1	22	21.2	23	22.1	12	11.5	10	9.6	13	12.5	6	5.8	5	4.8	4	3.8
19	74	74	100.0	22	29.7	8	10.8	12	16.2	4	5.4	6	8.1	5	6.8	4	5.4	2	2.7
20	543	433	79.7	45	10.4	64	14.8	52	12.0	68	15.7	48	11.1	31	7.2	24	5.5	22	5.1
21	342	268	78.4	17	6.3	27	10.1	40	14.9	31	11.6	35	13.1	11	4.1	22	8.2	20	7.5
22	88	56	63.6	-	-	8	14.3	9	16.1	4	7.1	11	19.6	4	7.1	5	8.9	7	12.5
23	28	15	53.6	1	6.7	2	13.3	2	13.3	-	-	3	20.0	1	6.7	1	6.7	-	-
24	14	9	64.3	3	33.3	-	-	1	11.1	-	-	1	11.1	-	-	-	-	2	22.2
25以上	35	27	77.1	2	7.4	2	7.4	1	3.7	6	22.2	1	3.7	-	-	3	11.1	2	7.4

	120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180～189		190～199		200 以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	37	3.8	31	3.1	24	2.4	22	2.2	14	1.4	14	1.4	7	0.7	10	1.0	30	3.0	91.9	46.4
18歳	1	1.0	2	1.9	1	1.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	-	-	-	-	2	1.9	78.6	49.7
19	1	1.4	3	4.1	1	1.4	1	1.4	1	1.4	2	2.7	-	-	-	-	2	2.7	79.5	41.9
20	17	3.9	12	2.8	11	2.5	10	2.3	8	1.8	3	0.7	4	0.9	5	1.2	9	2.1	90.0	43.7
21	11	4.1	10	3.7	7	2.6	7	2.6	3	1.1	5	1.9	2	0.7	5	1.9	15	5.6	101.1	50.7
22	2	3.6	1	1.8	2	3.6	1	1.8	-	-	1	1.8	1	1.8	-	-	-	-	92.1	30.6
23	-	-	2	13.3	1	6.7	1	6.7	-	-	1	6.7	-	-	-	-	-	-	99.1	39.2
24	1	11.1	-	-	-	-	-	-	1	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	89.8	40.1
25以上	4	14.8	1	3.7	1	3.7	1	3.7	-	-	1	3.7	-	-	-	-	2	7.4	111.7	59.4

表Ⅰ－44－2　血清トリグリセライド値の分布　性・年齢別　女

〔3校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	49mg/dl 以下		50～59		60～69		70～79		80～89		90～99		100～109		110～119	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	521	474	91.0	118	24.9	80	16.9	75	15.8	56	11.8	52	11.0	31	6.5	14	3.0	12	2.5
18歳	34	34	100.0	16	47.1	6	17.6	2	5.9	1	2.9	2	5.9	1	2.9	1	2.9	1	2.9
19	16	16	100.0	7	43.8	4	25.0	1	6.3	3	18.8	1	6.3	-	-	-	-	-	-
20	281	239	85.1	73	30.5	49	20.5	40	16.7	30	12.6	19	7.9	12	5.0	6	2.5	3	1.3
21	177	177	100.0	20	11.3	19	10.7	31	17.5	21	11.9	29	16.4	18	10.2	6	3.4	8	4.5
22	10	6	60.0	2	33.3	2	33.3	1	16.7	-	-	-	-	-	-	1	16.7	-	-
23	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	100.0	-	-	-	-	-	-
24	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-

	120～129		130～139		140～149		150～159		160～169		170～179		180～189		190～199		200以上		平均値	標準偏差
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総数	12	2.5	2	0.4	8	1.7	4	0.8	1	0.2	4	0.8	-	-	-	-	5	1.1	72.8	34.0
18歳	3	8.8	1	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	64.9	29.8
19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56.1	13.7
20	4	1.7	-	-	2	0.8	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-	-	-	64.1	22.2
21	5	2.8	1	0.6	6	3.4	4	2.3	1	0.6	3	1.7	-	-	-	-	5	2.8	87.7	43.2
22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61.0	20.9
23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	85.0	...
24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0	...

表Ⅰ－45－1　血清総コレステロール値の大学別平均値・標準偏差等　男

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値＋2×標準偏差
2	204	174.6	172.2	+0.702	4.119	33.041	240.6
4	80	155.0	150.9	+0.771	3.577	25.917	206.8
6	864	189.9	188.8	+0.305	3.367	24.611	239.2
9	702	168.9	166.5	+0.496	3.186	26.784	222.4
		172.1*				30.471*	233.0*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－45－2　血清総コレステロール値の大学別平均値・標準偏差等　女

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値＋2×標準偏差
2	52	189.7	187.1	+0.164	3.430	32.681	255.1
4	123	166.6	163.1	+0.960	4.327	32.423	231.4
6	478	202.0	201.1	+0.174	3.588	23.480	248.9
9	299	174.8	169.4	+0.833	3.613	29.100	233.0
		183.3*				32.635*	248.5*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－46－1　血清ＨＤＬ－コレステロール値の大学別平均値・標準偏差等　男

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値－2×標準偏差
2	204	55.13	54.85	−0.132	2.062	10.314	34.50
4	80	46.96	46.33	+0.181	1.984	7.527	31.91
6	764	58.31	57.22	+0.314	2.482	11.102	36.10
9	702	55.93	54.88	+0.342	2.484	10.762	34.40
		54.08*				10.899*	32.28*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－46－2　血清ＨＤＬ－コレステロール値の大学別平均値・標準偏差等　女

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値－2×標準偏差
2	52	59.66	60.45	−0.296	2.440	9.384	40.89
4	123	52.19	52.29	+0.451	4.141	9.090	34.00
6	462	63.07	62.43	+0.165	2.529	12.017	39.03
9	299	64.42	64.04	+0.090	2.791	10.141	44.14
		59.84*				11.269*	37.30*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－47－1　血清トリグリセライド値の大学別平均値・標準偏差等　男

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値＋2×標準偏差
2	204	77.5	64.6	＋2.734	12.822	43.891	165.3
4	80	113.4	101.4	＋1.570	4.855	55.546	224.5
9	702	93.6	81.4	＋1.726	6.584	44.775	183.1
		94.8*				50.541*	195.9*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－47－2　血清トリグリセライド値の大学別平均値・標準偏差等　女

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	標準偏差	平均値＋2×標準偏差
2	52	61.5	51.8	＋1.481	4.076	25.755	113.0
4	123	97.3	85.9	＋2.268	9.138	42.663	182.6
9	299	64.6	59.4	＋3.016	21.308	25.268	115.2
		74.5*				36.082*	146.6*

(注)＊本文参照

表Ⅰ－48－1　血清トリグリセライド値の大学別平均値・標準偏差等(測定値を対数変換して計算したもの)　男

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	(log)標準偏差	平均値＋2×標準偏差
2	204	69.5	64.6	＋0.979	3.871	0.434	165.6
4	80	103.0	101.4	＋0.663	2.873	0.422	239.3
9	702	85.2	81.4	＋0.506	2.924	0.419	197.0
		84.8*				0.454*	210.4*

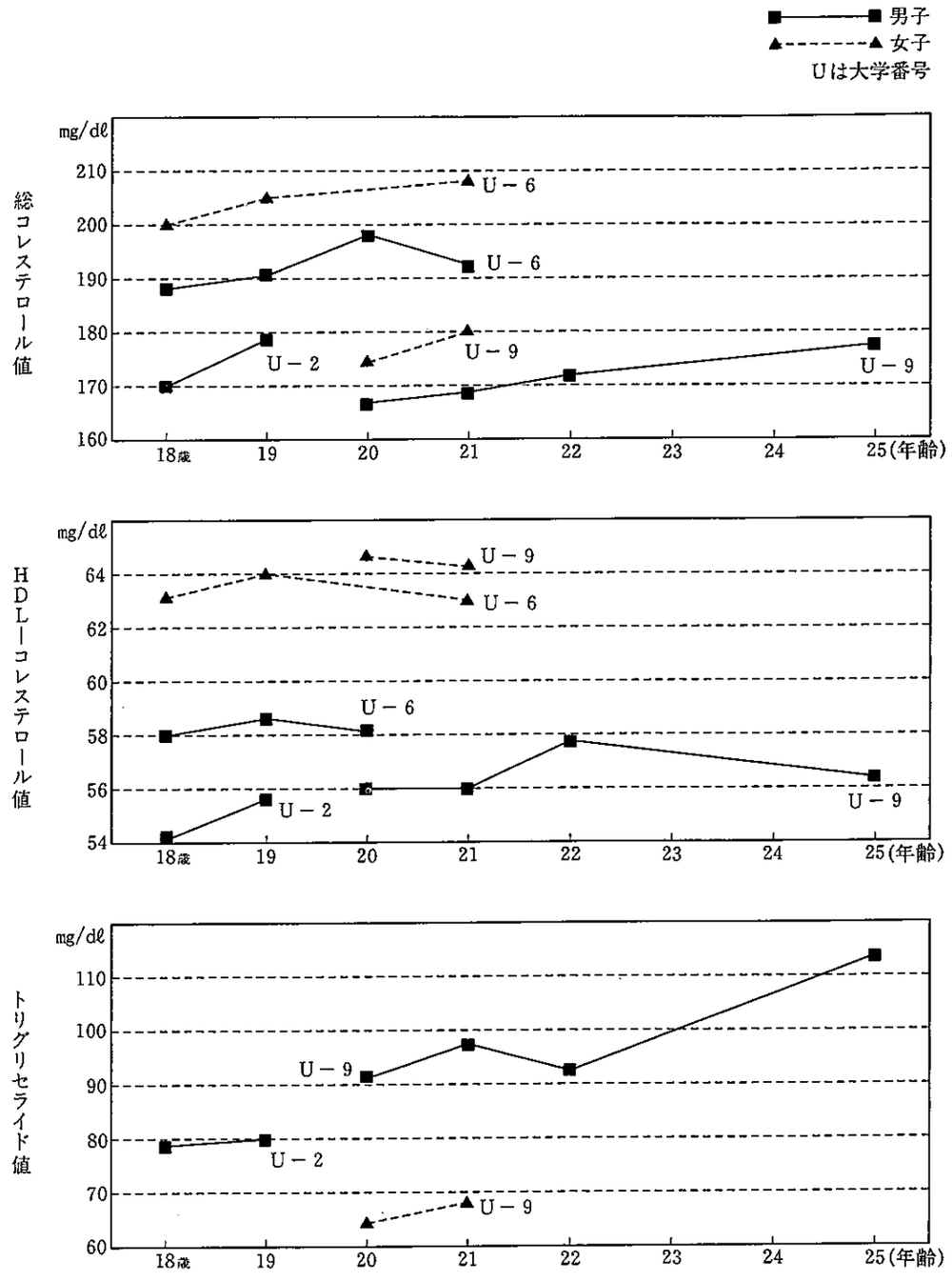
(注)＊本文参照

表Ⅰ－48－2　血清トリグリセライド値の大学別平均値・標準偏差等(測定値を対数変換して計算したもの)　女

大学番号	受検者数	平均値	中央値	ひずみ度	とがり度	(log)標準偏差	平均値＋2×標準偏差
2	52	57.3	51.8	＋0.997	2.798	0.357	117.1
4	123	90.6	85.9	＋0.950	4.102	0.356	184.7
9	299	61.0	59.4	＋0.831	4.011	0.324	116.6
		68.2*				0.401*	152.0*

(注)＊本文参照

図Ⅰ－4　血清総コレステロール値等の年齢による変動



(注) 1年齢20名以上，2年齢以上のデータがある大学について，その平均値をプロットした。

表Ⅰ－49　肥満およびやせの頻度　性・年齢別

〔56校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	るいそう危険域 実数	るいそう危険域 %	標準的体重域 実数	標準的体重域 %	肥満要注意域 実数	肥満要注意域 %	肥満危険域 実数	肥満危険域 %
総数		183,081	130,627	71.3	7,223	5.5	111,830	85.6	7,380	5.6	4,194	3.2
男		139,322	97,390	69.9	4,460	4.6	82,865	85.1	6,256	6.4	3,809	3.9
女		43,759	33,237	76.0	2,763	8.3	28,965	87.1	1,124	3.4	385	1.2
18 歳	男	20,125	18,116	90.0	1,079	6.0	15,202	83.9	1,087	6.0	748	4.1
	女	10,143	9,518	93.8	830	8.7	8,182	86.0	372	3.9	134	1.4
19	男	30,607	22,077	72.1	1,026	4.6	18,714	84.8	1,415	6.4	922	4.2
	女	10,265	7,093	69.1	475	6.7	6,306	88.9	231	3.3	81	1.1
20	男	29,625	17,223	58.1	714	4.1	14,860	86.3	1,029	6.0	620	3.6
	女	10,091	6,255	62.0	492	7.9	5,477	87.6	216	3.5	70	1.1
21	男	29,775	21,455	72.1	890	4.1	18,465	86.1	1,351	6.3	749	3.5
	女	9,202	7,487	81.4	708	9.5	6,508	86.9	209	2.8	62	0.8
22	男	16,270	11,913	73.2	463	3.9	10,165	85.3	824	6.9	461	3.9
	女	2,934	2,335	79.6	207	8.9	2,021	86.6	78	3.3	29	1.2
23	男	6,841	3,949	57.7	180	4.6	3,279	83.0	309	7.8	181	4.6
	女	578	322	55.7	28	8.7	275	85.4	12	3.7	7	2.2
24	男	2,835	1,374	48.5	65	4.7	1,144	83.3	109	7.9	56	4.1
	女	236	103	43.6	7	6.8	93	90.3	2	1.9	1	1.0
25 以上	男	3,244	1,283	39.5	43	3.4	1,036	80.7	132	10.3	72	5.6
	女	310	124	40.0	16	12.9	103	83.1	4	3.2	1	0.8

(注) 肥満，やせの判定には，「肥満・やせの判定基準体重表」(厚生省栄養課，1971) を用いた。

表Ⅰ－50　内科検診における理学的異常所見を有する者の頻度　性別

〔27校集計〕

理学的所見		対象者数	受検者数	受検率	有所見者 実数	有所見者 %	理学的所見		対象者数	受検者数	受検率	有所見者 実数	有所見者 %
貧血 (25校)	総数	74,181	53,423	72.0	246	0.46	不整脈 (6校)	総数	18,172	14,906	82.0	47	0.32
	男	54,513	38,550	70.7	57	0.15		男	14,662	11,790	80.4	43	0.36
	女	19,668	14,873	75.6	189	1.27		女	3,510	3,116	88.8	4	0.13
黄疸 (19校)	総数	57,596	42,727	74.2	11	0.03	肝腫 (7校)	総数	22,148	16,208	73.2	52	0.32
	男	43,844	31,857	72.7	8	0.03		男	16,453	11,802	71.7	33	0.28
	女	13,752	10,870	79.0	3	0.03		女	5,695	4,406	77.4	19	0.43
浮腫 (16校)	総数	36,690	25,922	70.7	43	0.17	脊柱形態異常 (18校)	総数	50,229	38,754	77.2	130	0.34
	男	26,768	18,484	69.1	26	0.14		男	38,345	29,217	76.2	91	0.31
	女	9,922	7,438	75.0	17	0.23		女	11,884	9,537	80.3	39	0.41
甲状腺腫 (22校)	総数	71,271	53,346	74.8	351	0.66	胸郭形態異常 (18校)	総数	50,229	38,754	77.2	50	0.13
	男	54,458	40,217	73.8	73	0.18		男	38,345	29,217	76.2	45	0.15
	女	16,813	13,129	78.1	278	2.12		女	11,884	9,537	80.3	5	0.05
心雑音 (25校)	総数	68,267	51,435	75.3	311	0.60	四肢機能障害 (15校)	総数	42,070	33,539	79.7	21	0.06
	男	51,715	38,476	74.4	240	0.62		男	32,998	25,728	78.0	15	0.06
	女	16,552	12,959	78.3	71	0.55		女	9,072	7,811	86.1	6	0.08

(注) 本集計は，表示した各種理学的異常所見ごとに，受検者全員について診察した大学の集計である（そのため理学的異常所見ごとに集計大学数が異なる）。

表Ⅰ－51　眼科検診における疾病異常者の頻度　性別

〔13校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	斜視		結膜炎		霰粒腫		麦粒腫		涙のう炎		角膜異常	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	32,367	23,674	73.1	37	0.16	211	0.89	43	0.18	14	0.06	-	-	3	0.01
男	25,109	18,011	71.7	31	0.17	170	0.94	33	0.18	12	0.07	-	-	2	0.01
女	7,258	5,663	78.0	6	0.11	41	0.72	10	0.18	2	0.04	-	-	1	0.02

表Ⅰ－52　耳鼻咽喉科検診における疾病異常者の頻度　性別

〔8校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	慢性中耳炎		中耳カタル		外耳道炎		慢性副鼻腔炎		慢性鼻炎		鼻中隔弯曲症		鼻アレルギー		咽頭炎		慢性扁桃炎		扁桃肥大	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	23,108	17,555	76.0	17	0.10	2	0.01	8	0.05	78	0.44	231	1.32	86	0.49	311	1.77	19	0.11	75	0.43	50	0.28
男	18,847	14,320	76.0	16	0.11	2	0.01	8	0.06	66	0.46	184	1.28	78	0.54	248	1.73	18	0.13	60	0.42	37	0.26
女	4,261	3,235	75.9	1	0.03	-	-	-	-	12	0.37	47	1.45	8	0.25	63	1.95	1	0.03	15	0.46	13	0.40

表Ⅰ－53　う蝕罹患状態　性・年齢別

〔9校集計〕

		対象者数	受検者数	受検率	う歯のある者						う歯のない者***	
					総数		未処置歯のある者*		処置を完了している者**			
					実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数		20,109	11,836	58.9	11,305	95.5	5,695	48.1	5,610	47.4	531	4.5
男		15,674	9,287	59.3	8,839	95.2	4,716	50.8	4,123	44.4	448	4.8
女		4,435	2,549	57.5	2,466	96.7	979	38.4	1,487	58.3	83	3.3
18歳	男	2,637	2,419	91.7	2,254	93.2	966	39.9	1,288	53.3	165	6.8
	女	889	827	93.0	775	93.7	250	30.2	525	63.5	52	6.3
19	男	2,814	2,054	73.0	1,946	94.7	927	45.1	1,019	49.6	108	5.3
	女	1,005	473	47.1	460	97.3	152	32.1	308	65.1	13	2.7
20	男	2,514	1,190	47.3	1,139	95.7	636	53.4	503	42.3	51	4.3
	女	867	404	46.6	390	96.5	172	42.6	218	54.0	14	3.5
21	男	3,480	1,756	50.5	1,694	96.5	1,019	58.0	675	38.5	62	3.5
	女	1,169	645	55.2	642	99.5	309	47.9	333	51.6	3	0.5
22	男	2,190	1,019	46.5	990	97.2	627	61.5	363	35.6	29	2.8
	女	349	157	45.0	156	99.4	76	48.4	80	51.0	1	0.6
23	男	1,068	410	38.4	387	94.4	264	64.4	123	30.0	23	5.6
	女	87	20	23.0	20	100.0	9	45.0	11	55.0	-	-
24	男	461	182	39.5	179	98.4	118	64.8	61	33.5	3	1.6
	女	33	8	24.2	8	100.0	4	50.0	4	50.0	-	-
25以上	男	510	257	50.4	250	97.3	159	61.9	91	35.4	7	2.7
	女	36	15	41.7	15	100.0	7	46.7	8	53.3	-	-

(注)
1．う歯＜未処置(う)歯　＊　1歯でも未処置歯(う)歯($C_{1\sim4}$)のある者
　　処置歯　＊＊　う歯はすべて処置済み(処置歯)であって，未処置歯のない者
　　＊＊＊　未処置う歯も処置歯もない者。健全歯のみの者
2．%は受検者に対する割合

表Ⅰ－54　う蝕罹患状態の比較（3大学，20歳）

		対象者数	受検者数	受検率	う歯のある者 総数 実数	総数 %	未処置歯のある者* 実数	未処置歯のある者* %	処置を完了している者** 実数	処置を完了している者** %	う歯のない者*** 実数	う歯のない者*** %
北海道大学	総数	834	403	48.3	396	98.3	259	64.3	137	34.0	7	1.7
	男	671	310	46.2	304	98.1	202	65.2	102	32.9	6	1.9
	女	163	93	57.1	92	98.9	57	61.3	35	37.6	1	1.1
名古屋大学	総数	1,017	550	54.1	516	93.8	284	51.6	232	42.2	34	6.2
	男	822	440	53.5	411	93.4	233	53.0	178	40.4	29	6.6
	女	195	110	56.4	105	95.5	51	46.4	54	49.1	5	4.5
長崎大学	総数	455	123	27.0	121	98.4	67	54.5	54	43.9	2	1.6
	男	395	105	26.6	103	98.1	58	55.2	45	42.9	2	1.9
	女	60	18	30.0	18	100.0	9	50.0	9	50.0	-	-

(注) 1．*，**，***は，表Ⅰ－53の(注)を参照
2．%は受検者に対する割合

表Ⅰ－55　歯周疾患の罹患状態（2大学）

	東京大学 受検者数	東京大学 歯周疾患の罹患者率	北海道大学 受検者数	北海道大学 歯周疾患の罹患者率
総数	3,059	46.0	1,357	45.0
男	2,802	46.7	1,196	47.8
女	257	38.1	161	24.7
18歳 男	1,322	43.6		
18歳 女	177	38.4		
19 男	1,207	49.0		
19 女	75	40.0		
20 男	222	50.5	310	49.8
20 女	3	-	93	22.3
21 男	27	40.7	291	49.5
21 女	-	-	44	34.1
22 男	7	85.7	246	50.0
22 女	-	-	13	-
23 男	6	100.0	133	39.1
23 女	-	-	4	-
24 男	2	50.0	74	48.6
24 女	1	-	-	-
25以上 男	9	66.7	142	43.4
25以上 女	1	-	7	57.1

表Ⅰ－56　身長・体重の平均値および標準偏差　性・年齢別

〔70校集計〕

男

	18歳	19	20	21	22	23	24	25
身長 (cm)								
対象者数	27,571	42,968	40,843	41,073	22,656	9,709	4,174	4,205
受検者数	25,161	32,027	24,668	29,282	16,155	5,833	2,269	1,713
平均値	170.82	170.85	170.86	170.86	170.79	170.78	170.66	170.58
標準偏差	5.53	5.50	5.59	5.58	5.49	5.52	5.49	5.31
体重 (kg)								
対象者数	28,355	44,091	41,243	41,651	22,969	9,777	4,188	4,217
受検者数	25,929	32,765	24,878	29,793	16,406	5,916	2,288	1,721
平均値	62.50	62.73	62.81	62.99	63.20	63.61	63.52	64.28
標準偏差	8.12	8.01	7.69	7.71	7.79	8.05	7.86	8.17

女

〔72校集計〕

	18歳	19	20	21	22	23	24	25
身長 (cm)								
対象者数	13,299	14,228	13,436	12,989	4,103	898	345	388
受検者数	12,486	10,524	8,983	10,583	3,014	520	182	141
平均値	158.17	158.19	157.93	157.92	157.91	157.96	158.11	157.54
標準偏差	4.94	4.91	4.88	4.89	5.09	4.99	4.58	4.96
体重 (kg)								
対象者数	13,704	14,710	13,512	13,328	4,174	900	345	389
受検者数	12,863	10,847	8,775	10,776	3,053	516	182	137
平均値	51.84	51.84	51.33	51.00	51.03	50.95	50.75	50.23
標準偏差	5.91	5.78	5.63	5.53	5.77	5.94	5.01	5.90

表Ⅰ－57－1　身長の分布　性・年齢別　男

〔70校集計〕

18歳	対象者数	受検者数	受検率	149.9cm以下 実数	%	150.0~150.9 実数	%	151.0~151.9 実数	%	152.0~152.9 実数	%	153.0~153.9 実数	%	154.0~154.9 実数	%	155.0~155.9 実数	%	156.0~156.9 実数	%	157.0~157.9 実数	%	158.0~158.9 実数	%	159.0~159.9 実数	%	160.0~160.9 実数	%	161.0~161.9 実数	%
19	42,968	32,027	74.5	6	0.01	5	0.01	1	0.00	13	0.04	15	0.04	22	0.06	29	0.09	59	0.18	102	0.31	159	0.49	247	0.77	444	1.38	559	1.74
20	40,843	24,668	60.4	9	0.03	1	0.00	10	0.04	7	0.02	19	0.07	19	0.07	38	0.15	47	0.19	79	0.32	140	0.56	184	0.74	359	1.45	378	1.53
21	41,073	29,282	71.3	9	0.03	5	0.01	2	0.01	7	0.02	16	0.05	17	0.05	51	0.17	73	0.24	108	0.36	160	0.54	231	0.78	385	1.31	482	1.64
22	22,656	16,155	71.3	2	0.01	1	0.01	3	0.01	2	0.01	9	0.05	15	0.09	26	0.16	35	0.21	53	0.32	82	0.50	115	0.71	206	1.27	283	1.75
23	9,709	5,833	60.1	1	0.01	1	0.01	-	-	2	0.03	4	0.06	2	0.03	10	0.17	13	0.22	22	0.37	39	0.66	53	0.90	71	1.21	98	1.68
24	4,174	2,269	54.4	1	0.04	1	0.04	-	-	-	-	1	0.04	1	0.04	4	0.17	7	0.30	9	0.39	12	0.52	15	0.66	37	1.63	39	1.71
25	4,205	1,713	40.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.11	-	-	3	0.17	6	0.35	12	0.70	11	0.64	32	1.86	25	1.45

18歳	162.0~162.9 実数	%	163.0~163.9 実数	%	164.0~164.9 実数	%	165.0~165.9 実数	%	166.0~166.9 実数	%	167.0~167.9 実数	%	168.0~168.9 実数	%	169.0~169.9 実数	%	170.0~170.9 実数	%	171.0~171.9 実数	%	172.0~172.9 実数	%	173.0~173.9 実数	%	174.0~174.9 実数	%	175.0~175.9 実数	%	176.0~176.9 実数	%
19	729	2.27	979	3.05	1,194	3.72	1,562	4.87	1,664	5.19	1,911	5.96	2,194	6.85	2,121	6.62	2,594	8.09	2,206	6.88	2,230	6.96	2,000	6.24	1,798	5.61	1,645	5.13	1,281	3.99
20	576	2.33	801	3.24	968	3.92	1,182	4.79	1,222	4.95	1,463	5.93	1,643	6.66	1,580	6.40	2,044	8.28	1,662	6.73	1,695	6.87	1,575	6.38	1,392	5.64	1,198	4.85	1,013	4.10
21	651	2.22	957	3.26	1,128	3.85	1,461	4.83	1,465	5.00	1,747	5.96	1,963	6.70	1,865	6.36	2,408	8.22	2,058	7.02	1,999	6.82	1,837	6.27	1,600	5.46	1,440	4.91	1,221	4.16
22	387	2.39	521	3.22	618	3.82	809	5.00	785	4.85	969	5.99	1,089	6.74	1,109	6.85	1,342	8.30	1,139	7.05	1,122	6.94	1,034	6.40	877	5.42	758	4.69	637	3.94
23	132	2.26	170	2.91	245	4.20	281	4.81	285	4.88	341	5.84	413	7.08	372	6.37	515	8.82	403	6.90	384	6.58	351	6.01	338	5.79	278	4.76	242	4.14
24	49	2.15	63	2.77	91	4.01	107	4.71	139	6.12	129	5.68	156	6.87	147	6.47	207	9.12	162	7.13	166	7.31	132	5.81	119	5.24	110	4.84	78	3.43
25	44	2.56	55	3.21	78	4.55	-	-	91	5.31	100	5.83	86	5.02	84	4.90	189	11.03	108	6.30	116	6.77	109	6.36	86	5.02	37	1.86	75	4.37

18歳	177.0~177.9 実数	%	178.0~178.9 実数	%	179.0~179.9 実数	%	180.0~180.9 実数	%	181.0~181.9 実数	%	182.0~182.9 実数	%	183.0~183.9 実数	%	184.0~184.9 実数	%	185.0~185.9 実数	%	186.0~186.9 実数	%	187.0~187.9 実数	%	188.0~188.9 実数	%	189.0~189.9 実数	%	190.0以上 実数	%
19	1,041	3.25	937	2.92	603	1.88	609	1.90	346	1.08	262	0.81	187	0.58	106	0.33	61	0.19	57	0.17	28	0.08	9	0.02	4	0.01	8	0.02
20	802	3.25	735	2.97	473	1.91	507	2.05	280	1.13	194	0.78	143	0.57	91	0.36	56	0.22	30	0.12	28	0.11	11	0.04	6	0.02	8	0.03
21	978	3.33	770	2.62	605	2.06	593	2.02	357	1.21	242	0.82	166	0.56	100	0.34	72	0.24	40	0.13	27	0.09	13	0.04	6	0.02	12	0.04
22	523	3.23	462	2.85	307	1.90	334	2.06	170	1.05	96	0.59	83	0.51	59	0.36	44	0.27	23	0.14	7	0.04	10	0.06	5	0.03	4	0.02
23	199	3.41	168	2.88	107	1.83	96	1.64	66	1.13	54	0.92	31	0.53	21	0.36	8	0.13	8	0.13	3	0.05	5	0.08	-	-	1	0.01
24	89	3.92	51	2.24	44	1.93	31	1.36	17	0.74	19	0.83	14	0.61	9	0.39	2	0.08	4	0.17	2	0.08	4	0.17	-	-	1	0.04
25	44	2.56	37	2.15	32	1.86	32	1.86	15	0.87	8	0.46	4	0.23	3	0.17	8	0.46	2	0.11	2	0.11	-	-	-	-	-	-

(注) %は受検者に対する割合

表Ⅰ－57－2　身長の分布　性・年齢別　女

〔72校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	139.9cm以下		140.0～140.9		141.0～141.9		142.0～142.9		143.0～143.9		144.0～144.9		145.0～145.9		146.0～146.9		147.0～147.9		148.0～148.9		149.0～149.9		150.0～150.9		151.0～151.9	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	13,299	12,486	93.9	1	0.01	3	0.02	5	0.04	6	0.05	9	0.07	19	0.15	31	0.24	56	0.44	109	0.87	127	1.01	181	1.44	351	2.81	402	3.21
19	14,228	10,524	74,0	2	0.01	-	-	-	-	9	0.08	9	0.08	7	0.06	40	0.38	51	0.48	73	0.69	118	1.12	138	1.31	269	2.55	358	3.40
20	13,436	8,983	66.9	1	0.01	2	0.02	3	0.03	7	0.07	6	0.06	21	0.23	26	0.28	41	0.45	70	0.77	101	1.12	142	1.58	243	2.70	326	3.62
21	12,989	10,583	81.5	-	-	2	0.01	4	0.03	7	0.06	9	0.08	16	0.15	34	0.32	51	0.48	74	0.69	133	1.25	173	1.63	318	3.00	354	3.34
22	4,103	3,014	73.5	1	0.03	2	0.06	-	-	2	0.06	1	0.03	6	0.19	12	0.39	17	0.56	30	0.99	40	1.32	54	1.79	86	2.85	94	3.11
23	898	520	57.9	-	-	-	-	1	0.19	-	-	2	0.38	-	-	2	0.38	2	0.38	1	0.19	7	1.34	11	2.11	22	4.23	18	3.46
24	345	182	52.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.54	2	1.09	3	1.64	3	1.64	4	2.19	5	2.74
25	388	141	36.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.71	-	-	1	0.71	1	0.71	5	3.55	8	5.67	3	2.13

	152.0～152.9		153.0～153.9		154.0～154.9		155.0～155.9		156.0～156.9		157.0～157.9		158.0～158.9		159.0～159.9		160.0～160.9		161.0～161.9		162.0～162.9		163.0～163.9		164.0～164.9		165.0～165.9		166.0～166.9	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	545	4.36	672	5.38	759	6.07	828	6.63	924	7.40	1,079	8.64	1,057	8.46	916	7.33	913	7.31	771	6.17	685	5.48	576	4.61	442	3.53	327	2.61	214	1.71
19	433	4.11	565	5.36	670	6.36	752	7.14	764	7.25	879	8.35	880	8.36	764	7.25	763	7.25	718	6.82	567	5.38	472	4.48	349	3.31	295	2.80	191	1.81
20	420	4.67	479	5.33	577	6.42	676	7.52	686	7.63	749	8.33	739	8.22	676	7.52	645	7.18	525	5.84	470	5.23	412	4.59	281	3.12	212	2.36	159	1.77
21	480	4.53	617	5.83	663	6.26	810	7.65	764	7.21	900	8.50	869	8.21	761	7.19	761	7.19	647	6.11	562	5.31	462	4.36	344	3.25	243	2.29	163	1.54
22	141	4.67	185	6.13	189	6.27	226	7.49	237	7.86	224	7.43	242	8.02	221	7.33	199	6.60	167	5.54	172	5.70	125	4.14	100	3.31	77	2.55	47	1.55
23	18	3.46	29	5.57	34	6.53	32	6.15	40	7.69	36	6.92	47	9.03	37	7.11	37	7.11	30	5.76	37	7.11	22	4.23	16	3.07	13	2.50	5	0.96
24	10	5.49	10	5.49	6	3.29	11	6.04	12	6.59	15	8.24	12	6.59	26	14.29	13	7.14	16	8.79	12	6.59	9	4.94	3	1.64	2	1.09	2	1.09
25	7	4.96	12	8.51	6	4.25	12	8.51	10	7.10	4	2.84	19	13.47	9	6.38	10	7.10	7	4.96	7	4.96	7	4.96	4	2.84	1	0.71	3	2.13

	167.0～167.9		168.0～168.9		169.0～169.9		170.0～170.9		171.0～171.9		172.0～172.9		173.0～173.9		174.0～174.9		175.0～175.9		176.0～176.9		177.0～177.9		178.0～178.9		179.0～179.9		180.0以上	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	178	1.42	134	1.07	53	0.42	38	0.30	29	0.23	13	0.10	13	0.10	12	0.09	2	0.01	4	0.03	-	-	-	-	1	0.01	1	0.01
19	131	1.24	107	1.01	65	0.61	30	0.28	16	0.15	11	0.10	9	0.08	8	0.07	4	0.03	-	-	5	0.04	1	0.01	1	0.01	-	-
20	117	1.30	68	0.75	42	0.46	19	0.21	15	0.16	8	0.08	5	0.05	7	0.07	4	0.04	2	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.01
21	132	1.24	95	0.89	66	0.62	30	0.28	15	0.14	6	0.05	9	0.08	5	0.04	1	0.01	2	0.01	-	-	-	-	1	0.01	-	-
22	31	1.02	36	1.19	17	0.56	9	0.29	7	0.23	9	0.29	3	0.09	2	0.06	-	-	2	0.06	1	0.03	-	-	-	-	-	-
23	7	1.34	8	1.53	3	0.57	3	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	2	1.09	-	-	2	1.09	1	0.54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25	1	0.71	-	-	1	0.71	1	0.71	-	-	1	0.71	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) %は受検者に対する割合

表Ⅰ－58－1　体重の分布　性・年齢別　男

〔70校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	44.9kg以下		45.0～45.9		46.0～46.9		47.0～47.9		48.0～48.9		49.0～49.9		50.0～50.9		51.0～51.9		52.0～52.9		53.0～53.9		54.0～54.9		55.0～55.9		56.0～56.9		57.0～57.9		58.0～58.9	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	28,355	25,929	91.4	63	0.24	63	0.24	79	0.30	110	0.42	169	0.65	237	0.91	418	1.61	487	1.87	620	2.39	813	3.13	916	3.53	1,208	4.65	1,264	4.87	1,326	5.11	1,440	5.55
19	44,091	32,765	74.3	65	0.19	57	0.17	68	0.20	147	0.44	196	0.59	261	0.79	479	1.46	523	1.59	798	2.43	978	2.98	1,122	3.42	1,443	4.40	1,501	4.58	1,739	5.30	1,880	5.73
20	41,243	24,878	60.3	34	0.13	43	0.17	50	0.20	110	0.44	122	0.49	184	0.73	308	1.23	392	1.57	564	2.26	685	2.75	838	3.36	1,029	4.13	1,126	4.52	1,323	5.31	1,351	5.43
21	41,651	29,793	71.5	37	0.12	39	0.13	56	0.18	99	0.33	154	0.51	219	0.73	369	1.23	452	1.51	619	2.07	850	2.85	986	3.30	1,170	3.92	1,311	4.40	1,472	4.94	1,618	5.43
22	22,969	16,406	71.4	20	0.12	22	0.13	21	0.12	49	0.29	84	0.51	117	0.71	183	1.11	215	1.31	358	2.18	425	2.59	536	3.26	665	4.05	702	4.27	811	4.94	878	5.35
23	9,777	5,916	60.5	12	0.20	7	0.11	11	0.18	15	0.25	27	0.45	41	0.69	59	0.99	79	1.33	127	2.14	158	2.67	180	3.04	218	3.68	257	4.34	263	4.44	312	5.27
24	4,188	2,288	54.6	4	0.17	3	0.13	6	0.26	5	0.21	8	0.34	24	1.04	29	1.26	32	1.39	48	2.09	55	2.40	77	3.36	92	4.02	85	3.71	97	4.23	114	4.98
25	4,217	1,721	40.8	3	0.17	-	-	1	0.05	2	0.11	11	0.63	15	0.87	18	1.04	28	1.62	23	1.33	34	1.97	47	2.73	66	3.83	58	3.37	63	3.66	79	4.59

	59.0～59.9		60.0～60.9		61.0～61.9		62.0～62.9		63.0～63.9		64.0～64.9		65.0～65.9		66.0～66.9		67.0～67.9		68.0～68.9		69.0～69.9		70.0～70.9		71.0～71.9		72.0～72.9		73.0～73.9		74.0～74.9	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	1,438	5.54	1,570	6.05	1,441	5.55	1,395	5.38	1,333	5.14	1,242	4.79	1,190	4.58	973	3.75	903	3.48	763	2.94	612	2.36	564	2.17	429	1.65	420	1.61	350	1.34	292	1.12
19	1,709	5.21	2,022	6.17	1,761	5.37	1,789	5.46	1,728	5.27	1,590	4.85	1,594	4.86	1,184	3.61	1,147	3.50	1,036	3.16	799	2.43	807	2.46	606	1.84	588	1.79	504	1.53	417	1.27
20	1,302	5.23	1,540	6.19	1,338	5.37	1,393	5.59	1,406	5.65	1,273	5.11	1,257	5.05	1,007	4.04	936	3.76	863	3.46	641	2.57	641	2.57	451	1.81	456	1.83	339	1.36	309	1.24
21	1,614	5.41	1,844	6.18	1,621	5.44	1,685	5.65	1,664	5.58	1,488	4.99	1,603	5.38	1,188	3.98	1,057	3.54	979	3.28	839	2.81	801	2.68	612	2.05	557	1.86	453	1.52	367	1.23
22	918	5.59	993	6.05	911	5.55	905	5.51	882	5.37	807	4.91	861	5.24	644	3.92	635	3.87	576	3.51	424	2.58	437	2.66	328	1.99	329	2.00	253	1.54	208	1.26
23	283	4.78	332	5.61	301	5.08	343	5.79	304	5.13	326	5.51	330	5.57	226	3.82	238	4.02	215	3.65	157	2.65	173	2.92	125	2.11	117	1.97	115	1.94	80	1.35
24	112	4.89	136	5.94	110	4.80	121	5.28	95	4.15	138	6.03	121	5.28	109	4.76	106	4.63	77	3.36	59	2.57	77	3.36	39	1.70	46	2.00	49	2.14	39	1.70
25	77	4.47	110	6.39	105	6.10	78	4.53	91	5.28	91	5.28	87	5.05	72	4.18	61	3.54	72	4.18	61	3.54	60	3.48	48	2.78	37	2.14	28	1.62	29	1.68

	75.0～75.9		76.0～76.9		77.0～77.9		78.0～78.9		79.0～79.9		80.0～80.9		81.0～81.9		82.0～82.9		83.0～83.9		84.0～84.9		85.0～85.9		86.0～86.9		87.0～87.9		88.0～88.9		89.0～89.9		90.0以上	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	319	1.23	216	0.83	169	0.65	156	0.60	116	0.44	128	0.49	86	0.33	86	0.33	63	0.24	60	0.23	65	0.25	30	0.11	37	0.14	25	0.09	37	0.01	208	0.80
19	378	1.15	293	0.89	231	0.70	195	0.59	152	0.46	131	0.39	87	0.26	120	0.36	96	0.29	74	0.22	82	0.25	55	0.16	32	0.09	32	0.09	37	0.11	232	0.70
20	266	1.06	203	0.81	170	0.68	154	0.61	92	0.36	138	0.55	65	0.26	69	0.27	56	0.22	48	0.19	55	0.22	26	0.10	28	0.11	33	0.13	23	0.09	141	0.56
21	358	1.20	262	0.87	203	0.68	195	0.65	117	0.39	168	0.56	86	0.28	78	0.26	76	0.25	63	0.21	62	0.20	42	0.14	36	0.12	24	0.08	30	0.10	170	0.57
22	213	1.29	143	0.87	141	0.85	122	0.74	72	0.43	110	0.67	56	0.34	62	0.37	42	0.25	33	0.20	41	0.24	16	0.09	23	0.14	22	0.13	8	0.04	105	0.64
23	92	1.55	56	0.94	44	0.74	38	0.64	38	0.64	33	0.55	28	0.47	25	0.42	15	0.25	18	0.30	16	0.27	9	0.15	8	0.13	11	0.18	12	0.20	42	0.70
24	27	1.18	24	1.04	21	0.91	18	0.78	11	0.48	16	0.69	7	0.30	7	0.30	9	0.39	5	0.21	9	0.39	2	0.08	4	0.17	4	0.17	2	0.08	9	0.39
25	24	1.39	25	1.45	19	1.10	13	0.75	14	0.81	21	1.22	8	0.46	5	0.29	8	0.46	1	0.05	7	0.40	1	0.05	4	0.23	2	0.11	4	0.23	10	0.58

(注) %は受検者に対する割合

表Ⅰ－58－2　体重の分布　性・年齢別　女

〔72校集計〕

	対象者数	受検者数	受検率	34.9kg以下		35.0～35.9		36.0～36.9		37.0～37.9		38.0～38.9		39.0～39.9		40.0～40.9		41.0～41.9		42.0～42.9		43.0～43.9		44.0～44.9		45.0～45.9		46.0～46.9	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	13,704	12,863	93.9	2	0.01	5	0.03	12	0.09	24	0.18	29	0.22	65	0.50	97	0.75	151	1.17	251	1.95	338	2.62	411	3.19	594	4.61	612	4.75
19	14,710	10,847	73.7	4	0.03	6	0.05	6	0.05	10	0.09	26	0.23	39	0.35	89	0.82	108	0.99	200	1.84	258	2.37	349	3.21	525	4.84	494	4.55
20	13,512	8,775	64.9	5	0.05	3	0.03	5	0.05	10	0.11	20	0.22	43	0.49	74	0.84	120	1.36	184	2.09	277	3.15	286	3.25	407	4.63	507	5.77
21	13,328	10,776	80.9	1	0.01	3	0.02	3	0.02	17	0.15	31	0.28	50	0.46	123	1.14	154	1.42	217	2.01	337	3.12	435	4.03	557	5.16	627	5.81
22	4,174	3,053	73.1	3	0.09	1	0.03	1	0.03	3	0.09	9	0.29	18	0.58	37	1.21	29	0.94	69	2.26	110	3.60	124	4.06	153	5.01	172	5.63
23	900	516	57.3	-	-	-	-	-	-	1	0.19	1	0.19	5	0.96	6	1.16	8	1.55	11	2.13	25	4.84	22	4.26	28	5.42	21	4.06
24	345	182	52.8	-	-	-	-	-	-	1	0.54	-	-	1	0.54	2	1.09	3	1.64	-	-	2	1.09	8	4.39	12	6.59	12	6.59
25	389	137	35.2	1	0.72	-	-	1	0.72	-	-	1	0.72	2	1.45	2	1.45	1	0.72	2	1.45	6	4.37	6	4.37	11	8.02	11	8.02

	47.0～47.9		48.0～48.9		49.0～49.9		50.0～50.9		51.0～51.9		52.0～52.9		53.0～53.9		54.0～54.9		55.0～55.9		56.0～56.9		57.0～57.9		58.0～58.9		59.0～59.9		60.0～60.9		61.0～61.9	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	771	5.99	886	6.88	873	6.78	975	7.57	823	6.39	906	7.04	903	7.02	677	5.26	675	5.24	533	4.14	488	3.79	412	3.20	283	2.20	243	1.88	158	1.22
19	661	6.09	738	6.80	769	7.08	795	7.32	742	6.84	765	7.05	743	6.84	652	6.01	608	5.60	441	4.06	388	3.57	352	3.24	229	2.11	193	1.77	130	1.19
20	585	6.66	597	6.80	607	6.91	719	8.19	583	6.64	594	6.76	580	6.60	485	5.52	451	5.13	357	4.06	315	3.58	241	2.74	162	1.84	136	1.54	90	1.02
21	693	6.43	855	7.93	793	7.35	855	7.93	691	6.41	770	7.14	700	6.49	560	5.19	512	4.75	383	3.55	342	3.17	284	2.63	189	1.75	135	1.25	99	0.91
22	252	8.25	215	7.04	212	6.94	229	7.50	189	6.19	191	6.25	203	6.64	162	5.30	141	4.61	122	3.99	88	2.88	88	2.88	53	1.73	41	1.34	26	0.85
23	34	6.58	36	6.97	39	7.55	42	8.13	39	7.55	34	6.58	31	6.00	26	5.03	19	3.68	17	3.29	13	2.51	12	2.32	11	2.13	11	2.13	3	0.58
24	12	6.59	15	8.24	20	10.98	12	6.59	17	9.34	8	4.39	11	6.04	13	7.14	11	6.04	7	3.84	4	2.19	2	1.09	4	2.19	-	-	-	-
25	9	6.56	9	6.56	9	6.56	11	8.02	2	1.45	12	8.75	10	7.29	5	3.64	4	2.91	2	1.45	3	2.18	6	4.37	2	1.45	3	2.18	-	-

	62.0～62.9		63.0～63.9		64.0～64.9		65.0～65.9		66.0～66.9		67.0～67.9		68.0～68.9		69.0～69.9		70.0～70.9		71.0～71.9		72.0～72.9		73.0～73.9		74.0～74.9		75.0以上	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
18 歳	144	1.11	114	0.88	92	0.72	82	0.63	37	0.28	37	0.28	41	0.31	33	0.25	17	0.13	11	0.08	9	0.06	9	0.06	10	0.07	30	0.23
19	120	1.10	86	0.79	76	0.70	71	0.65	35	0.32	28	0.25	26	0.23	18	0.16	11	0.10	7	0.06	16	0.14	6	0.05	7	0.06	20	0.18
20	68	0.77	55	0.62	60	0.68	38	0.43	18	0.20	26	0.29	19	0.21	11	0.12	8	0.09	1	0.01	7	0.07	4	0.04	5	0.05	12	0.13
21	88	0.81	62	0.57	40	0.37	41	0.38	31	0.28	19	0.17	15	0.13	22	0.20	8	0.07	7	0.06	5	0.04	2	0.01	7	0.06	13	0.12
22	21	0.68	16	0.52	13	0.42	18	0.58	6	0.19	9	0.29	3	0.09	3	0.09	4	0.13	1	0.03	4	0.13	1	0.03	5	0.16	8	0.26
23	4	0.77	-	-	4	0.77	5	0.96	-	-	1	0.19	3	0.58	2	0.38	1	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.19
24	-	-	1	0.54	2	1.09	1	0.54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.54	-	-	-	-	-	-	-	-
25	2	1.45	2	1.45	2	1.45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) %は受検者に対する割合

精神健康調査

1．調査の概要

1） はじめに

身体疾患と異なり，大学生の精神健康調査（精神・心理領域の健康診断）について集計を行ったのは3度目であるが，詳しい集計を公表するのは今回が初めてである。そこで報告に先立ち，健康調査方法の推移と意味づけ，および今回の調査の特徴について簡単にふれておきたい。

結核が激減したこの20数年来，大学生においては，傷病による休・退学の原因の第1位が精神障害であり，死因の中では自殺が優位を保っていることから，精神障害に関する予防と対策が急務であると叫ばれてからすでに久しいが，その歩みは遅々としている。

何とか精神障害を早期発見しようと，昭和36年度に東京大学において新入生全員を対象とした，精神科医による「新入学生精神衛生面接」が行われた[1]。これが最初の精神健康調査である。これは翌年から「入学時二段面接法」として整備され[2]，今日でも継続されている。しかし，この方法は多数の精神科医を必要とするので，なかなか普及しなかった。次に登場したのがペーパーによる「心理スクリーニング・テスト」であり，中でも，大学保健管理協会が手がけたUPI（University Personality Inventry）は昭和40年代に実用化の段階に入り，面接法よりは多く用いられるようになった。この2つの方法は，その後やや形を変えながらも存続し，今日では多かれ少なかれ両者を併用するに至っている。しかし，その実施目的は両者とも単なるスクリーニングの手段とはみなされなくなってきている。

かって笠原は，上記UPIの有用性を次の順序で論じた[3]。(1)心身の健康に対する学生の関心を喚起する保健教育的見地，(2)心身の状態について援助を欲しながらも来談の決心がつきかねている相当多くの学生に，こちらから来談のきっかけを与えるという臨床的治療的見地，(3)本人には自覚がないが，医学的に見て明らかに発病の危険が高いと判断される学生を未然に発見する発見予防的見地である，と。これは今日でも，精神健康調査を行う意味として，そのまま当てはまる。

ただ今日では，共通一次試験導入以来さらに増加の傾向がみられる不本意入学，無目的入学，またそれらを生じさせる人格の未熟性なども考慮して，狭義の精神障害や障害様状態ばかりでなく，広く人格形成にかかわる正常者の“悩み”にまで対象を拡げてきているのが実状であろう。したがって，精神健康調査としては，この後者についての結果も出さなければならないであろうが，適当な尺度がみつからないため，今回はとりあえず狭義の精神障害および障害様状態にしぼって調査した。

しかし，この調査結果は，精神障害の罹患率等を明らかにするものではない。それはもともと，精神障害の病理の複雑さ，アプローチの多様性があるからであり，一方実際に保健管理センターにおける精神衛生スタッフが充実していないからである。各大学とも少しでも可能な方

法を模索しながら行っているのが現状で，方法はきわめて多様であり，健康調査の目的にもかなり相違がある。そこでこの報告では，現状における大学生の精神健康の，「健康調査という手続きを通してみた実態」を，「それぞれの大学の調査方法」と併せて報告することにした。

2） 調査の実施率

この健康白書作成に参加した80大学のうち，資料提供は51大学であり，残りの29大学には簡単なアンケートを送付して回答を得た。

80大学中，何らかの形で精神健康調査を行っている大学は58校，73%であったが，このうち3校は一部の学生にのみ行っていたので割愛し，統計のために必要な「学年単位で実施」という条件を満たしている55校，69%について集計を行った。

表II－1は，実施状況を保健管理センターの規模別にみたものである。最も実施率が高いのは規模Bの大学グループであるが，A，Bの差はわずかで，いずれにおいても75%以上で実施されていた。規模Cの大学グループでは41%と低いが，規模によって実施率が相違する理由については，後述の4）でふれたい。

なお，念のため，6年制学部について，表II－1の下段に別に集計した。新設医科大学はまだほとんどが保健管理センター未設置であったため，6年制学部を持つ大学は，31大学中25大学，81%が規模A大学に集中していた。精神健康調査実施率は，全体では74%と上記全学部の場合69%をわずかに上廻っていたが，8割を占める規模A大学において全学部の場合とほぼ同じ76%で，医学部を持つ大学において精神健康調査実施率が高いという結果は得られなかった。

3） 対象学年

精神健康調査は簡単には行い難いので，全学年には実施できないのが一般である。

調査の方法は，学生が自分で記入する様式（これを「記入法」とする）と，主として精神衛生スタッフが学生に面接する様式（これを「面接法」とする）に大別される。各々の様式の対象学年をみると(表II－2の上段)，記入法では55校中45校，82%，面接法では46校中36校，78%が，新入生だけを対象にしていた。しかし，他の学年だけを対象にしている大学はなく，必ず新入生は対象の中に含まれていたので，新入生の実施率はいずれの方法においても100%であった。

なお，6年制学部のみとり出し，別に集計した(表II－2，下段)。新入生だけを対象にしている大学は，記入法74%，面接法71%，であったが，4年制学部と同様，新入生の実施率は両方法とも100%であった。

しかし，昭和59年度に実施した精神健康調査において，新入生以外の学年生について資料提供があったのは1校にすぎず，それもすべての項目に回答してはいなかったので，具体的な数の集計においては他の学年は割愛し，対象を新入生（今回は昭和59年度入学者）に限定することにした。

4） 精神健康調査形態

どのていど積極的に精神健康調査が行われているかについて，前述の「記入法」と「面接法」の組み合せからみたところ，具体的には，次の6通りの調査実施形態が存在した。

a．調査を実施せず

b．記入法のみ実施

c．記入法を実施し，相談希望者のみ面接する

d．記入法を実施し，それを基に要留意者を抽出し，その学生によび出し面接を行う

e．記入法を実施し，上記要留意者と面接希望者の両方に面接する

f．記入法を実施し，かつ全員に面接する

形の上では，aからfへ進むほど手厚い健康調査になる。これを保健管理センターの規模別にみたのが，表II－3である。何らかの結果を出している点で実際に健康調査を行っていると言えるのは，このうち終りのd，e，fの3グループであるが，これは全体で80校中42校，52.5%，規模A大学で32校中20校，62.5%，規模B大学で31校中18校，58.1%，規模C大学で17校中4校，23.5%，であった。

6年制学部を別にとり出してみたところ，全体では31校中18校，58.1%，規模A大学で25校中15校，60.0%，規模B大学で4校中2校，50.0%，規模C大学で2校中1校，50.0%，であった。規模A・B大学で，全学部よりわずかに低率であった。

保健管理センター規模Cの大学で精神健康調査の実施率が低い理由の一つに精神衛生スタッフの充足度が関係しているのではないかと思い，精神衛生スタッフの状況について，今回の調査を通して知り得た資料を昭和60年度の保健管理センター所長会議の調査資料で補って作成したのが，表II－4である。精神衛生スタッフはまず常勤スタッフのみ拾い出し，常勤スタッフのいない場合のみ，非常勤スタッフを拾い出した。規模Cの大学には「精神衛生スタッフなし」が多く，かつそこではd～fの調査は行われていなかった。規模A・B大学には「精神衛生スタッフなし」の大学はなかった。しかし，常勤スタッフがなく非常勤精神科医のみいる場合，規模B大学ではe調査形態で調査を行っている大学が1校あったが，規模A大学ではいかなる形態の調査も実施されていなかった。学生数が多いので，非常勤スタッフでは実施不可能と考えられる。

医学部のある大学で実施率がむしろ低めである一事をみても，各大学にはそれぞれの経緯や事情があり，その時点の精神衛生スタッフの有無や多少だけで調査に積極的であるかどうかがきまるとは言えないが，概して言えば，精神健康調査の手厚さは，学生数に対応する精神衛生スタッフの多さに比例している。

2．記入法の具体的実施状況と結果

ここで「記入法」としたのは，昭和40年代に「スクリーニング・テスト」として始められ，その後「自己記入質問紙法」として発展してきたものの総称である。

今日，臨床心理学の分野で用いてきた既存の「心理テスト」を，そのままの形で用いている大学は少ない。テストの種類にもよるので一概には言えないが，しかし，何といっても理由の一つは，「心理テスト」として充分な力を発揮させ得る形で実施と判定を行うには，対象となる学生の集団が大きすぎるところにある。例えば，MMPI (Minnesota Multiphasic Personality Inventry) が精神障害のスクリーニングに高い評価を持っているとしても，550項目を被検者がチェックするにはほぼ1時間を要し，1,000人以上にも上る大集団に一斉に実施することはほとんど不可能である上，実施されたとしてもその判定を短期間に1～2名の精神衛生スタッフで行うことは更に不可能である。そこで，大学保健管理協会は，その MMPI から日本の大学生向きの項目を抽出して60項目にまとめ，UPI を創作，改版を重ねてA5に至った。これは今日最も多く用いられているが，縮小版であり研究の歴史も浅いため，いまだに評価が一定していない。また，この UPI を含め，現在の精神状態に質問を限る種類の心理テストでは予防を目的に用いる資料として不充分なため，「既往歴」や「家族歴」に相当する資料を収録する目的で，学生にさまざまな記入を求める大学が多くなった。既存のテストの変法や独自の記入法に，こうした傾向が現れている。

1） 記入の時期および回収法と受検率（新入生の場合）

記入法に含まれている心理スクリーニング・テストについては，学生のどの時期の精神状態を写し出すかという点で記入の時期が問題になり，受検率を上げるためには回収法と，回収法にかかわってもう一度記入の時期が問題になる。

記入時期を，Ⅰ．入学前（自宅で記入），Ⅱ．入学直後のオリエンテーションやガイダンス時，Ⅲ．健康診断や心理面接の直前，Ⅳ．授業時間，に4大別して，図Ⅱ－1に結果をまとめた。

受検率は，いずれの時期もほとんどが95%以上の高率であまり差異はなかった。しかし，Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ．とも，方法によっては回収率が下っていた。

2） 記入法の種類

いろいろある記入法の中で，一番多く用いられているのは UPI であり，48校中24校，50%であった。他方，独自のものは19校で用いられていたが，これに既存のテストに独自のものを附加した「変法」を用いている5校を加えると24校になり，48校の半数が独自のものを開発していた（表Ⅱ－5参照）。

3） UPI の代表項目の反応率

ここでは，各大学が用いている記入法の中で最も多く用いられている UPIA5（60項目）のうち，4項目を選び，その反応率を検討した。資料提供は，規模A大学9校，規模B大学8校，規模C大学2校，計19校であったが，そのうち数値にバラツキの多い規模C大学2校を割愛し，17校の資料集計結果を表Ⅱ－6に示す。

代表項目として選んだものは，次の4項目である。

〈8〉自分の過去や家庭は不幸である

〈25〉死にたくなる

〈49〉気を失ったり，ひきつけたりする

〈56〉他人に陰口を言われる

これまでの研究によれば，〈8〉はうつ病圏と神経症，〈25〉は自殺者とうつ病圏，〈56〉は精神分裂病圏において，それぞれ一般学生の3倍以上に高い反応率を示す。また〈49〉は，てんかんと自殺企図を想定した項目である[4]。今回の調査における新入生の全受検者23,020名（男17,676名，女5,344名）の反応率は，〈8〉5.1%，〈25〉3.5%，〈49〉0.4%，〈56〉4.8%であった。

ちなみに，昭和45年の大阪大学の新入生1,937名（男1,775名，女162名）におけるそれぞれの項目の反応率は，〈8〉8.8%，〈25〉9.3%，〈49〉0.6%，〈56〉6.2%であった[4]。これと表Ⅱ－6を比較すると，記入時期別の3グループ（Ⅰ．入学前，Ⅱ．入学直後，Ⅲ．健診・面接直前）のいずれにおいても，平均ではこの数値を下廻っていることがわかる。それも特に〈8〉〈25〉で減少しており，この数値からみる限り，最近の大学新入生は，自分の過去や家庭を不幸に思い，死にたくなることのあった者が減少しているといえる。しかし，〈25〉死にたくなる，にチェックした者がなお平均で3.5%あることは，精神衛生に対する配慮をゆるがせにはできないことを示している。

男女差をみると，特に〈8〉については男子学生が女子学生より反応率が有意に高く（$P<0.0001$），〈25〉〈49〉については逆に女子学生の反応率が有意に高かった（$P<0.0001$）。〈56〉について有意差はなかった。

4） 記入法による要留意率とその判定基準

記入法の段階でどれくらいの学生を要留意と判定したかは，各大学の男女合計で，26.6%から0.5%までバラツキがあった。要留意率がこれほど大きく異なるのは，大学ごとに判定基準が異なることに最大の要因があるのであって，この判定基準の相違はまた，そもそも精神健康調査実施に対する各大学精神衛生スタッフの考え方の相違，実施経験の相違，保健管理センターが行っている精神衛生活動全体の中で精神健康調査に置いているウェイトの相違，などに起因している。

これらの関連をみるために，記入法に基いて要留意者を抽出し，その学生をよび出して面接する精神健康調査形態d，eグループについて，「要留意率」と併せて「要留意の判定基準」

も表II－7－1，2，3にまとめた。資料は要留意者だけをよび出し面接するｄグループ14校中12校，要留意者と面接希望者の両方に面接するｅグループ14校中11校，計23校，これに，全員面接を行うｆグループの中で特に記入法についての判定基準を明記していた２校を加え，合計25校のものである。判定資料が主として UPI であるものを表II－7－1に，CMI(Cornell Medical Index）であるものを表II－７－２に，その他によるものを表II－７－３に収めた。なお，この表II－７で，個々の大学を示す記号には，大学の規模を表わすＡ，Ｂ，Ｃ（表II－１参照）を用い，それに，判定資料が主として UPI である大学にはアラビア数字，CMI である大学にはアルファベットの小文字，その他である大学にはイロハを附した。

対象はすべて昭和59年度新入生に限った。新入生以外の学年の資料提供は１校のみで，昭和58年度以前の古い資料を加えた大学もあったが，すべて割愛した。

また，４年制学部と６年制学部は別々に資料を提供してもらったが，等しく新入生であることから，併せて集計を行った。同じ大学で４年制学部と６年制学部で扱いに違いがあったのは１校のみで，ここでは，６年制学部の新入生に対してのみ，記入法を実施した上で全員面接を行っていた。

「要留意率」は，男女合計の全体の平均は9.5%であった。判定に主として用いる記入法の種類別にみると，UPI に基づくグループで12.0%（表II－７－１），CMI に基づくグループで8.2%（表II－７－２），その他に基づくグループで7.2%（表II－７－３），であった。

「要留意の判定基準」を要約すると，第一に自殺予防と精神病者の発見に心がけ，次に神経症者や入学後の不適応者の発見へと拡大していく姿勢と，とにかく「不適応」という形で問題学生を発見援助しようという姿勢の２通りがみられた。

３．面接法の具体的実施状況と結果

対象学生に記入法を行い，それに基づいて抽出した一部学生に限って面接を行う精神健康調査形態ｄやｅの方法は以前から多く用いられていたが，記入法は参考にとどめて全員に面接する調査形態ｆの方法を用いる大学は少なかった。しかしここ数年，全員面接を行う大学が増えてきている。

１）　記入法に基いて面接者を抽出するｄ，ｅグループの面接率，要再面接率など

記入法の場合と同様，「面接率・再面接率の数値」ばかりでなく，「面接の方法」「要再面接判定基準」に各大学の実状が現われているので，できるだけこれらを収録した。表II－８－１は，調査形態ｄグループ14校中12校のもの，表II－８－２は調査形態ｅグループ14校中11校のものである。なお，表II－８の個々の大学を示す記号は，前項で述べた表II－７の場合と同様である。

ｄグループ全体では，対象学生の95.7%が記入法を受検し，そのうちの9.2%が要留意と判定された。この要留意者の70.8%がよび出しに応じて面接を受け，そのうちの18.9%が要再面

接と判定されているが，これは，はじめに記入法を受検した学生の1.2%に当たる。ｅグループ全体では，92.6%が記入法を受検し，そのうちの10.0%が要留意と判定された。この要留意者の66.2%がよび出しに応じて面接を受け，そのうちの15.6%が要再面接と判定されており，これは，はじめに記入法を受検した学生の1.0%に当たる。すなわち，ｅグループでは面接希望者もよび出しに含めるためか，要留意率はｄグループよりわずかに高いが，それが全体としては，要再面接率の高さにつながっていなかった。

「面接スタッフ」の人数は，ｄ，ｅ併せて23校中,スタッフ１名の大学が13校，56.5%（ｄ８校，ｅ５校），２名の大学が５校，21.7%（ｄ１校，ｅ４校），３名以上の大学が５校，21.7%（ｄ３校，ｅ２校）であり，記入法から面接者を抽出するｄ，ｅの方法は，スタッフが少人数の場合に多く用いられる調査形態であることがうかがわれる。

２）　全員面接を行うｆグループの面接率，要再面接率など

記入法は参考にとどめ，新入生全員に面接する精神健康調査形態ｆグループ14校のうち12校から，資料提供があった。これを表II－８－３にまとめた（この表の大学の記号も前項で述べた表II－８－１，２の場合と同様)。

ｆグループは，記入法の段階を数えていないので，「面接率」は，記入法の「受検率」に相当する。資料の整っている８大学によると，全体で，対象学生9,464名のうち9,136名，96.5%が一次面接を受け，このうちの780名，8.5%が「要再面接」と判定された。この「要再面接率」は記入法の「要留意率」に相当するが，実際，ｄ，ｅグループの要留意率の平均9.6%に近い数値であった。しかし，その学生群の問題性は全く異なっており，①記入法で要留意と判定されるようなチェックがあっても，面接の印象で問題がなければ要再面接から除外され，②逆に，記入法ではとうてい要留意と判定されないような学生でも面接の印象に問題があれば要再面接と判定される。さらに，③相談希望者のうち，短時間の面接で相談ごとの解決が得られた者は，要再面接から除外される。そしてこの判定を行うのは，面接スタッフというフィルターであり，面接時間も人員も専門領域や習熟度も大学ごとに少しずつ異なっているにもかかわらず，要再面接率は，最高14.5%から，１校を除いて，最低4.6%と，記入法の要留意率よりもはるかにまとまっていた。

「面接スタッフ」の人数は，12校中，１名の大学２校，16.7%，２名の大学３校，25.0%，３名以上の大学７校，58.3%で，３名以上の場合が2/3に近く，ｆ形態は多人数を要する調査形態であると言える。

「再面接率」は100.0%から42.8%までバラツキがあったが，８校の平均は72.4%であった。

〔付〕　面接希望学生の面接率，要再面接率

面接希望学生については，ｄグループから３校，ｅグループから７校，合計10校の資料提供があった。その面接率，要再面接率を表II－９にまとめた。ｄグループでは，受検学生3,640名中

95名，2.6%が面接を希望した。このうち86名，90.5%が来談しており，これは受検学生の2.4%に当たった。eグループでは受検学生8,336名中374名，4.5%が面接を希望した。しかし，実際に来談したのはこのうちの218名，58.3%と低率であり，これは受検学生の2.6%に当たった。すなわち，よび出しを受けても受けなくても，受検生の2.5%前後が来談したことになる。そして，来談した合計304名中239名，78.6%は精神衛生的に問題なしと判断され，残りの65名が要再面接と判定されていた。これは受検学生の合計11,976名の0.5%に当たった。問題学生を把握するためには，面接希望学生にも面接した方がよいと言える。

3） 最終的診断（ICD-9に準拠）

大学生の精神障害の病態を知るために，要再面接学生について，昭和59年度1年間かけての最終診断を依頼した。資料提供は，記入法に基いて面接者を抽出するd・eグループから20校，全員面接を行うfグループから9校，計29校であった。

最終診断の分類は，本来，各大学ごとに実際のケアに則した実用的な分類を用いているので，ICD-9に準拠した分類にはかなりの抵抗があった。特に「301人格異常」に関しては抵抗が強く，欄外に分類していた大学が2校あったが，301を大まかに「人格異常圏」として，それぞれを最も近い分類に組み入れた。「脱毛症，過換気症候群」は「306心身症」に加えた。「ケース・ワーカーが対応した者」は，「その他の診断」に含めた。「身体的理由」も，複数診断で分離不能な場合や内容不明のものは，心理的にも問題ありとみて，「その他の診断」に加えた。「保留」は一応，正常よりは精神障害に近いと考えた。以上の分類で「“正常範囲”および“てんかんまたは脳波異常”を除外した学生数」の，「記入法受検学生数（d・eグループ），または一次面接学生数（fグループ）」に対する割合を，「発見率」とした。

こうした手続きを終えたのち，診断に至る過程の差によって，fグループとd・eグループとに分け，さらにd・eグループを発見率1.0%以上と1.0%以下に2分し，合計3群に分けて集計を行った。

3群の中ではfグループの発見率が明らかに高く，中でも100%の再面接率を上げているB17大学の発見率は4.3%であったが，fグループ全体では，発見率の極端に低いAh大学を除外した集計で，発見率は2.8%であった。ただし，このグループの平均再面接率は72.4%であり，残りの26.6%の発見率は不明であるが，全員面接という調査実施形態をとった場合の発見率は，およそ3～4%と思われる。

次に，診断された精神障害の内容をみると，全員面接を行うfグループ(表II－10－1)と，記入法から面接者を抽出するd・eグループで発見率1.0%以上の群(表II－10－2)とでは，診断に至る手続きが異なるにもかかわらず，精神分裂病圏，神経症，急性ストレス反応，不適応反応では，あまり差がなかった。精神分裂病以外は自発来談しやすい人たちなので，よび出しにもよく応じたためであろう。精神分裂病圏の発見率は，昭和38年の全国実態調査に比較し明らかに低いが，これは，「一定期間の精神健康調査という手段を通して発見したもの」という制

約のためであろう。ちなみに，発見率の高いA12大学によると，面接場面で妄想が顕現した者1名，よび出しの通知をみた母親が来てわかったもの1名，よび出し前に医師の紹介状を持って来所した者1名(ただし，要再面接者のリストには入っていた)，記入法で要留意となっていたが一次面接時すでに欠席し，その後退学の申し出があって発見された者1名，という内訳であった。すなわち，精神健康調査でチェックされなかった者は含まれていないが，調査という方法で能動的に発見した者には限っていない。eグループのA1大学も，同じようにさまざまなルートを通して，たまたまこの年は多くみつかったということであった。したがって，「精神健康調査によって能動的に発見した者」に限定しなければ，精神分裂病圏の発見率はもっと高くなるものと推測される。d・eグループ発見率1.0%以上（表II－10－2）の方が，fグループ（表II－10－1）より高かったのは，躁うつ病圏であった。この圏の人は，面接法に切り替えたところで発見率を高めることは難かしい，ということであろうか。

いずれのグループでも，大量に面接スタッフ（判定者）を投入した大学で多く発見されているのは，人格異常圏である。これは自らは来談しない人たちであるから当然である。しかし，この圏の学生は，自殺，留年を含めてさまざまな問題を起しやすいので，きわめて慎重な対応が必要である。ちなみに，先述のB17大学では，要再面接と判定され，再面接後「正常範囲」と判定された中にも，分裂気質26名（男26名，女0名），神経質6名（男5名，女1名），循環気質6名（男5名，女1名），てんかん気質1名（男1名，女0名），計39名の分類が記載されており，「本人は今のところ自分では悩んでいない。大部分は成長に従い周囲に適応していくが，放置するには不安があり，フォローの必要がある」と附記されてあった。これら，正常～人格異常圏の学生の精神健康をはかるための，保健管理センターの役割も重要である。

全員面接のfグループ全体に多かったのは，「心身症」「他に分類されない特殊症状または症候群」「妄想状態」であった。これらの中には，「自己記入法」というフィルターでは，抽出できないものもある。

d・eグループ発見率1.0%以下(表II－10－3)は，いずれの障害圏でも発見率が低かった。

試みに，最終診断の責任者をP(精神科医)とC(心理学者)に分けてみたところ，Cの場合，内因性精神障害の発見がきわめて低かった。精神健康調査が，健康教育と予防のための布石であることを考えれば，調査法を工夫し，調査に当たるスタッフの構成を考え，発見率を高める

内因性精神障害の発見	あり		なし	
最終診断責任者	P	C	P	C
対象学生1,000人以上	8	0	4	3
対象学生1,000人以下	4	0	6	5

(責任者P＋Cの場合もP1名，C1名として集計)

ことが望ましい。とりわけ，調査時点における適応，不適応のみに判断を終始していると，明らかに予測し得る発病や，おくれてくる不適応に対して適切な対応がとられにくいという危惧

が持たれる。さらに，要留意学生に対し，充分なフォローを含め，より能動的な体制を作ることが望まれる。

参考までに，診断結果のICD-9による3桁までの内訳を，一部4桁までの再掲を含め，3グループのものをまとめて表II－11に示した。最近の青年の精神障害には，非定型や境界例が多くなったと指摘されているが，ICD-9による分類なので，これらの傾向は直接的には表現されていない。また，大学生にあっては軽症例がふえているとも言われているが，スチューデント・アパシーを含め，これらは未熟人格など人格の基盤が問題であることが多く，保健管理センターは，実際にはその対応に相当量の労力を割いていると思われるが，「301人格異常圏」の人数は少なかった。これも，ICD-9による分類では，表現しにくかったと考えられる。

〔中島潤子〕

参考文献

1) 秋元波留夫：精神衛生より見た大学の保健管理，日本医事新報，第2078号：71～75，1965
2) 石川　清：大学における精神障害の早期発見・診察・アフターケアについて，厚生の指標，第14巻12号：15～19，1967
3) 笠原　嘉：第13回全国大学保健管理研究集会報告書，72～77，1975
4) 辻本太郎：心理テストによる大学生の精神的不健康予知，大阪大学医学雑誌，第30巻1～4号：179～200，1977

表II－1　保健管理センター規模別精神健康調査実施状況

〔80校集計〕

学部別	精神健康調査実施・未実施 ／ 保健管理センター規模別	総数	実施校数		未実施校数
			校数	うち資料提供	(一部実施を含む)
全学部	総数	80 (100.0)	55 (68.8)	48	25 (31.3)
	A (学生数5,000以上)	32 (100.0)	24 (75.0)	21	8 (25.0)
	B (学生数2,000～5,000)	31 (100.0)	24 (77.4)	22	7 (22.6)
	C (学生数2,000未満)	17 (100.0)	7 (41.2)	5	10 (58.8)
6年制学部	総数	31 (100.0)	23 (74.2)	18	8 (25.8)
	A (学生数5,000以上)	25 (100.0)	19 (76.0)	16	6 (24.0)
	B (学生数2,000～5,000)	4 (100.0)	12 (50.0)	1	2 (50.0)
	C (学生数2,000未満)	2 (100.0)	2 (100.0)	1	- (－)

(注) 1. 少くとも1学年全員を対象としている大学は実施校で，一部学部又は有志学生などを対象としている大学は未実施校に含まれている。
2. 6年制学部の校数は，全学部にある大学のうち，6年制学部を持つ大学を数えたものである。

表II－2　対象学年の選択別精神健康調査実施大学数　調査方法別

〔80校集計〕

	様式 ／ 対象学年	記入法		面接法	
		校数	うち資料提供	校数	うち資料提供
全学部	総数	55 (100.0)	48	46 (100.0)	41
	新入生のみ	45 (81.8)	41	36 (78.3)	35
	新入生と3回生	2 (3.7)	2	2 (4.3)	1
	新入生と留年生	1 (1.8)	1	1 (2.2)	1
	全学年	7 (12.7)	4	7 (15.2)	4
6年制学部	総数	23 (100.0)	18	21 (100.0)	16
	新入生のみ	17 (73.9)	15	15 (71.4)	13
	新入生と3回生	1 (4.4)	1	1 (4.8)	1
	新入生と留年生	-	-	-	-
	全学年	5 (21.7)	2	5 (23.8)	2

(注) 6年制学部の校数は，全学部にある大学のうち，6年制学部を持つ大学を数えたものである。

表II－3　保健管理センター規模および調査形態別精神健康調査実施大学数

〔80校集計〕

学部	調査形態 / センターの規模	総数	実施せず（一部実施を含む） a	記入法のみ b	記入法と面接法を併用 希望者面接 c	要留意者面接 d	希望者と要留意者面接 e	全員面接 f
全学	総数	80校	25	9	4	14	14	14
	A	32	8	1	3	9	5	6
	B	31	7	5	1	4	8	6
	C	17	10	3	-	1	1	2
6年制学部	総数	31	8	2	3	7	5	6
	A	25	6	1	3	7	4	4
	B	4	2	-	-	-	1	1
	C	2	-	1	-	-	-	1

(注)　6年制学部の校数は，全学部にある大学のうち，6年制学部を持つ大学を数えたものである。

表II－4　精神衛生スタッフの内容および調査形態別精神健康調査実施大学数

〔80校集計〕

センターの規模	調査形態 / 精神衛生スタッフ	総数	a	b	c	d	e	f
	大学総数	80 (31)	25 (8)	9 (2)	4 (3)	14 (7)	14 (5)	14 (6)
A 32校	〔常勤〕精神科医とカウンセラー	8 (5)	2 (1)	1 (1)	- -	- -	1 (1)	4 (2)
	〔常勤〕精神科医のみ(心療内科医を含む)	14 (11)	2 (1)	- -	1 (1)	6 (5)	3 (2)	2 (2)
	〔常勤〕カウンセラーのみ	8 (7)	2 (2)	- -	2 (2)	3 (2)	1 (1)	- -
	非常勤精神科医のみ	2 (2)	2 (2)	- -	- -	- -	- -	- -
	精神衛生スタッフなし	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
B 31校	〔常勤〕精神科医とカウンセラー	4 (1)	- -	1 -	- -	- -	2 (1)	1 -
	〔常勤〕精神科医のみ	11 (2)	3 (1)	- -	- -	3 -	3 -	2 (1)
	〔常勤〕カウンセラーのみ	11 -	1 -	3 -	1 -	1 -	2 -	3 -
	非常勤精神科医のみ	5 (1)	3 (1)	1 -	- -	- -	1 -	- -
	精神衛生スタッフなし	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
C 17校	〔常勤〕精神科医とカウンセラー	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	〔常勤〕精神科医のみ	2 (1)	- -	- -	- -	- -	- -	2 (1)
	〔常勤〕カウンセラーのみ	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	非常勤精神科医又はカウンセラーのみ	3 -	- -	1 -	- -	1 -	1 -	- -
	精神衛生スタッフなし	12 (1)	10 -	2 (1)	- -	- -	- -	- -

(注)　1．精神衛生スタッフの内容は，昭和59年度学生健康白書資料で知り得たものを，昭和60年度保健管理センター所長会議にて行ったセンター内スタッフの調査で補ったもので，昭和59年度の体制をみたものである。
　　2．カウンセラーは，心理学者，クリニカルサイコロジスト(CP)，ケースワーカー(CW又はPSW)を含めるものとする。
　　3．(　) 内の数は，6年制学部をもつ大学数である。

表II－5　記入法の種類およびそれを選択した大学数

〔48校集計〕

名称	総数	1種選択	2種選択	3種選択
総数	64（実校数48）	34（実校数34）	24（実校数12）	6（実校数2）
UPI	24	13（変法1を含む）	9	2
CMI	9	7（変法3を含む）	2	-
SDS（Zung's test）	3	1	2	-
YG-性格検査	2	1	1	-
バウム・テスト	2	-	1	1
MMPI	1	-	1	-
MPI（モーズレイ）	1	-	1	-
TPI（東大式人格目録）	1	-	1	-
NSテスト（京大 宮田式）	1	-	1（変法）	-
MPCL（ムーニー・中村・学生・生徒生活問題調査）	1	1	-	-
各大学独自のもの	19	11★	5★★	3★★★

★健康調査票(弘前・九州)，精神健康調査票(福岡教育)，山形大学健康調査表，メンタルヘルスチェックカード(東京農工)，健康の記録(愛知教育)，学生生活記録カード(滋賀)，名称なし(宇都宮)，定期健康診断問診票に精神衛生の項目を盛りこむ(広島)(熊本)，健康調査票の中に相談希望欄をもうける(東京外語)

★★　健康管理カード(岐阜)，健康カード(山梨)，健康相談票(長崎)，SCT（自己発展段階尺度と自己実現尺度を含む）(福井)

★★★東工大文章完成法，SPI(下田式性格検査法)とSE(Self esteem)テスト(鳥取)

表II－6　UPIの代表項目〈8〉〈25〉〈49〉〈56〉の反応率（%）

〔17校集計〕

記入時期によるグループ分け	大学（記号）	UPI受検率	総数 受検者数	総数 〈8〉	総数 〈25〉	総数 〈49〉	総数 〈56〉	男 受検者数	男 〈8〉	男 〈25〉	男 〈49〉	男 〈56〉	女 受検者数	女 〈8〉	女 〈25〉	女 〈49〉	女 〈56〉
総数		98.0	23,020	5.1	3.5	0.4	4.8	17,676	5.4	3.1	0.2	4.7	5,344	4.0	4.9	0.8	5.0
I 入学前記入（入学手続の書類に同封して送付）	総数	98.2	11,723	5.2	3.6	0.3	4.9	9,431	5.5	3.1	0.2	4.8	2,292	4.0	5.5	0.8	5.3
	AS	98.0	1,391	5.8	3.6	0.3	3.8	965	6.1	3.1	0.1	3.9	426	2.8	4.7	0.7	3.5
	AT	99.3	3,054	4.2	3.6	0.3	4.1	2,793	4.3	3.3	0.1	4.1	261	3.5	6.5	2.7	4.6
	AO	97.9	2,075	5.1	2.5	0.3	5.0	1,799	5.2	2.2	0.2	4.6	276	4.3	4.3	0.7	7.6
	AC	100.0	2,107	6.8	4.0	0.4	6.3	1,599	7.4	3.2	0.3	6.6	508	4.8	6.7	0.6	5.6
	AK	93.0	1,664	4.1	3.4	0.2	4.1	1,229	4.6	2.8	0.1	4.1	435	3.0	5.1	0.5	4.1
	BW	100.0	586	6.3	4.8	0.3	5.6	433	7.2	4.6	0.5	6.2	153	3.9	5.2	0.0	3.9
	BC	100.0	846	5.7	4.3	0.6	6.4	613	5.9	3.8	0.5	6.4	233	5.2	5.6	0.9	6.4
自宅で記入																	
II 入学直後記入（オリエンテーション又はガイダンス時）	総数	99.2	5,023	5.9	3.2	0.3	5.0	3,578	6.4	3.0	0.2	5.1	1,445	4.5	3.7	0.6	5.0
	AN	99.5	1,967	6.8	3.1	0.3	5.3	1,436	7.7	2.6	0.2	5.9	531	4.5	4.5	0.4	3.8
	BM	99.8	479	6.1	2.7	0.0	5.6	471	4.9	3.8	0.0	5.1	8	0.0	0.0	0.0	37.5
	BD	100.0	632	4.7	3.6	0.2	4.1	607	4.9	3.8	0.0	3.6	25	0.0	0.0	4.0	16.0
	BO	100.0	969	4.3	3.2	0.5	4.4	425	4.7	2.8	0.5	4.2	544	4.0	3.5	0.6	4.6
大学で記入	BK	96.8	976	6.1	3.5	0.5	5.3	639	6.4	3.6	0.5	5.0	337	5.6	3.3	0.6	5.9
III 健康診断又は面接直前記入	総数	96.7	6,274	4.2	3.6	0.5	4.3	4,667	4.5	4.5	0.3	4.2	1,607	3.3	5.1	0.9	4.7
	AI	87.9	1,265	3.5	2.5	0.5	3.8	841	3.9	3.9	0.6	4.0	424	2.6	2.3	0.2	3.3
	AU	99.7	1,717	4.2	4.7	0.8	4.5	1,240	5.2	5.2	0.3	4.5	477	3.8	7.1	1.9	4.5
	AZ	98.1	1,626	4.2	3.9	0.4	3.8	1,158	4.6	4.6	0.2	3.0	468	3.4	5.3	0.9	5.8
	BH	100.0	931	3.8	3.2	0.4	4.6	852	3.8	3.8	0.4	4.1	79	3.8	8.9	1.3	10.1
	BY	99.1	735	4.7	2.7	0.0	5.5	576	5.0	5.0	0.0	6.1	159	3.8	3.8	0.0	3.8

（注）1．本表の大学の記号のうち，AS，AT等は保健管理センター規模A大学，BW，BC等は規模B大学である。
2．代表4項目の文章は次の通りである。〈8〉：自分の過去や家族は不幸である。〈25〉：死にたくなる。〈49〉：気を失ったり，ひきつけたりする。〈56〉：他人に陰口を言われる。

表II－7－1　記入法の要留意率　　UPIが主たる判定資料の場合

〔11校集計〕

調査形態	大学（記号）	総数 受検者数	総数 要留意率(%)	男 受検者数	男 要留意率(%)	女 受検者数	女 要留意率(%)	判定基準UPIなど
総数		10,948	12.0	8,067	12.0	2,881	11.8	
e	A 1	1,391	17.8	965	17.4	426	18.8	①〈25〉〈56〉のいずれかにチェックした者 ②30項目以上にチェックした者/健康カードに①相談・治療歴ありとある者 ②悩みのうち「ノイローゼ状態」にチェックした者 ③悩みの具体的記入内容から精神衛生上に問題ありと考えられる者
d	A 2	1,967	13.0	1,436	13.9	531	10.5	〈8〉〈25〉〈49〉〈56〉のうち1項目でもチェックした者
d	A 3	1,626	10.9	1,158	9.8	468	13.7	〈10〉*〈25〉〈49〉のうち1項目でもチェックした者
e	A 4	2,107	2.2	1,599	2.2	508	2.2	〈16〉**＋〈25〉，〈16〉＋〈56〉，〈16〉＋〈25〉＋〈56〉の3組合せ中いずれか
d	B 5	632	9.8	607	10.0	25	4.0	①35項目以上 ②〈8〉〈25〉〈49〉〈55〉***〈56〉のうち2項目以上にチェック
e	B 6	541	18.5	487	16.8	54	33.5	①20項目以上 ②〈25〉にチェックあり ③面接希望者
d	B 7	586	26.6	433	28.1	153	22.2	①20項目以上 ②〈25〉〈56〉いずれかにチェックあり
e	B 8	794	24.7	652	24.2	142	26.8	UPIに分裂病スクリーニング7項目附加したものを用い，40項目以上チェックと以下チェックに分け，SPIとSEテストを組合せてA～Gに区分。①A～Eの全員 ②F～Gの一部 ③面接希望者
e	B 9	976	4.2	639	4.5	337	3.6	①Lie scale 4項目を除き，40項目以上にチェックした者 ②面接希望者
d	C 10	125	10.4	38	10.5	87	10.3	①35項目以上にチェックあり ②相談・治療歴あり
e	C 11	203	6.9	53	3.8	150	8.0	Lie scale 4項目を除き，25項目以上にチェックした者

(注)*〈10〉：人に会いたくない，**〈16〉：不眠がちである，***〈55〉：自分のへんな匂いが気になる

表II－7－2　記入法の要留意率　　CMIが主たる判定資料の場合

〔7校集計〕

調査形態	大学（記号）	総数 受検者数	総数 要留意率(%)	男 受検者数	男 要留意率(%)	女 受検者数	女 要留意率(%)	判定基準CMIなど
総数		8,093	8.4	6,095	8.6	1,998	7.6	
d	A a	1,492	2.5	1,186	2.7	306	1.6	Ⅳ領域の者
d	A b	1,789	2.8	1,452	3.2	337	1.2	CMI変法を用い，Broadman法により第1次スクリーニングを行い，1次スクリーニング者を深町法により第2次スクリーニングし，その該当者
d	A c	1,664	10.0	1,229	11.2	435	6.4	①Ⅲ領域以上の者 ②〈90〉〈168〉〈170〉のいずれか1つでもチェックした者 ③〈158〉〈161〉〈162〉〈171〉〈180〉〈193〉〈194〉のうち3項目以上にチェックした者 ④UPIの30項目以上の者
d	A d	1,070	13.8	779	14.0	291	13.4	①Ⅲ，Ⅳ領域の者 ②自殺項目にチェックある者 ③心身症・精神病の疑いある者
e	B e	1,008	14.8	769	13.9	239	17.6	CMIの一部変更したものを用い，①Ⅲ・Ⅳ領域の者 ②Ⅰ・Ⅱ領域の心理的特定項目にチェックした者
e	B f	751	11.6	540	12.4	211	10.4	CMIに精神衛生関係42項目を追加したものを用い，判定者の総合的判断による
f	C g	319	11.0	140	17.1	179	6.1	Ⅲ・Ⅳ領域の者

表II－7－3　記入法の要留意率　　独自の記入法およびＳＤＳが主たる判定資料の場合

〔7校集計〕

型	大学(記号)	総数 受検者数	総数 要留意率(%)	男 受検者数	男 要留意率(%)	女 受検者数	女 要留意率(%)	判定基準 独自の記入法・ＳＤＳ
総数		7,096	7.2	5,137	6.6	1,959	8.2	
e	Aイ	1,487	7.9	1,104	7.6	383	8.9	独自の健康調査表(身体面72,精神面61)を用い,①精神面多愁訴(15項目以上)該当者 ②スポットクェスチョン該当者 ③相談希望者
e	Aロ	1,708	6.9	1,436	7.0	272	6.6	独自の調査票を用い,①特定項目のいずれかにチェックした者 ②特定項目の一定の組合せにチェックした者 ③相談希望者
e	Bハ	830	6.6	597	6.2	233	7.7	独自の調査票を用い,①対人恐怖傾向該当者 ②進路の悩み,入学選択に不満・不安のある者 ③抑うつ傾向該当者 ④神経症傾向該当者
d	Bニ	696	26.3	321	27.7	375	25.1	①独自の精神健康調査票(80項目)を用いて,独自の基準に該当した者に,②乱数表を用いてランダムに選んだ100名を加える
d	Aホ	1,382	1.9	1,015	2.0	367	1.6	ＳＤＳ50点以上の者，ＵＰＩは参考にとどめる
d	Bヘ	838	0.5	539	0.7	299	－	SDSの平均値(M)と標準偏差値(SD)を算出し,M+2SD以上の者
f	Cト	155	3.2	125	3.2	30	3.3	SDS60点以上の者

表II－8－1　面接法の要再面接率および判定基準　　記入法から抽出した要留意者に面接するｄグループの場合

〔12校集計〕

大学(記号)	性別	V.対象学生数	記入法 W.受検者数	記入法 X.要留意者 数・率(X/W(%))	面接法 Y.面接者 数・率(Y/X(%))	面接法 Z.要再面接者 数・率(Z/W(%))	面接スタッフ P.精神科医	同臨時	Cカウンサー	同臨時	その他	面接時期 面接時間(学生1人当り)	面接の具体的方法および要再面接判定基準	最終診断責任者
総数		14,491	13,867	1,278 (9.2)	905 (70.8)	171 (1.2)								
男		10,706	10,193	938 (9.2)	636 (67.8)	139 (1.4)								
女		3,785	3,674	340 (9.3)	269 (79.1)	32 (0.9)								
A 2	総数	1,977	1,967	255 (13.0)	41 (16.1)	8 (0.4)						健診時	友人関係を中心に，大学生活への適応，精神症状，性格などから判断する	C
	男	1,445	1,436	199 (13.9)	33 (16.6)	6 (0.4)						5～20分		
	女	532	531	56 (10.5)	8 (14.3)	2 (0.4)	－	－	1	－	－			
A 3	総数	1,657	1,626	178 (10.9)	176 (98.9)	7 (0.4)						健診時	精神医学的に問題があり，本人が面接の継続を希望する場合を原則とする。但し，社会生活が著しく困難な場合は，治療を強くすすめる	P
	男	1,183	1,158	114 (9.8)	109 (95.6)	6 (0.5)						5～20分		
	女	474	468	64 (13.7)	67 (104.7)	1 (0.2)	1	－	－	－	－			
B 5	総数	632	632	62 (9.8)	62 (100.0)	18 (2.8)						健診時	①人格偏奇の強い人 ②病的傾向の認められる人 ③生活に特別な不自然さの認められる人 ④相談希望の強い人 ⑤特に面接医が必要と認めた人を要再面接とした	P
	男	607	607	61 (10.0)	61 (100.0)	17 (2.8)						10分ていど		
	女	25	25	1 (4.0)	1 (100.0)	1 (4.0)	－	2	－	1	－			
B 7	総数	586	586	156 (26.6)	109 (69.9)	48 (8.2)						5月	面接者には参考のためＭＡＳとＢＥＣＫテストを実施 ①精神医学的に(臨床的に)問題のある人すべてを要再面接とし,②自律訓練の継続を希望する人を加えた	P
	男	433	433	122 (28.1)	75 (61.5)	36 (8.3)						5～6分		
	女	153	153	34 (22.2)	34 (100.0)	12 (7.8)	1	－	－	－	－			
C 10	総数	126	125	13 (10.4)	13 (100.0)	1 (0.8)						10～12月	９月にＵＰＩを実施し，要留意者を10～12月によび出し面接する。①精神医学的治療を要する者 ②心理的な問題を有する者,を要再面接とした	P
	男	38	38	4 (10.5)	4 (100.0)	－ －						10～20分		
	女	88	87	9 (10.3)	9 (100.0)	1 (1.0)	－	2	－	－	－			
A a	総数	1,560	1,492	37 (2.4)	37 (100.0)	11 (0.7)						5～6月	本人が希望した場合，再面接とした	C
	男	1,227	1,186	32 (2.7)	32 (100.0)	9 (0.8)						約20分		
	女	333	306	5 (1.6)	5 (100.0)	2 (0.7)	－	－	1	－	－			
A b	総数	1,789	1,789	50 (2.8)	32 (64.0)	29 (1.6)						9月～翌年3月	①精神医学的に診断のつく場合,②心理的に困難な状況にあって，本人が希望した場合,③面接者が必要と判断した場合,④主訴の消失を確認する必要のある場合	P
	男	1,452	1,452	46 (3.2)	29 (63.0)	26 (1.8)						約90分		
	女	337	337	4 (1.2)	3 (75.0)	3 (0.9)	1	－	－	－	－			
A c	総数	1,789	1,664	166 (10.0)	147 (88.6)	20 (1.2)						5～6月	①精神科的疾患の可能性のある者すべて，②けいれんの既往歴，現症を持っている者，③相談希望者	P
	男	1,341	1,229	138 (11.2)	118 (85.5)	18 (1.5)						12日間		
	女	448	435	28 (6.4)	29 (103.6)	2 (0.5)	1	－	3	－	－	15分		
A d	総数	1,181	1,070	148 (13.8)	23 (15.5)	8 (0.7)						1年後	カウンセラーの都合で，１年後によび出し面接を行い,「症状の改善をみない者」を要再面接とした	C
	男	881	779	109 (14.0)	17 (15.6)	6 (0.8)						約５分		
	女	300	291	39 (13.4)	6 (15.4)	2 (0.7)	－	－	1	－	－			
B ニ	総数	696	696	183 (26.3)	150 (82.0)	7 (1.0)						5～6月	①大学生活に不適応の傾向にある者，②面接希望者を再面接した	C
	男	321	321	89 (27.7)	64 (71.9)	4 (1.2)						5～10分		
	女	375	375	94 (25.1)	86 (91.5)	3 (0.8)	－	－	1	3	－			
A ホ	総数	1,616	1,382	26 (1.9)	111 (426.9)	14 (1.0)						5～6月	ＳＤＳで抽出した要留意者に，医学部の新入生の80.8%(97名)を加え，問診およびＭＭＰＩを実施して判別した	C
	男	1,199	1,015	20 (2.0)	90 (450.0)	11 (1.1)						15～30分		
	女	417	367	6 (1.6)	21 (350.0)	3 (0.8)	－	－	1	－	－			
B ヘ	総数	882	838	4 (0.5)	4 (100.0)	－ －						9月	対人関係や学習上で適応障害をきたしている者 昭和59年度は該当者なし	P
	男	579	539	4 (0.7)	4 (100.0)	－ －						10分ていど		
	女	303	299	－ －	－ －	－ －	1	－	－	－	－			

(注) 最終診断責任者　Ｐ：精神科医，Ｃ：心理学者

表II－8－2　面接法の要再面接率および判定基準　記入法から抽出した要留意者と面接希望者に面接するｅグループの場合

〔11校集計〕

大学(記号)	性別	V.対象学生数	記入法 W.受検者数	記入法 X.要留意者 数・率(X/W(%))	面接法 Y.面接者 数・率(Y/X(%))	面接法 Z.要再面接者 数・率(Z/W(%))	面接スタッフ P精神科医	同臨時	Cカウンセラー	同臨時	その他	面接時期 面接時間(学生1人当り)	面接の具体的方法および要再面接判定基準	最終診断責任者
総数		12,737	11,796	1,174 (10.0)	777 (66.2)	121 (1.0)								
男		9,646	8,841	869 (9.8)	555 (63.9)	94 (1.1)								
女		3,091	2,955	305 (10.3)	222 (72.8)	27 (0.9)								
A 1	総数	1,419	1,391	248 (17.8)	98 (39.5)	32 (2.3)						4～6月 15～30分	本人あて封書で面接日時を連絡,①精神疾患と診断されたもの,②同疑いのあるもの,③前記以外に精神衛生上の援助が必要なもの,④本人が希望した場合	P
	男	989	965	168 (17.4)	59 (35.1)	20 (2.1)								
	女	430	426	80 (18.8)	39 (48.8)	12 (2.8)	1	1	－	－	－			
A 4	総数	2,107	2,107	46 (2.2)	44 (95.7)	3 (0.1)						6～7月 30分以内	すみやかに精神医療的手当の必要な状態と，面接で判断された者	P
	男	1,599	1,599	35 (2.2)	31 (88.6)	2 (0.1)								
	女	508	508	11 (2.2)	13 (118.2)	1 (0.2)	1	－	－	－	－			
B 6	総数	546	541	100 (18.5)	69 (69.0)	2 (0.4)						5～7月 5～10分	①面接者が必要と認め，本人も希望した場合，②すでに病院に通っていても，生活指導が必要な場合	C
	男	492	487	82 (16.8)	57 (69.5)	1 (0.2)								
	女	54	54	18 (33.3)	12 (66.7)	1 (1.9)	－	1	1	－	－			
B 8	総数	877	794	196 (24.7)	125 (63.8)	10 (1.3)						5月上旬 15～25分 (時に30分)	悩みの内容や，その受けとめ方	P＋c
	男	722	652	158 (24.2)	89 (56.3)	8 (1.2)								
	女	155	142	38 (26.8)	36 (94.7)	2 (1.4)	1	3	1	－	－			
B 9	総数	1,008	976	41 (4.2)	9 (22.0)	5 (0.5)						4月と10月 10分ていど	面接希望者は4月，要留意者は10月に手紙で来談をすすめ，要留意者にはＵＰＩを再実施して，生活状況などきいた。結局，要再面接者は，面接希望者の方にいた	C
	男	667	639	29 (4.5)	7 (24.1)	4 (0.6)								
	女	341	337	12 (3.6)	2 (16.7)	1 (0.3)	－	－	1	－	－			
C 11	総数	203	203	14 (6.9)	14 (100.0)	2 (1.0)						5～6月 昼休み 約20分	本人が希望した場合を，要再面接とする	C
	男	53	53	2 (3.8)	2 (100.0)	- -								
	女	150	150	12 (8.0)	12 (100.0)	2 (1.3)	－	－	1	－	－			
B e	総数	1,046	1,008	149 (14.8)	166 (111.4)	11 (1.1)						6～7月 約10分	郵便で面接日時分を指定し，6～7月の火・木の午後，学外の精神科医が来て，要留意者と面接希望者に面接する	P
	男	803	769	107 (13.9)	120 (112.1)	10 (1.3)								
	女	243	239	42 (17.6)	46 (109.5)	1 (0.4)	－	1	－	－	1			
B f	総数	755	751	89 (11.9)	77 (86.5)	5 (0.7)						6～7月 平均15分	文書によるよび出し通知。2回の通知に応じなかった者は放置。①精神医学的診断が可能だった者。②精神的，身体的問題で本人が苦しみ，面接者がすすめ，本人が応じた者を要再面接とする	P
	男	542	540	67 (12.4)	58 (86.6)	5 (0.9)								
	女	213	211	22 (10.4)	19 (86.4)	- -	1	－	－	－	－			
A イ	総数	1,510	1,487	118 (7.9)	57 (48.3)	6 (0.4)						5～7月 約15分	面接者がすすめ，本人が応じた場合，再面接する	C
	男	1,124	1,104	84 (7.6)	45 (53.6)	5 (0.5)								
	女	386	383	34 (8.9)	12 (35.3)	1 (0.3)	－	－	1	1	－			
A ロ	総数	2,304	1,708	118 (6.9)	63 (53.4)	29 (1.7)						4月 5～15分	4月16日～24日の,午後4時～5時30分の間に,1日15名よび出し,記載事項についてききながら,学生生活が順調に送れているかに重点をおき,診断的構えを強調しないで面接する	P＋c
	男	1,954	1,436	100 (7.0)	50 (50.0)	28 (1.9)								
	女	350	272	18 (6.6)	13 (72.2)	1 (0.4)	1	2	2	8	1			
B ハ	総数	962	830	55 (6.6)	55 (100.0)	16 (1.9)						6月 15～30分	①性格傾向の歪みの程度　②神経症レベルに達しているか否か　③精神病圏内のものか否か，の判断による	P
	男	701	597	37 (6.2)	37 (100.0)	11 (1.8)								
	女	261	233	18 (7.7)	18 (100.0)	5 (2.1)	1	－	－	－	－			

表II－8－3　面接法の要再面接率および判定基準　全員面接を行うｆグループの場合

〔12校集計〕

大学(記号)	性別	V.対象学生数	全員面接法 W.一次面接者 数・率(W/V(%))	全員面接法 X.要留意者 数・率(X/W(%))	全員面接法 x.要再面接者 数・率(x/W(%))	全員面接法 y.再面接者 数・率(y/x(%))	面接スタッフ P精神科医	同臨時	Cカウンセラー	同臨時	その他	面接時期 面接時間(学生1人当り)	面接の具体的方法および要再面接判定基準	最終診断責任者
総数		9,464	9,136 (96.5)	- -	780 (8.5)	565 (72.4)								
男		7,480	7,220 (96.5)	- -	615 (8.5)	447 (72.7)								
女		1,984	1,916 (96.6)	- -	165 (8.6)	118 (71.5)								
A 12	総数	1,439	1,265 (87.9)	281 (22.2)	112 (8.9)	65 (58.0)						健診時 約3分	①ＵＰＩで〈8〉〈25〉〈49〉〈56〉にチェックした者　②ＮＳ変法で視力障害，体学，相談歴，治療歴にチェックした者　③面接時気になった者，を要留意者とし，その中から緊急を要する者を要再面接者として選び出し，これに④相談希望者を加えた	P
	男	994	841 (84.6)	191 (22.7)	84 (10.0)	49 (58.3)								
	女	445	424 (95.3)	90 (21.2)	28 (6.6)	16 (57.1)	1	－	1	－	－			
A 13	総数	1,721	1,717 (99.8)	- -	180 (10.5)	77 (42.8)						健診時 1～2分	1.短時間面接の印象,および2,記入法で①ＵＰＩ35項目以上チェックした者　②相談希望者 ③「身体的・精神衛生上問題を感じたことがある」「精神衛生上の相談や治療を受けたことがある」の2項目ともチェックした者,の中から要再面接と判別した者	P
	男	1,242	1,240 (99.8)	- -	127 (10.2)	53 (41.7)								
	女	479	477 (99.6)	- -	53 (11.1)	24 (45.3)	1	－	2	－	－			
A 14	総数	3,164	3,143 (99.3)	B面接 203 (6.5)	161 (5.1)	120 (74.5)						A面接数分 B面接十数分	ＵＰＩは粗点を数えるだけで，判定は面接医個人に任されている。一部はその場でＢ面接へまわされる(以上,入学前面接)。入学後のよび出し面接(要再面接)は，Ａ・Ｂ面接を合せ，総合的に判別される	P
	男	2,900	2,879 (99.3)	184 (6.4)	142 (4.9)	105 (73.9)								
	女	264	264 (100.0)	19 (7.2)	19 (7.2)	15 (78.9)	7	約40	－	－	－			
A 15	総数	819	819 (100.0)	- -	76 (9.3)	- -						4/17～4/20 1～2分	①記入法ＵＰＩでチェックの多い者，バウム・ＳＣＴで特異な記載ある者，②面接の印象で未熟，神経質，無口で自閉的，表情が硬くて暗い，オドオドして落着かぬ者など，および，第2志望にまわされた者	P
	男	788	788 (100.0)	- -	76 (9.6)	- -								
	女	31	31 (100.0)	- -	- -	- -	1	－	1	－	－			
A 16	総数	993	982 (98.9)	- -	142 (14.5)	138 (97.2)						入学式後 5～6日間 約5分	①健康管理カードで，自覚症状，既往歴，その他の記載事項，②ＵＰＩで30項目以上チェック又は，25, 34, 49, 55にチェック。③備考欄に相談希望とか気になる記載のあり。④面接時の印象，などを総合判定して要再面接者を抽出（再面接は健診時）	P
	男	706	695 (98.4)	- -	106 (15.3)	103 (97.2)								
	女	287	287 (100.0)	- -	36 (12.5)	35 (97.2)	1	－	－	－	7			
B 17	総数	929	929 (100.0)	- -	103 (11.1)	103 (100.0)						ガイダンス直後 2日間 8～10分	面接で，精神病・神経症・適応障害の可能性のある者はすべて。但し，ＵＰＩで次の者は留意ある。総得点30以上・〈25〉にチェック，Lie sale を除いて総得点0－1の者，Ｓ傾向，Ｄ傾向，Ｎ傾向それぞれが高得点の者	P
	男	850	850 (100.0)	- -	98 (11.5)	98 (100.0)								
	女	79	79 (100.0)	- -	5 (6.3)	5 (100.0)	1	約40	－	－	－			
A h	総数	1,374	1,365 (99.3)	- -	92 (6.7)	- -						4月6.7.9の3日間 3～5分	①健康相談票で精神症状が疑われる者。②面接で疎通性が不充分な者。③既往歴，家族歴に精神疾患のある者。④本人の精神的愁訴・不安のある者。⑤UPIの〈25〉〈49〉〈56〉のいずれかにチェックした者	P
	男	1,007	998 (99.1)	- -	62 (6.2)	- -								
	女	367	367 (100.0)	- -	30 (8.2)	- -	1	3	－	－	－			
B i	総数	776	758 (97.7)	- -	35 (4.6)	- -						健診時 約3分	調査表を参考に，情緒不安定で落ちつかないもの，過敏，注意力散漫，あまりに元気のないもの。精神病や神経症の傾向の疑われるもの，悩み事があって解決したいもの	C
	男	670	653 (97.5)	- -	29 (4.4)	- -								
	女	106	105 (99.1)	- -	6 (5.7)	- -	－	1	1	4	－			
B j	総数	742	735 (99.1)	(相談希望者)	122 (16.6)	- -						健診時 およそ3分	ＵＰＩと「健康カード」に，悩みや心配ごと「有」，および「すぐ相談したい」と回答した者。(但し，ＵＰＩは参考にとどめ，面接時に改めて面接の機会を持つか相談する。)特に要留意者・要再面接としてチェックしない	P
	男	582	576 (99.0)		101 (17.5)	- -								
	女	160	159 (99.4)		21 (13.2)	- -	1	－	1	－	－			
B k	総数	626	626 (100.0)	- -	69 (11.0)	49 (71.0)						健診時 およそ3分	学生生活記録カードをみて，性格の自己評定，悩み，交友関係，生活上の特殊事情等を総合的に判断して要留意者とし，面接で，現時点での問題把握につとめ，生活上の不適応を要再面接とする	C
	男	450	450 (100.0)	- -	48 (10.7)	29 (60.4)								
	女	176	176 (100.0)	- -	21 (11.9)	20 (95.2)	－	－	1	－	－			
C g	総数	428	319 (74.5)	35 (11.0)	5 (1.6)	5 (100.0)						ECG検診時 1～5分	健康診断の心電図検診時に，全員提出ずみのＣＭＩでⅢ・Ⅳ領域の者に時間をかけ，①明らかな精神症状を有する者。②不安を訴える者。③学生生活がスムーズにいかない者を，要再面接とした	P
	男	208	140 (67.3)	24 (17.1)	2 (1.4)	2 (100.0)								
	女	220	179 (81.4)	11 (6.1)	3 (1.7)	3 (100.0)	1	－	－	－	－			
C ト	総数	164	155 (94.5)	5 (3.2)	8 (5.2)	8 (100.0)						5月に2日間 10～15分	ＳＤＳで60点以上を要留意とするが，全員面接でそれを参考に，①神経症的傾向あり，②神経症と思われる，③精神病的傾向あり，④精神病と思われる，の4群該当者	P
	男	130	125 (96.2)	4 (3.2)	8 (6.4)	8 (100.0)								
	女	34	30 (88.2)	1 (3.3)	- -	- -	2	8	－	－	－			

(注) 総数は，ｘ・ｙ項の資料が欠如しているA15, Ah, Bi, Bjの4校を除外した8校の集計である。

表II－9　面接希望学生の面接率，要再面接率

〔10校集計〕

調査形態	大学（記号）	性別	W.記入法受検者数	H.面接希望者 数・率(H/W(%))	Y.面接者 数・率(Y/H(%))	Z.要再面接者 数・率(Z/Y)(Z/W(%))
総数			11,976	469 (3.9)	304 (64.8)	65(21.4)(0.5)
男			8,876	369 (4.2)	226 (61.2)	49(21.7)(0.6)
女			3,100	100 (3.2)	78 (78.0)	16(20.5)(0.5)
d	A 3	総数	1,626	14 (0.9)	14 (100.0)	2(14.3)(0.1)
		男	1,158	10 (0.9)	10 (100.0)	2(20.0)(0.2)
		女	468	4 (0.9)	4 (100.0)	- - -
d	B 5	総数	632	55 (8.7)	55 (100.0)	1(1.8)(0.2)
		男	607	55 (9.1)	55 (100.0)	1(1.8)(0.2)
		女	25	- -	- -	- - -
d	Aホ	総数	1,382	26 (1.9)	17 (65.4)	10(58.8)(0.7)
		男	1,015	20 (2.0)	14 (70.0)	10(71.4)(1.0)
		女	367	6 (1.6)	3 (50.0)	- - -
e	A 1	総数	1,391	148 (10.6)	98 (66.2)	30(30.6)(2.2)
		男	965	107 (11.1)	59 (55.1)	19(32.2)(2.0)
		女	426	41 (9.6)	39 (95.1)	11(28.2)(2.6)
e	A 4	総数	2,107	11 (0.5)	11 (100.0)	3(27.3)(0.1)
		男	1,599	9 (0.6)	9 (100.0)	2(22.2)(0.1)
		女	508	2 (0.4)	2 (100.0)	1(50.0)(0.2)
e	B 8	総数	794	111 (14.0)	33 (29.7)	5(15.2)(0.6)
		男	652	94 (14.4)	24 (25.5)	3(12.5)(0.5)
		女	142	17 (12.0)	9 (52.9)	2(22.2)(1.4)
e	B 9	総数	976	30 (3.1)	5 (16.7)	5(100.0)(0.5)
		男	639	20 (3.1)	4 (20.0)	4(100.0)(0.6)
		女	337	10 (3.0)	1 (10.0)	1(100.0)(0.3)
e	B f	総数	751	13 (1.7)	13 (100.0)	1(7.7)(0.1)
		男	540	10 (1.9)	10 (100.0)	1(10.0)(0.2)
		女	211	3 (1.4)	3 (100.0)	- - -
e	A イ	総数	1,487	15 (1.0)	12 (80.0)	3(25.0)(0.2)
		男	1,104	13 (1.2)	10 (76.9)	3(30.0)(0.3)
		女	383	2 (0.5)	2 (100.0)	- - -
e	Bハ	総数	830	46 (5.5)	46 (100.0)	5(10.9)(0.6)
		男	597	31 (5.2)	31 (100.0)	4(12.9)(0.7)
		女	233	15 (6.4)	15 (100.0)	1(6.7)(0.4)

表II－10－1　全員面接を行うｆグループの診断結果（ＩＣＤ－９に準拠）

〔９校集計〕

大学（記号）	性別	Y.一次面接学生数	疾患分類 要再面接学生数	総数 Yに対する発見率(%)	295 精神分裂病圏	296 躁うつ病圏	297 妄想状態	300 神経症	301 人格異常圏	306 心身症	307 他に分類されない特殊症状又は症候群	308 急性ストレス反応	309 不適応反応	その他の診断	保留	てんかん波又は脳異常	正常範囲	最終診断責任者
総数★★		9,136	595(6.4) 名	261(2.8) %	9(0.1)	1(0.01)	2(0.02)	76(0.8)	70(0.8)	19(0.2)	17(0.2)	4(0.04)	17(0.2)	36(0.4)	10(0.1)	11	323	
男		7,220	469(6.4)	217(2.9)	7(0.1)	1(0.01)	2(0.03)	65(0.9)	65(0.9)	13(0.2)	11(0.2)	3(0.04)	12(0.2)	30(0.4)	8(0.1)	8	244	
女		1,916	126(6.4)	44(2.2)	2(0.1)	- -	- -	11(0.6)	5(0.3)	6(0.3)	6(0.3)	1(0.05)	5(0.3)	6(0.4)	2(0.1)	3	79	
A 12	総数	1,265	65	41(3.2)	4(0.3)	- -	- -	9(0.7)	12(0.9)	1(0.1)	2(0.2)	- -	8(0.6)	2(0.2)	3(0.2)	-	24	P
	男	841	49	29(3.4)	3	-	-	7	11	-	1	-	5	1	1	-	20	
	女	424	16	12(2.8)	1	-	-	2	1	1	1	-	3	1	2	-	4	
A 13	総数	1,717	77	34(2.0)	2(0.1)	1(0.06)	1(0.06)	12(0.7)	3(0.2)	5(0.3)	1(0.06)	- -	6(0.3)	- -	3(0.2)	-	43	P
	男	1,240	53	28(2.3)	2	1	1	10	3(0.2)	3	1	-	4	-	3	-	25	
	女	477	24	6(1.3)	-	-	-	2	-	2	-	-	2	-	-	-	18	
A 14	総数	3,143	120	87(2.8)	1(0.03)	- -	- -	14(0.4)	39(1.2)	- -	3(0.1)	- -	- -	29(0.9)	1(0.03)	8	25	P
	男	2,879	105	76(2.6)	1	-	-	12	36	-	1	-	-	25	1	8	21	
	女	264	15	11(4.2)	-	-	-	2	3	-	2	-	-	4	-	-	4	
A 16	総数	982	138	35(3.6)	1(0.1)	- -	- -	14(1.4)	2(0.2)	10(1.0)	3(0.3)	2(0.2)	2(0.2)	- -	1(0.1)	-	103	P
	男	695	103	25(3.6)	-	-	-	10	1	8	2	1	2	-	1	-	78	
	女	287	35	10(3.5)	1	-	-	4	1	2	1	1	-	-	-	-	25	
B 17	総数	929	103	40(4.3)	1(0.1)	- -	- -	21(2.3)	13(1.4)	- -	3(0.3)	- -	- -	- -	2(0.2)	2	★61	P
	男	850	98	40(4.7)	1	-	-	21	13	-	3	-	-	-	2	-	58	
	女	79	5	- -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	
A h	総数	1,365	8	2(0.2)	- -	- -	- -	1(0.07)	- -	- -	- -	- -	1(0.07)	- -	-	-	6	P
	男	998	7	2(0.2)	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	5	
	女	367	1	- -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
B k	総数	626	49	15(2.4)	- -	- -	1(0.2)	2(0.3)	- -	3(0.5)	4(0.6)	- -	- -	5(0.8)	-	-	34	C
	男	450	29	12(2.7)	-	-	1	2	-	2	3	-	-	4	-	-	17	
	女	176	20	3(1.7)	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	17	
C g	総数	319	35	4(0.9)	- -	- -	- -	3(0.9)	- -	- -	1(0.3)	- -	- -	- -	-	1	30	P
	男	140	24	2(1.0)	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	22	
	女	179	11	2(0.9)	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	8	
C i	総数	155	8	5(3.2)	- -	- -	- -	1(0.6)	1(0.6)	- -	- -	2(1.3)	1(0.6)	- -	-	-	3	P
	男	125	8	5(4.0)	-	-	-	1	1	-	-	2	1	-	-	-	3	
	女	30	-	- -	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	

（注）最終診断責任者Ｐ：精神科医，Ｃ：心理学者　★正常と判定された中に，気質異常39名（男37，女２）を含む　★★大学Ahは総数より除外

表Ⅱ－10－2　記入法で面接者を抽出するｄ・ｅグループの診断結果（ＩＣＤ－９に準拠）発見率1.0%以上の場合

〔９校集計〕

大学（記号）	性別	W.記入法受検学生数	疾患分類 要再面接学生数	総数 Wに対する発見率(%)	295 精神分裂病圏	296 躁うつ病圏	297 妄想状態	300 神経症	301 人格異常圏	306 心身症	307 他に分類されない特殊症状又は症候群	308 急性ストレス反応	309 不適応反応	その他の診断	保留	脳波異常 てんかん又は	正常範囲	最終診断責任者
			名 %	名 %														
総数		9,597	243(2.5)	173(1.8)	12(0.1)	5(0.05)	- -	78(0.8)	22(0.2)	9(0.09)	1(0.01)	3(0.03)	19(0.2)	11(0.1)	18(0.2)	3	70	
男		7,424	190(2.6)	140(1.9)	11(0.1)	3(0.04)	- -	61(0.8)	21(0.3)	5(0.07)	1(0.01)	1(0.01)	14(0.2)	10(0.1)	17(0.2)	2	51	
女		2,173	53(2.4)	33(1.5)	1(0.05)	2(0.09)	- -	17(0.8)	1(0.05)	4(0.2)	- -	2(0.09)	5(0.2)	1(0.05)	1(0.05)	1	19	
A 1	総数	1,391	32	30(2.2)	6(0.4)	1(0.07)	- -	12(0.9)	2(0.1)	3(0.2)	1(0.07)	3(0.2)	1(0.07)	1(0.07)	- -	2	-	
	男	965	20	19(2.0)	6	-	-	7	2	1	1	1	-	1	-	1	-	P
	女	426	12	11(2.6)	-	1	-	5	-	2	-	2	1	-	-	1	-	
B 5	総数	632	18	18(2.8)	- -	- -	- -	2(0.3)	- -	1(0.2)	- -	- -	- -	1(0.2)	14(2.2)	-	-	
	男	607	17	17(2.8)	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	14	-	-	P
	女	25	1	1(4.0)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
B 7	総数	586	48	22(3.8)	3(0.5)	2(0.3)	- -	10(1.7)	- -	2(0.3)	- -	- -	1(0.2)	- -	4(0.7)	-	26	
	男	433	36	16(3.7)	2	1	-	8	-	1	-	-	1	-	3	-	20	P
	女	153	12	6(3.9)	1	1	-	2	-	1	-	-	-	-	1	-	6	
B 8	総数	794	10	10(1.3)	- -	- -	- -	8(1.0)	- -	2(0.3)	- -	- -	- -	- -	- -	-	-	P
	男	652	8	8(1.2)	-	-	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	＋
	女	142	2	2(1.4)	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C
C 11	総数	203	2	2(1.2)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2(1.2)	- -	- -	-	-	
	男	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C
	女	150	2	2(1.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
A b	総数	1,789	29	29(1.6)	1(0.06)	1(0.06)	- -	17(1.0)	- -	- -	- -	- -	10(0.6)	- -	- -	-	3	
	男	1,452	26	26(1.8)	1	1	-	15	-	-	-	-	9	-	-	-	3	P
	女	337	3	3(0.9)	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
A c	総数	1,664	20	18(1.1)	1(0.06)	1(0.06)	- -	10(0.6)	- -	1(0.06)	- -	- -	5(0.3)	- -	- -	-	2	
	男	1,229	18	16(1.3)	1	1	-	9	-	1	-	-	4	-	-	-	2	P
	女	435	2	2(0.5)	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
A ロ	総数	1,708	29	29(1.7)	1(0.06)	- -	- -	5(0.3)	19(1.1)	- -	- -	- -	- -	9(0.5)	- -	-	-	
	男	1,436	28	28★(1.9)	1	-	-	5	18	-	-	-	-	8	-	-	-	P
	女	272	1	1★(0.4)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	
B ハ	総数	830	55	15(1.8)	- -	- -	- -	14(1.7)	1(0.1)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1	39	
	男	597	37	10(1.7)	-	-	-	9	1	-	-	-	-	-	-	1	26	P
	女	233	18	5(2.1)	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	13	

(注) ★Aロ校では男４名，女１名に重複診断あり

表Ⅱ－10－3　記入法で面接者を抽出するｄ・ｅグループの診断結果（ＩＣＤ－９に準拠）発見率1.0%以下の場合

〔11校集計〕

大学（記号）	性別	W.記入法受検学生数	疾患分類 要再面接学生数	総数 Wに対する発見率(%)	295 精神分裂病圏	296 躁うつ病圏	297 妄想状態	300 神経症	301 人格異常圏	306 心身症	307 他に分類されない特殊症状又は症候群	308 急性ストレス反応	309 不適応反応	その他の診断	保留	脳波異常 てんかん又は	正常範囲	最終診断責任者
			名 %	名 %														
総数		12,537	144(1.1)	59(0.5)	3(0.02)	- -	- -	30(0.2)	7(0.06)	5(0.04)	5(0.04)	- -	4(0.03)	1(0.008)	7(0.06)	2	83	
男		9,288	118(1.3)	48(0.5)	3(0.03)	- -	- -	25(0.3)	6(0.06)	5(0.05)	3(0.03)	- -	3(0.03)	- -	6(0.06)	2	68	
女		3,249	26(0.8)	11(0.3)	- -	- -	- -	5(0.2)	1(0.03)	- -	2(0.06)	- -	1(0.03)	1(0.03)	1(0.03)	-	15	
A 3	総数	1,626	7	7(0.4)	- -	- -	- -	3(0.2)	2(0.1)	2(0.1)	- -	- -	- -	- -	- -	-	-	
	男	1,158	6	6(0.5)	-	-	-	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	P
	女	468	1	1(0.2)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
A 4	総数	2,107	3	3(0.1)	- -	- -	- -	3(0.1)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	-	-	
	男	1,599	2	2(0.1)	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	P
	女	508	1	1(0.2)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
B 6	総数	541	69	2(0.4)	- -	- -	- -	- -	- -	1(0.2)	1(0.2)	- -	- -	- -	- -	-	67	
	男	487	57	1(0.2)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	56	C
	女	54	12	1(1.9)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	11	
B 9	総数	976	9	4(0.4)	- -	- -	- -	4(0.4)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	-	5	
	男	639	7	3(0.5)	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	4	C
	女	337	2	1(0.3)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
C 10	総数	125	1	1(0.8)	- -	- -	- -	1(0.8)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	-	-	
	男	38	-	- -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	P
	女	87	1	1(1.1)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A a	総数	1,492	11	7(0.5)	- -	- -	- -	4(0.3)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	3(0.2)	-	4	
	男	1,186	9	5(0.4)	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	2	-	4	C
	女	306	2	2(0.7)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
A d	総数	1,070	8	8(0.8)	- -	- -	- -	4(0.4)	1(0.09)	- -	1(0.09)	- -	2(0.2)	- -	- -	-	-	
	男	779	6	6(0.8)	-	-	-	3	1	-	1	-	1	-	-	-	-	C
	女	291	2	2(0.7)	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
B e	総数	1,008	11	9(0.9)	2(0.2)	- -	- -	2(0.2)	2(0.2)	- -	2(0.2)	- -	1(0.1)	- -	- -	2	-	
	男	769	10	8(1.0)	2	-	-	2	2	-	1	-	1	-	-	2	-	P
	女	239	1	1(0.4)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
B f	総数	723	5	5(0.7)	1(0.1)	- -	- -	- -	1(0.1)	- -	- -	- -	1(0.1)	- -	2(0.3)	-	-	
	男	514	5	5(1.0)	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2	-	-	P
	女	209	-	- -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A イ	総数	1,487	6	6(0.4)	- -	- -	- -	5(0.3)	- -	2(0.1)	1(0.07)	- -	- -	1(0.07)	- -	-	-	
	男	1,104	5	5★(0.5)	-	-	-	5	-	2	1	-	-	-	-	-	-	C
	女	383	1	1(0.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
A ホ	総数	1,382	14	7(0.5)	- -	- -	- -	4(0.3)	1(0.07)	- -	- -	- -	- -	- -	2(0.1)	-	7	
	男	1,015	11	7(0.7)	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	2	-	4	P
	女	367	3	- -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	

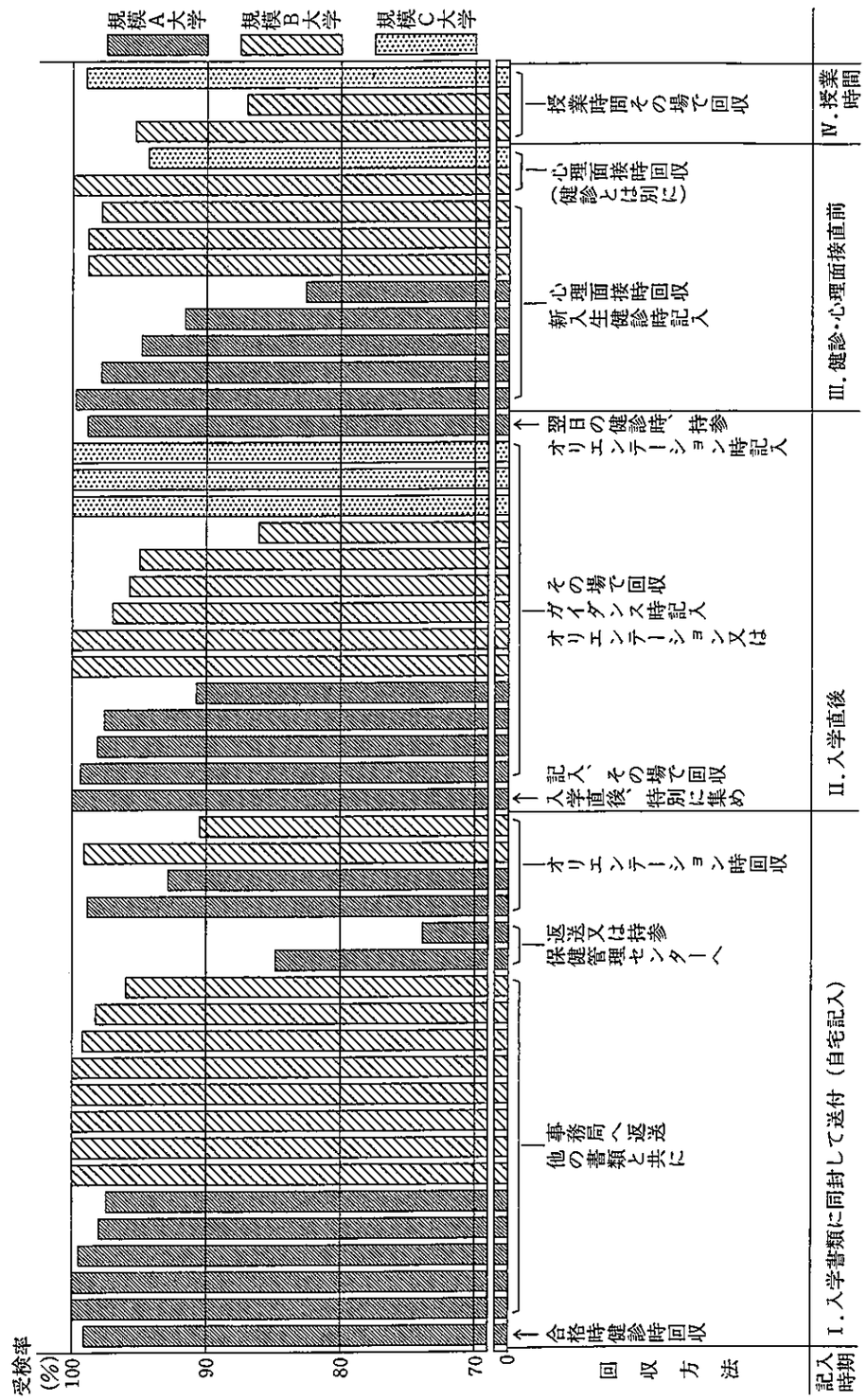
(注) ★Aイ校では男３名に重複診断あり

表II－11　診断結果の内訳　（ＩＣＤ－９に準拠）ｄ・ｅ・ｆグループ合計

分類番号と項目	総数	男	女
総　数(再面接および診断ずみ人数)	985	780	205
Ａ．精神衛生上問題ありとされた人数	493	405	88
内　訳			
295　精神分裂病	24	21	3
295.0　単純型	2	1	1
295.1　破瓜型	6	6	-
295.2　緊張型	-	-	-
295.3　妄想型	5	4	1
295.4　急性分裂病挿話	-	-	-
295.5　潜伏分裂病	1	1	-
295.6　残遺分裂病	1	1	-
295.8　その他	-	-	-
295.9　詳細不明	4	4	-
296　躁うつ病	6	4	2
296.0　躁うつ病・躁病型	-	-	-
296.1　躁うつ病，抑うつ型	1	-	1
296.3　躁うつ病循環型 現在うつ状態	-	-	-
296.9　詳細不明	-	-	-
297　妄想状態	2	2	-
300　神経症	184	151	33
300.0　不安状態(不安神経症)	20	19	1
300.1　ヒステリー	2	-	2
300.2　恐怖状態(恐怖症)	10	9	1
300.3　強迫神経症	14	12	2
300.4　神経性抑うつ	26	16	10
300.5　神経衰弱	19	19	-
300.6　離人症候群	-	-	-
300.7　心気症	20	18	2
300.8　対人恐怖	32	26	6
自己臭	6	2	4
300.9　詳細不明	17	15	2

分類番号と項目	総数	男	女
301　人格異常	99	92	7
301.0　妄想性人格異常	2	2	-
301.1　情動性人格異常	4	3	1
301.2　分裂病質人格異常	39	37	2
301.3　爆発性人格異常	1	1	-
301.4　強迫性人格異常	8	8	-
301.5　ヒステリー性人格異常	1	1	-
301.6　無力性人格異常	9	8	1
301.8　その他の人格異常 未熟人格	4	4	-
301.9　詳細不明	31	28	3
306　精神的諸要因による身体的病態(心身症)	33	23	10
307　他に分類されない特殊症状又は症候群	23	15	8
307.0　どもり	6	5	1
307.1　神経性無食欲症	6	1	5
307.2　チック	3	3	-
307.4　特殊な睡眠障害	3	2	1
307.5　その他および詳細不明の摂食障害	2	2	-
307.9　その他および詳細不明	3	2	1
308　急性ストレス反応	7	4	3
309　不適応反応	40	29	11
309.0　短期抑うつ反応	6	3	3
309.1　遷延性抑うつ反応	2	2	-
その他の診断	48	40	8
298.3　急性妄想反応	1	1	-
302.3　服装倒錯	1	1	-
診断保留	35	31	4
Ｂ．てんかんおよび脳波異常	16	12	4
Ｃ．正常範囲と判断された人数	476	363	113

(附)　1．Ａの内訳には，重複診断８名（男７・女１）が含まれている。
　　2．対象学生数，即ちｄ・ｅグループの記入法受検学生数およびｆグループの一次面接学生数の合計は，総数31,270名うち男23,932名，女7,338名である。



図II－1　記入法：記入の時期および回収法と受検率

III 傷病罹患状況に関する調査の結果

〔1〕保健管理センター受診状況からみた傷病別罹患状況

昭和59年度（昭和59年4月1日から昭和60年3月31日）の1年間に，診療，健康相談，精神衛生相談，保健指導，医療機関への紹介などをもとめて，個人的に保健管理センターを訪れた学生について調査した。受診者数の算定については，各傷病別に実人数で集計した。実人数を確定するためには，条件を提示する必要があるので，予め実施要領に次のような但し書を示し，これにしたがって算出して貰うよう依頼した。1）同一疾患，例えば慢性腎炎で受診したものは，年間何回受診しても一回に数える。2）いわゆる“かぜ”で5月，10月，2月と3回罹患し，受診した場合は3名と数える。1回の罹患で2～3日連続して来所した場合は1名と数える。3）“かぜ”で来所した学生が，翌日“ねんざ”で来所したと言う場合には，各傷病1名と数える。4）“じんましん”と“下痢”を訴えて受診したような場合は，因果関係が推定できる時には1名とし，別々の疾患と考えられる時には各々1名とする。5）定期検診の事後処置で，例えば蛋白尿陽性で再検査にきた学生の場合，診断が付かなければ除外，腎炎等と診断されれば計上する。以上のことから，この罹患調査は傷病件数として調査したことになる。

次に各傷病の分類については，疾病，傷害及び死因分類の第9回修正（ICD-9）に準拠するよう依頼した。分類は基本的には大分類項目により集計するよう集計表を設計したが，大学生の年代特有の疾患像もみたいとの希望があり，傷病数が多いと予想された疾患について，3桁基本番号分類で再掲するようにした。調査票策定段階では，手順としてまず大分類項目別にカルテをまとめて数をだし，次いでその中から指定された再掲項目の疾患を抜き出すという，単純な作業であり，負担も最も少ないであろうと考えたが，意外にも大分類にまとめることをせず，再掲項目のみを報告してきた大学がみられた。この方法はカルテの中から，ある病名のもののみを引き出せば良いから簡単ではあるが，傷病総量を問題とする今回の調査においては，大分類としては役に立たない結果となり，集計より除外せざるをえず，残念な思いをした。

保健管理センター受診状況からみた傷病別罹患状況は，大分類項目については4年制学部39校，6年制学部13校について集計した。その結果を表Ⅲ－1－1～2に示す。

4年制学部39校の在籍学生数は，男133,472名，女40,808名，合計174,280名であり，昭和59年度の保健管理センター受診者総数は男44,115名（在籍者の33.05%），女15,643名（在籍者の38.33%）であった。なお，この割合は前述の条件下で受診数を算出しているので，在籍者の3割強が来所したことを示すものではないことに注意を要する。

受診者中にしめる各傷病項目の割合をみると，Ⅷ．呼吸系の疾患が最も多く，男女合計で32.32%，ついでXVII．損傷及び中毒が25.06%で，この2項目で全体の57.38%と半数を越えた。これに続きIX．消化系の疾患13.16%，XII．皮膚及び皮下組織の疾患6.01%，VI．神経系及び感覚器の疾患5.62%が，上位5疾患であった。

次に再掲項目について若干の部位を観察した。まず，結核について見ると，男女合計（以下同じ）で35名，総受診者に対する割合は0.06%であった。悪性新生物は4名，0.01%，精神障害のうち，精神分裂病は98名，0.16%，そううつ病は84名，0.14%であった。呼吸系の疾患に占める急性上気道感染（かぜ）の多いことは予想通りで，16,880名，28.24%とこの大分類項目の9割近くに達した。ただし，学生の中には直接医・病院を訪れたものも多いであろうし，売薬に頼ったものもあろう。厚生省が毎年実施している国民健康調査において，急性上気道感染の売薬利用率は20%を越えている。前述のセンター受診率が，直ちに学生の“かぜ”罹患状況を示すものではない。

消化系の疾患では歯及び歯の支持組織の疾患2,680名，4.48%が多いが，歯科診療は大学により事情が異なり，実施していないところもある。したがってこの数値は実状より低いと見なければならない。胃及び十二指腸潰瘍は112名，0.19%，肝の疾患は137名，0.23%であった。腎炎，ネフローゼ症候群及びネフローゼは280名，0.47%であったが，これらは記入の条件から，主に診断確定群が算出されていると思われた。損傷及び中毒の項に，E分類として自動車事故を加えておいたが，この割合は758名，1.27%であった。

6年制学部については，13校集計で在籍学生数は男10,553名，女1,573名合計12,126名であった。受診者数は男2,040名（在籍者の19.33%）女298名（同じく18.94%）であった。傷病別ではⅧ．呼吸系の疾患，受診者男女計で37.64%，XⅦ．損傷及び中毒20.57%，Ⅸ．消化系の疾患14.16%，XⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患4.92%，XⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患4.88%，XⅥ．症状，徴候及び診断名不明確の状態4.32%が上位5疾患であった。

6年制学部の再掲項目は受診数が少なく，検討に値するかの疑問もあるが，ここでは4年制学部の再掲項目と比較して，割合の上で違いのあるもののみを取り出してみた。結核は男女合計で4名，割合は0.17%となり，4年制学部の0.06%より高率であった。Ⅴ．精神障害の内，精神分裂病0.21%（0.16%…4年制，以下同じ），そううつ病0.26%（0.14%），XⅦ．損傷および中毒のうち，骨折0.77%（0.32%）などが目立つものであったが，実数が少ないので，強いて意味づけることはできないと思われた。

〔2〕傷病による要管理者

保健管理センターが把握している要管理学生の傷病別人数であり，センター関与という条件は付くが，有病率調査と言うことができる。要管理の内容は実施要領に次のように示した。即ち，昭和59年度1年間に，結核，呼吸器疾患，高血圧，心疾患，肝疾患，腎疾患，胃腸疾患（慢性），内分泌疾患，糖尿病，膠原病，血液疾患，新生物，神経疾患，精神障害，その他の慢性疾患で経過観察，療養指導，管理を行ったもの，である。

調査表が回収され，検討がはじまった段階で難問が生じた。要管理についての解釈の違いである。例を上げると，境界型高血圧，あるいは月経困難症。いずれも当該センターとしては重点対策と思われ，実際対象数も多いが，他のセンターと比較すると，割合が著しく異なり異質の感を免れない。若干の大学については，このような観点から，集計に加えることを断念せざるをえなかった。

集計は，4年制学部38校，6年制学部17校について実施した。その結果を表Ⅲ－2－1～2に示す。4年制学部は在籍総数は男女合計で160,143名で，要管理学生は同じく男女合計4,006名，2.50%であった。各疾病は罹患調査と同じく大分類別，一部再掲として基本分類で集計した。要管理学生中に占める割合では，Ⅴ．精神障害18.77%が最も大きく，次いでⅦ．循環系の疾患18.65%であった。以下Ⅹ．泌尿生殖系の疾患16.48%，Ⅲ．内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害12.61%，Ⅳ．血液及び造血器の疾患7.44%までが上位5疾患であった。

再掲のうち若干の疾病の割合のみを掲げると，結核は要管理学生全体の1.57%，以下甲状腺の障害3.42%，肥満7.26%，貧血7.26%，精神分裂病2.25%，そううつ病1.92%，神経症9.81%，喘息1.57%，肝の疾患4.94%，腎炎等8.71%などであった。

6年制学部では，17校について在籍学生男女合計で14,420名，要管理学生男女合計が258名，1.79%であった。上位5疾患は順にⅤ．精神障害24.81%，Ⅶ．循環系の疾患21.32%，Ⅸ．消化系の疾患13.18%，Ⅹ．泌尿生殖系の疾患11.24%，Ⅲ．内分泌等の疾患9.30%であった。再掲分については数が少ないので省略する。

〔3〕過去1年間における傷病罹患状況

各大学の定期健康診断の時，学生全員（新入生は含めなくても可）にアンケートを配布し，昭和58年度中の，ごく軽いものを除く傷病罹患の有無，傷病の種類，センターと医療機関を分けて受診状況及び入院の有無を調査した。

この調査は各大学に多大の御尽力を頂いたもので深く感謝する。しかしながら集計について検討したところ，アンケート配布学年が一部であったり，内容に不備がある大学が見られた。そこで，入学年度は昭和58年から55年以前の4区分が揃っていること，疾病の大分類区分があること，その他の記入が完全なこと，学生が記入したものであることの条件を満たした，15大学についてのみ集計した。記述については，紙幅の関係から全数を用いた。その結果を表Ⅲ－3に示す。

本調査で集計した4年制学部15大学の定期健康診断対象者数は男女合計で52,035名，うち受検してアンケートの配布を受けたものは33,473名で，この受検率は64.33%である。アンケートの回収数は31,002枚，回収率は92.62%であった。

この１年間の傷病罹患の有無についてみると，有りが26.13％であるが，１人で数疾患に罹患している可能性もある。そこで，大分類別罹患者数を合計して，傷病件数としてだしてみると，11,474件となる。これを母数として検討した。罹患者のうち，保健管理センターで診療を受けたものが23.32％で，傷病罹患状況調査における受診者割合34.29％より低い。この点については傷病件数と実人員のちがいが影響しているであろう。医療機関で診療を受けたものは65.86％，入院したものは5.66％であった。罹患件数の多い疾患群をあげると，呼吸系の疾患36.78％，消化系の疾患21.13％，損傷及び中毒20.79％であった。例数の多少に関わらずセンター利用割合の高いものを拾うと，精神障害54.76％，症状，徴候及び診断名不明確の状態52.75％，血液及び造血器の疾患38.89％，循環系の疾患36.17％，泌尿生殖系の疾患35.43％などがあげられた。各疾患別に罹患総数を100％とした時，医療機関を受診したものはほとんどが60％をこえているが，少ない方では，呼吸系の疾患48.41％，症状,徴候及び診断不明確の状態47.25％であった。入院では先天異常75％，新生物71.43％が高いが実数はそれぞれ３例と５例であった。罹患数の多い呼吸系では1.75％，消化系は4.87％，損傷及び中毒は 11.40％であった。

以上のようなアンケート調査において罹患の申告はどの程度正確なものであろうか。本調査の数値は前述の通りであり，確かめるすべもないのであるが，岡山大学ではこの調査に関連して，アンケート記入者を医師，保健婦が再度問診し，両調査を比較した結果を発表している。参考として，一部引用する。

調査対象は59年入学生（前記調査では対象外）と56年入学生である。56年入学生（４回生）でみると，アンケート調査で罹患有りが男女合計で20.04％であったものが，問診調査ではまったく逆転し82.08％に達したという。問診により“かぜ”や虫歯が掘り出されたのが大きいようだが，未記入疾病の約60％は医療をうけ，また当然記入されるべきものも多く，入院の未記入も数件あったという。

この調査結果をただちに15大学のアンケート調査に拡大することはできないが，問診の結果ある特定疾患に隠ぺい傾向が強いのかどうかが知りたいところである。

〔松山恒明〕

表Ⅲ－１－１　保健管理センター受診者数　実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別　４年制学部

〔39校集計〕在籍学生数　男133,472　女40,808　計174,280

受診者総数	総数		男		女		入学年度											
							昭和59年度		58年度		57年度		56年度		55年度以前			
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数	59,758	100.00	44,115	100.00	15,643	100.00	13,642	5,109	10,583	4,314	9,015	3,374	8,733	2,651	2,142	195		
Ⅰ感染症及び寄生虫症	937	1.57	727	1.65	210	1.34	237	121	156	35	149	25	149	29	36	-		
結核（再掲）	35	0.06	28	0.06	7	0.04	5	4	-	-	3	1	16	2	4	-		
発疹を伴うウイルス疾患（再掲）	296	0.50	263	0.60	33	0.21	103	12	66	11	45	3	42	7	7	-		
Ⅱ新生物（再掲）	63	0.11	45	0.10	18	0.12	13	5	10	2	8	8	5	3	9	-		
悪性新生物（再掲）	4	0.01	4	0.01	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-		
Ⅲ内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	249	0.42	154	0.35	95	0.61	50	27	30	14	34	28	31	26	9	-		
Ⅳ血液及び造血器の疾患	400	0.67	100	0.23	300	1.92	15	70	31	76	35	85	16	68	3	1		
Ⅴ精神分裂病（再掲）	1,437	2.40	932	2.11	505	3.23	241	150	164	100	162	133	198	86	167	36		
躁うつ病（再掲）	98	0.16	72	0.16	26	0.17	9	5	8	5	12	8	18	4	25	4		
神経症（再掲）	84	0.14	66	0.15	18	0.12	9	4	11	5	8	4	13	4	25	1		
人格異常（再掲）	414	0.69	307	0.70	107	0.68	62	25	62	29	49	24	80	20	54	9		
Ⅵ神経系及び感覚器の疾患	71	0.12	59	0.13	12	0.08	10	4	10	2	13	2	13	1	13	3		
Ⅶ循環系の疾患	3,360	5.62	2,243	5.08	1,117	7.14	688	298	497	338	424	249	498	220	136	12		
Ⅷ呼吸系の疾患	981	1.64	740	1.68	241	1.54	211	74	141	64	134	46	219	54	35	3		
急性上気道感染（再掲）	19,313	32.32	15,375	34.85	3,938	25.17	4,450	1,237	3,675	1,041	3,282	870	3,227	748	741	42		
Ⅸ消化系の疾患	16,880	28.25	13,449	30.49	3,431	21.93	3,924	1,101	3,291	918	2,863	741	2,767	638	604	33		
歯及び歯の支持組織の疾患（再掲）	7,866	13.16	6,201	14.06	1,665	10.64	1,775	518	1,495	462	1,340	368	1,267	295	324	22		
胃及び十二指腸潰瘍（再掲）	2,680	4.48	2,271	5.15	409	2.61	551	104	588	111	511	97	489	88	132	9		
肝の疾患（再掲）	112	0.19	97	0.22	15	0.10	28	5	21	1	23	6	21	3	4	-		
Ⅹ泌尿生殖系の疾患	137	0.23	106	0.24	31	0.20	25	11	21	7	17	6	35	7	8	-		
腎炎，ネフローゼ症候群及びネフローゼ（再掲）	1,730	2.90	580	1.31	1,150	7.35	180	335	96	339	122	255	153	210	29	11		
XI妊娠，分娩及び産じょくの合併症	230	0.47	225	0.51	55	0.35	67	12	30	16	52	8	66	18	10	1		
XII皮膚及び皮下組織の疾患	13	0.02	-	-	13	0.08	-	4	-	2	-	3	-	3	-	1		
XIII筋骨格系及び結合組織の疾患	3,589	6.01	2,299	5.21	1,290	8.25	654	430	541	326	525	273	470	247	109	14		
腰痛症（再掲）	2,492	4.17	1,886	4.28	606	3.87	645	224	483	153	339	140	325	79	94	10		
XIV先天異常	533	0.89	416	0.94	117	0.75	113	24	106	39	81	34	82	16	34	4		
XV症状，徴候及び診断不明確の状態	50	0.08	33	0.07	17	0.11	6	5	9	5	4	2	10	4	5	-		
XVI損傷及び中毒	2,300	3.85	1,598	3.62	702	4.49	207	449	400	198	342	154	329	126	78	17		
骨折（再掲）	14,978	25.06	11,202	25.39	3,776	24.14	4,029	1,403	2,855	1,159	2,115	735	1,836	453	367	26		
関節脱臼（再掲）	192	0.32	175	0.40	17	0.11	63	9	49	5	27	2	29	1	7	-		
E分類自動車交通事故（再掲）	101	0.17	69	0.16	32	0.20	21	17	13	9	15	5	20	1	-	-		
	758	1.27	611	1.39	147	0.94	200	40	182	51	123	31	87	23	19	2		

（注）傷病分類は，ＩＣＤ－９に基づく

表Ⅲ－１－２　保健管理センター受診者数　実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別　６年制学部

〔13校集計〕　在籍学生数　男10,553　女1,573　計12,126

	総数						入学年度													
	総数		男		女		昭和59年度		58年度		57年度		56年度		55年度		54年度		53年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者総数	2,338	100.00	2,040	100.00	298	100.00	712	128	514	93	229	24	192	29	222	18	154	6	17	-
Ⅰ感染症及び寄生虫症	38	1.63	36	1.76	2	0.67	11	2	13	-	3	-	4	-	4	-	1	-	-	-
結核（再掲）	4	0.17	4	0.20	-	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
発疹を伴うウイルス疾患（再掲）	6	0.26	6	0.29	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-
Ⅱ新生物	6	0.26	6	0.29	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
悪性新生物（再掲）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅲ内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	11	0.47	8	0.39	3	1.01	2	2	-	1	-	-	2	-	2	-	-	-	2	-
Ⅳ血液及び造血器の疾患	9	0.38	4	0.20	5	1.68	2	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅴ精神障害	75	3.21	64	3.14	11	3.69	15	5	10	1	7	5	5	-	11	-	9	-	7	-
精神分裂病（再掲）	5	0.21	5	0.25	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2	-	1	-
躁うつ病（再掲）	6	0.26	5	0.25	1	0.34	2	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
神経症（再掲）	31	1.33	27	1.32	4	1.34	9	2	5	-	2	2	4	-	3	-	4	-	-	-
人格異常（再掲）	3	0.13	3	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-
Ⅵ神経系及び感覚器の疾患	95	4.06	79	3.87	16	5.37	24	4	18	7	7	-	6	4	12	1	12	-	-	-
Ⅶ循環系の疾患	27	1.15	22	1.08	5	1.68	7	2	7	1	2	-	2	1	2	1	1	-	1	-
Ⅷ呼吸系の疾患	880	37.64	787	38.58	93	31.21	262	34	188	31	104	4	86	9	73	13	69	2	5	-
急性上気道感染（再掲）	696	29.77	612	30.00	84	28.19	189	32	143	27	92	4	63	7	61	13	59	1	5	-
Ⅸ消化系の疾患	331	14.16	294	14.41	37	12.42	87	18	73	5	30	6	39	5	42	2	22	1	1	-
歯及び歯の支持組織の疾患（再掲）	115	4.92	100	4.90	15	5.03	22	6	23	1	12	2	15	3	21	2	6	1	1	-
胃及び十二指腸潰瘍（再掲）	17	0.73	16	0.78	1	0.34	6	-	1	1	1	-	3	-	5	-	-	-	-	-
肝の疾患（再掲）	7	0.30	7	0.34	-	-	3	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Ⅹ泌尿生殖系の疾患	51	2.18	34	1.67	17	5.70	11	6	6	9	4	-	4	2	5	-	4	-	-	-
腎炎，ネフローゼ症候群及びネフローゼ（再掲）	9	0.38	9	0.44	-	-	3	-	1	-	1	-	1	-	1	-	2	-	-	-
Ⅺ妊娠，分娩及び産じょくの合併症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅻ皮膚及び皮下組織の疾患	114	4.88	91	4.46	23	7.72	29	4	24	13	12	-	7	3	13	1	5	2	1	-
XIII筋骨格系及び結合組織の疾患	115	4.92	99	4.85	16	5.37	39	8	18	3	13	4	7	1	11	-	11	-	-	-
腰痛症（再掲）	21	0.90	19	0.93	2	0.67	8	1	4	1	2	-	1	-	2	-	2	-	-	-
XIV先天異常	4	0.17	4	0.20	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XV症状，徴候及び診断不明確の状態	101	4.32	89	4.36	12	4.03	33	4	16	3	13	3	6	1	15	-	6	1	-	-
XVI損傷及び中毒	481	20.57	423	20.74	58	19.46	186	34	136	19	33	2	24	3	31	-	13	-	-	-
骨折（再掲）	18	0.77	17	0.83	1	0.34	6	1	8	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
関節脱臼（再掲）	4	0.17	4	0.20	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
E分類自動車交通事故（再掲）	26	1.11	25	1.23	1	0.34	9	1	7	-	3	-	3	-	-	-	3	-	-	-

（注）傷病分類は，ＩＣＤ－９に基づく

表Ⅲ－２－１　傷病による要管理者数　実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別　４年制学部

〔38校集計〕　在籍学生数　男121,088　女39,055　計160,143

	総数						入学年度									
	総数		男		女		昭和59年度		58年度		57年度		56年度		55年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
要管理者総数	4,006	100.00	2,923	100.00	1,083	100.00	872	285	576	287	513	239	695	242	267	30
Ⅰ感染症及び寄生虫症	93	2.32	77	2.63	16	1.48	19	3	8	4	11	4	29	4	10	1
結核（再掲）	63	1.57	54	1.85	9	0.83	14	3	6	-	6	3	19	2	9	1
Ⅱ新生物	16	0.40	16	0.55	-	-	4	-	3	-	2	-	2	-	5	-
悪性新生物（再掲）	5	0.12	5	0.17	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	2	-
良性新生物（再掲）	8	0.20	8	0.27	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-	3	-
Ⅲ内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	505	12.61	354	12.11	151	13.94	134	43	45	39	68	34	81	32	26	3
甲状腺の障害（再掲）	137	3.42	26	0.89	111	10.25	4	29	5	28	10	27	4	25	3	2
糖尿病（再掲）	50	1.25	38	1.30	12	1.11	11	2	10	3	6	4	8	2	3	1
肥満（再掲）	291	7.26	268	9.17	23	2.12	118	11	27	6	41	2	63	4	19	-
Ⅳ血液及び造血器の疾患	298	7.44	45	1.54	253	23.36	13	60	15	54	8	72	9	64	-	3
貧血（再掲）	291	7.26	39	1.33	252	23.27	11	60	13	54	8	72	7	63	-	3
Ⅴ精神障害	752	18.77	582	19.91	170	15.70	123	34	117	57	94	33	137	33	111	13
精神分裂病（再掲）	90	2.25	71	2.43	19	1.75	5	4	10	1	17	5	20	5	19	4
躁うつ病（再掲）	77	1.92	55	1.88	22	2.03	7	3	10	7	8	7	8	4	22	1
神経症（再掲）	393	9.81	312	10.67	81	7.48	69	20	59	26	46	16	86	13	52	6
人格異常（再掲）	69	1.72	54	1.85	15	1.39	14	1	11	7	10	3	11	3	8	1
Ⅵ神経系及び感覚器の疾患	143	3.57	106	3.63	37	3.42	31	15	23	6	23	9	24	7	5	-
てんかん（再掲）	61	1.52	44	1.51	17	1.57	9	7	12	2	11	4	9	4	3	-
Ⅶ循環系の疾患	747	18.65	682	23.33	65	6.00	220	24	138	12	127	11	146	18	51	-
リウマチ熱及びリウマチ性心疾患（再掲）	6	0.15	4	0.14	2	0.18	2	-	2	-	-	2	-	-	-	-
高血圧（再掲）	382	9.54	375	12.83	7	0.65	124	4	60	2	60	-	89	1	42	-
Ⅷ呼吸系の疾患	150	3.74	116	3.97	34	3.14	31	7	22	10	17	8	37	8	9	1
慢性気管支炎（再掲）	5	0.12	4	0.14	1	0.09	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-
喘息（再掲）	63	1.57	45	1.54	18	1.66	17	4	5	8	5	4	16	2	2	-
Ⅸ消化系の疾患	284	7.09	238	8.14	46	4.25	78	10	47	14	41	13	59	9	13	-
胃及び十二指腸潰瘍（再掲）	64	1.60	59	2.02	5	0.46	18	1	12	2	14	1	12	1	3	-
肝の疾患（再掲）	198	4.94	160	5.47	38	3.51	56	9	31	12	24	11	41	6	8	-
Ⅹ泌尿生殖系の疾患	660	16.48	450	15.40	210	19.39	149	60	89	55	89	40	104	46	19	9
腎炎，ネフローゼ症候群及びネフローゼ（再掲）	349	8.71	268	9.17	81	7.48	92	27	44	20	53	13	67	16	12	5
月経困難症（再掲）	48	1.20	-	-	48	4.43	-	12	-	18	-	9	-	6	-	3
Ⅻ皮膚及び皮下組織の疾患	94	2.35	63	2.16	31	2.86	20	16	15	4	7	4	14	7	7	-
XIII筋骨格系及び結合組織の疾患	111	2.77	65	2.22	46	4.25	20	8	18	24	13	5	13	9	1	-
結合組織のびまん性疾患（再掲）	12	0.30	8	0.27	4	0.37	2	1	6	3	-	-	-	-	-	-
XIV先天異常	83	2.07	64	2.19	19	1.75	14	5	19	6	5	4	21	4	5	-
心臓循環系の先天異常（再掲）	58	1.45	46	1.57	12	1.11	13	3	14	3	4	3	13	3	2	-
XVI損傷及び中毒	70	1.75	65	2.22	5	0.46	16	-	17	2	8	2	19	1	5	-

（注）傷病分類は，ＩＣＤ－９に基づく

表Ⅲ－2－2　傷病による要管理者数　実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別　6年制学部

〔17校集計〕　在籍学生数　男12,542　女1,878　計14,420

	総数						入学年度													
	総数		男		女		昭和59年度		58年度		57年度		56年度		55年度		54年度		53年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
要管理者総数	258	100.00	215	100.00	43	100.00	53	14	36	7	25	9	37	4	30	5	24	2	10	2
Ⅰ感染症及び寄生虫症	8	3.10	6	2.79	2	4.65	2	-	1	1	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-
結核（再掲）	7	2.71	5	2.33	2	4.65	2	-	1	1	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-
Ⅱ新生物	2	0.78	2	0.93	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
悪性新生物（再掲）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
良性新生物（再掲）	1	0.39	1	0.47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Ⅲ内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	24	9.30	19	8.84	5	11.63	5	2	6	1	3	-	1	2	2	-	-	-	2	-
甲状腺の障害（再掲）	7	2.71	4	1.86	3	6.98	1	-	-	1	-	-	-	2	1	-	-	-	2	-
糖尿病（再掲）	2	0.78	2	0.93	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
肥満（再掲）	13	5.04	11	5.12	2	4.65	3	2	4	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-
Ⅳ血液及び造血器の疾患	7	2.71	-	-	7	16.28	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
貧血（再掲）	7	2.71	-	-	7	16.28	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
Ⅴ精神障害	64	24.81	52	24.19	12	27.91	9	2	8	1	9	5	4	-	8	2	6	-	8	2
精神分裂病（再掲）	10	3.88	9	4.19	1	2.33	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	3	-	2	1
躁うつ病（再掲）	7	2.71	6	2.79	1	2.33	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	1
神経症（再掲）	33	12.79	26	12.09	7	16.28	4	2	6	-	4	3	4	-	3	2	2	-	3	-
人格異常（再掲）	2	0.78	2	0.93	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅵ神経系及び感覚器の疾患	4	1.55	3	1.40	1	2.33	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	1	-	-	-
てんかん（再掲）	1	0.39	-	-	1	2.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Ⅶ循環系の疾患	55	21.32	51	23.72	4	9.30	15	2	9	-	6	1	9	-	6	1	6	-	-	-
リウマチ熱及びリウマチ性心疾患（再掲）	1	0.39	1	0.47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高血圧（再掲）	39	15.12	38	17.67	1	2.33	13	1	8	-	6	-	5	-	3	-	3	-	-	-
Ⅷ呼吸系の疾患	9	3.49	6	2.79	3	6.98	4	1	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
慢性気管支炎（再掲）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
喘息（再掲）	6	2.33	3	1.40	3	6.98	2	1	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
Ⅸ消化系の疾患	34	13.18	31	14.42	3	6.98	7	1	3	-	2	-	8	1	6	1	5	-	-	-
胃及び十二指腸潰瘍（再掲）	4	1.55	3	1.40	1	2.33	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
肝の疾患（再掲）	28	10.85	26	12.09	2	4.65	6	1	2	-	2	-	7	-	4	1	5	-	-	-
Ⅹ泌尿生殖系の疾患	29	11.24	25	11.63	4	9.30	7	2	1	1	2	-	6	-	5	-	4	1	-	-
腎炎，ネフローゼ症候群及びネフローゼ（再掲）	15	5.81	13	6.05	2	4.65	3	1	-	-	-	-	4	-	2	-	4	1	-	-
月経困難症（再掲）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅻ皮膚及び皮下組織の疾患	6	2.33	6	2.79	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-
ⅩⅢ筋骨格系及び結合組織の疾患	6	2.33	5	2.33	1	2.33	1	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
結合組織のびまん性疾患（再掲）	2	0.78	1	0.47	1	2.33	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ⅩⅣ先天異常	5	1.94	5	2.33	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
心臓循環系の先天異常（再掲）	5	1.94	5	2.33	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ⅩⅦ損傷及び中毒	5	1.94	4	1.86	1	2.33	-	1	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-

（注）傷病分類は，ＩＣＤ－９に基づく

表Ⅲ－3　アンケート調査からみた過去1年間における傷病罹患者数　実数・割合，傷病大分類・性・受診機関別

〔15校集計〕

	総数								男				女			
	罹患者数		センター受診		医療機関受診		医療機関入院		罹患者数	センター受診	医療機関受診	医療機関入院	罹患者数	センター受診	医療機関受診	医療機関入院
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合								
総数	11,474	100.00	2,676	23.32	7,557	65.86	650	5.66	8,440	2,114	5,339	530	3,034	562	2,218	120
Ⅰ感染症及び寄生虫症	367	3.20	80	0.70	279	2.43	37	0.32	302	68	223	31	65	12	56	6
Ⅱ新生物	7	0.06	1	0.01	7	0.06	5	0.04	4	1	4	3	3	-	3	2
Ⅲ内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	25	0.22	7	0.06	19	0.17	5	0.04	12	2	10	3	13	5	9	2
Ⅳ血液及び造血器の疾患	54	0.47	21	0.18	33	0.29	2	0.02	18	6	11	1	36	15	22	1
Ⅴ精神障害	84	0.73	46	0.40	56	0.49	15	0.13	70	40	44	13	14	6	12	2
Ⅵ神経系及び感覚器の疾患	482	4.20	110	0.96	377	3.29	24	0.21	315	75	240	17	167	35	137	7
Ⅶ循環系の疾患	47	0.41	17	0.15	37	0.32	9	0.08	38	14	29	7	9	3	8	2
Ⅷ呼吸系の疾患	4,220	36.78	993	8.65	2,043	17.81	74	0.64	3,160	838	1,406	63	1,060	155	637	11
Ⅸ消化系の疾患	2,424	21.13	379	3.30	1,922	16.75	118	1.03	1,712	316	1,303	89	712	63	619	29
Ⅹ泌尿生殖系の疾患	254	2.21	90	0.78	216	1.88	47	0.41	138	58	119	35	116	32	97	12
Ⅺ妊娠，分娩及び産じょくの合併症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅻ皮膚及び皮下組織の疾患	679	5.92	169	1.47	495	4.31	8	0.07	450	123	313	6	229	46	182	2
ⅩⅢ筋骨格系及び結合組織の疾患	350	3.05	91	0.79	269	2.34	28	0.24	262	70	201	23	88	21	68	5
ⅩⅣ先天異常	4	0.03	1	0.01	4	0.03	3	0.03	3	0	3	2	1	1	1	1
ⅩⅥ症状，徴候及び診断不明確の状態	91	0.79	48	0.42	43	0.37	3	0.03	68	38	32	1	23	10	11	2
ⅩⅦ損傷及び中毒	2,386	20.79	623	5.43	1,757	15.31	272	2.37	1,888	465	1,401	236	498	158	356	36

（注）本集計15校の対象学生数　男41,542　女10,493　計52,035
アンケート配布数　男26,097　女 7,376　計33,473
アンケート回収数　男24,242　女 6,760　計31,002

割合は罹患者総数に対するもの
傷病分類は，ＩＣＤ－９に基づく

Ⅳ 傷病による休学・退学・死亡者に関する調査の結果

〔1〕休　学　者

休学者総数のうち，傷病によるとして診断書を添えて届け出したものについて調査した。4年制学部については71校，6年制学部については26校について集計できた。その結果をそれぞれ表Ⅳ－1－1～2および表Ⅳ－2－1～2に示す。

4年制学部についてみると，総数では在籍者男女合計に対する傷病による休学者割合は0.15%，休学者男女合計に対する傷病による休学者割合は17.32%であった。入学年度と休学者割合との関係をみると，在籍者に対する傷病休学者割合は，4年生までは一定で，男女合計で0.1%であったが，4年生以上（昭和55年度以前入学）になると0.73%に急増した。

6年制学部については，総数では在籍者男女合計に対する傷病による休学者割合は0.23%，休学者男女合計に対する傷病による休学者割合は32.70%と4年制学部に比して高い。入学年度では，6年生以上，すなわち昭和53年度以前入学者において，在籍者に対する傷病休学者割合が2.06%と他年度の10倍以上となった。

傷病別内訳をみると，4年制学部では71校の傷病による休学者数は男369名，女61名合計430名であった。届け出傷病名で最も割合の高いのは，Ⅴ．精神障害で，男女合計割合は48.14%と約半数にのぼった。ついでⅩⅦ．損傷と中毒13.02%が高く，特に再掲で記入をもとめたE分類，自動車事故が33名で7.67%になった。Ⅸ．消化系の疾患8.14%が第3位であった。

6年制学部について同様に傷病別内訳をみると，Ⅴ．精神障害が57.69%，Ⅵ．神経系及び感覚器，Ⅸ．消化系の疾患，Ⅹ．泌尿生殖器がいずれも5.77%でこれに次ぐが，これら3部位の実数は各々3名であった。

〔2〕退　学　者

退学者総数のうち，退学願いに傷病による，として届け出られたものを対象として，4年制学部70校，6年制学部25校について集計した。その結果をそれぞれ表Ⅳ－3－1～2および表Ⅳ－4に示す。昭和59年度1年間の総退学者は4年制学部では男女合計で2,962名，このうち傷病によるとして届けられたものは95名，3.21%であった。6年制学部では総退学者の男女合計が，25校で65名，うち傷病によるとしたものは4名，6.15%であった。

実数が少ないので，入学年度別の検討は割愛する。4年制学部について，傷病別内訳をみると，男女計でⅤ．精神障害が52.63%，ⅩⅦ．損傷及び中毒14.74%であった。損傷及び中毒の再掲，E分類，自動車事故が10.53%と高い比率なのが注目された。6年制学部ではⅤ．精神障害が50%であるが，実数は2名，ⅩⅦ．損傷及び中毒も2名であった（表は省略）。

休・退学者の“願い出で”事由は多くの事情により，真実とはほど遠い理由がかかれる場合があることは良く知られている。今回の健康白書調査においても，この点についてのより詳細な調査が，傷病による休・退学・死亡者の特別調査として実施された。関連する調査項目として参照されたい。

〔3〕死　亡　者

死亡者は報告のあった79大学について集計した。その結果を表Ⅳ－５－１－２に示す。昭和59年度１年間にこの79大学で男161名，女33名，合計194名が死亡した。死因についてはこれまでの傷病分類で使用した，ICD-9 の大分類項目並びに一部の再掲項目では不十分である。そこで死因については基本分類（一部４桁分類使用）番号によって検討し，さらにＥ分類（損傷及び中毒の外因の補助分類）を併用した。学部及び入学年度は区分せず，一括して取り扱った。

在籍学生数は79大学合計で，男261,762名，女80,142名，合計341,904名であった。前述の死亡者数を在籍学生数で除して，学生1,000人当たり死亡率を算出すると，男0.62（男子学生1,000対），女0.41（女子学生1,000対），男女合計では0.57（学生1,000対）となった。人口動態統計，全国の年齢階級別死亡率とは年齢区分が異なるので比較できないが，おおよそ男ではやや低く，女ではやや高いと言えよう。

本調査に関する分類検討には，学生の死亡状況についての克明な記載が必要で，ことに損傷及び中毒並びに自殺において重要である。このため関係大学には数次にわたる問い合わせをくりかえす結果となり，種々の御協力を頂いた。記して感謝する。

死因内容についてみると，Ⅱ．新生物，男女合計17名はすべて悪性新生物である。Ⅶ．循環系の疾患では基本分類番号428，心不全が11名で，急性心不全と記載されたものはここに分類した。死亡数が最も多いのは損傷及び中毒，150名であるが，この項目は損傷及び中毒の外因の補助分類（Ｅ分類）で細かく分類し，これを簡単分類にまとめた。簡単分類Ｅ104－114は不慮の事故及び有害作用，通常不慮の事故と呼ばれるもので，基本分類番号ではＥ800－949に当たる。この数は男83名，女11名合計94名であった。次に簡単分類Ｅ115は自殺で，基本分類でＥ950－959である。男43名，女13名合計56名であった。他殺，その他の外因は０であった。

昭和58年度の人口動態統計によれば，全国の年齢階級別死因順位は，総数（男女合計）では，15～19歳，20～24歳の１～４位は同順で，１位不慮の事故，２位自殺，３位悪性新生物，４位心疾患であり，今回の健康白書調査と一致している。飲酒風俗に医学上好ましくない風潮がみられるが，急性アルコール中毒による死亡は１名であった。

〔松山恒明〕

表Ⅳ－１－１　休学者数　実数・割合，性・入学年度別　４年制学部

〔71校集計〕

入学年度		在籍者数(a)	総休学者(b) 実数	総休学者(b) 休学率*	(再掲)傷病による休学者 実数	(再掲)傷病による休学者 傷病休学率*	(再掲)傷病による休学者 傷病割合**
総数		292,505	2,482	0.8	430	0.1	17.3
男		223,545	2,054	0.9	369	0.2	18.0
女		68,960	428	0.6	61	0.1	14.3
昭和　59年度	男	52,375	322	0.6	66	0.1	20.5
	女	17,920	60	0.3	10	0.1	16.7
58年度	男	52,119	264	0.5	46	0.1	17.4
	女	17,665	49	0.3	10	0.1	20.4
57年度	男	51,362	330	0.6	69	0.1	20.9
	女	16,321	107	0.7	13	0.1	12.1
56年度	男	50,975	412	0.8	71	0.1	17.2
	女	15,979	94	0.6	15	0.1	16.0
55年度以前	男	16,714	726	4.3	117	0.7	16.1
	女	1,075	118	11.0	13	1.2	11.0

(注)　＊ａに対する率，＊＊ｂに対する率

表Ⅳ－１－２　休学者数　実数・割合，性・入学年度別　６年制学部

〔26校集計〕

入学年度		在籍者数(a)	総休学者(b) 実数	総休学者(b) 休学率*	(再掲)傷病による休学者 実数	(再掲)傷病による休学者 傷病休学率*	(再掲)傷病による休学者 傷病割合**
総数		22,215	159	0.7	52	0.2	32.7
男		19,328	142	0.7	46	0.2	32.4
女		2,887	17	0.6	6	0.2	35.3
昭和　59年度	男	3,038	6	0.2	3	0.1	50.0
	女	581	4	0.7	-	-	-
58年度	男	2,993	18	0.6	3	0.1	16.7
	女	560	1	0.2	1	0.2	100.0
57年度	男	3,212	48	1.5	7	0.2	14.6
	女	499	5	1.0	2	0.4	40.0
56年度	男	3,201	25	0.8	11	0.3	44.0
	女	512	2	0.4	1	0.2	50.0
55年度	男	3,217	10	0.3	6	0.2	60.0
	女	381	3	0.8	1	0.3	33.3
54年度	男	3,110	13	0.4	5	0.2	38.5
	女	328	1	0.3	-	-	-
53年度以前	男	557	22	3.9	11	2.0	50.0
	女	26	1	3.8	1	3.8	100.0

(注)　＊ａに対する率，＊＊ｂに対する率

表Ⅳ－２－１　傷病による休学者数　　実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別　４年制学部

〔71校集計〕

	総数						入学年度									
	総数		男		女		昭和59年度		58年度		57年度		56年度		55年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
傷病休学者総数	430	100.00	369	100.00	61	100.00	66	10	46	10	69	13	71	15	117	13
Ⅰ感染症及び寄生虫症	13	3.02	10	2.71	3	4.92	2	-	1	1	3	1	2	1	2	-
結核（再掲）	10	2.33	8	2.17	2	3.28	1	-	1	1	2	1	2	-	2	-
Ⅱ新生物	15	3.49	15	4.07	-	-	3	-	3	-	4	-	-	-	5	-
悪性新生物（再掲）	6	1.40	6	1.63	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	4	-
その他の新生物（再掲）	6	1.40	6	1.63	-	-	1	-	2	-	2	-	-	-	1	-
Ⅲ内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	3	0.70	2	0.54	1	1.64	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-
甲状腺の障害（再掲）	1	0.23	1	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
糖尿病（再掲）	1	0.23	-	-	1	1.64	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅳ血液及び造血器の疾患	11	2.56	10	2.71	1	1.64	-	1	4	-	1	-	4	-	1	-
貧血（再掲）	9	2.09	8	2.17	1	1.64	-	1	2	-	1	-	4	-	1	-
Ⅴ精神障害	207	48.14	173	46.88	34	55.74	22	1	16	6	25	7	36	10	74	10
精神分裂病（再掲）	39	9.07	35	9.49	4	6.56	4	-	3	-	5	-	8	1	15	3
躁うつ病（再掲）	21	4.88	15	4.07	6	9.84	2	-	3	2	1	2	2	-	7	2
神経症（再掲）	113	26.28	98	26.56	15	24.59	13	1	9	3	16	2	19	7	41	2
人格異常（再掲）	9	2.09	6	1.63	3	4.92	-	-	-	-	-	1	1	2	5	-
Ⅵ神経系及び感覚器の疾患	13	3.02	10	2.71	3	4.92	-	1	1	1	5	1	2	-	2	-
てんかん（再掲）	1	0.23	1	0.27	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
眼及び付属器の障害（再掲）	3	0.70	2	0.54	1	1.64	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-
Ⅶ循環系の疾患	5	1.16	5	1.36	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	2	-
伝導障害（再掲）	1	0.23	1	0.27	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅷ呼吸系の疾患	12	2.79	11	2.98	1	1.64	4	-	-	-	2	-	1	1	4	-
急性上気道感染（再掲）	1	0.23	1	0.27	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
慢性気管支炎（再掲）	1	0.23	1	0.27	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
喘息（再掲）	7	1.63	6	1.63	1	1.64	2	-	-	-	1	-	1	1	2	-
Ⅸ消化系の疾患	35	8.14	32	8.67	3	4.92	9	3	6	-	8	-	7	-	2	-
胃及び十二指腸潰瘍（再掲）	7	1.63	6	1.63	1	1.64	2	1	3	-	-	-	1	-	-	-
胃炎及び十二指腸炎（再掲）	6	1.40	6	1.63	-	-	2	-	1	-	1	-	1	-	1	-
その他の非感染性胃炎及び大腸炎（再掲）	6	1.40	4	1.08	2	3.28	1	2	-	-	-	-	3	-	-	-
肝の疾患（再掲）	13	3.02	13	3.52	-	-	4	-	1	-	5	-	2	-	1	-
Ⅹ泌尿生殖系の疾患	15	3.49	14	3.79	1	1.64	7	-	2	1	2	-	-	-	3	-
腎炎ネフローゼ症候群及びネフローゼ（再掲）	14	3.26	13	3.52	1	1.64	7	-	1	1	2	-	-	-	3	-
Ⅺ妊娠，分娩及び産じょくの合併症	1	0.23	•	•	1	1.64	•	-	•	-	•	1	•	-	•	-
Ⅻ皮膚及び皮下組織の疾患	2	0.47	1	0.27	1	1.64	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
XIII筋骨格系及び結合組織の疾患	24	5.59	20	5.42	4	6.56	7	2	1	-	4	1	2	-	6	1
結合組織のびまん性疾患（再掲）	4	0.93	3	0.81	1	1.64	1	-	1	-	-	-	1	-	-	1
慢性関節リウマチ（再掲）	1	0.23	-	-	1	1.64	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
腰痛症（再掲）	9	2.09	9	2.44	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	4	-
XIV先天異常	1	0.23	1	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
XVI症状，徴候及び診断不明確の状態	9	2.09	8	2.17	1	1.64	1	-	2	-	-	-	-	-	5	1
XVII損傷及び中毒	56	13.02	49	13.28	7	11.48	6	1	10	1	13	1	14	3	6	1
骨折（再掲）	16	3.72	14	3.79	2	3.28	-	1	5	-	3	-	4	1	2	-
関節脱臼（再掲）	2	0.47	1	0.27	1	1.64	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
E分類自動車事故（再掲）	33	7.67	29	7.86	4	6.56	5	-	5	1	8	1	8	1	3	1
不明	8	1.86	8	2.17	-	-	3	-	-	-	1	-	1	-	3	-

（注）傷病分類は，ＩＣＤ－９に基づく

表Ⅳ－２－２　傷病による休学者数　　実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別　６年制学部

〔26校集計〕

	総数						入学年度													
	総数		男		女		昭和59年度		58年度		57年度		56年度		55年度		54年度		53年度以前	
	実数	%	実数	%	実数	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
傷病休学者総数	52	100.00	46	100.00	6	100.00	3	-	3	1	7	2	11	1	6	1	5	-	11	1
Ⅰ感染症及び寄生虫症	2	3.85	2	4.35	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅱ新生物	2	3.85	2	4.35	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
Ⅲ内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅳ血液及び造血器の疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅴ精神障害	30	57.69	28	60.87	2	33.33	1	-	1	-	2	2	6	-	4	-	4	-	10	-
Ⅵ神経系及び感覚器の疾患	3	5.77	3	6.52	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Ⅶ循環系の疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅷ呼吸系の疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅸ消化系の疾患	3	5.77	3	6.52	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Ⅹ泌尿生殖系の疾患	3	5.77	2	4.35	1	16.67	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1
Ⅺ妊娠，分娩及び産じょくの合併症	-	-	•	•	-	-	•	-	•	-	•	-	•	-	•	-	•	-	•	-
Ⅻ皮膚及び皮下組織の疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XIII筋骨格系及び結合組織の疾患	1	1.92	-	-	1	16.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
XIV先天異常	1	1.92	1	2.17	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI症状，徴候及び診断不明確の状態	2	3.85	2	4.35	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
XVII損傷及び中毒	2	3.85	2	4.35	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
不明	3	5.77	1	2.17	2	33.33	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-

（注）傷病分類は，ＩＣＤ－９に基づく

表Ⅳ－３－１　退学者数　　実数・割合，性・入学年度別　４年制学部

〔70校集計〕

入学年度		在籍者数(a)	総退学者(b) 実数	総退学者(b) 退学率*	(再掲)傷病による退学者 実数	傷病退学率*	傷病割合**
総数		297,117	2,962	1.00	95	0.03	3.21
男		228,011	2,600	1.14	78	0.03	3.00
女		69,106	362	0.52	17	0.02	4.70
昭和　59年度	男	53,522	560	1.05	8	0.01	1.43
	女	18,014	108	0.60	3	0.02	2.78
58年度	男	53,267	273	0.51	13	0.02	4.76
	女	17,661	46	0.26	2	0.01	4.35
57年度	男	52,487	320	0.61	11	0.02	3.44
	女	16,374	69	0.42	3	0.02	4.35
56年度	男	52,119	483	0.93	11	0.02	2.28
	女	15,980	55	0.34	5	0.03	9.10
55年度以前	男	16,616	964	5.80	35	0.21	3.63
	女	1,077	84	7.80	4	0.37	4.76

(注)　＊ａに対する率，＊＊ｂに対する率

表Ⅳ－３－２　退学者数　　実数・割合，性・入学年度別　６年制学部

〔25校集計〕

入学年度		在籍者数(a)	総退学者(b) 実数	総退学者(b) 退学率*	(再掲)傷病による退学者 実数	傷病退学率*	傷病割合**
総数		21,598	65	0.30	4	0.02	6.15
男		18,796	59	0.31	4	0.02	6.78
女		2,802	6	0.21	-	-	-
昭和　59年度	男	2,956	15	0.51	-	-	-
	女	560	3	0.54	-	-	-
58年度	男	2,904	10	0.34	-	-	-
	女	547	1	0.18	-	-	-
57年度	男	3,120	7	0.22	-	-	-
	女	490	1	0.20	-	-	-
56年度	男	3,117	9	0.29	-	-	-
	女	494	1	0.20	-	-	-
55年度	男	3,132	2	0.06	1	0.03	50.00
	女	367	-	-	-	-	-
54年度	男	3,017	2	0.07	-	-	-
	女	319	-	-	-	-	-
53年度以前	男	550	14	2.55	3	0.55	21.43
	女	25	-	-	-	-	-

(注)　＊ａに対する率，＊＊ｂに対する率

表Ⅳ－４　傷病による退学者数　　実数・割合，傷病大分類・性・入学年度別　４年制学部

〔70校の集計〕

傷病退学者総数	総数 実数	総数 %	男 実数	男 %	女 実数	女 %	入学年度 昭和59年度 男	昭和59年度 女	58年度 男	58年度 女	57年度 男	57年度 女	56年度 男	56年度 女	55年度以前 男	55年度以前 女
Ⅰ感染症及び寄生虫症	95	100.00	78	100.00	17	100.00	8	-	13	2	11	3	11	5	35	4
Ⅱ新生物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
悪性新生物	3	3.16	3	3.85	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
その他の新生物(再掲)	1	1.05	1	1.28	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
Ⅲ内分泌，栄養及び代謝疾患並びに免疫障害	2	2.11	2	2.56	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Ⅳ血液及び造血器の疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貧血(再掲)	5	5.26	2	2.56	3	17.65	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Ⅴ精神障害	3	3.16	-	-	3	17.65	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精神分裂病(再掲)	50	52.63	42	53.85	8	47.06	3	3	2	1	5	3	3	1	29	3
躁うつ病(再掲)	5	5.26	4	5.13	1	5.88	-	-	-	-	2	-	-	-	2	1
神経症(再掲)	6	6.32	3	3.85	3	17.65	-	-	1	-	-	-	-	-	2	1
人格異常(再掲)	25	26.32	22	28.21	3	17.65	3	-	-	-	1	1	2	1	16	1
Ⅵ神経系及び感覚器の疾患	8	8.42	8	10.26	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	6	1
て ん かん(再掲)	1	1.05	1	1.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅶ循環系の疾患	1	1.05	1	1.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅷ呼吸系の疾患	1	1.05	1	1.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性上気道感染(再掲)	1	1.05	1	1.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅸ消化系の疾患	5	5.26	4	5.13	1	5.88	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
胃炎及び十二指腸炎(再掲)	2	2.11	2	2.56	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
その他の非感染性胃腸炎及び大腸炎(再掲)	1	1.05	-	-	1	5.88	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
肝の疾患(再掲)	2	2.11	2	2.56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ⅹ泌尿生殖系の疾患	1	1.05	1	1.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XI妊娠，分娩及び産じょくの合併症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XII皮膚及び皮下組織の疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XIII筋骨格系及び結合組織の疾患	1	1.05	1	1.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XIV先天異常	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XV症状，徴候及び診断不明確の状態	4	4.21	4	5.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI損傷及び中毒	14	14.74	11	14.10	3	17.65	1	-	1	-	1	-	1	-	2	-
骨折(再掲)	1	1.05	1	1.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
E分類自動車事故(再掲)	10	10.53	8	10.26	2	11.76	1	-	1	-	3	-	3	-	1	-
不明	9	9.47	7	8.97	2	11.76	1	-	1	-	-	-	2	-	-	1

(注)　傷病分類は，ＩＣＤ－９に基づく

表Ⅳ－5－1　死亡者数　実数，死因(基本分類)・性・年齢別

〔79校集計〕在籍学生数　男261,762　女80,142　計341,904

		総数			18歳		19		20		21		22		23		24		25以上	
		総数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	死亡者総数	194	161	33	9	6	29	5	35	10	25	7	27	2	18	1	7	1	11	1
038.9	敗血症	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
151	胃の悪性新生物	2	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
155	肝及び肝内胆管の悪性新生物	2	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
162	気管，気管支及び肺の悪性新生物	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
164	胸腺，心及び縦隔の悪性新生物	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
183	卵巣及びその他の子宮附属器の悪性新生物	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
199	部位の明示されない悪性新生物	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
202	リンパ様及び組織球組織のその他の悪性新生物	4	4	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
204	リンパ性白血病	2	1	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
205	骨髄性白血病	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
208	細胞形態不明の白血病	2	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
286	凝固障害	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
289	血液及び造血器のその他の疾患	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
295	精神分裂病	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
305	急性アルコール中毒	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
307.1	神経性無食欲症	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
323	脳炎，脊髄炎及び脳脊髄炎	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
345	てんかん（重積）	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
424	心内膜のその他の疾患	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
428	心不全	11	10	1	-	-	1	-	1	-	1	1	4	-	1	-	1	-	1	-
431	脳内出血	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
570	急性又は亜急性肝臓壊死	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
573	その他の肝障害	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
747	循環系のその他の先天異常	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
798	原因不明の突然死	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
799.9	その他の診断不明確又は原因不明の死因	2	1	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	損傷および中毒*	150	126	24	8	5	23	4	29	6	18	6	21	1	12	1	6	-	9	1

＊詳細は表Ⅳ－5－2（E分類）に示す。

表Ⅳ－5－2　死亡者数　実数，死因(E分類)・性・年齢別

〔79校集計〕

		総数			18歳		19		20		21		22		23		24		25以上	
E分類		総数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	総数	150	126	24	8	5	23	4	29	6	18	6	21	1	12	1	6	-	9	1
804	列車上での転倒，列車への又は列車からの墜落	2	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
810	列車との衝突による自動車交通事故	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
811 812	他の自動車との衝突によるその他の自動車交通事故	38	30	8	2	1	5	2	9	1	7	3	4	1	1	-	2	-	-	-
813	その他の道路交通機関との衝突による自動車交通事故	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
814	歩行者との衝突による自動車交通事故	2	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
815	公道上での衝突によるその他の自動車交通事故	15	15	-	1	-	5	-	5	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-
816	操縦性喪失による自動車交通事故，公道上での衝突のないもの	6	6	-	-	-	3	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
818	その他の非衝突性自動車交通事故	2	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
826	自転車事故	4	4	-	1	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
830	水上交通機関の事故による溺水	6	6	-	-	-	2	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
860	アルコールによる不慮の中毒，他に分類されないもの	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
882	建物又はその他の建造物からの墜落	4	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
884	その他の墜落	3	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
901	過度の低温	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
910	不慮の溺死及び溺水	6	6	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
917	物体又は人との不慮の衝突又は打撲	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
950	固体又は液体による自殺及び自為中毒	4	2	2	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
951	家庭用ガスによる自殺及び自為中毒	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
952	その他のガス及び蒸気による自殺及び自為中毒	4	2	2	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-
953	縊首、絞首及び窒息による自殺及び自為中毒	18	17	1	-	-	2	-	4	1	2	-	5	-	1	-	1	-	2	-
954	入水による自殺及び自傷	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
957	高所から飛びおりによる自殺及び自傷	8	3	5	-	3	1	1	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
958	その他及び詳細不明の手段による自殺及び自傷	20	18	2	-	-	-	-	2	2	2	-	3	-	4	-	3	-	4	-

(注) E分類：損傷および中毒の外因補助分類

V 特別調査の結果

傷病による休・退学・死亡者についての特別調査

修学に支障を来たすような傷病は，本来，定期健康診断よりも，休・退学者や死亡者の調査の中でより一層明白になるはずのものであるが，休・退学者の中には，傷病によるものでも，家庭の都合など傷病以外の理由で願出するものもあり，また，傷病によるものでも他の傷病名で願出するものもあるので，学生の願出そのままでは傷病による休・退学の実態を正確に把握することは困難である。そこで，願出書類による調査のほかに実態調査が可能な大学の参加を得て，昭和59年度の傷病による休・退学・死亡者についての特別調査を行った。参加大学は8校で，すべて精神科医の報告による。

1．調査方法

休・退学の願出書類を提出するに当って，保健管理センターを経由する義務づけのない今日の状況では，詳細な実態調査を行うことは非常に困難である。幸い，昭和53年度に発足した大学精神衛生研究会*で，毎年，精神障害学生について，休・退学・留年学生の実態調査を行ってきていたので，今回の特別調査には，その方法をそのまま用いることにした。方法の骨子は次の通りである。

①願出理由が傷病である者に限定せず，休・退学した学生全員について，個別に実態調査を行う。

②実態調査は，本人に面接することを基本とするが，不可能な場合は電話などを用いて，本人または家族に，できる限り直接話をきく。また，担任教官や学生係や教務係の事務官によく話をきくことができ，その内容に信憑性がある場合は，判断の資料として用いることができる。

③調査後，休・退学者の全例について，個別に次のイ）～ハ）の約束に従って分類を行い，かつ具体的な記述を行う。

イ）願出書類は，学生の書いた理由によって，次の1～5に分類する。

1．傷病　　例：“腎炎”，“病気のため”

2．事由不明記　　例：“一身上の理由”，“勉学意欲喪失”，“単位未取得”

3．事由明記　　例：“外国留学”，“出産”

4．自分以外の事由　　例：“家庭の都合”，“経済的理由”（授業料未納や命退学もここに含める）

＊大学の保健管理センターの精神衛生スタッフが会員の研究会で，研究テーマごとに班を組んでいるが，休・退学・留年学生調査班の参加大学は，昭和59年度で国立44大学，私立2大学であった。

5．願出書類が不詳またはなし

ロ）実態調査結果を，精神衛生的視点からみて，次のA～Dに分類する。

A．精神医学的に診断がつくもの（これは，ICD-9 に準拠して，3～4桁の分類も行う）

スチューデント・アパシーは学問的に多少の問題を残しており，ICD-9 では単一に分類できないが，スチューデント・アパシーと診断がついた場合はここに含める（表V－10参照）。

B．精神障害の疑いがあるもの

これは当初，精神健康調査をしていて，精神医学的に診断をつけられないが，問題なしとも言えず，「何となくおかしい」という一群があり，後にその群の学生がしばしば問題を起すという経験からもうけられた分類であるが，調査上情報不足のために診断のつけられない場合も含める。

C．精神的に問題なし

身体疾患は，ここに含める。

D．未調査，または不明（調査不能）

ハ）死亡学生は，退学者に含めて集計する。これは，精神障害者の自殺は多いので，死亡例を除外したために起る歪みをなくしたいためである。次の約束分類を行う。

A．精神障害を持っていることが明らかな者の自殺

B．精神障害が疑われる者，またはその状態にあったと思われる者の自殺，および詳細不明の自殺と行方不明

C．病死，事故死

以上は，精神衛生上の問題を明らかにするのが目的の調査法である。そのため，身体疾患が事由の休・退学者（願出理由分類1）は，添附された診断書以上の詳しい調査は原則として行わないまま，実態調査結果「C」に分類される。例えば肝炎や腎炎で退学する学生が稀ならずいるが，本当に退学せざるを得ないほど重症なのか，病態はどうかなど不問に附されると同時に，実は別に精神的な問題が存在したのかどうかも不問に附される。したがってこの方法では，身体疾患が休・退学の事由である場合には上述の2点について明らかにし得ない可能性があることを附記しておく。ちなみに，今回の実態調査で傷病と判明した休学者のうち，精神医学的診断のついた者「A」のグループでセンターが関与していた者は全学で80.6%であったが，身体疾患と届出された者である「C」のグループでセンターの関与があった者は，10.3%とわずかであった。

この調査の母集団の学生数は36,092名で，その構成は表V－1の通りである。4年制学部33,757名(男24,974，女8,783)に対し，6年制学部は医歯学部のみで2,335名(男1,915，女420）と少人数であるため，分析にはすべて4年制学部を用いた。

2．実態調査結果

1） 心身の障害による休・退学者の実数と率，および疾患傾向

願出書類に記入されていた身体疾患と，実態調査で明らかになった精神障害とを併せ，入学年度別，男女別，心身の障害別に，実数と対象学生に対する発生率をまとめて表にした。休学者は表V－2，退学者は表V－3，である。

これによると，傷病による休・退学者の各年度入学者別の発生率は，休・退学とも昭和59年度入学（1学年）から昭和56年度入学（4学年）までは低率で，休学で0.2%前後,退学で0.1%以下であるが，昭和55年度以前入学（留年）で急上昇し，最低の昭和58年度入学（2学年）に比し，休学で11倍，退学で46倍という高率であった。

疾患傾向を，まず精神障害と身体疾患に2大別すると，精神障害の占める割合が圧倒的に高く，休学で全傷病休学者の73.5%，退学で全傷病退学者の96.4%であった。なお，これを対象学生比についてみると，休学の場合，精神障害では男0.22%，女0.18%，身体疾患では男0.08%，女0.05%であった。また，退学の場合，精神障害では男0.20%，女0.10%，身体疾患では男0.01%，女0%であった。

精神障害の中では，ICD-9 に準拠した分類で，休学者72名中，1位は精神分裂病圏で35名，48.6%，2位はスチューデント・アパシー群で16名，22.2%，3位は躁うつ病圏のうつ病で8名，11.1%，であったが，うつ病に神経症性抑うつ4名，反応性うつ病1名，不適応反応抑うつ型1名を加えると，うつ病群は14名，19.4%となった。退学者53名では，1位がスチューデント・アパシー群で34名，64.2%，2位は精神分裂病圏で15名，28.3%，うつ病は躁うつ病圏1名神経症圏1名，計2名で3.8%と少人数であった（終りの表V－10参照)。

2） 休・退学者全員の精神衛生的視点からみた分類結果

全休学者318名，全退学者392名を，調査方法③のロ）に従って，精神衛生的視点から分類した結果を表V－4にまとめた。

精神衛生的な意味で問題があると思われるのは，AとBに分類された学生であるが，両者を合計すると，休学では休学者全体の32.4%，退学では退学者全体の35.4%を占めていた。大学精神衛生研究会の報告でも，昭和56年以来毎年ほぼ同様の結果が得られている。

退学でAが少なくBが多いのは，退学してしまって調査困難というケースが多いためと思われる。

3） 休・退学における男女学生の比較

休・退学における男子学生と女子学生の実人数と,各々の対象学生比(母集団学生における発生率）を表V－5にまとめた。

休学においては，女子学生の方が全般的に休学率がわずかに低いだけで，精神衛生的視点か

らみた分類ＡＢＣＤの分散度は，男子学生とほとんど同じパターンを示していた。

退学においては，精神衛生的視点からみた分類Ａで，男子学生の発生率が女子学生の２倍を示したが，Ｃでも男子学生の発生率が女子学生の発生率の２倍を上廻った。女子学生は男子学生とは異なり，傷病の理由でも男子学生の1/2しか退学しないばかりでなく，傷病以外の理由でも減多に退学しないという傾向がみられた。

４）　精神衛生的視点からみた休・退学者の学年による率の変化

休・退学者の同入学年度（同学年）の対象学生における率（学生1,000人対）を，精神衛生的視点からみた分類ＡＢＣＤ別に算出して，表Ｖ－６にまとめた。

精神衛生上問題があると思われるＡとＢの合計は，休学においては，１学年から４学年まで，学生1,000人対で，1.5→1.4→2.3→2.3と移行し，留年で24.7に急上昇する。はじめの２年間が低く，その後に上昇が始まるのであるが，この傾向は退学でもっと著しく，退学におけるＡとＢの合計は，0.9→1.0→2.3→2.9と移行し，やはり留年で46.0に急上昇する。

精神衛生的に問題なしとしたＣは，休学では，2.6→2.0→5.2→5.2→28.6と移行し，退学では，8.0→3.8→2.2→3.0→22.4と移行する。休学で３・４年目に増加がみられるのは，外国留学をはじめ様々な環境条件の変化がその背景にあると考えられるが，退学の方は逆に１・２年目に多い。これは，他大学受験や進路変更など，はじめの２年間に学生の移動が比較的多いことを示している。

５）　休・退学における文系と理系の相違

休・退学において，文系と理系別に，さらに精神衛生的視点からみた分類ＡＢＣＤ別に，やはり対象学生における率（学生1,000人対）を算出して表Ｖ－７にまとめた。

休学においては，まず総数において文系11.2，理系6.7（学生1,000人対）と，文系に多い。精神衛生的視点からみた分類Ｃにおいて文系が多いのは，文系の学生の方が外国留学その他で比較的多く休学を利用する傾向があることで説明がつくが，ＡとＢの合計においても，文系3.8に対し理系1.9と，文系が理系の２倍にも上ることは簡単には説明がつかない。

退学においては，上述の傾向は逆転している。総数において文系9.9，理系14.2と理系に多く，精神衛生的視点からみた分類Ｃにおいても理系が多い。また，ＡとＢの合計においても，文系3.6に対し，理系4.8と理系に多い。

この特別調査の母集団は大きくない上，理系の対象学生数が13,209名で，文系20,548名の2/3以下と少ないために確定的な結論は出せないが，文系と理系の学生は，いつも異なった資質と課題を担い，異なった傾向を示すことが，この調査からも充分うかがわれる。

６）　保健管理センターが関与した休・退学者の実数と割合

精神衛生的視点からみた分類ＡＢ'ＣＤ別に，保健管理センターが関与した休・退学者の実数と割合を表Ｖ－８にまとめた。

分類Ａに対するセンターの関与率は高く，休学で８割を越え，退学でも４割を越えたが，その他ではきわめて低かった。これは，報告者が精神科医であるためと思われる。

７）　精神衛生的視点からみた分類でＡであった学生の願出理由内訳

実態調査で，精神衛生的視点からみた分類がＡ，すなわち少なくとも「精神医学的診断がつく障害を持った学生」が，どのような理由で願出書類を届出ていたかを表Ｖ－９にまとめた。願出理由分類は，調査方法③のイ）に従っている。

休学の場合，約６割が「１．傷病」として届出されているが，とにかく精神疾患らしい診断名をつけている者は42名中30名で，残りの12名中11名は，「病気」「病気療養」などとあって診断名はついておらず，残る１名は「急性気管支炎」と身体疾患名で出されていた。そしてこの「１．傷病」という届出の率は大学によって差があり，特に病名の届出は92％から０％まで拡散していた。次に，３割弱が「２．事由不明記」に属し，「一身上の都合」が17名，「精神的疲労」「単位取得困難」などが４名であった。３番目が「４．自分以外の事由」に属し，経済的理由とした者４名，家庭の都合とした者３名であった。最後が「３．事由明記」に属し，司法試験，会計士受験準備の各１名であった。

退学の場合，「１．傷病」に属する届出は15.3％と低く，精神疾患名を届出した者はわずか２名，3.4％，であった。自殺のうち精神障害の関与が明らかな５名はここに含めた。最も多いのは，「２．事由不明記」に属するもので，退学の６割以上を占めており，ここに属する37名中31名までが「一身上の都合」であった。その他は「期限切れ」「勉学意欲喪失」「進路模索のため」などとなっている。３番目は「４．自分以外の事由」で，「授業料未納」の４名のほかは，休学と似た理由であった。最後は「３．事由明記」に属するもので，「他大学進学」「他大学受験」各１名，「就職のため」「進路変更」が各２名であった。

退学の場合，学生個人をみれば，「就職」や「進路変更」も偽りではなく，たまたま或る時期に精神障害におちいり，単位がとれなかったためにそれが契機で学生生活が崩れ，進路変更を決意して退学にふみ切ったという場合も少なくないと思われる。しかし，この調査では，どの段階で退学しようとも，その契機に精神障害があった場合，精神衛生的視点からみた分類では，Ａとした。願出理由に，「１．傷病」に属するものが休学におけるよりも退学において少ないのは，こうした事情もあると思われる。大学精神衛生研究会の調査結果でも，同様の傾向がみられている。

8） 6年制学部の実態

6年制学部（3大学）の実態調査結果を，ここにまとめて記載する。対象学生は2,335名，うち男1,915名，女420名である。

休学者は，身体疾患2名（肝機能障害1名，肺結核1名，すべて男），精神障害3名（精神分裂病2名，神経性食欲不振症1名，すべて女）。休学者の総数は13名。精神衛生的視点による分類では，A3名，B1名，C9名，D0名，対象学生に対する比率は，A0.13%，B0.04%，C0.39%，D0%，総計0.56%と，低率ではあるがパターンとしては4年制学部理系に近かった。しかし，退学では，傷病でA2名（異常行動1名，精神分裂病の疑いで自殺，すべて男），C2名，BとDは0名，対象学生に対する比率は，A0.09%，C0.09%，総計0.17%と，4年制学部に比しきわめて低かった。休・退学を通じて保健管理センターの関与率は低く，休学のAで1名，Cで1名，退学では0名であった。実態調査で傷病と判明した者は，自殺者1名を除き，すべて願出書類でも「1．傷病」になっており，実態と同じ診断名が記載されていた。

9） 精神障害の疾患分類

4年制学部，6年制学部を併せて，精神衛生的視点からみた分類でAに属した休・退学者について，ICD-9に準拠した疾患分類を表V－10にまとめた。

休学では，精神分裂病が全精神障害75名中37名，49.3%，を占めており，退学では，スチューデント・アパシーが全精神障害61名中34名，55.7%，を占めている。一般には，精神障害のある学生が留年を続け，最後に退学となるケースが多いと思われるが，休学に多い精神分裂病が退学では実数においてさえも少なくなっており，他方，スチューデント・アパシーは退学において，それも留年(昭和55年度以前入学者)において多い(表V－3参照)。この調査は横断的調査であるが，一応，このことは，精神分裂病学生とスチューデント・アパシー学生との，大学キャンパスにおける病態のありようを示しているものと考える。

ただし，スチューデント・アパシーは，診断者によってまだ多少診断基準に巾がある上，いわゆる無気力学生が保健管理センターに来ざるを得ないような学内環境の有無にもよるので，大学間における差が大きい。概念としては，「主として学業に部分的退却が目立つ，怠学とは異なる新しい病態を示す学生」ということで，共通している。

うつ病は，日本人の大学生の年代では，躁うつ病圏に入るものが少なく，反応性抑うつ型（分類番号298.0），不適応反応（分類番号309.0～1），神経性抑うつ（分類番号300.4）に分散するので見分けにくいが，これらを合計すると，休学では14名，退学では4名（うち2名は自殺）となる。

神経症は，精神健康調査における割合の多さと比較すれば，休・退学においてきわめて少ないことがわかる。先の，神経性抑うつが，存在する主なものである。

少数疾患では，種々の摂食障害(分類番号307.1，307.5)が，休学，退学ともに存在することで注目される。大学精神衛生研究会の死亡調査では，病死の中にもこの病態が現われていた。

10） 死亡学生についての特別調査

死亡学生の死因については，従来から，事実が隠蔽されやすく，特に自殺に関してそうである，といわれてきているので[3)8)]，前項（Ⅳ）の死亡調査報告とは別に，特別調査をまとめた。資料提供は，休・退学者の特別調査において死亡を特に退学に含めて調査している関係上，前述の調査に参加したのと同じ8大学であり，報告者もすべて精神科医である。

調査方法も，休・退学者の特別調査の場合と同様，大学精神衛生研究会で用いている方法を用いた。次の通りである。

(1) 全死亡例について，個別の記述を行う。届出書類（死亡診断書を含む）をみせてもらい，担任教官や係りの事務官から充分話をきき，信憑性のある事柄は参考にする。

(2) 死亡例を，病死，事故死，自殺に3大別する。自殺が病死や事故死に偽装されている場合も稀ならず存在するので，届出が自殺でない場合も，充分具体的な状況把握につとめる。

(3) 自殺，またはその疑いのある場合は，できるだけ直接家族に会って話をきき，精神病理的判断を行う（実際には調査時点で改めてそのようなことは行い難いので，可能な場合は，事件が起ったその都度，個別の調査を終了している）。保健管理センターが本人に接触していた場合は，精神障害の分類診断を行う。

資料によれば，4年制学部33,757名（男24,974名，女8,783名）中死亡22名（男16名，女6名）であり，これは学生10万対に換算して65.2（男64.1，女68.3）であった。一方，6年制学部は2,335名中死亡者1名（学生10万対に換算して42.8）であった。しかし，6年制学部は，対象学生数，死亡者共に少ないので除外し，4年制学部について，入学年度別，男女別，死因別に死亡者数と対象学生における率とをまとめて表V－11に示した。

母集団である対象学生数が33,757と小さいが，次のような特徴がみられた。第1に，病気による死亡率が最も低く，対象学生10万対に換算して，11.8であった。第2に，死亡率の最も高かったのは事故死であった。近年，事故死が増加の傾向にあるが，この調査でも，対象学生10万対で事故死が29.6，自殺が23.7と，明らかに事故死が自殺を上廻っていた。第3に事故死の内容であるが，交通事故による死亡の占める割合が高く，10例中8例におよんだ。なお，交通事故死は，かつては低学年に集中していたが，この調査では高学年にもおよんでいた。このうち4年生の女子2名は，海外旅行中の事故であった。第4に，自殺は比較的高学年に多い傾向がみられた。（6年制学部の死亡1名も，自殺で，5年生であった。）

こうした諸特徴は，大学精神衛生研究会で行っている対象学生約25万人のやや大きい集団の死亡者にも，同様に認められた（後述の参考資料参照）。

自殺例における精神障害の関与は，例年の大学精神衛生研究会の調査では4～5割にとどまっていたが，この特別調査では10割であった。すなわち，4年制学部の8例中5例は保健管理センターが関与しており，精神障害があったことないしはその状態にあったことが明らかであ

り（精神分裂病３，遷延性抑うつ反応１，強迫性人格の急性抑うつ反応１），残る３例にも精神障害関与の可能性があった（精神分裂病の疑い１，うつ病の疑い１，遷延性抑うつ反応の疑い１）。更に６年制学部の１例は精神分裂病の疑いであった。

次に，参考資料として，大学精神衛生研究会の死亡学生調査結果を収録した。

表Ｖ－12は，同研究会に参加している大学のうち，特別調査の８大学を含め国立44大学の昭和59年度の死亡者を，前述の通り，病死，事故死，自殺に３大別し，４年制学部の文系・理系別，６年制学部（理系）に分け，男女別に各死亡率を算出したものである。特別調査と同様，病死率は３死因の中では最も低く，学生10万対に換算して全体で9.7であり，いずれのグループにおいても10前後であるが，６年制学部（医歯系）において特に低かった。３大死因の１位はやはり事故死で，学生10万対に換算して全体で29.1であり，自殺の20.2を上廻っていた。グループとしては６年制学部の男子が最高で，同学部男子学生10万対に換算して，50.8を示した。表にはないが内容として，この事故死の筆頭は交通事故で,男子では事故死64名中42名で約2/3を占め，女子では７名中７名で10割に達していた。なお，特別調査参加の８大学にはなかったが，44大学の調査では，「急性アルコール中毒」と明記された者は１名であったものの，飲酒が直接事故の原因として関与したと考えられる事故死が10名あった（飲酒後ボートに乗り転覆５，酩酊状態で高所より転落３，飲酒後泳ぎたいと海に入り水死１，コンパで飲酒後低酸素脳症〔事実上の急性アルコール中毒〕１）。その他では，スポーツ中の事故死５名※，うち合宿中１名，海外旅行中３名が注目される。例年，「急性心不全」のような，家族が自殺を隠蔽する可能性のある死因には徹底した調査を心がけているが，事故死には，学生自らが自殺を事故死に偽装する可能性があり，数ある中には，疑問の残る場合や調査の手が届かない場合があることを，念のため附記しておく[3)]。

表Ｖ－13は，表Ｖ－２の死亡者の実人数を，入学年度別（学年別）に書き出したものである。特別調査にみられたのと同様，事故死が低学年ばかりでなく高学年にもおよんでいる傾向，自殺は高学年に多い傾向がうかがわれる。

なお，自殺50例における精神障害の関与は，明らかに関与あり21例，その疑いあり６例，不明17例，関与なし６例で，精神障害の関与率は，その疑いありを含めて54％であった。

表Ｖ－14は，同研究会の死亡学生について，昭和54年度から59年度までの，国立・私立合計の死因別死亡率の推移を示したものである（母集団である国立大学は13校から44校まで漸増したが，私立大学はずっと同じ３校で，昭和59年度だけ２校であった)。共通一次試験が導入された翌年である昭和55年度に自殺と事故死が逆転し，次第に事故死が自殺を上廻る傾向をみせている（図Ｖ－１)。図Ｖ－２は，国立大学だけを男女別に，死因別死亡率をグラフにしたものであるが，これによれば，男子学生においてはすでに昭和55年度から，３死因中の１位は毎年事故死であったことが明らかである。（※スポーツ中の事故はすべて男子学生で，種目は，カヌー・ヨット・スキー・海水浴・サーフィンであり，うち合宿中のものはヨットであった。)

〔中島　潤子〕

参考文献

1)　共同研究班報告：大学生における休・退学，留年学生に関する調査　－第１報－，大学精神衛生研究会議報告書，3～22，1980
2)　同　－第２報－　70～98，1981
3)　同　－第３報－　37～55，1982
4)　同　－第４報－，大学精神衛生研究会報告書，5～23，1983
5)　同　－第５報－　16～35，1984
6)　同　－第６報－　58～76，1985
7)　同　－第７報－　3～19，1986
8)　石井完一郎：青年の生と死との間，弘文堂，1979

特別調査参加大学

茨城大学保健管理センター	中島　潤子
筑波大学保健管理センター	嶋崎　素吉
埼玉大学保健管理センター	山本　由子
東京医科歯科大学保健管理センター	矢崎　妙子
一橋大学保健管理センター	岡庭　　武
大阪外国語大学保健管理センター	浅井　敬一
山口大学保健管理センター	大田　民男
宮崎大学保健管理センター	中村　純五

表Ⅴ－1　休・退学・死亡学生特別調査対象学生の構成

		総数		入学年度											
				昭59年		58		57		56		55以前		54	53以前
総数		33,757		8,201		8,158		7,872		7,742		1,784			
男		24,974		5,867		5,896		5,832		5,739		1,640			
女		8,783		2,334		2,262		2,040		2,003		144			
系別		文	理	文	理	文	理	文	理	文	理	文	理	理	理
4年制学部	総数	20,548	13,209	5,023	3,178	5,001	3,157	4,813	3,059	4,705	3,037	1,006	778		
	男	13,335	11,639	3,092	2,775	3,155	2,741	3,145	2,687	3,059	2,680	884	756		
	女	7,213	1,570	1,931	403	1,846	416	1,668	372	1,646	357	122	22		
6年制学部	総数		2,335		384		381		386		379		384	376	45
	男		1,915		305		294		324		308		325	319	40
	女		420		79		87		62		71		59	57	5

表Ⅴ－2　心身の障害による休学者　実数・率(対象学生比)，性・入学年度別

(4年制学部)

			総数		入学年度									
					昭59年		58		57		56		55以前	
総数			98		18		13		22		14		31	
対象学生比			0.29%		0.22%		0.16%		0.28%		0.18%		1.74%	
性別			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
精神障害	総数		56	16	9	1	4	4	11	5	8	2	24	4
	内訳	精神分裂病圏	28	7	5	-	1	1	8	2	4	1	10	3
		躁うつ病圏	7	1	1	-	1	-	-	-	1	1	4	-
		神経症	3	4	1	1	-	1	1	1	1	-	-	1
		スチューデント・アパシー	15	1	-	-	2	-	2	1	2	-	9	-
		摂食障害	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
		その他※	3	1	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-
身体疾患	総数		22	4	7	1	4	1	5	1	3	1	3	-
	内訳※※													

※　その他の精神障害は，性格異常，不適応反応，反応性うつ病，心身症であった。

※※身体疾患の疾患名は，男子：胸腺腫，気管支喘息，骨折，多発性骨折，交通事故4，腰椎椎間板ヘルニア，左肢関節痛，右膝の疾患，大腿骨腫瘍，肝炎，腎炎2，クローン病，潰瘍性大腸炎，血液の疾患，肺結核2，てんかん，女子：側弯症，股関節炎，右大腿骨性外骨腫，第1・4腰椎骨折であった。

表Ⅴ－3　心身の障害による退学者　実数・率(対象学生比)，性・入学年度別

(4年制学部)

			総数		入学年度									
					昭59年		58		57		56		55以前	
総数			61		7		3		11		6		34	
対象学生比			0.18%		0.09%		0.04%		0.14%		0.08%		1.91%	
性別			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
精神障害	総数		50	9	5	1	1	2	9	1	6	-	29	5
	内訳	精神分裂病圏	15	4	3	-	-	-	3	1	1	-	8	3
		躁うつ病圏	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
		神経症	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
		スチューデント・アパシー	32	2	1	-	1	-	6	-	4	-	20	2
		摂食障害	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
		その他※	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
身体疾患	総数		2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	内訳※													

※身体疾患名は肝炎と交通事故であった。

(注) 退学者に死亡者は含まれていない。(死亡者については表Ⅴ－12参照)

表Ⅴ－4　休・退学者の精神衛生的視点からみた分類

(4年制学部)

精神衛生的視点からみた分類	休学		退学	
	学生数	(割合)	学生数	(割合)
総数	318	(100.0%)	392	(100.0%)
A　精神医学的に診断がつくもの	72	(22.6)	59	(15.1)
B　精神障害の疑いがあるもの	31	(9.7)	79	(20.2)
C　精神的に問題なし	169	(53.1)	177	(45.2)
D　未調査又は不明	46	(14.5)	77	(19.6)
(再掲) Cのうちの身体疾患	27	(8.5)	2	(0.5)

(注) 退学者の中には死亡者も含まれている。

表Ⅴ－5　休・退学における男女学生の比較

（4年制学部）

精神衛生的視点からみた分類	休学 男 実数（対象学生比%）	休学 女 実数（対象学生比%）	退学 男 実数（対象学生比%）	退学 女 実数（対象学生比%）
総数	244 (0.98)	74 (0.84)	336 (1.35)	56 (0.63)
A　精神医学的に診断がつくもの	56 (0.22)	16 (0.18)	50 (0.20)	9 (0.10)
B　精神障害の疑いがあるもの	24 (0.10)	7 (0.08)	72 (0.29)	7 (0.08)
C　精神的に問題なし	127 (0.51)	42 (0.48)	152 (0.61)	25 (0.28)
D　未調査又は不明	37 (0.15)	9 (0.10)	62 (0.25)	15 (0.17)

(注) 退学者の中には死亡者も含まれている。

表Ⅴ－6　精神衛生的視点からみた入学年度別休・退学者の率（対象学生1,000人対）

（4年制学部）

精神衛生的視点からみた分類＼入学年度	休学 総数	休学 昭59年	休学 58	休学 57	休学 56	休学 55以前	退学 総数	退学 昭59年	退学 58	退学 57	退学 56	退学 55以前
総数	9.4	5.4	4.2	8.6	8.4	60.0	11.6	10.7	6.3	6.5	7.0	83.0
（実数）	(318)	(44)	(34)	(68)	(65)	(107)	(392)	(88)	(51)	(51)	(54)	(148)
A　精神医学的に診断がつくもの	2.1	1.1	1.0	2.0	1.3	15.7	1.7	0.7	0.4	1.3	0.8	19.1
B　精神障害の疑いがあるもの	0.9	0.4	0.4	0.3	1.0	9.0	2.3	0.2	0.6	1.0	2.1	26.9
C　精神的に問題なし	5.0	2.6	2.0	5.2	5.2	28.6	5.2	8.0	3.8	2.2	3.0	22.4
D　未調査又は不明	1.4	1.3	0.9	1.1	0.9	6.7	2.3	1.7	1.5	2.0	1.2	14.6

(注) 退学者の中には死亡者も含まれている。

表Ⅴ－7　精神衛生的視点からみた文理系別休・退学者の率（対象学生1,000人対）

（4年制学部）

精神衛生的視点からみた分類		総数 総数	総数 A	総数 B	総数 C	総数 D	文系 総数	文系 A	文系 B	文系 C	文系 D	理系 総数	理系 A	理系 B	理系 C	理系 D
休学	総数	9.4	2.1	0.9	5.0	1.4	11.2	2.6	1.2	5.9	1.5	6.7	1.4	0.5	3.6	1.2
		(318)	(72)	(31)	(169)	(46)	(230)	(53)	(25)	(122)	(30)	(88)	(19)	(6)	(47)	(16)
	男	9.9	2.2	1.0	5.1	1.5	12.4	2.9	1.3	6.4	1.6	6.8	1.5	0.5	3.5	1.3
	女	8.4	1.8	0.8	4.8	1.0	9.0	1.9	1.0	5.0	1.1	5.7	1.3	-	3.8	0.6
退学	総数	11.6	1.7	2.3	5.2	2.3	9.9	1.3	2.3	4.6	1.8	14.2	2.4	2.4	6.3	3.1
		(392)	(59)	(79)	(177)	(77)	(204)	(27)	(47)	(94)	(36)	(188)	(32)	(32)	(83)	(41)
	男	13.5	2.0	2.9	6.1	2.5	12.2	1.6	3.1	5.8	1.7	14.9	2.5	2.6	6.4	3.4
	女	6.4	1.0	0.8	2.8	1.7	5.7	0.8	0.7	2.4	1.8	9.6	1.9	1.3	5.1	1.3

(注) (　)内の数字は，当該学生の実人数を示す。退学者の中には死亡者も含まれている。

表Ⅴ－8　保健管理センターが関与した休・退学者の実数と率
－精神衛生的視点からみた分類別－

（4年制学部）

精神衛生的視点からみた分類		総数	A	B	C	D
休学	実数	318	72	31	169	46
	うち，センターが関与した実数	69	58	6	5	-
	同割合(%)	21.7	80.6	19.4	3.0	-
退学	実数	392	59	79	177	77
	うち，センターが関与した実数	28	25	-	2	1
	同割合(%)	7.1	42.4	-	1.1	1.3

(注) 退学者の中には死亡者も含まれている。

表Ｖ－９　精神衛生的視点からみた分類Ａに該当した学生の願出理由内訳

（４年制学部）

願出理由分類	休学	退学
	学生数　（割合）	学生数　（割合）
総数	72　(100.0%)	59　(100.0%)
1　傷病	42　(58.3%)	9　(15.3%)
2　事由不明記	21　(29.2%)	37　(62.7%)
3　事由明記	2　(2.8%)	6　(10.2%)
4　自分以外の事由	7　(9.7%)	7　(11.9%)

(注)　1．分類１には，精神障害の診断名のついた診断書を添附した者のほかに，「病気」「療養のため」など漠然としたものも含む。分類２は，「一身上の理由」「勉学意欲喪失」など，分類３は，「会計士受験準備」「他大学再受験」など，分類４は「経済的理由」「家事都合」などを含む。
　　2．退学者の中には死亡者を含む。

表Ｖ－10　休・退学者精神障害の疾病分類（ＩＣＤ－９に準拠）

（４年制学部，６年制学部合計）

分類番号と項目	休学			退学		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	75	56	19	61	52	9
295 精神分裂病	37	28	9	20	16	4
295.0 単純型	2	2	-	2	2	-
295.1 破爪型	13	12	1	6	5	1
295.2 緊張型	5	2	3	1	-	1
295.3 妄想型	2	2	-	1	1	-
295.4 急性分裂病挿話	1	-	1	-	-	-
295.5 潜伏分裂病	8	6	2	1	1	-
295.6 残遺分裂病	-	-	-	-	-	-
295.8 その他	2	1	1	-	-	-
295.9 詳細不明	4	3	1	9	7	2
296 躁うつ病	8	7	1	1	1	-
296.0 躁うつ病，躁病型	1	1	-	-	-	-
296.1 躁うつ病，抑うつ型	4	3	1	1	1	-
296.3 躁うつ病循環型，現症うつ状態	1	1	-	-	-	-
296.9 詳細不明	2	2	-	-	-	-
297 妄想状態	-	-	-	-	-	-
300 神経症	7	3	4	2	-	2
300.0 不安状態（不安神経症）	-	-	-	-	-	-
300.1 ヒステリー	-	-	-	-	-	-
300.2 恐怖状態（恐怖症）	-	-	-	-	-	-
300.3 強迫神経症	1	1	-	-	-	-
300.4 神経性抑うつ	4	1	3	1	-	1
300.5 神経衰弱	-	-	-	-	-	-
300.6 離人症候群	-	-	-	-	-	-
300.7 心気症	1	1	-	-	-	-
300.8 対人恐怖	1	-	1	1	-	1
自己臭	-	-	-	-	-	-
300.9 詳細不明	-	-	-	-	-	-

分類番号と項目	休学			退学		
	総数	男	女	総数	男	女
301 人格異常	1	1	-	-	-	-
301.0 妄想性人格異常	-	-	-	-	-	-
301.1 情動性人格異常	-	-	-	-	-	-
301.2 分裂病質人格異常	-	-	-	-	-	-
301.3 爆発性人格異常	-	-	-	-	-	-
301.4 強迫性人格異常	-	-	-	-	-	-
301.5 ヒステリー性人格異常	-	-	-	-	-	-
301.6 無力性人格異常	-	-	-	-	-	-
301.8 その他の人格異常，未熟人格	-	-	-	-	-	-
301.9 詳細不明	1	1	-	-	-	-
306 精神的諸要因による身体的病態（心身症）	1	1	-	-	-	-
307 他に分類されない特殊症状又は症候群	3	-	3	1	-	1
307.0 どもり	-	-	-	-	-	-
307.1 神経性無食欲症	2	-	2	1	-	1
307.2 チック	-	-	-	-	-	-
307.4 特殊な睡眠障害	-	-	-	-	-	-
307.5 その他および詳細不明の摂食障害	1	-	1	-	-	-
307.9 その他および詳細不明	-	-	-	-	-	-
308 急性ストレス反応	-	-	-	-	-	-
309 不適応反応	1	1	-	2	2	-
309.0 短期抑うつ反応	-	-	-	1	1	-
309.1 遷延性抑うつ反応	1	1	-	1	1	-
その他の診断	17	15	2	35	33	2
298.0 （その他の非器質性精神病）抑うつ型	1	-	1	-	-	-
312.2 強迫的行為障害	-	-	-	1	1	-
スチューデント・アパシー	16	15	1	34	32	2
300	2	2	-	16	14	2
300.9	8	7	1	11	11	-
301	2	2	-	3	3	-
301.2	1	1	-	4	4	-
301.6	3	3	-	-	-	-

(注)　1．新入生の精神健康調査の最終診断と比較しやすいように，この表の「その他の診断」以外は，〔II〕精神健康調査の表II－11と，すべて同じ分類番号と項目をあげてある。
　　2．対象学生数は，総数33,757，うち男24,974，女8,783である。
　　3．自殺者で精神障害が明らかであった者は，退学者に含まれている。

表Ⅴ－11　死亡数・死亡率(学生10万対)　死因・性・入学年度別

(4年制学部)

	総数		入学年度									
			昭59年		58		57		56		55以前	
死亡総数	22		2		7		6		6		1	
死亡率	65.2		24.4		85.8		76.2		77.5		56.1	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総数	16	6	2	-	6	1	4	2	3	3	1	-
病死	3	1	・飲酒後の心不全(先天性大動脈不全)		・悪性リンパ腫 ・血液疾患					・癌性髄膜炎(腺癌)		
事故死	7	3			・交通事故2例 ・バイク転倒 ・入浴中事故(心臓麻痺)		・交通事故 ・山岳遭難	・交通事故	・交通事故	・交通事故2例(外国旅行中)		
自殺	6	2	・縊死(309.1)			・転落死(後遺なし)(体重減少)309.1？	・墜落死(295.3) ・詳細不明(295)	・転落死(295)、	・縊死(296？) ・薬物使用窒息死(309.0)		・薬物中毒(295.1)	

表Ⅴ－12　死亡数・死亡率(学生10万対)　死因別

(大学精神衛生研究会のうち，国立44大学，昭和59年度)

在籍学生数			総数		病死		事故死		自殺	
			学生数	比率	学生数	比率	学生数	比率	学生数	比率
総数		247,038	146	59.1	24	9.7	72	29.1	50	20.2
男		191,898	127	66.2	19	9.9	64	33.4	44	22.9
女		55,140	19	34.5	5	9.1	8	14.5	6	10.9
4年制学部	総数	226,693	128	56.5	23	10.1	63	27.8	42	18.5
	男	174,166	110	63.2	18	10.3	55	31.6	37	21.2
	女	52,527	18	34.3	5	9.5	8	15.2	5	9.5
	文系 総数	118,605	64	54.0	11	9.3	26	21.9	27	22.8
	文系 男	76,154	51	67.0	8	10.5	20	26.3	23	30.2
	文系 女	42,451	13	30.6	3	7.1	6	14.1	4	9.4
	理系 総数	108,088	64	59.2	12	11.1	37	34.2	15	13.9
	理系 男	98,012	59	60.2	10	10.2	35	35.7	14	14.3
	理系 女	10,076	5	49.6	2	19.8	2	19.8	1	9.9
6年制学部	医歯系 総数	20,345	18	88.5	1	4.9	9	44.2	8	39.3
	医歯系 男	17,732	17	95.9	1	5.6	9	50.8	7	39.5
	医歯系 女	2,613	1	38.3	-	-	-	-	1	38.3

表Ⅴ－13　死亡数　死因・入学年度別

(大学精神衛生研究会のうち，国立44大学)

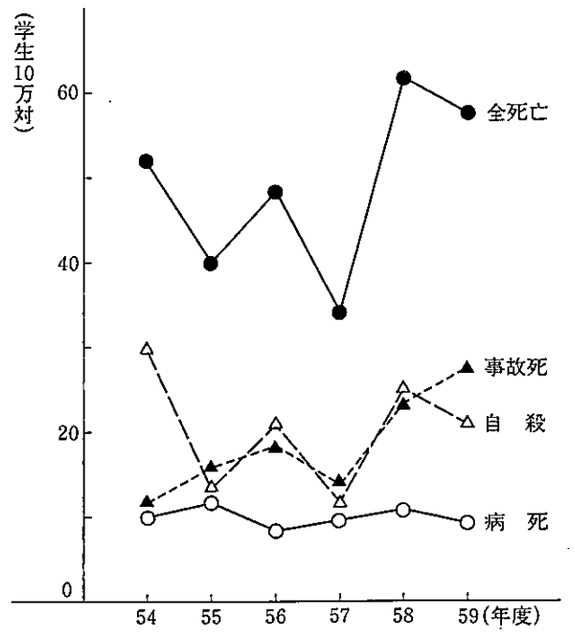
	死因	総数	入学年度						
			昭59年	58	57	56	55以前	54	53以前
4年制学部	総数	128	28	36	26	22	16		
	病死	23	6	5	4	6	2		
	事故死	63	17	20	10	11	5		
	自殺	42	5	11	12	5	9		
6年制学部	総数	18	3	1	1	2	4	5	2
	病死	1	-	-	1	-	-	-	-
	事故死	9	3	-	-	2	3	1	-
	自殺	8	-	1	-	-	1	4	2

表Ⅴ－14　死因別死亡率(学生10万対)の推移　(昭和54年度～59年度)

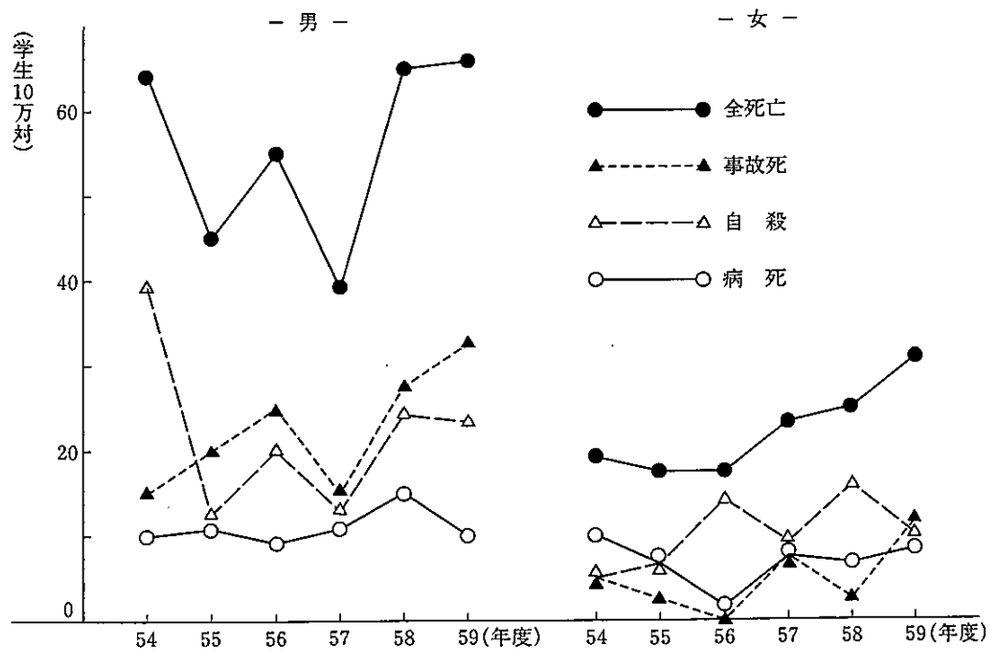
(大学精神衛生研究会，国立・私立合計)

年度	昭54年度	55	56	57	58	59
全死亡率	52.1	40.2	48.2	34.3	61.2	57.3
病死率	9.9	11.1	8.2	8.6	10.5※	9.3
事故死率	12.7	16.1	19.3	13.5	23.3	27.9
自殺率	29.6	13.1	20.7	12.2	23.7※	20.1
未調査・不明	-	-	-	-	3.6	-

(注)　※は再調査後の数値である。再調査前は病死率13.3，自殺率20.1であった。



図Ｖ－１　死因別死亡率の推移（国立・私立合計）



図Ｖ－２　性・死因別死亡率(学生10万対)の推移（国立大学）

編集後記

わが国ではじめての学生の健康白書がやっと誕生することになった。ここで，この白書ができあがるまでの経過を簡単に記録しておきたい。昭和56年11月開催の第9回国立大学保健管理センター所長会議（岡山）で，この白書を作成することが決まり，学生の健康白書作成に関する委員会が設置され，そのための実態調査の実施要項の検討をはじめることになった。

昭和57年度は諸般の事情で委員会の開催はできなかったが，調査の基本方針と調査項目についての検討が行われた。その概略について第10回所長会議（昭和57年11月，東京）で討議し，各大学より出された意見を参考に，昭和59年度実施を目標に実施要項の検討がすすめられた。当時，調査対象としては大学院生を含む全学生があげられており，さらに公・私立大学との協同調査も考えられていた。また，調査項目についても今回の項目のほかに，視力・色覚検査，肺活量測定，体力テスト，女子学生の月経異常，肥満者等の特定集団の検診結果，不定愁訴その他いわゆる半健康状態に関する調査，飲酒・喫煙の状況，食生活・運動を中心とした日常生活の実態，健康に関する意識と日常の保健行動の状況，および学生の健康状態の背景としての大学における保健管理体制，保健管理センターの施設，設備，職員とその勤務態様，年間の主要業務，学生の利用状況，保健管理経費なども検討されていた。

昭和58年8月第1回委員会（学士会分館，東京）を開催，これまでの検討結果について審議し，今回ははじめての試みであることから，調査対象は国立大学昼間の学部学生に，調査項目は今回の項目に限定することとして，実施要項（案）を作成した。第11回所長会議（昭和58年10月，金沢）で討議の結果，この要項で昭和59年度に調査を実施することが決定された。そこで12月第2回委員会（学士会館，東京）を開催，所長会議の討議内容を参考に最終的な実施要項と調査結果の集計表を作成し，昭和59年2月各大学（保健管理センター設置81校）へ送付した。かくして，昭和59年度1年間にわたる調査が一斉に行われた。

昭和60年2月第3回委員会（本郷会館，東京）を開催，各大学より提出される資料の点検，整理と各項目の集計の仕方について検討し，委員各々の分担項目を決定した。4月以降，各大学から提出されたすべての集計表について，記入方法の点検，合計や割合の検算と不備，不明点の聞き合わせ等を実施（岡大）。各大学の資料は8月末までにほとんど提出されたが，全大学の資料がそろったのは10月であった。9月第4回委員会（竹橋会館，東京）を開催，各大学提出の調査集計表の審査と各項目の具体的な集計方法の検討を行う。第13回所長会議（10月，弘前）で，各大学からの調査結果提出状況報告，集計方法について討議。12月第5回委員会（竹橋会館）開催，各項目の集計結果と白書の作成方針を検討した。昭和61年3月完了を目標に集計作業をすすめたが，各項目でなお種々の問題点があるため，昭和61年度へ繰り越し，各担当者が集計方法の再検討を行うこととした。昭和61年8月第6回委員会（竹橋会館）を開催，各項目ごとにこれまでの集計結果とまとめについて検討し，委員会としての最終的な集計と製表方法を決定，担当者一任とした。以後，昭和61年度末までの完成を目標に作業をすすめたが，各調査項目の集計結果の製表様式を，全体として統一するための最終段階の作業が予想以上に手間どり，できあがりは結局今日までになってしまった次第である（以上が本白書作成までのあらましである）。

本白書の編集にあたっては，集計結果の製表に関しては全体を通じて様式をできるだけ統一するようにしたが，各項目の結果の概要の記述については，ある程度様式をあわせるにとどめた。編集上の不備の点については，はじめての試みということでお許しいただきたい。

本白書の作成過程を振り返ってみると，反省すべき問題点が少なからずある。調査の実施要項と結果の集計表に不備の点があり，各大学の調査担当者にいろいろご迷惑をおかけしたことと思っている。また，折角提出された調査結果を，記載不備のため，残念ながら集計から除いたものもいくつかあった。この点，調査方法と集計表記入の仕方，その他このような調査に関する一般的な知識について，地区ごとに各大学の調査担当係に対する説明会ないし講習会を行い，十分に理解してもらっておく必要があったと思っている。本白書の調査実施を決めた第11回所長会議で，某大学の所長から，この調査は一度予備的な調査で練習をしてから本調査をするのがよいのではないかという発言があったが，正にそのとおりであったように思われる。

また，本白書の作成にあたっては，できるだけ多くの大学の参加を得るため，各大学の事情を考慮して調査条件の統一をある程度緩和した項目もあった。そのため，例えば尿検査では，検尿条件がまちまちとなり，集計が複雑をきわめ，その整理には大変な労力を要した。この場合は，少なくとも試験紙の種類は一定にするべきであったと思われる。しかし，そのため，試験紙の種類により，あるいは肉眼比色と尿分折器比色とで陽性頻度にかなりの差があることがわかり，今後各大学における検尿の仕方にとって大いに参考になる結果が得られたようにも考えられる。

その他種々の反省点があるが，それらをここであげる紙面はないので，委員会において，今回の調査，集計の経験から，次回の白書作成のための注意事項をまとめておきたいと考えている。

この健康白書の作成にあたり，調査の実施要項作成から結果の集計，まとめまで，終始大変ご尽力いただいた委員の先生方に心から感謝いたします。また本白書の作成に一方ならぬご協力をいただいた岡山大学保健管理センター職員一同に対し深く感謝いたします。

（山吹隆寛記）

学生の健康白書1984

昭和62年10月1日発行

編　集　学生の健康白書作成に関する委員会
〒700 岡山市津島中2丁目1－1
岡山大学保健管理センター内

発　行　国立大学保健管理センター所長会議

印　刷　株式会社 三　浦　印　刷　所